

平成20・**21**・22年度 沖縄県教育委員会研究指定
〈体育・スポーツ推進校〉

研究紀要

〈二年次〉

【研究主題】

「運動に親しみ、たくましい体と心をつくる児童の育成」

～一人一人がめあてを持ち、主体的に取り組む体育学習を通して～



与那国町立与那国小学校

〒907-1801 沖縄県八重山郡与那国町字与那国1025番地

電話(0980)87-2872

FAX(0980)87-3288

E-mail yona-sho@cosmos.ne.jp

はじめに

「体育・スポーツ推進校」として指定研究を受けて2年目を迎えた。今年度は研究の充実・深化の年次だとの認識のもと、全職員で研究と実践を行ってきた。

本日、ここに外間守吉町長をはじめ崎原用能教育長、大濱 譲指導主事、東小浜功尚教育課長のご臨席をいただき、保護者・地域の方々及び町内5校の先生方のご出席の下、2年次の報告会を開催することができますことを大変嬉しく思います。

子どもたちを取り巻く社会環境・生活環境の急激な変化は、生活習慣や食生活の崩れ、様々な健康問題、生活リズムの乱れ、ひいては学力の低下、豊かな心の育ちの希薄化などの問題として我々大人、教育に関わるものに課題を提示している。

学校教育においては、知識基盤社会における激しい国際競争社会にあつてよりよく生きるために、「確かな学力」や「豊かな心」「健やかな体」をバランスよく育むとともに将来の夢や希望の実現に向けて、根気強く取り組み学習意欲を高めるなどの「生きる力」を育成することが求められている。

「運動に親しみ、たくましい体と心をつくる児童の育成」

～一人一人がめあてを持ち、主体的に取り組む体育学習をとおして～

上記の主題の下に「生きる力を育む」との学校教育に求められる命題を踏まえ、その大きな柱の一つである「たくましく生きるための健康や体力の向上」の側面を全体のバランスの中でどう実践し、育成したかが本校の取り組みである。

今年度は、①体育の教科指導における指導の工夫 ②特色ある年間指導計画の作成 ③主運動に繋がるコーディネーション運動の実践と開発 ④学習指導要領の趣旨を踏まえた言語活動の充実を図る授業展開等を研究するとともに、⑤たくましい体を支える食生活の見直し（食教育の充実と実践）を加え、さらには教育活動全体の中で、①日常的な遊びの促進 ②主体的な遊びを支える環境づくり ③児童自らの意欲や意識の向上を図る取組 ④保護者・地域・幼・中、関係機関との連携も意図した教育活動を展開してきた。

全職員の熱意、教師一人一人の創意工夫ある授業への取り組み、研究主任の企画推進力が大きな力となっていることは言うまでもなく、そのことが児童のめあて意識、学習への意欲つけに変換され「生き生きと学ぶ児童の姿」に表出されていると実感する。

また、「よく遊び よく学べ」の運動場にある教えの通り、「仲良く楽しくよく遊ぶ子ども」の姿にも実践の成果を実感する思いである。

変化の激しいこれからの時代の中で、生きて働く力の基盤となる「たくましい体」「豊かな心」「確かな学力」は不離一体のものとして培われ育まれていく。たくましい体に豊かな心が備わってほしい。その願いを込めて、これからも全職員の研究と実践が続く。

ぜひとも多くのご意見やご指摘、指導・助言を賜り、今後の指導、研究実践に生かしていきたい。

また、2年次は本校の卒業生で、沖縄県の体育界を牽引して来た東新川 長詳様にもご講演をいただくことになりました。本校の研究実践や参加者へも大きな示唆を与えて下さるものと信じます。

最後に本日の研究報告会へのご参加、これまでご支援・ご協力いただいた関係各位、学校を愛し子ども達のためならと協力を惜しまない本校PTAの皆様にご心より感謝申し上げます。

平成21年11月24日(火)

校長 田本 由美子

平成20・21・22年度
沖縄県教育委員会指定研究
体育・スポーツ推進校研究発表
二年次

研究主題

運動に親しみ、たくましい体と心をつくる児童の育成
 ～一人一人がめあてを持ち、主体的に取り組む体育学習を通して～

1. 日時 平成21年11月24日(火) 13:30～16:45

13:15 13:30 14:15 14:30 14:50 15:15 15:25 15:45 15:50 16:40 16:45

受付	公開授業 (45分)	会場移動	学校長(5分) 町長(5分) 教育長(5分)	研究発表 (25分)	質疑応答	指導助言 (20分)	休憩	講演会 (45分)	閉会行事
----	---------------	------	------------------------------	---------------	------	---------------	----	--------------	------

2. 公開授業 13:30～14:15

学年	指導者	教科・領域	単元名・題材名	場所
3・4年	仲本 吏佐(T1) 上地 真由美(T2)	体育(陸上)	走り幅跳び	運動場
5年	金城 由利佳(T1) 糸数 やえ子(T2)	特活(食教育)	たくましい体を育もう	5年教室

3. 全体会場 体育館

4. 会順 (14:30～16:45)

	司会	上地 真由美
(1) 開会の言葉	教頭	新垣 清隆
(2) 校長あいさつ	校長	田本 由美子
(3) 激励のあいさつ	与那国町長	外間 守吉
	与那国町教育委員会教育長	崎原 用能
(4) 研究発表	研究主任	兼城 賢多
(5) 質疑応答		
(6) 指導助言	八重山教育事務所 指導主事	大浜 譲
	与那国町教育委員会教育課長	東小浜 功尚
(7) 講演	すべては、「人の心」が決める	
講師紹介	校長	田本 由美子
講演	講師	東新川 長詳
(8) お礼及び閉会の言葉	教頭	新垣 清隆

5. 講師プロフィール

演題 すべては、「人の心」が決める

1. 講師名 ありあらかわ ちようしよう 東新川 長詳 1947年5月7日生 出生地 与那国町字与那国397番地

2. 学歴・職歴

	学歴	職歴
①	1960(昭和35)	与那国小学校卒業
②	1963(昭和38)	与那国中学校卒業(14期生)
③	1966(昭和41)	八重山高等学校卒業(18期生)
④	1970(昭和45)	琉球大学教育学部体育学科卒業
⑤	1970(昭和45)	八重山高等学校 体育科教諭
⑥	1973(昭和48)	豊見城高等学校 体育科教諭
⑦	1980(昭和55)	那覇高等学校 体育科教諭
⑧	1987(昭和62)	小禄高等学校 体育科教諭
⑨	2000(平成12)	那覇商業高等学校 体育科教諭

4. 表彰歴

	受賞名
①	平沼記念賞 (18歳未満青少年競技者指導者)
②	第63回沖縄タイムス教育賞(2006年)
③	文部科学大臣賞(体育・スポーツ) (2007年)

3. 役員歴

①	県高体連陸上競技専門委員 他
②	沖縄陸上競技協会 理事長・副会長(現在)
③	県体育協会常任理事長(現在)

5. スポーツ指導歴(陸上競技)

	内容
①	全国高校総合体育大会(インターハイ) 出場・監督28回 (1970年～2008年)
②	国民体育大会 監督20回、コーチ10回 (1970年～2003年)

※ モ(ご自由にお使い下さい。)

目 次

◇ はじめに

I. 本校の概要

II. 研究の概要

1. 研究主題	1
2. 研究主題の設定理由	1
3. 研究仮説	2
4. 研究の視点	2
5. 研究方針	3
6. 研究内容	3
7. 研究の全体構想図	4
8. 研究組織図	5
9. 組織の活動内容	5
10. 研究経過	6

III. 研究の実際

1. 体育科の実践

(1) 体育学習における授業の工夫	7
(2) 年間指導計画における工夫	8
(3) 各学年部の実践授業	
○ 低学年の実践「水遊び」	13
○ 中学年の実践「走りはばとび」	25
○ 高学年の実践「サッカー」	47

2. 食教育の実践

○ 3学年の実践「ペロリ賞の極意を考えよう」	80
○ 5学年の実践「たくましい体を育もう」	88

3. 教科外における実践

(1) 体育朝会の実践	93
(2) 人材活用による実践	95

4. 各専門部の実践

(1) 資料調査部の実践	107
(2) 環境整備部の実践	132

5. 関連した取り組み

(1) 町スポーツ活動への参加	143
(2) 幼稚園部の活動	144
(3) 中学校との連携	146

IV. 研究の成果と課題

V. 参考資料

◇ 終わりに

研究同人・指導にあたってお世話になった先生方・参考文献

1. 本校の概要

与那国小学校の校旗と校章

1. 校旗・校章



現在使用している校旗



【校章】

- ※ 校章 制定年月日、考案者、意味・由来等 不詳。
- ※ 現在の校旗 創立100周年記念に崎元 永文氏より寄贈
- ※ 現在の校章旗 創立100周年記念に池間 苗氏より寄贈

2. 校旗・校章の由来

(1)

校章の制定年月日は不詳であり、考案者も不明である。

6本の稲の葉を左右に配置し、そのうち3本には稲穂が描かれている。上部の稲穂は左に7粒、右に8粒、下方の稲穂は6粒実った穂が配されている。左右の稲穂は円形に上方で合わされ、下方はリボンで結ばれている。中央に与那国の与の旧漢字(與)を配している。稲の葉は緑色、穂は黄色、リボンは赤色、リボンに裏側は黄色が配されている。

(2) 校章の心

八重山諸島の中で3番目に創立された本校は、与那国島における学校教育の始まりとして意義を持つ。校章はその意義や本校校区の地域性(特性)、さらには教育の持つ神髄等を表現したものと想定される。

稲穂は農村集落の代表としての稲作、その豊かな実りと学業における成果・実りを願い、その稲穂を左右に丸く描くことで平和や学び合うことを表現する。下方のリボンは、地域・保護者・学校との融合、連携、そこに学び合う子ども同士・教職員との強い結びつきや信頼・礼節の心を表している。

稲穂の緑(若草色)は伸びる可能性、穂の黄色は豊かな実り、リボンの赤は自主性や自治・チャレンジ精神を表す。

校章や校歌に創立の精神を求め、校訓「自主・勤勉・礼節」が樹立されたものと解する。

第36代校長 田本 由美子による想定・記述 (H21年5月)

創立記念日	明治18年(1885年)6月10日
開校の地	与那国町64番地 長若方

本校校訓	自主・勤勉・礼節 (昭和35年制定)
------	--------------------

与那国小学校の概要一覧

1, 学校概要 (平成21年 5月1日 現在)

項 目	規模等 概要
位 置	北緯24度28分2秒 東経123度0分3秒 標高15, 5M
創 立	明治18年6月10日 今年度 創立124周年
校 名	与那国町立与那国小学校 (校名は何度か改称され、昭和33年祖納小学校を与那国小学校と改称し、現在に至る。)
所在地	〒907-1801 八重山郡与那国町字与那国1025 電話 : 0980-87-2872 FAX : 0980-87-3288 URL http://www.cosmos.ne.jp,yona-sho/index.html E-MAIL yona-sho@cosmos.ne.jp
学級数	普通学級 6学級
児童数	70人
職員数	11名
敷地保有面積	17, 092平方メートル
校舎保有面積	1, 842平方メートル 普通教室 432 特別教室 956
体育館の面積	680平方メートル
付帯施設	与那国町立児童生徒交流センター
その他	☆敷地内によなぐに幼稚園を擁する 園児 4歳児 14名 5歳児 9名 教職員数 4名 園長は校長、副園長は教頭が兼務 ☆平成20年度～22年度 沖縄県教育委員会指定 体育・スポーツ推進校 研究主題 運動に親しみ、たくましい体と心をつくる児童に育成 ～一人一人がめあてを持ち、主体的に取り組む体育学習を通して～ ☆平成21年度5月1日 学習支援ヘルパー配置1人(本校拠点校) 普通学級における特別支援対象児への学習支援が開始

教育目標及び経営方針

平成 21 年度

1. 教育目標

教育基本法及び学習指導要領移行措置の趣旨、本県本町の教育推進計画・学校教育における指導の努力点等に基づく目標を踏まえ、「知識基盤社会」の中で主体的に対応できる能力など「生きる力」の基礎を培うとともに、生涯学習の視点に立って知・徳・体の調和のとれた心豊かで、心身ともに健康で行動力があり、粘り強くやり抜く児童を育成する。

特に県指定体育・スポーツ推進校としてたくましい体と豊かな心を育むための教育活動の推進に加えて、教育活動への地域人材の活用や幼・小・中の連携を図り、開かれた学校づくり、特色ある学校づくりを推進する。

- よく考え自ら学ぶ子
- 礼儀正しく思いやりのある子
- 健康で明るくたくましい子
- 心豊かで粘り強くやりぬく子

◎めざす子ども像

- ◎かしこい子（よく考え自ら学ぶ子）
 - ・よく見、よく聞き、よく考える子
 - ・めあてを持って学習する子
 - ・すすんで探求する子
- ◎やさしい子（礼儀正しく思いやりのある子）
 - ・だれとでも仲良くできる子
 - ・明るいあいさつのできる子
 - ・物を大事にする子
- ◎たくましい子（健康で明るくたくましい子）
 - ・健康で心豊かな子
 - ・安全に気をつけ、健康で明るい子
 - ・ねばり強く頑張る子
- ◎やりぬく子（心豊かで粘り強くやりぬく子）
 - ・きまりをまもる子
 - ・ねばり強くやりぬく子
 - ・命を大切にする子

◎めざす教師像

- ◎広い識見と教養を備えた教師
- ◎使命感に燃え、愛情に満ちた教師
- ◎健康で明るく、協調性に富む教師

☆ 今年度のモットー 【 信頼・情熱・創意・協働 】

◎めざす学校像

- 「花と緑のきれいな学校」
- 「楽しさと厳しさがあがり、活力のある学校」
- 「創意・工夫・特色ある教育活動が展開される学校」
- 「地域に開かれ、信頼される学校」

本年度の各学年重点目標

かしこい子
考える子

知	1年	よく聞いて話す子
	2年	よく聞いて発表できる子
	3年	よく聞き、よく考えて発表できる子
	4年	よく聞き、めあてをもって学習する子
	5年	計画を立てて、すすんで学習する子
	6年	計画を立てて、学習にはげむ子

やさしい子
心の豊かな子

徳	1年	思いやりをもち、みんなと仲よくできる子
	2年	きまりを守り、友だちを思いやり、仲良くできる子
	3年	きまりを守り、みんなを思いやり、仲良くできる子
	4年	みんなを思いやり、進んでがんばる子
	5年	思いやり、助け合い、進んで良いことをする子
	6年	思いやりを持ち、進んでみんなのために働く子

たくましい子
体の強い子

体	1年	元気いっぱい、あそぶ子
	2年	元気よく、あそべる子
	3年	じょうぶな体をつくる子
	4年	進んでじょうぶな体をつくる子
	5年	めあてをもって体をきたえる子
	6年	めあてをもって体をきたえる子

やりぬく子
粘り強い子

意	1年	力いっぱい、がんばる子
	2年	さいごまで、がんばる子
	3年	何事も最後までやりぬく子
	4年	ねばり強く、最後までやりぬく子
	5年	根気強く、最後までやりぬく子
	6年	根気強く、最後までやりぬく子

2. 教育方針

(1) 自主性と創造性を養い、自己実現の能力を育てる。

- ・児童一人一人の個性を伸ばし、自分で課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、自ら行動するための「生きる力」を育てる。

(2) 健康で明るく、強い意志力と最後までやりぬく子を育てる。

- ・進んで体力と気力を養い、どんな困難でも乗り越える強い意志と目標に向かって積極的に行動する児童を育てる。

(3) 豊かな情操を養うとともに、勤労を尊ぶ態度を育てる。

- ・自然や物事に感動する感性と正義感、思いやりの心、協調性などの豊かな人間性を培う「心の教育」の充実を図るとともに、体験学習を通して働く喜びを体得させる。

(4) 社会の一員としての自覚を高め、道徳性の育成に努める。

- ・人間尊重の精神と社会の規律を重んずる態度を育て、日常生活における人間関係を通して、道徳的実践力を育てる。

(5) 郷土の自然と文化を愛し、その保全と発展に努める態度を育てる。

- ・郷土の自然や文化に対する理解を深め、その保全継承と新しい文化の創造に努める能力や態度を育てる。

(6) 平和を愛する心を育て、国際性と国際感覚を育てる。

- ・自国の歴史や文化に誇りを持つと同時に、世界の国々の生活や文化を理解し、国際協調の精神と、世界の平和建設に努める態度を育てる。

3. 学校経営方針

【基本方針】

学校教育は児童生徒を教え育てることが本質的な任務である。そして、それは学校の教育目標の実現に向けられた目的的な活動である。したがって、学校経営方針は目指す児童生徒像や育成するために必要とする条件を整備することを志向していることが大切である。よって、本校は、「学校の主人公は、子どもである」ことを方針に据えて、かつ組織体としての機能を十分に発揮させ、全職員の総意の下に、情熱と創意を持って、協働して教育実践を進めていく。

- (1) 学習指導要領の方針である「心豊かな人間性や社会性、国際社会に生きる日本人としての自覚の育成」、「知識基盤社会の中で主体的に生きて働く力となるような子どもたちが自ら学び自ら考える力の育成」、「基礎・基本の確実な定着と個性を生かす教育の充実」、「創意工夫を生かした特色ある教育、特色ある学校づくり」に努める。
- (2) 県教委指定「体育・スポーツ活動」の研究実践に当たり、幼稚園・中学校・他校との連携、保護者・地域との連携を深めた研究実践を通して教育活動の活性化を図り、子どもの望ましい人格形成を図る。
- (3) 学級経営を充実させ、児童や教師の信頼関係を大事にし、温かい人間関係と楽しい学校づくりに努める。
- (4) 校内研修や指定研修を中心に、授業による研究活動を推進し、「わかる授業」「参加する授業」を創造し実践する。
- (5) 「どの子にも基礎学力をしっかりと身につけさせること」が、小学校の最大の責務であることをしっかりと踏まえ、基礎学力の定着を最重点に位置づけて教育課程を編成し実践する。
- (6) 「年間指導計画」の作成、実施、評価をきめ細かく行い、各学年で履修すべき内容を確実に指導し、教育課程の完全実施に努める。
- (7) 年間指導計画や綿密な週案をもとに、標準授業時数の確保を図るとともに、指導と評価を一体化させたきめ細かな学習指導を展開する。
- (8) 家庭や地域との連携・協力をとおして、開かれた学校づくりを推進し教育活動の改善充実を図る。
- (9) 「環境が人をつくる」というスタンスの下、師弟同行、全職員の協働により花と緑の潤いのある学校、整理整頓清掃の行き届いた学校を作る。
- (10) 児童の健康・安心・安全な居場所としての学校をつくるため、保護者・地域・関係機関との連携を強化し、学習環境、教育条件の整備・充実に努める。

4. 本年度の重点目標

◎本校創立124年の歴史と伝統を踏まえ、地域や時代の要請に応え、明るく力強く前進する学校づくりを目指す。

◎体育・スポーツ研究指定(2年次)を踏まえ、幼小中、島内4校・地域と連携した研究を推進し、学校教育への信頼と教育活動の充実、児童の確かな変容を図る年とする。

- (1) 「生きる力」の育成を図り、思考力・判断力・表現力等の向上を目指し、学習指導の工夫改善・充実に努める。
- (2) 道徳教育の充実・体験活動の充実に努め、明るく、心豊かな児童の育成に努める。
- (3) 体育・スポーツ活動、健康安全・食に関する指導の充実に努めたくましい体と心を育み、体力の向上を目指す。
- (4) 保護者・地域と連携し基本的な生活習慣の定着を図り、確かな学力の定着を目指す。
- (5) 読書活動の充実と読書環境の整備・充実に努める。
- (6) 緑の少年団や体験活動、総合的な学習の時間の充実に努め、地域への理解と愛着を深めるとともに特色ある教育活動を推進する。
- (7) 学級経営の充実に努め、校内生徒指導・教育相談体制の確立に努め児童の自己指導力の育成を図る。
- (8) 学校を開き、保護者・地域に信頼され、開かれた学校づくりに努める。

平成21年度 学校職員及び学級編成表 (平成21年11月24日現在)

職名(学年)	氏名	児童在籍数					備考欄	
		学年	男	女	計			
校長	田本由美子							
教頭	新垣清隆	全児童数	36	34	67			
教諭(1年)	大城祐子	1学年	4	7	11			
教諭(2年)	平松一志	2学年	4	8	12			
教諭(3年)	上地真由美	3学年	7	4	11			
教諭(4年)	仲本吏佐	4学年	7	4	11			
教諭(5年)	金城由利佳	5学年	5	7	12			
教諭(6年)	水見拓磨	6学年	6	4	10			
教諭(専科)	兼城賢多	園児在籍数						
養護教諭	長間えり	全園児	男	女	計			
事務主事	大城世子	年少	5	7	12			
幼稚園教諭	外間世代子	年長	5	5	10	合計 22		
幼稚園教諭	譜久嶺ひとみ	必置の主任等						
学習支援ヘルパー (2学年配置)	前浜盛 亜理沙 (5月~7月) 入与那国 友姫	主任名	氏名					
		教務主任	兼城賢多					
学校医	花村泰範	生徒指導主任	大城祐子					
学校歯科医	大仲 徹	環境整備主任	水見拓磨					
学校薬剤師	山城 専	研究主任	兼城賢多					
学校評議員 学校評議員 学校評議員	崎原 侃 大宜見 長要 田頭 瑠都	保健主事	長間えり					

II. 研究の概要

1. 研究主題
2. 研究主題の設定理由
3. 研究仮説
4. 研究の視点
5. 研究方針
6. 研究内容
7. 研究の全体構想図
8. 研究組織図
9. 組織の活動内容
10. 研究経過

II 研究の概要

1. 研究主題

「運動に親しみ、たくましい体と心をつくる児童の育成」
～一人一人がめあてを持ち、主体的に取り組む体育学習をとおして～

2. 研究主題の設定の理由

近年、児童を取り巻く社会環境、生活環境の急激な変化の中で、戸外遊びの減少、生活習慣や食生活の崩れといった様々な健康問題や生活リズムの乱れが生じている。そのため、全国的に体育の「好き」「嫌い」の二極化が進む傾向にあり、それに伴い子どもの運動能力や体力が以前に比べて低下傾向にあることは、教育にとって大きな課題である。

新学習指導要領では、「生涯にわたって運動に親しむ資質や能力の基礎を培う観点を重視し、各種の運動の楽しさや喜びを味わうことができるようにするとともに、児童の発達の段階を踏まえ指導内容の明確化を図ること。」と述べられている。

また、沖縄県においても子ども達の体力や運動能力の低下傾向は全国と同様であり、そのため、体力の向上を図り、心身ともに健康な「がんじゅーわらび」の育成が求められている。「学校教育における指導の努力点」の中にも、『個を伸ばすため、「めあて学習」や「選択制授業」の拡充を図るとともに、チームティーチングによる指導や学習形態の工夫・改善並びに目標に準拠した評価の工夫・改善に努める。』と掲げている。

本校の児童は、概ね体育好きな児童が多く、ほとんどの児童が体育学習には喜んで参加している。休み時間や休憩時には、運動場や中庭でサッカーや野球、鬼ごっこ、一輪車等で遊ぶ様子も多く見られる。さらに放課後は、高学年を中心に放課後スポーツ活動に参加している児童も多い。しかし、一方において運動やスポーツを好まない児童や戸外遊びや多様な遊びを進んで行わない児童も存在する。そのため、体力の低下や運動技能における差の増大、二極化の様相は全国と類似している。また、食生活の変化は、肥満傾向、粘り強さに欠けるという面も課題として見過ごせない。新体力テストの結果においては、「ソフトボール投げ」「反復横跳び」「20m シャトルラン」では全国平均と比較しても良い記録が出ているが、「握力」「立ち幅とび」「長座体前屈」「上体起こし」では、落ち込む傾向が見られた。ここ与那国島は、「陸上王国」と呼ばれるくらい陸上競技が盛んであり、毎年、町主催の陸上競技大会が行われ、児童も陸上競技に対する意識が高く、積極的に関わっているという土地柄である。

しかし、児童数の減少や施設・設備、社会環境の変化等から多様なスポーツに親しむ事や経験が希薄となっている。

体育学習の指導目標は、「いろいろな運動に親しむ子」を育て、「様々なスポーツの経験を積み、運動する喜びを味わう中でスポーツ好きな子」をつくり、さらに「主体的にスポーツ活動に取り組む子を育成」することなど多岐に渡っている。そこで、児童一人一人に自己の体位や体力の傾向を理解させ、めあてを持ち、主体的に活動していくことでバランスのとれたたくましい体と心をつくり、「粘り強さ」や「やり抜く力」等を身に付けるとともに、教育活動全体を通したスポーツ活動の促進により、生涯にわたりスポーツに親しむ基礎が培われるであろうと考える。

また、低年齢化が指摘されている「生活習慣病」やその要因ともされている「食生活」への課題も本校においても例外ではないと認識している。沖縄県においても、「学校教育における指導の努力点(平成21年度)」に、たくましい体と心の育成の向上の方策として「望ましい食習慣の形成」がうたわれている。より良い食事は、健康や体力を維持し、文化的な生活を送る上でも、さらには、児童が運動にふれ、より深く運動の楽しさや喜びを味わうためにも必要不可欠なものである。また、自己の健康状態や体づくりの基礎となる食生活について意識することは、生涯体育的な見地からも有意義だと考え、本研究主題を設定した。

3. 研究仮説

- (1) 一人一人にめあてを持たせ、効果的な授業展開(場の工夫、児童相互の関わり)を図ることで、児童が主体的に取り組む体育学習ができるであろう。
- (2) 体育学習を中心に運動の楽しさや喜びを味わわせることで、自ら運動する意欲を培い、運動に親しみ、たくましい体と心の備わった児童を育成することができるであろう。
- (3) 普段の自己の食生活を見つめなおしながら、体によい食べ物や量を知ることによって、主体的に望ましい食習慣が身につく、食行動を実践することができ、たくましい体と心の備わった児童を育成することができるであろう。

4. 研究の視点

(1) 一人一人がめあてを持ち、主体的に取り組む体育学習

- ① 児童が様々な運動に対して関心と意欲を持ち、それぞれの運動の特性を味わうことができる授業展開の工夫。

- | | |
|-------------|--|
| 手
立
て | <ul style="list-style-type: none">○ 「面白そう、楽しめそう」「やってみよう、挑戦したい」という関心と意味を持たせるための場の工夫をする。○ 友達によさに気づき、お互いに関わり合いながら運動に親しむ場を設定する。○ 運動の楽しさを味わい、挑戦したくなるような運動内容を提示する。○ 学習意欲が単元を通して持続できるように、学習形態の工夫をする。 |
|-------------|--|

- ② 児童自らめあての達成に向けて取り組める場の工夫。

- | | |
|-------------|---|
| 手
立
て | <ul style="list-style-type: none">○ 自分の運動能力を客観的に把握でき、めあてを明確に持てる場を設定する。○ めあての達成に向けて、自分やチームに合った多様な練習の場や方法を選択する場を設定する。○ よりよい動きに気づき、めあての達成に向けた VTR 等を活用する場を設定する。○ 自分のめあての達成状況や活動の「よさ・不十分さ」を振り返ることができる場を設定する。 |
|-------------|---|

(2) 運動に親しみ、たくましい体と心をつくる児童

授業だけでなく、教育活動全体を通して、運動に親しめるようにするための工夫。

- | | |
|-------------|---|
| 手
立
て | <ul style="list-style-type: none">○ 新体力テストの結果を児童に伝え、年間を通してバランスのよい体力づくりのめあてを持たせる工夫。○ なわとび板の作成、設置等、児童自らが運動に触れ親しめるような活動の場の工夫。○ 体育朝会(毎週金曜日)を実施し、運動や遊びの側面から体力を向上させる場の工夫。○ 竹馬、一輪車、ホッピング等を整備・普及させ、積極的に遊びを促進させ、遊びを通して運動に親しめるようにするとともに、ゴールドジャンプ検定やゴールド記録等を実施し、児童の意欲につながるような実践の工夫。○ 学校教育活動全体を通して、たくましい体と心をつくる気運を盛り上げ、環境整備を図る。(PTA・地域との連携) |
|-------------|---|

(3) 自己の食生活を見つめなおしながら、主体的に望ましい食習慣が身につく、食行動を実践することができるたくましい体と心の備わった児童

各教科や各領域等などに関連して取り組む食教育の工夫。

- | | |
|-------------|---|
| 手
立
て | <ul style="list-style-type: none">○ 毎日の給食指導において、好き嫌いをなく食べる指導や完食指導を行うことで「たくましい体づくり」を意識させる。○ 特別活動や総合的な学習の時間において、自己の食生活を見つめなおしながら、友達の食生活についても知り、主体的に望ましい食習慣が身につく、食行動を実践しようとする態度を育てる食教育の授業実践の工夫。○ 栄養士による給食巡回指導において、「食品の役割」「栄養のバランスの摂れた食事」等について食教育の指導実践。○ 給食時間に「ふれあい給食」「なかよし給食」「思い出給食」を実施し、様々な人達との会食を通して、自己の食生活を見つめなおしていこうとする態度を育成する場の設定。 |
|-------------|---|

5. 研究方針

- (1) 全教師の共通理解のもと、全教育活動を通して推進する。
- (2) 新学習指導要領の趣旨を踏まえ、理論研究や実践を通して、授業改善を図る。
- (3) アンケート調査やデータ分析によって、実態を把握し実践活動に役立てる。
- (4) 研究授業は、低・中・高学年で計3回行い、指導力の向上と指導方法の工夫改善に努める。
- (5) 食育を通じた授業実践を行い、望ましい食習慣とたくましい体づくりを結びつけた指導の工夫。
- (6) 原則として毎月第1,3水曜日を校内研究の日とする。
- (7) 研究の1年間のまとめとして、報告書を作成する。
- (8) 運動に親しめる環境整備の充実や工夫を行う。
- (9) 幼稚園・中学校や他の学校との連携を図る。
- (10) 家庭・地域・PTAとの連携を図る。

6. 研究内容

平成 二十 年度 （一 年次 ）	<ol style="list-style-type: none"> ① 研究主題の達成を図るため組織的・計画的な研究体制を確立する。 ② 学習における基本的な考え方について理論研究会と授業研究会を実施する。 ③ 研究授業を通しての学習指導方法の工夫・改善を図る。 ④ 年間指導計画、評価計画(評価規準)の見直しを図る。 ⑤ アンケート、新体力テストの結果から、児童の運動面や基本的な生活リズムの実態把握に努める。 ⑥ 運動の継続化を図る工夫を隣学年で計画し、次年度一斉に取り組めるようにする。 ⑦ 週行事や日課表等を見直し、業間体育等を設定する。 ⑧ 竹馬やうんてい等遊びの環境を整備し、遊びを通じた体力の向上を図る。 ⑨ 校種間及び保護者・地域と連携した取り組みを図る。 ⑩ 望ましい生活習慣の奨励に務め、体力向上の工夫・改善を図る。 ⑪ 成果と課題から、次年度への方向性を検討する。
平成 二十一 年度 （二 年次 ）	<ol style="list-style-type: none"> ① 一年次の課題をもとに、さらに充実した学習の工夫・改善を図る。 ② 学習における基本的な考え方の理論研究と授業研究を深める。 ③ 体力向上に結びつける取り組みの見直しを図る。 ④ 研究授業を通して、体育学習指導方法の工夫・改善に努める。 ⑤ アンケート調査により、児童の実態把握に努めるとともに、前年度との比較検討を行う。 ⑥ 年間指導計画、評価計画(評価規準)の見直しを図る。 ⑦ 体育朝会を実施し、全校の取り組みの輪を広げる。 ⑧ 家庭、地域での体力づくりの奨励を行う。 ⑨ 体力向上の工夫・改善を図るために、望ましい生活習慣・食育指導の充実を図る。 ⑩ 「たくましい体と心をつくる」視点により、児童の主体的な活動を計画・実践する。 ⑪ コーディネーション運動の導入と授業への活用を図る。 ⑫ 地域人材リストの作成と活用を図る。 ⑬ 二年次の発表会を持ち、成果と課題から次年度への方向性を検討する。
平成 二十二 年度 （三 年次 ）	<ol style="list-style-type: none"> ① 過去2年間の成果と課題をもとに、学習指導の改善・充実を図る。 ② 体育学習における基本的な考えについて授業研究を深める。 ③ 授業研究会を通して、体育科学習指導方法の工夫・改善に努める。 ④ 年間指導計画、評価計画(評価規準)の見直しをする。 ⑤ 家庭・地域での体力づくりの日常化を図る。 ⑥ 三年次の研究実践の発表会を持ち、研究成果を分析・考察し、次年度に生かす。

7. 研究の全体構想図

本校の教育目標

- 目指す児童像
- かしこい子、考える子 (知)
 - やさしい子、心豊かな子 (徳)
 - たくましい子、体の強い子 (体)
 - 粘り強く、やり抜く子 (意)

研究主題

「運動に親しみ、たくましい体と心をつくる児童の育成」
～一人一人がめあてをもって主体的に取り組む体育学習を通して～

研究仮説

- (1)一人一人にめあてを持たせ効果的な授業展開(場の工夫、児童相互の関わり)を図ることで、児童が主体的に取り組む体育学習ができるであろう。
- (2)体育学習を中心に運動の楽しさや喜びを味わわせることで、自ら運動する意欲を培い、運動に親しみ、たくましい体と心の備わった児童を育成することができるであろう。
- (3)普段の自己の食生活を見つめなおしながら、体によい食べ物や量を知ることによって、主体的に望ましい食習慣が身につく、食行動を実践することができ、たくましい体と心の備わった児童を育成することができるであろう。

地域の実態

- ・PTA活動は活発。
- ・子ども会活動も充実している。
- ・自然は豊かであるが、スポーツ施設等が少ない。
- ・陸上競技が盛んである。

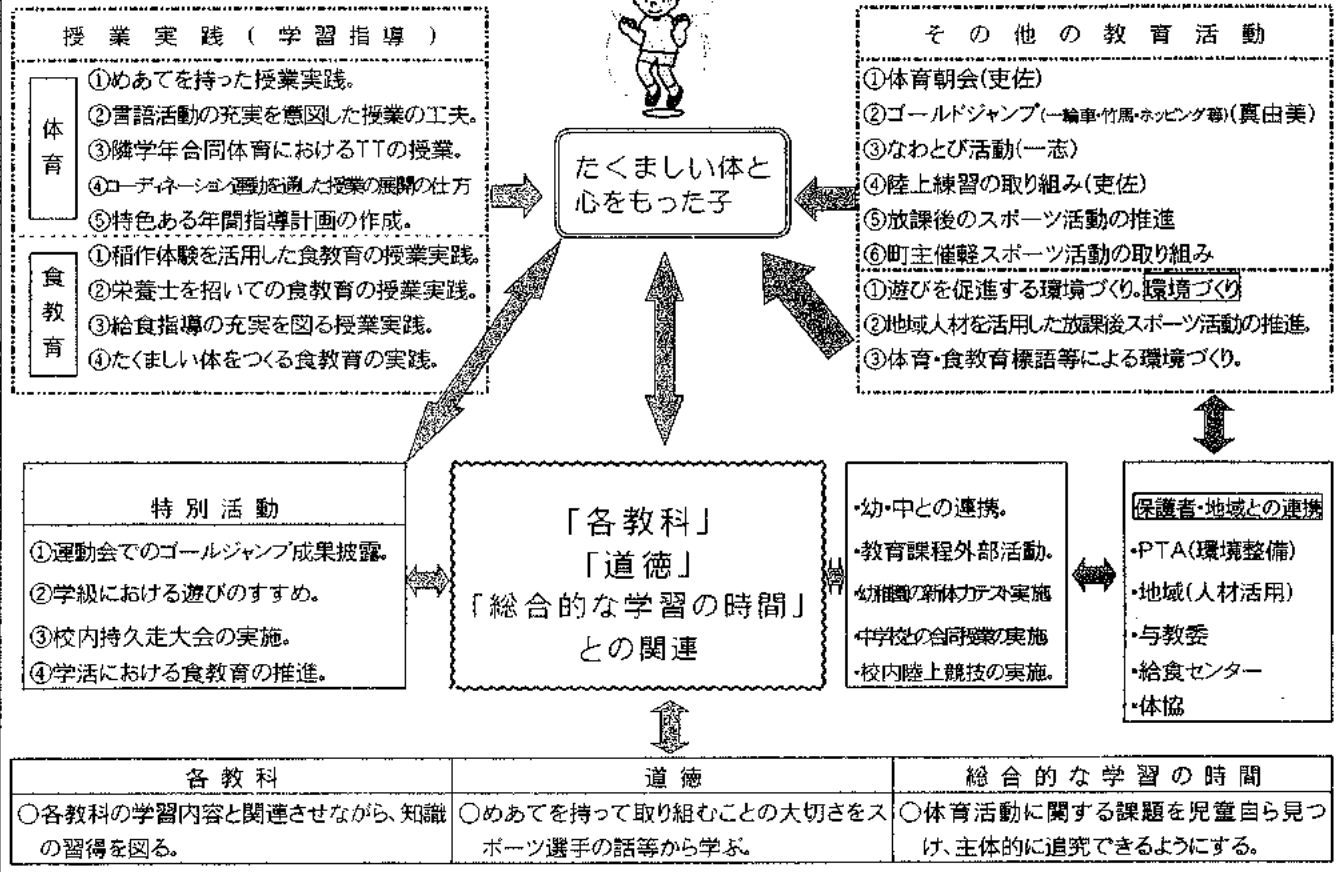
教師の願い

- ・どの子どもも運動好きな子に。
- ・生涯にわたり、運動に親しむ子に。
- ・粘り強さを持ち、何事も一生懸命やり抜く子に。
- ・たくましい体と心を持ち、明るく生き生きと活動する子に。

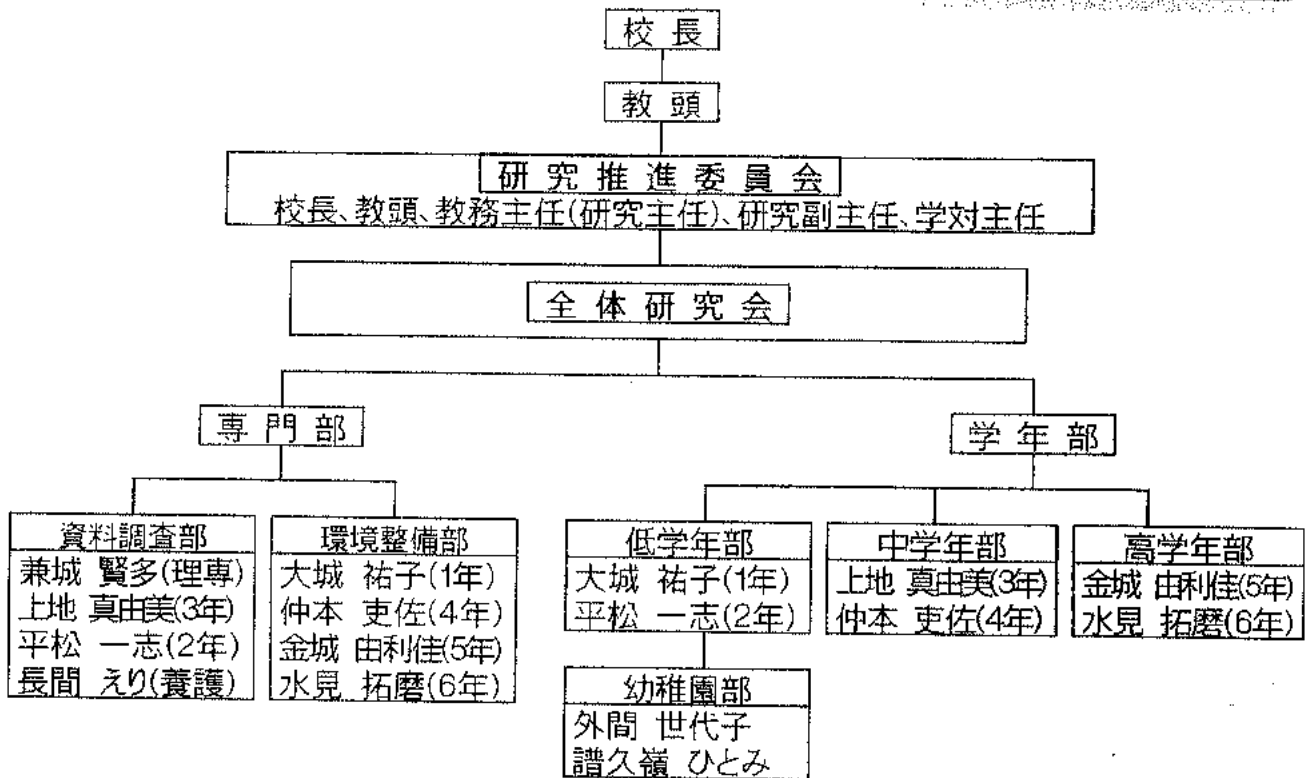
児童の実態把握

- ①新体力テスト(5月・10月)
- ②生活実態アンケートの実施(6月)
- ③泳力調査(7月)
- ④体位・体格の測定と分析

具体的な実践



8. 研究組織図



9. 組織の活動内容

組織名		活動内容	構成員
校長・教頭		①全体総括・指導助言・渉外・交渉	校長・教頭
校内研究推進委員会		①研究の計画の企画、立案 ②研究の推進、各部への連絡調整 ③全体研究会の計画、運営 ④研究記録の整理、保管 ⑤招聘講師との連絡調整	校長 教頭 教務主任 研究主任 研究副主任
全体研究会		①研究計画、研究内容の検討、確認 ②目標に準拠した評価の検討 ③研究授業及び授業研究会 ④研究報告書の原稿作成 ⑤全体的諸問題の討議、決定	全職員
各専門部	資料調査部	①指導案形式の検討・提案 ②新体力テストの実施、結果の分析・考察	兼城・上地 平松・長間
	環境整備部	①地域人材リストの作成・活用 ②実態アンケートの実施・分析 ③体育学習環境の整備、教材開発 ④運動の日常化を図る(ゴールドジャンプ) ⑤遊具設備の作成、設備、(PTAとの連携)	大城(祐) 仲本 金城 水見
各学年部		①児童の実態把握 ②指導方法の工夫改善 ③資料の活用、学習環境整備 ④研究授業の計画・実践・まとめ ⑤研究集録用原稿作成	各学年
幼稚園部		①低学年部会との連携を図った研究と実践	幼稚園

10. 平成21年度(二年次)校内研究経過

<1学期>

★は「職員会議の中」及び「行事」としての実施。

回	月	日	曜	形態	研究内容	備考
★	4	2	木	全体会	平成20年度(一年次)の取り組み説明	研究主任
1	4	15	水	全体会	平成20年度(一年次)の新体力テストより、児童の実態と課題 体育朝会の取り組み・進め方	研究主任
2	4	21	火	全体会	平成21年度(二年次)の研究テーマ及び研究構想図 年間指導計画検討	研究主任
★	5	13	水	記録会	第1回新体力テスト実施	体育主任
3	5	13	水	全体会	指導案の様式検討、ゴールドジャンプ実施の方法	研究主任
4	5	14	木	全体会	ゴールドジャンプ実態調査、生活アンケート内容事項提案	研究主任
5	6	3	水	全体会	コーディネーション運動(理論研)	研究主任
6	6	10	水	全体会	食育指導案検討会	3・4年担任
7	6	18	木	全体会	第1回指導案検討会	1・2年担任
★	6	21	日	記録会	幼小中合同陸上競技大会	体育主任
★	6	9	火	水泳	プール学習スタート、泳力調査	全児童
8	6	30	月	全体研	食教育(3年生)「ペロリ賞の極意を考えよう」	食教育①
9	7	3	金	全体研	第1回研究授業(1・2年生)「体育:水遊び」	主事招聘①
10	8	26	水	全体研	コーディネーション運動、体ほぐし運動伝達講習会	研究主任 水見・上地

<2学期>

★	9	6	日	陸上大会	与那国町少年陸上競技大会	全児童
11	9	9	水	全体研	体育授業の展開の工夫	研究主任
12	9	29	火	全体会	第2回指導案検討会	5・6年担任
★	10	4	日	運動会	ゴールドジャンプ成果発表	全児童
13	10	16	金	全体研	第2回研究授業(5・6年生)「体育:サッカー」	主事招聘②
14	10	28	水	全体会	第3回指導案検討会、第2回新体力テスト	3~5年担任
★	10	29	木	全体会	「ぼくの、わたしのゴールド記録」(個人カード)自己記録の確認	研究主任
★	11	2	月	専門部	研究紀要の原稿チェック・確認	校長・研究主任
★	11	17	火	全体研	二年次発表リハーサル	研究主任
15	11	19	木	全体会	二年次報告会に向けての準備	研究主任
16	11	24	火	全体研	第3回 研究授業(5年生) 食育:「食生活を見なおそう」 研究授業(3・4年生) 体育:「走りはばとび」 町指導法工夫改善研修会 二年次実践報告会	食教育② 主事招聘③
★	12	2	水	テスト採点	県・地区達成度テスト(4・5年)採点・集計処理	
17	12	9	水	全体会	第3回研究授業反省会	3・4・5年担任

<3学期>

18	1	13	水	全体会	第2回新体力テストデータ分析・検討	研究主任
19	1	20	水	全体会	新体力テスト個人データ配布・検討、今年度の反省	研究主任
20	2	10	水	全体会	ゴールドジャンプの個人データ検討、分析	研究主任
★	2	12	金	記録会	校内持久走大会	全児童
21	2	23	火	全体会	次年度(三年次)の校内研修計画(案)の検討	研究主任
22	3	3	水	全体会	次年度(三年次)の校内研修計画(案)の検討	研究主任

III. 研究の実際

1. 体育科の実践

- (1) 体育学習における授業の工夫
- (2) 年間指導計画における工夫
- (3) 各学年部の実践授業
 - ・ 低学年の実践「水遊び」
 - ・ 中学年の実践「走りはばとび」
 - ・ 高学年の実践「サッカー」

2. 食教育の実践(学級活動)

- ・ 3学年の実践「ペロリ賞の極意を考えよう」
- ・ 5学年の実践「たくましい体を育もう」

3. 教科外における実践

- (1) 体育朝会の実践
- (2) 人材活用による実践
 - ① 体ほぐし
 - ② 保護者と連携した実践
 - ③ 陸上指導

4. 各専門部の実践

- (1) 資料調査部の実践
 - ① 新体力テストの結果と考察
 - ② 体位・体格の実態
 - ③ 児童の泳力(県との比較)
 - ④ 食教育の充実を目指して
- (2) 環境整備部の実践
 - ① 児童の実態把握～運動や体育に関するアンケートの実施～
 - ② 遊びの促進ゴールドジャンプの実践～ぼくの、わたしのゴールド記録の活用～
 - ③ 体育・スポーツ活動促進の環境整備及び教材開発
 - ア. 体育・食育標語の取り組みと立て看の設置
 - イ. 滑り台設置と遊びの促進
 - ウ. ケンステップ、的当て板の作成の活用
 - エ. 200mトラックの改修

5. 関連した取り組み

- (1) 町スポーツ活動への参加
- (2) 幼稚園部の活動
- (3) 中学校との連携

III. 研究の実際
1. 体育科の実践

体育学習における授業の工夫

(1) 改善の視点

- 児童一人一人がめあてを持って主体的に取り組むことで、充実した体育学習を行わせる。
- 学習指導要領の趣旨、「考える力の育成」を期するため毎時、話し合い活動を取り入れた授業展開を行う。
- 年間を通した体力づくりとして行うなわとびを取り入れ、準備運動として行わせる。
- コーディネーション運動を有効に取り入れるため、各運動の要素分析を行い、指導内容に合ったコーディネーション運動を取り入れ能力・技能の向上を図る。
- 隣学年合同で行うため、個人差が大きいことが予想されるので、個に応じた指導の工夫を充実させる。(同学年内でも個人差が大きい実態がある)単元や指導内容によっては、学年単位で行うなど、指導の充実を図る。
- 単元(運動)だけでなく、自分の体力(新体力テストから)と照らしてバランスの良い体づくりを意識させる。

(2) 指導の実際例

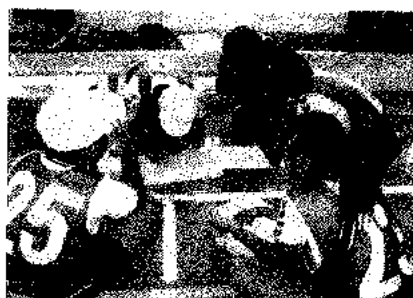
本校では、研究仮説の1と2に迫るため以下のような流れで授業展開を行っていく。

事前	○ 学習の準備をする。 ○ 準備運動(なわとび、走りなわとび等)
	○ 本時での個人でのめあてやグループでのめあてを立てさせておく。
導入	1. コーディネーション運動をする。
	2. めあてやルールを確認する。
展開	(例) できる跳び方で、いろいろな向きや を跳び越そう。
	3. 主運動に入る。 児童相互の話し合いの場や友達同士で相互評価をする場面を盛り込んで授業を展開していく。そうすることで、言語活動の充実を促進していく。
まとめ	4. 今日の学習のまとめをする(学習カードに記入し、学習を振り返らせる)。 ・ 自己評価 ・ チームでの評価・反省
	5. 今日の学習を終えて感想を発表する。
	6. 次時の学習の予告をする。

(3) 言語活動の取り組みの様子



【水遊び(1・2学年)】



【サッカー(5・6学年)】

平成21年度 体育科年間指導計画(1学期) 与那国町立与那国小学校

月	4月			5月			6月				7月	
行事	身体計測 交通安全教室			第1回新体力テスト13日 軽スポーツ大会16日 プール開き			校内スポレク14日 日曜参観14日 小中合同陸上競技大会21日				スーパードッジ ボール大会11日 終業式17日	
体育朝会	前跳び・チャレンジ跳び17日 ソフトバレーボール24日			前跳び・チャレンジ跳び8日・29日 大縄跳び15日			大縄跳び12日 スーパードッジボール26日				大縄跳び3日 前跳び・チャレン ジ跳び10日	
週	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
一年	遊具遊び④ 多様な動き:バランス・移動① 体ほぐし運動 (コーディネーション運動) ②			多様な動き (コーディネーション運動)① ボール投げゲーム⑦ かけっこリレー①			多様な動き (コーディネーション運動)① 鉄棒運動⑥、かけっこ④ A.水遊び②				A.水遊び⑦	
二年	遊具遊び④ 多様な動き:バランス・移動① 体ほぐし運動 (コーディネーション運動) ⑤			多様な動き (コーディネーション運動)① ボール投げゲーム⑦ かけっこリレー①			多様な動き (コーディネーション運動)① 鉄棒運動⑥、かけっこ④ A.水遊び②				水遊び⑦	
三年	体ほぐし運動 (コーディネーション運動)④ ソフトバレーボール④			ソフトバレーボール③ 鉄棒運動⑥			鉄棒運動② ドッジボール⑤ 浮く・泳ぐ⑤				浮く・泳ぐ⑩	
四年	体ほぐし運動 (コーディネーション運動)④ ソフトバレーボール④			ソフトバレーボール③ 鉄棒運動⑥			鉄棒運動② ドッジボール⑤ 浮く・泳ぐ⑤				浮く・泳ぐ⑩	
五年	体ほぐし運動 (コーディネーション運動)④ ソフトバレーボール③			ソフトバレーボール④ 鉄棒運動・走り高跳び④			鉄棒運動・走り高跳び② ドッジボール⑤ 水泳②				水泳⑧	
六年	体ほぐし運動 (コーディネーション運動)④ ソフトバレーボール③			ソフトバレーボール④ 鉄棒運動・走り高跳び④			鉄棒運動・走り高跳び② ドッジボール⑤ 水泳②				水泳⑧	

平成21年度 体育科年間指導計画(2学期) 与那国町立与那国小学校

月	9月				10月				11月				12月		
行事	身体計測 与那国町少年陸上大会6日 エイズ講演会25日				運動会4日 八重山地区小学校陸上競技大会25日				与那国町短縄・大縄跳び大会1日 二次指定研究報告会24日				県到達度テスト(4年)2日 地区達成度テスト(5年)2日 終業式25日		
体育朝会	体ほぐし(講師:田島 政之)4日 前跳び・チャレンジ跳び11日 じゃんけん列車18日				大縄跳び9日 リアル鬼ごっこ23日				前跳び・チャレンジ跳び13日 氷鬼27日				前跳び・チャレンジ跳び4日・11日 手つなぎ鬼18日		
週	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27
一年	体ほぐし運動 (コーディネーション運動)③ 表現⑤、リズム遊び② ハードルリレー②				多様な動き (コーディネーション運動)② ハードルリレー④、川とび③ ボール運びゲーム③				多様な動き (コーディネーション運動)② ポール運びゲーム⑤ とび箱遊び⑤				多様な動き (コーディネーション運動)③ とび箱遊び① 表現④		
二年	体ほぐし運動 (コーディネーション運動)③ 表現⑤、リズム遊び② ハードルリレー②				多様な動き (コーディネーション運動)② ハードルリレー④、川とび③ ボール運びゲーム③				多様な動き (コーディネーション運動)② ポール運びゲーム⑤ とび箱遊び⑤				多様な動き (コーディネーション運動)③ とび箱遊び① 表現④		
三年	体ほぐし運動 (コーディネーション運動)③ 表現・リズムダンス・フォークダンス⑧ リレー②				表現・リズムダンス・フォークダンス⑧ ティーボール⑥ リレー① 保健①「健康な生活」				保健②「健康な生活」 C. 走り幅跳び⑥・ハードル走③				保健①「健康な生活」 多様な動き (コーディネーション運動)③ とび箱運動⑥		
四年	体ほぐし運動 (コーディネーション運動)③ 表現・リズムダンス・フォークダンス⑧ リレー②				表現・リズムダンス・フォークダンス⑧ ティーボール⑥ リレー① 保健①「育ちゆく体とわたし」				保健②「育ちゆく体とわたし」 C. 走り幅跳び⑥・ハードル走③				保健①「育ちゆく体とわたし」 多様な動き (コーディネーション運動)③ とび箱運動⑥		
五年	表現⑧ 短距離走・リレー③				B. サッカー (コーディネーション運動)⑥ 2種競技 (ハードル走・走り幅とび)⑥				体力を高める運動③ (コーディネーション運動) とび箱運動⑤ 保健②「けがの防止」				体力を高める運動② (コーディネーション運動) とび箱運動③ 保健②「けがの防止」		
六年	表現⑧ 短距離走・リレー③				B. サッカー (コーディネーション運動)⑥ 2種競技 (ハードル走・走り幅とび)⑥				体力を高める運動③ (コーディネーション運動) とび箱運動⑤ 保健②「病気の予防(1)」				体力を高める運動② (コーディネーション運動) とび箱運動③ 保健②「病気の予防(1)」		

「A. 水遊び」におけるコーディネーション運動

1. 一覧表

- | | |
|--------------------|--------------|
| ① 水中歩行 | ⑪ トンネルくぐり |
| ② 水中ジャンプ | ⑫ 動物泳ぎ |
| ③ 流れるプール | ⑬ 水かけっこ |
| ④ いろいろな動物の水中お散歩ごっこ | ⑭ 水中汽車ポッポ |
| ⑤ じゃんけんおんぶ | ⑮ だるまさんがころんだ |
| ⑥ 電車ごっこ | ⑯ 水中ボール運び |
| ⑦ おにごっこ | ⑰ 水中じゃんけん |
| ⑧ いるかジャンプ | ⑱ たからひろい |
| ⑨ ロケットジャンプ | |
| ⑩ 輪くぐり | |

2. コーディネーション運動の実際



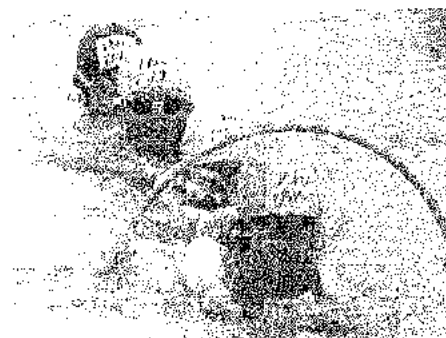
【⑥ 電車ごっこ】



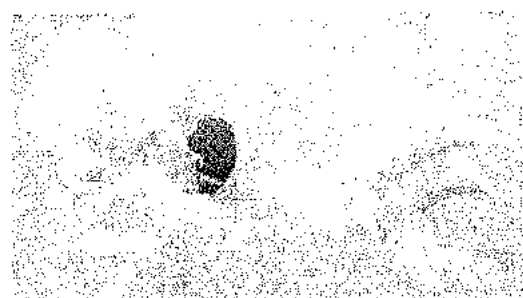
【⑫ 動物泳ぎ】



【⑧ いるかジャンプ】



【⑭ 水中汽車ポッポ】



【⑨ ロケットジャンプ】



【⑱ たからひろい】

平成21年度 体育科年間指導計画(3学期) 与那国町立与那国小学校

月	1月			2月			3月	
行事	始業式・新年会6日 書き初め会6日 町主催学対実践発表会23日 学芸会31日			校内持久走大会12日 児童会役員選挙19日 委員会引き継ぎ式26日			6年生を送る会11日 鼓笛引き継ぎ式11日 卒業式23日 修了式・離任式24日	
体育朝会	前跳び・チャレンジ跳び8日・15日 大縄跳び大会22日			前跳び・チャレンジ跳び12日 鬼ごっこ26日			前跳び・チャレンジ跳び5日 手つなぎ鬼12日	
週	28	29	30	31	32	33	34	35
一年	表現①、リズム遊び② 鬼あそび③			マット遊び⑦ ボールけりゲーム②			ボールけりゲーム⑦	
二年	表現①、リズム遊び② 鬼あそび③			マット遊び⑦ ボールけりゲーム②			ボールけりゲーム⑦	
三年	持久走② マット運動⑥			持久走②・タグラグビー④ マット運動②			多様な動き④ (コーディネーション運動) タグラグビー②	
四年	持久走② マット運動⑥			持久走②・タグラグビー④ マット運動②			多様な動き④ (コーディネーション運動) タグラグビー②	
五年	持久走②・マット運動② 保健②「心の健康」			持久走②・マット運動④ 保健②「心の健康」			バスケットボール④	
六年	持久走②・マット運動② 保健②「病気の予防(2)」			持久走②・マット運動④ 保健②「病気の予防(2)」			バスケットボール④	

1・2年							
領域	内容	1年(102時間)			2年(105時間)		
		配当時間	割合(%)		配当時間	割合(%)	
体づくり運動	体ほぐしの運動(コーディネーション運動)	5	15	14.7	8	18	17.1
	多様な動きをつくる運動(コーディネーション運動)	10			10		
器械・器具を使つての運動遊び	固定施設	4	23	22.5	4	23	21.9
	マット	7			7		
	鉄棒	6			6		
	とび箱	6			6		
走・跳の運動遊び	走の運動遊び	11	14	13.7	11	14	13.3
	跳の運動遊び	3			3		
水遊び		9	9	9.0	9	9	8.7
ゲーム	ボールゲーム	24	27	26.4	24	27	25.7
	鬼遊び	3			3		
表現リズム遊び		14	14	13.7	14	14	13.3
合計		102	102	100	105	105	100

3・4年							
領域	内容	3年(105時間)			4年(105時間)		
		配当時間	割合(%)		配当時間	割合(%)	
体づくり運動	体ほぐしの運動(コーディネーション運動)	7	14	13.3	7	14	13.3
	多様な動きをつくる運動(コーディネーション運動)	7			7		
器械運動	マット	8	22	21.0	8	22	21.0
	鉄棒	8			8		
	とび箱	6			6		
走・跳の運動	走(持久走を含む)	10	16	15.2	7	16	15.2
	跳	6			6		
水泳(浮く・泳ぐ運動)		15	15	14.3	15	15	14.3
ゲーム	ドッジボール	5	24	22.5	5	24	22.5
	ゴール型	6			6		
	ネット型ゲーム	3			7		
	ベースボール型ゲーム	10			6		
表現運動	表現	5	10	9.5	8	10	9.5
	リズムダンス	4			4		
	フォークダンス	1			1		
保健		4	4	3.8	4	4	3.8
合計		105	105	100	105	105	100

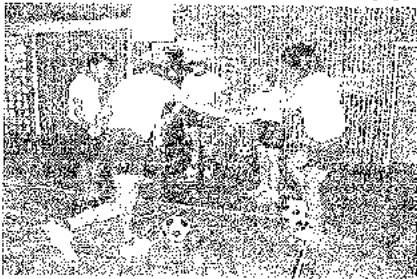
5・6年							
領域	内容	5年(90時間)			6年(90時間)		
		配当時間	割合(%)		配当時間	割合(%)	
体づくり運動	体ほぐしの運動(コーディネーション運動)	4	9	10.0	4	9	10.0
	体力を高める運動(コーディネーション運動)	5			5		
器械運動	マット	6	20	22.3	6	20	22.3
	鉄棒	6			6		
	とび箱	8			8		
陸上運動	走(持久走を含む)	7	13(6)	14.5(6.6)	7	13(6)	14.5(6.6)
	跳(走り高跳び)	6(6)			6(6)		
水泳		10	10	11.1	10	10	11.1
ボール運動	ゴール型	10	22	24.5	10	22	24.5
	ネット型	7			7		
	ドッジボール	5			5		
表現運動	表現	8	8	8.8	8	8	8.8
	フォークダンス	0			0		
	リズムダンス	0			0		
保健		8	8	8.8	8	8	8.8
合計		90	90	100	90	90	100

「B. サッカー」におけるコーディネーション運動

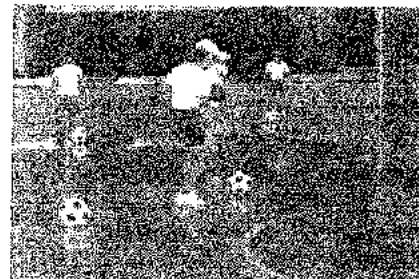
1. 一覧表

- | | |
|---------------|---------------|
| ① 片足バランス | ⑪ ボールステッピング |
| ② 片足バランスくずしもう | ⑫ ボールでなぞろう |
| ③ ストッピング | ⑬ ドンジャンケンドリブル |
| ④ 投げ上げストッピング | ⑭ ドリブル鬼ごっこ |
| ⑤ ストップ・ザ・ボール | ⑮ しっぽ取りドリブル |
| ⑥ 手つなぎパス | ⑯ リフティング |
| ⑦ パス&パス | ⑰ ボール蹴りキャッチ |
| ⑧ ナンバーリングパス | ⑱ 的当てキック |
| ⑨ ケンパーステップ | ⑲ 障害物シュート |
| ⑩ しっぽ取り | |

2. コーディネーション運動の実際



【⑥ 手つなぎパス】



【⑪ ボールステッピング】



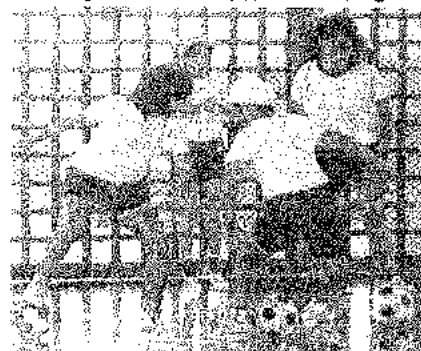
【⑧ ナンバーリングパス】



【⑰ ボール蹴りキャッチ】



【⑬ ドンジャンケンドリブル】



【⑮ しっぽ取りドリブル】

「C. 走りはばとび」におけるコーディネーション運動

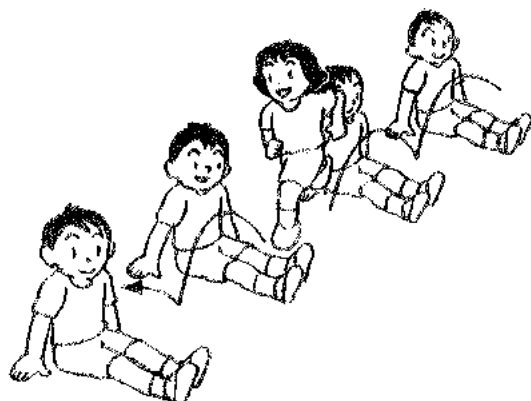
1. 一覧表

- ① ミニハードル
- ② 人間ラダー
- ③ ケンステップ
- ④ 川跳び

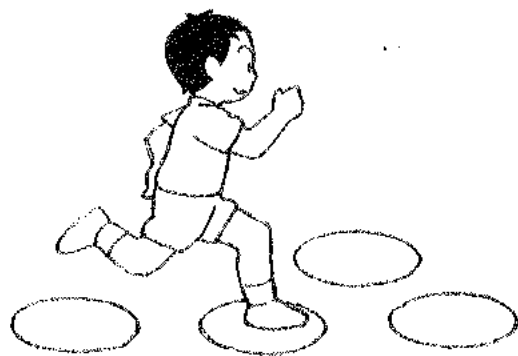
2. コーディネーション運動の実際



① ミニハードル



② 人間ラダー



③ ケンステップ



川跳び

④ 川跳び

1・2学年 水あそび



授業の様子

1. 2. 3. パッ!!
イルカさんだぞ~!



汽車になって、みんなで
フラフラのトンネル
くぐるよ。



次は、フクフク
フクフク……
パッ!! クジラ
さんにチャレンジ

みんな2年生のリーダー
さんの言うことを、きちん
と聞いてね



みんなよく考えて
お話づくりに夢中
です。



体育科学習指導案

日時 平成21年7月3日(金) 5校時
場所 プール
対象 1年生 男子5名 女子7名 計12名
2年生 男子4名 女子8名 計12名
指導者 大城 祐子 (T1)
平松 一志 (T2)
與那覇 亜理沙 (T3)

1. 単元名「水遊び」

2. 運動の特性

(1) 一般的特性

水に入って、水の抵抗に逆らったり、水の抵抗を利用したりしながら、歩いたり走ったり、水の中に潜ったり、水に浮いたりして、いろいろな遊びをすることが楽しい運動である。また、泳ぎ方を身につけるための基本となる運動でもある。

(2) 子どもから見た特性

多くの子どもたちは、水に入ること自体が楽しいと感じている。さらに、水の中でいろいろな遊びをして楽しむことにも興味や関心をもっている子どもも多く、簡単な泳ぎができる子もいる。

一方、水に対する不安感や恐怖感を持っている子どもも少なからずおり、個人差が大きい。

3. 児童の実態

1・2年生は全体的に明るく活発な子が多く、休み時間を心待ちにして外へ飛び出し、元気に遊んでいる。昨年度の実態アンケートから、低学年や幼児期における運動遊びの希薄さの課題があったことから「遊びを通して運動に親しませる」とし、主に一輪車・竹馬・ホップリングを奨励してきた。

また、昨年度はボールを使った遊びは少なかったが、全体体育で取り組んだ効果からか、ソフトバレーボールやドッジボールをする場面も見られるようになってきた。

1年生は、幼稚園で水に慣れ親しんできているため、水を怖がる子はほとんどおらず、水遊びの授業を心待ちにしている。一方2年生は、昨年度までに8割の児童が「ふし浮き」につながる動きができるようになっている。

4. 単元の目標

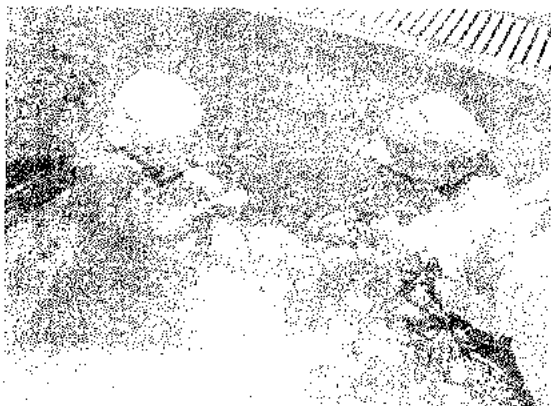
(1) 次の運動を楽しく行い、その動きができるようにする。(技能)

ア 水に慣れる遊びでは、水につかたり移動したりすること。

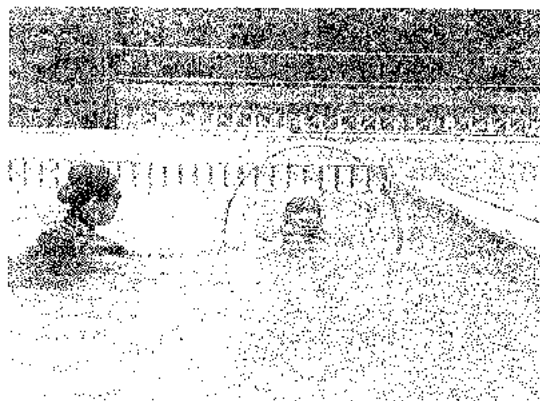
イ 浮くもぐる遊びでは、水に浮いたりもぐったり、水中で息を吐いたりすること。

(2) 運動に進んで取り組み、仲よく運動をしたり、水遊びの心得を守って安全に気を付けたりすることができるようにする。(態度)

(3) 水中での簡単な遊び方を工夫できるようにする。(思考・判断)



水中でじゃんけん ぽん！しっかり目をあけて



いるかジャンプだ！思い切りとぶぞ！

5. 研究主題との関わり

研究主題

「運動に親しみ、たくましい体と心をつくる児童の育成」
～一人一人がめあてを持ち、主体的に取り組む体育学習をとおして～

研究仮説

- (1)一人一人にめあてを持たせ、効果的な授業展開(場の工夫、児童相互の関わり)を図ることで、児童が主体的に取り組む体育学習ができるであろう。
- (2)体育学習を中心に運動の楽しさや喜びを味わわせることで、自ら運動する意欲を培い、運動に親しみ、たくましい体と心の備わった児童を育成することができるであろう。

①めあてを持って取り組む

生きる力とは、自ら学び、自ら考え、よりよく問題を解決する資質や能力であると考えられる。学び方の学習は「自分のめあてを持ち、それを自分で工夫して解決していく」過程のくり返しであると言われる。

子どもたちが、一人一人自分の力にあつためあてを持つためには、子どもが自分自身について知る必要がある。この点は前年度の研究から引き続き、今年も取り組ませることが重要である。その上で「水遊びができること、できるようになりたい」さらに「泳げるようになりたい」等の思いや願いを持つことである。そのためには、水遊びが楽しく、魅力あるものでなければならない。「水遊びは楽しい」という経験をさせることで、子どものめあて意識は高まっていくものと思われる。

その遊びを十分に経験できるように時間を確保し、低学年なりのめあてが持てるように、適切な助言や練習方法、補助具等を提供し、場の工夫をすることが大切になってくると考えられる。

②主体的に学習する

友達同士で教え合ったり、励まし合いながら運動できるように、教師は互いの運動を見合うように助言したり、運動のできばえを紹介する時間を確保していく。

また、グループにして学習に取り組むことで、お互いが助け合って向上していけるようにしたい。友達との関わりが運動(遊び)の意欲を向上させ、友達との学び合いの中からのよい助言を得る機会を多くすることによって、言語活動の充実を図り、主体的な活動ができるのではないかと考えた。

本研究テーマと関連する内容として以上2点を取り上げる。

ア、主体的な学習と水遊びは今後の水泳学習へつながる重要な遊びなので、

「水遊びを嫌いにさせない」「水を怖がらせない」「苦手意識を持たせない」ような工夫を重視する。

イ、達成感や成就感を味わわせるには、「できる」技に挑戦させるようにする。

よって自分の力にあつた技を選び、グループみんなで励まし合って活動することにより、自分なりのめあてを持ち、主体的に活動できるのではないかとと思われる。

③めざす児童像に迫るための手だて

- (1)いろいろな水遊びに、楽しくチャレンジできるように、1時間の学習の流れをつかませ、めあてをもって、取り組むことができるようにする。
 - ・「もっと楽しく遊べるようになりたい。」という意欲を毎時間もたせ、仲間や教師とともに挑戦させながら、「自分でできた喜び」「仲間ができた喜び」を味わわせたい。
- (2)バディや4～5人組を作り、お互いに見合い、教え合い、励まし合いながら、粘り強く取り組もうとする意欲をもたせる。
 - ・「すごいな。ほくもやってみたいな。」「やっつてごらんよ。きっとできるよ。」など声をかけ合う中で、顔を水につけたりもぐったりすることができるようにさせたい。
- (3)楽しく、力いっぱい運動できるように、意欲を高める遊びを取り入れたり、場の工夫をする。
 - ・水慣れの運動をしたり、コーディネーション運動を取り入れたりして、苦手な児童にも無理なく、呼吸のリズムをつかませ、『水にもぐる遊び』の楽しさを味わわせる。
 - ・水中にあるひらがなを見るために、動物泳ぎをしながら、勇気を持って、水の中で目を開けることができるようにする。

6. 学習のねらいと道筋

学習のねらい…約束を守り、いろいろな水遊びを楽しむ。
道筋…「ねらい1」を十分に行ってから「ねらい2」に進む。

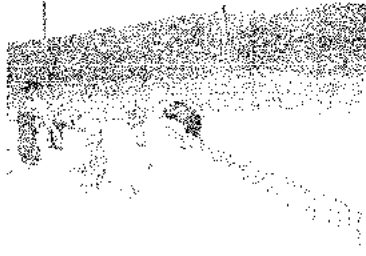
- ねらい1 プールの中で、歩いたり走ったりして、水遊びをする。
- ねらい2 水にもぐって、いろいろな水遊びをする。

7. 時間配分

時間	1	2	3	4	5	6	7	⑧	9	10
10	集合、人数確認、本時の学習内容と目標の確認、準備運動、シャワー									
25	〈オリエンテーション〉 ・授業の流れ、プールの使い方を知る。 ・簡単な水遊びで体ならし(水中歩行、水中ジャンプ、流れるプールなど)	〈プールをたんけん〉 ・いろいろな動物の水の中お散歩ごっこ ・じゃんけんおんぶ ・電車ごっこ ・おにごっこ ・いるかジャンプ ・ロケットジャンプ ・輪くぐり ・トンネルくぐり	〈みんなでじゃぽーん!水と友だち〉 ・動物泳ぎ ・水かけっこ ・水中汽車ポッポ ・だるまさんがころんだ ・水中ボール運び ・水中じゃんけん ・たからひろい ・動物のお話およぎ ・水中算数							学習のまとめをする
10	今日のまとめ、感想の発表、次時の予告、整理運動、うがい、洗眼、シャワー									

* 留意事項

1. 日常の水遊びの授業では、低・中・高の隣学年部会で行い、2時間(90分)連続の指導で行っている。その場合には適切な時間配分を行う。
2. 水遊びにおける準備運動は、プールサイドにおける一般的な準備をする。
3. 水遊びにつながるコーディネーション運動は、展開における主運動と同一であったり、類似している場合が多いので、それと関連させて行う。



ワニさんがえさをさがしています



ふかいプールでふしうき・けのびにちょうせん!

8. 単元の評価規準

技能	態度	思考・判断
1年 目標…約束を守り、いろいろな水遊びをして遊ぶ。		
①水中をひとりで歩いたり走ったりできる。 ②顔を水につけて、息を吐くことができる。 ③水の中で目をあけることができる。 ④手を添えてもらって、ふし浮きができる。 (遊びの例) 電車ごっこ、ぐるぐる回り、カニさん歩き、ワニさん歩き /水かけっこ、鬼ごっこ/ 顔を水につける、水中じゃんけん、水中にらめっこ、石拾い、ふし浮き(補助)、など	①水遊びに進んで取り組もうとする。 ②順番を守ったり、きまりや約束を守ったりして、仲よく安全に水遊びをしようとする。 ・手足や体をシャワーできれいに洗う。 ・準備運動をしっかりとる。 ・プールサイドで走ったり、ふざけたりしない。 ・プールから上がったら、体、目、口をきれいに洗う。 ③グループ内で進んで話し合いに参加しようとする。	①いろいろな水遊びの遊び方を知っている。 ②自分の力に合った遊びを選んでいる。 ③いろいろな水遊びの遊び方を工夫している。 ④あぶない場所に行ったり、あぶない遊び方をしたりしないように、気をつけている。 ⑤グループでの話し合いの場で、動物のお話泳ぎを考えている。

技能	態度	思考・判断
2年 目標…約束を守り、いろいろな水遊びをして遊ぶ。		
①水に潜って、息を吐いたり、目をあげたりすることができる。 ②水に浮いて、立つことができる。 ③けのびやばた足で進むことができる。 〈遊びの例〉 ・潜る…潜りっこ、棒くぐり、輪くぐり、石拾い、ロケットとび、など ・浮く…だるま浮き、ふし浮き ・進む…けのび、ばた足、など	①水遊びに進んで取り組もうとする。 ②順番を守ったり、きまりや約束を守ったりして、仲よく安全に水遊びをしようとする。 ・手足や体をシャワーできれいに洗う。 ・準備運動をしっかりする。 ・プールサイドで走ったり、ふざけたりしない。 ・プールから上がったら、体、目、口をきれいに洗う。 ③グループ内で進んで話し合いに参加しようとする。	①いろいろな水遊びの遊び方を知っている。 ②自分の力に合った遊びを選んでいる。 ③いろいろな水遊びの遊び方を工夫している。 ④あぶない場所に行ったり、あぶない遊び方をしたりしないように、気をつけている。 ⑤グループでの話し合いの場で、動物のお話泳ぎを考えている。

9. 学習活動における具体的評価基準

具体的評価場面 (評価方法)	A:十分満足できる	B:おおむね満足できる	C:努力を要する子どもへの手立て
○いろいろな水遊びをする場面 (観察、学習カード) 【技能①】	水面に顔を付けたり、息を吐いたり、ふし浮きやふし浮きから立ち上がることが <u>躊躇なく</u> できる。	水面に顔を付けたり、息を吐いたり、ふし浮きやふし浮きから立ち上がることができる。	□水への恐怖感を取り除くような指導を多くし、水慣れさせることから指導する。
○きまりを知り準備をする場面、実際に水遊びをしたり後片付けをする場面 (観察、発言、学習カード) 【態度①】	自ら進んできまりを守り、安全を確かめながら水遊びをしようとしている。	きまりを守って安全を確かめながら水遊びをしようとしている。	□お互いに安全に留意して水遊びができるよう指導する。 □水に慣れてない児童には、個別に指導し心理的な恐怖感を取り除く。
○どんな水遊びをするかを決め友達と協力して取り組む場面 (観察、発言、学習カード) 【態度②】	めあて達成に向け友達と協力しながら <u>根気強く</u> 取り組もうとしている。	めあて達成に向け友達と協力しながら取り組もうとしている。	□補助の仕方など具体的に示し、協力して取り組むことの大切さに気づかせる。
○できばえを確かめ次のめあてをもって活動する場面 (観察、発言、学習カード) 【思考・判断①】	できばえを確認し <u>学習方法を振り返って</u> 、自分に合っためあてをもって活動している。	できばえの結果から、自分に合っためあてをもって活動している。	□学習方法を再確認させ、自分のめあてがもてるように助言する。

10. 単元の学習活動と教師の指導と支援(評価の観点)

段階	学習のねらい・活動	指導と支援・評価規準(指導○・評価規準◆)	評価方法
はじめ 75分	1. 集合、整列をする。 2. プールのきまりや約束を確認する。 3. 準備運動をする。 4. プールへの入り方を知る。 5. 簡単な水遊びで体ならしをする。(水中歩行、かけっこ、水中ジャンプ、2人組電車ごっこ、手をつないで歩く) 6. 水遊びを楽しむ。(流れるプール)・プールサイドにつかまりながら歩く。 ・慣れてきたらプールサイドから手を離して歩く。	○パティを組ませ、2人組の相手をしっかり覚えさせる。 ○笛や指示などが聞けるように、水遊びの態度を徹底して繰り返し指導する。 ○ひとつひとつの動作を大きく行わせ、心と体をほぐす。 ○プールサイドにつかまって、ゆっくりとした水の中への入り方を教師が師範して徹底する。 ◆パティを組むことや入水の約束を守ることができたか。 ○怖がる児童には、教師が手を取り、安心感を持たせる。 ○パティの2人組は、手をつないだり、肩につかまったりして、いつもお互い相手を見ながら、離れないで活動させる	行動観察
なか① 45分 ×3 +15分	〈プールをたんけん〉 水の中を歩いたり、走ったりして楽しむことができる。 1. 2. 3ははじめと同じ。 4. 動物のお散歩ごっこをしながら、水中での呼吸作りをする。 5. いろいろな水遊びを楽しむ。(じゃんけんおんぶ、電車ごっこ、おにごっこ、水中はばとび、ロケットジャンプ、いるかジャンプ、輪くぐり、トンネルくぐり)	○本時のねらいを知らせ、心と体をリラックスさせる。 ◆プールでの約束を守って、進んで活動しようとしているか。 ○水遊びを楽しみながら、水に顔を付けたり、もぐったりさせる。 ○水遊びを苦手とする児童には、教師が手を取り、不安感を取り除く。 ◆力いっぱい水の中を歩き回ったり、走り回ったりして、活動を楽しむことができたか。	行動観察 行動観察 学習カード
なか② 45分 ×4 +30分	〈みんなでじゃぼーん！水と友だち〉 水の中で競争したり、浮いたり、もぐったりして楽しむことができる。 1. 2. 3ははじめと同じ。 4. 動物泳ぎをする。 5. いろいろな水遊びや浮いたり、もぐったりして楽しむ。(水かけっこ、水中じゃんけん、水中算数、たからひろい、水中ボール運び、だるまさんがころんだ) 6. 動物のお話泳ぎをする。(歩いたり、走ったり、浮いたり、もぐったりする演技をつくる)	○水遊びを楽しみながら、バブリング、ポピングができるようにさせる。 ◆水に顔を付けて息を吐いたり、もぐったり、ジャンプしたりすることができたか。 ○息を吐いたり、吸ったりすることに慣れさせるため、声を出させて元気よく遊びに取り組ませる。 ◆仲間と仲良く、思い切り水遊びをすることができたか。 ○4~5人組で、協力してお話を作らせる。 ◆水遊びの仕方を知り、もぐったり浮いたりする遊びを工夫することができたか。	行動観察 学習カード 行動観察 行動観察
まとめ 15分	1. 学習のまとめをする。 ・楽しかったことやがんばったことを発表し合う。 ・自己評価をし、今後の学習への意欲を持つ。	○単元での伸びを認め、称賛する。 ○上手にできるようになったことを話したり、学習カードに書いたりさせる。 ◆自分の学習をふり返り、これからのめあての見直しを持つことができたか。	発言感想

11. 本時の学習活動と教師の指導と支援


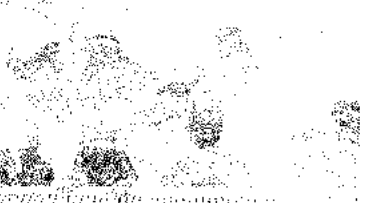
(1)本時のねらい


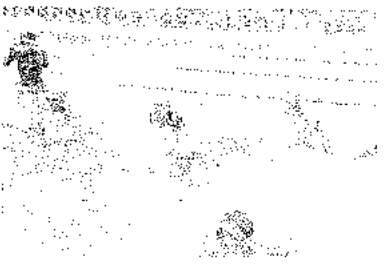

- 水中を歩いたり、もぐったりして楽しく遊ぶことができるようにする。(技能)
- 仲間の良い動きをまねたり、教え合いをしたりしながら仲良く活動をする。(態度)
- グループでお話泳ぎを考えることができる。(思考・判断)

(2)授業仮説 なかの場面において、いろいろな動物泳ぎ遊びをすることにより、楽しく水に浮いたりもぐったりすることができるであろう。

(3)準備するもの 話し合い用ボード、掲示用学習カード、フラフープ、ひらがなマグネット

(4)本時の展開(8/10)

過程	学習活動(T1・T2の役割)	教師の指導と支援☆・留意点○	評価の観点◆
はじめ (15分)	<p>1. 集合、整列、あいさつをする。(T1, T2)</p> <p>！ みんなと仲よく遊びながら、水と友だちになろう。！</p> <p>2. 準備運動をする。(T2)</p> <p>3. バディの確認をする。(T1)</p> <p>4. シャワーを浴びる。</p> <p>5. コーディネーション運動 (T2)</p> <p>①4～5人組の確認をし、水中汽車ポッポをする。</p> <p>②くじら(バブリング)とくま(ポピング)</p>  <p>* バブリング…水に顔を付け、口や鼻から息を吐く。 * ポピング…息を止めてもぐり、跳び上がって空中で息を吸う。</p>	<p>☆すばやく整列し、げんきよくあいさつさせる。</p> <p>○一つ一つの運動を正しく、大きく行わせ、体と心を十分にほぐす。</p> <p>○一連の動作を徹底させ、安全面に十分留意する。</p> <p>☆T3は、プールサイドからの監視をする。</p> <p>○バディやグループの仲間との関わり合いを育む運動をする。</p> <p>○意欲的な児童を称賛するとともに、児童の健康状態を確かめる。</p> <p>☆途中で、輪のトンネルをくぐらせる。</p> <p>○汽車が切れないように気をつけさせる。</p> <p>☆バブリングやポピングでは声を大きく出させながら遊びに取り組ませる。</p>	<p>◆水遊びに進んで取り組もうとしているか。(態度) 【観察】</p> <p>◆きまりや約束を守り、仲よく安全に水遊びをしようとしているか。(態度) 【観察】</p>
	<p>6. 友だちと仲よく水遊びをする。(T1)</p> <p>！ 水の中で浮いたり、もぐったりするお話をつくらう。！</p> <p>①動物のお話泳ぎをする。(しろくまさんのさんぽ)</p> <p>「お魚見つけて、プクッ！」</p> 	<p>○「プクッ！」のところで、首の力を抜き、顔を水につけ、水中にあるひらがなを見るようにする。</p> <p>☆もぐったら「イチ、ニイ、サーン」とリズムを取り、「パッ」と息を吐くようにさせる。</p> <p>☆水に顔を付けることが苦手な児童には、仲間や教師が声をかけ、急がず、ゆっくりできるようにさせる。</p>	<p>◆水に顔を付け、水中にあるひらがなを見ることができたか。(技能) 【観察】</p>

<p>なか (20分)</p>	<p>②(いるかジャンプ) 「トンネルくぐるぞ！」</p>  <p>③(ワニさんおよぎ) 「もぐってえさをさがします。」 「手足を伸ばしておひるね。」</p>  <p>④(人魚になって、スイー)</p> 	<p>☆自分で飛び込める児童には、高く飛び上がってから、勢いよく輪の中に入れるように助言する。</p> <p>☆怖がる児童には、深く息を吸わせてから、教師が手を取って、ジャンプさせ、輪の中に頭から潜れるよう補助をする。</p> <p>○これまでの水遊びでできるようになったことをもとに、ふし浮きにつながる水遊びをさせる。</p> <p>☆耳まで水の中に入れて、「イチ、ニイ、サアーン、パツ」のリズムで連続して行えるようにする。</p> <p>☆「ワニさんのおひるね」では、両腕の間におでこを静かにつっこみ、腕の力を抜いて、水中にあるひらがなを見るようにさせる。</p> <p>☆後ろに伸ばした足に、もう片方の足をそろえるようにして、けのびにつながる動きができるようにさせる。</p> <p>☆水に体を投げ出すことを怖がる児童には、教師が手取り、体を支えて浮かせる。</p> <p>○バディで声をかけ合い、いつも一緒に活動できるようにさせる。</p> <p>☆怖がる児童には、教師が手を取り、不安感を取り除き、水に親しませる。</p>	<p>◆水中のフラフープをくぐることができたか。(技能) 【観察・学習カード】</p> <p>◆水に顔をつけ、呼吸してひらがなを見ることができたか。(技能) 【観察・学習カード】</p>
<p>まとめ (10分)</p>	<p>7. 学習のまとめをする。(T1)</p> <p>8. 整理運動をする。(T2)</p> <p>9. 洗眼、うがい、シャワーを浴びる。</p>	<p>○がんばった児童や協力できたグループを称賛し、次時への意欲づけをする。</p> <p>○学習カードを記入することを確認する。(教室に戻ってから記入)</p> <p>○体と心を十分にほぐす。</p> <p>○児童一人一人の健康状態を十分に把握する。</p>	<p>◆約束を守って楽しく水遊びができたか。(態度) 【観察】</p>

(5)評価

- ①水に親しみ、楽しく遊ぶことができたか。(技能) 【観察】
- ②友達と仲よく活動できたか。(態度) 【観察】
- ③お話泳ぎを考えることができたか。(思考・判断) 【観察・学習カード】

12 授業研究会(1・2年 水遊び 6月3日)

(1) 授業者の反省

(T1:大城 祐子)

- ・プールがスタートしていない中での指導案作成は、特に1年生の実態が把握できないこともあって、かなり苦しいものがあった。
- ・子どもたちは、意欲的によく動いていた。
- ・「水遊びを嫌いにさせない」「水を怖がらせない」ということを意識して一連の授業を組み立てていった。子どもたちのほとんどが水を怖がらない。また回数を重ねるたびに、水に慣れていくのがわかった。
- ・コーディネーション運動で、くじら(バブリング)と、かっぱ(ポピング)を取り入れたことは、動物泳ぎ遊びをするうえで、とても良かったと思う。
- ・動物泳ぎ遊びは、子どもたちが一生懸命に考えて、取り組めていたと思う。お話の内容も、回数を重ねるごとに動物の種類が増えたり、泳ぎ方にも工夫が出てきたりするなどの変化が見られたことには驚かされた。
- ・水の中ではどこを見るか、などの指導は、今後やっていきたい。

(T2:平松 一志)

- ・教材や教具の作成で、T1がとても工夫していた。そうした研究姿勢には頭が下がる思いがした。
- ・授業の回数を重ねていく中で、お話を作るたびに、イメージがどんどんふくらませている。そこには驚かされた。
- ・子どもたちが、本当に水遊びを楽しんでいるということが伝わってきてうれしかった。

(T3:與那覇 亜理沙)

- ・学習支援ヘルパーとして、Aさんの「水に入る時とあがる際」の支援を行った。
- ・その他、プールサイドから見て気になることがあれば、T1,T2に連絡するようにした。
- ・ゆっくりではあるが、Aさんなりに水遊びに慣れ、親しんでいく様子が確認できてよかった。

(2) 研究協議 (各視点からの発表)

① 児童の活動について

- ・元気よく、声を出して教師の指導に素直に応じていた。
- ・お話づくりでも、リーダーさんを中心にきちんと進められていて、話し合い活動が成立していた。
- ・1・2年生は落ち着いていて、まるで教室の中のようなようであった。

② 教師の支援について

- ・楽しみながら、水に慣れていくことが大切なんだなあと感じた。
- ・授業の中で2人の先生方が連携して行い、展開の時間が十分取れていた。

- ・場の使い方は子どもたちがよく理解していて、進む方向などの動きがスムーズだった。
- ・子どもたちのアイデアをいかして授業を進めていったのはよかった。

③ 指導方法の工夫・改善

- ・水に怖がらずに慣れているのを見ると、低学年からの指導がとても大切なのが改めてわかった。
- ・2年生が1年生をリードし、教具を使って話し合いをすることができていた。ボードを使って話がよく進んでいたのも、効果的であった。
- ・25mプールでも怖がらずに活動できている。段階的な指導がなされていることがわかった。
- ・フラフープやホワイトボードの活用はとても効果的であった。
- ・幼稚園でも25mプールを使用している。1・2年生も25mプールを使うことで、指導の連携が取れていくように思う。
- ・幼稚園でも、話し合い活動を取り入れてみたい。

(3) 全体協議

- ・子どもたちがのびのびと活動している。それはコーディネーション運動での「汽車ポッポ」「いるかジャンプ」等で、パティお互いのスキンシップが取れているからではないか。そうしたことで落ち着いて活動できたのではと感じた。
- ・動物泳ぎ遊びの中で、子どもたちが夢中になりすぎるあまり、ポビングを忘れてしまっていたが、教師の声かけで意識させることができていた。
- ・長い研究の成果が今日出たのではないかと感じた。
- ・動物泳ぎ遊びでは、お話づくりの中に、わにと人魚を必ず入れるようにと指導していた。指導案で子どもたちが選んだ泳ぎができるということが見えたら良かった。

(4) 質疑応答

Q:2時間単位で指導を実施してみても児童の伸びはどうか？

A1:体力的には厳しいが、伸びが見られるので良い。

A2:時間にゆとりがあるので、余裕を持って支援できる。

A3:高学年は2時間単位の方が指導しやすい。

Q:1・2年生では能力差があまり見られなかったのも、めあてを上の方に持っていったらどうか。

A:昨年度末の確認で、1・2年生なら2年生の目標に合わずということになっている。よって今回は2年生の目標に合わせている。本校の取り組みの良さであり、技能の向上につながっている。

(5) 指導助言①(与那覇 仁一 教育課長)

- ・文書が新学習指導要領にそって、すばらしい授業だった。
- ・体調がすぐれない児童が数名いたので、普段の指導で子どもたちの安全指導を気をつけて欲しい。
- ・プールへの入水では、頭髪が落ちないように水泳帽をきちんとかぶることを徹底して欲しい。
- ・ゴーグルも使って、目の保護をしてもらいたい。
- ・体育の授業で、言語活動がしっかりなされていた。

(6) 指導助言②(大浜 譲 指導主事)

◇指導案から

- ・「遊びを通して運動に親しませる」というのは、とても良い視点である。
- ・本単元と校内研究との関わりがきちんと表されている。
- ・言語活動の充実が図られている。
- ・場の工夫の記載があると良い。どのような場面で、どの指導を行うかがわかりやすくなる。
- ・指導案の中で、どの区分でめあて①、めあて②なのか明記すると良い。
- ・T1、T2の意義。評価の観点の中にT1とT2の動きを記載すると良かったのでは。
- ・学習支援ヘルパーは、「プールサイドから」と記載した方がいいのではないかと。子どもたちに声かけしていたので、T3として考えて良い。

◇本時から

- ・元気がある子どもたち、バディ確認で大きな声を出していて気持ちがよかったし、やる気を感じた。
- ・T1、T2の声が透き通っていて、子どもたちに届いていた。
- ・フラフープの活用で子どもたちが楽しんでいて、教師の踏切も、子どもたちが汽車になりきる上で良かったと感じた。
- ・お話づくりが7分間で作れたことがすばらしい。意図した言語活動ができていたのは初めて見た。
- ・「笑い」「歓声」「拍手」があって、子どもたちが楽しんでいて。

◇課題

- 教え合いが少し弱かった。バディの活用、互いの評価等、時間のゆとりがあってできるものだが、今後考えてみて欲しい。
- 異学年合同体育についてだが、個人の達成型単元では一つの学年で行っても良いのではないかと。競争型は合同でも良いと思うのだが、今後検討して欲しい。
- グループでの取り組みでは、レベル(能力的)別に分けたとき、どのような評価を行うかについては、めあてカードや振り返りなどを活用して行うことは良いと思う。

(7) 校長先生から

- ・本校の研究の柱である、教科指導におけるめあて学習と新学習指導要領の趣旨を生かした授業展開が意図され、実践されたとても良い授業であったと感ずる。全職員での研究体制のおかげであり、研究の深化を感ずる。
- ・大浜巖指導主事、与那覇仁一指導課長には、適切な助言をいただき、研究推進に大きくつなげている。感謝申し上げます。

(8) 成果と課題

◇成果

- 隣学年で授業を行うことにより、2年生がリーダーとなってまとめ、1年生をきちんとまとめ、活動を進めていくことができた。
- 学習カードを活用することで、グループのめあてや個人のめあてをもって学習に取り組むことができた。
- グループ活動の前に話し合い活動や発表を取り入れたことにより、体育学習の中で、言語活動を多く取り入れた授業を展開することができた。
- 全員が水を怖がらず、水遊びに楽しんで取り組むことができた。また25mプールでの活動も行ったことで、3年生からの「水泳指導」につなげていくことができる取り組みができた。
- コーディネーション運動を取り入れたことで、バブリングとポピングが動物遊び泳ぎの展開の中でもスムーズにできるようになってきていた。

◇課題

- 異学年合同授業にしたときの、評価方法の工夫。
- 言語活動の充実を図った児童相互が教えあいを行っていく場面設定の工夫。
- T・T指導の際の各指導者の指導のあり方と指導案表現の工夫。



3・4年生の様子



立ちばとび (新体カテスト)



手を大きくふって、せーの!

高く とぶぞ!!
えいっ!



遠くに着地するためのポイント
は?



ティーボール

みんなで作戦を立てよう



打順は・・・



ねらうぞ、ホームラン!



ナイスキャッチ!



今日は、みんなでアドバースをしてはげましかうことができました

運動会の取り組み



(みんなで力を合わせて運ぶんだ!)



(島の恵みにふがらっさ)

体 育 科 学 習 指 導 案

日 時 平成21年11月24日(火) 5校時
 場 所 与那国小学校運動場 (雨天時:体育館)
 対 象 3年1組 男子 7名 女子 4名
 4年1組 男子 7名 女子 4名
 計 22名
 指導者 (T1) 仲本 吏佐 印
 (T2) 上地 真由美 印

1 単元名 走りはばとび

2 運動の特性

(1) 一般的特性

助走をして踏みきり、どれだけ遠くにとべるか、自分の記録に挑戦したり、他者と競争したりすることが楽しい運動である。

(2) 子どもの立場から見た特性

遠くへとぶことそのものに関心が高い。他者とはび比べをして勝敗を競うことと同時に、自分の記録への挑戦意欲が高まる運動である。とび比べに勝ったり、自分のめやすの記録を達成したりしたときの喜びは低学年時以上に大きい。

3 児童の実態

【3年生】	50m走				立ち幅とび			
	男子		女子		男子		女子	
全国平均	10.19		10.25		136.36		127.66	
課(6月10月)	10.36	10.71	10.58	10.45	136.5	137.28	122.75	130.75
全国との比較	-0.17	-0.52	-0.33	-0.2	0.14	0.92	-4.91	3.09
伸び	-0.35		0.13		0.78		8	

(5月) 3年生は、50m走において男女共に全国平均をやや下回っている。立ち幅とびでは男子が全国平均並みであるが、女子はかなり下回っている。

(10月) 男女ともに立ち幅とびの記録が全国平均を上回った。

【4年生】	50m走				立ち幅とび			
	男子		女子		男子		女子	
全国平均	9.74		10.05		145.48		137.12	
課(6月10月)	9.88	10.54	9.9	9.95	140.88	135.42	136.75	135.5
全国との比較	-0.14	-0.8	0.15	0.1	-4.6	-10.04	-0.37	-1.62
伸び	-0.66		-0.05		-5.46		-1.25	

(5月) 4年生は、50m走において、女子は全国並みであるが、男子が若干低い。

立ち幅とびにおいては、男女ともに全国平均に達しておらず、男子においては、かなり下回っている。

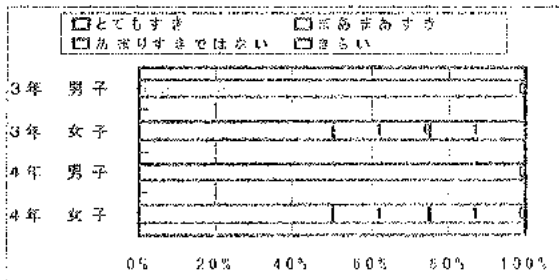
(10月) 男女ともに、50m・立ち幅跳びの平均値が全国平均よりも下回り、5月よりも記録は伸びなかった。女子の50m走の伸びが特に懸念される。

【アンケート】

10月22日実施

(3年:男子7名 女子4名 計11名) (4年:男子7名 女子4名 計11名)

① 体育は好きですか。



	3年男子	3年女子	4年男子	4年女子
とても好き	7	2	7	2
まあまあ好き	0	1	0	1
あまり好きではない	0	0	0	1
嫌い	0	1	0	0

② ①で答えた理由

とても好き (全体で18/22名)

- ・体を動かすことが好きだから (4)
- ・好きなものがあるから (2)
- ・運動をがんばっているから (1)
- ・運動しながら勉強になるから (1)
- ・最近いろいろなスポーツを始めたから (1)
- ・記録が伸びたり、上手だと言われたりするのうれしいから (1)
- ・たくさん運動ができるから (3)
- ・おもしろいから、楽しいから (2)
- ・体力がつくから (1)
- ・上手にできるから (1)
- ・健康になるから (1)

まあまあ好き (全体で2/22名)

- ・動くのが好きだから (1)
- ・いっぱい動くので、好きとは言えない (1)

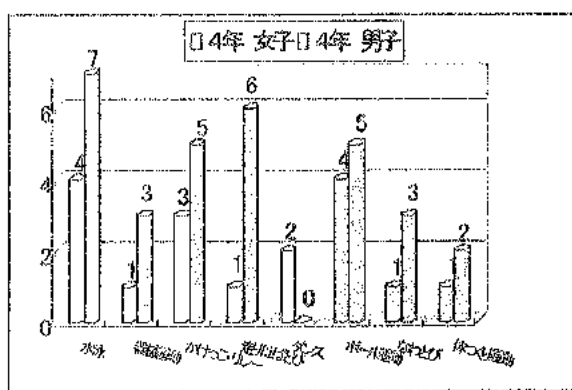
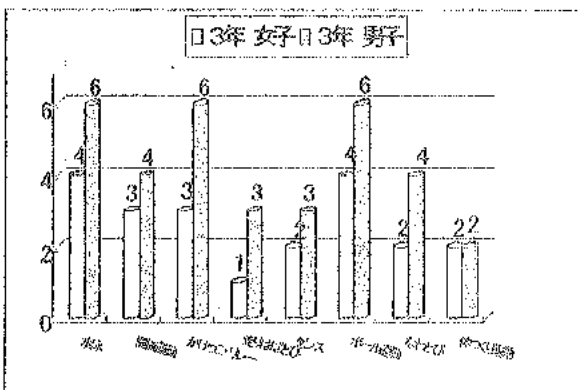
あまり好きではない (全体で1/22名)

- ・走るのはきらいだから (1)

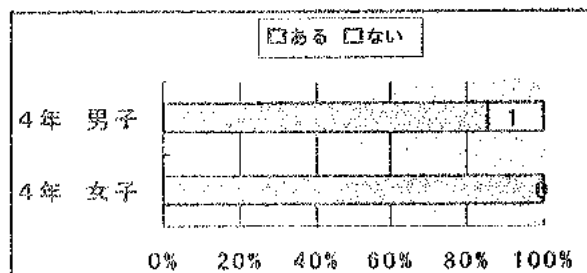
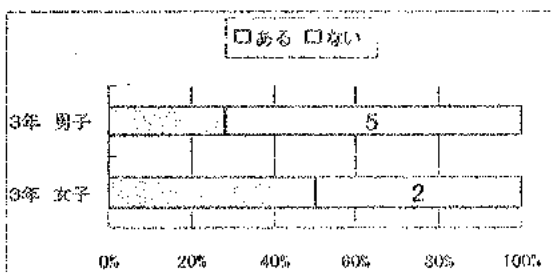
嫌い (全体で1名)

- ・運動がきらいだから (1)

③ 体育のどの種目が好きですか。(複数回答可)



④ 今までに走りばとびをしたことがありますか。



⑤ 「ある」と答えた人は、いつどんなことをしましたか。

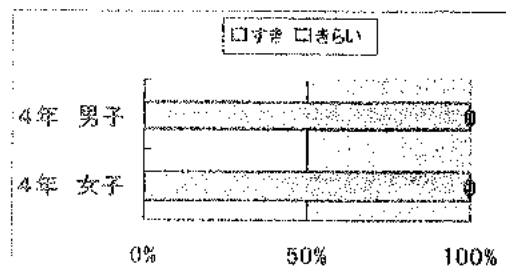
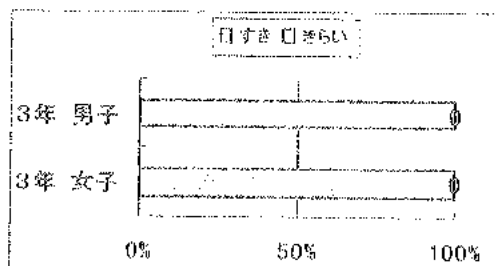
3年生

- ・1年生のとき、遊んだ(1)
- ・3年生になって、遊んだ(3)

4年生

- ・3年生の時、体育の学習でやった。(10)

⑥ 走ってとぶ運動は好きですか。



⑦ ⑥で答えた理由

- ・跳ぶことが好きだから(6)
- ・走ることも跳ぶことも好きだから(4)
- ・ジャンプするのが好きだから(1)
- ・きつくてがんばっているから(1)
- ・跳び箱が好きだから(5)
- ・跳んだ時、気持ちがいいから(3)
- ・走るだけじゃきらいだけど、何となく楽しいから(1)
- ・跳んで、記録が伸びるとうれしいから(1)

⑧ 走ってより遠くまでとぶコツは何だと思えますか。

- ・こわがらない(1)
- ・走るスピードを上げて、おもいっきりジャンプする(4)
- ・『跳ぶ』と決めた所に視線をつける(1)
- ・跳んだあとに足を高く上げる(1)
- ・手をふって前に重心をかける(3)
- ・走って一回止まってからとぶ(1)
- ・地面をおもいっきり足でける(1)
- ・足を曲げて、高くジャンプする(2)
- ・斜めに跳ぶ(1)
- ・上に跳ぶ(4)
- ・上に跳んで手を前に持ってくる(1)

(考 察)

3年生 11名は、休み時間に鬼ごっこを楽しみ、普段から意欲的に体育の学習に取り組むことができる。アンケートの「体育が好きですか」の質問では10名が「好き」と答えており、その理由としては、『健康になるから』『スポーツを始めたから』など、心身面の両方からも捉えている児童がいる。しかし女子に関しては、体型的にも全国の標準値を上回っており、体を動かすことに抵抗が見られる児童もいる。

本単元の「走り幅とび」の学習は、ほとんどの3年生にとって初めての活動となる。走って跳ぶ運動が好きだと全員が答えていることから、練習量を確保し、場の設定を工夫することによって、楽しく学習が進められるのではないかと考える。

4年生 11名は休み時間になると、ボール運動や鬼ごっこなど体を動かして遊ぶ児童が多い。また、8名の児童がスポーツクラブに所属している。しかし、5月の新体力テストの結果をみると全国平均よりも下回っている項目が多く、個々の体力や運動能力に差がある。

本校では、体育の学習を2学年が合同で行っており、「跳の運動」の内容を中学年では「走り幅とび」高学年で「走り高跳び」を指導計画している。4年生は本単元の「走り幅とび」の学習を全児童が、3年生の時にすでに学習しているため、場の設定を工夫し課題をもたせ、自己にあった練習を取り入れることにより、さらに技能の向上を図れると考える。

4 単元の目標

- (1) 走りはばとびを楽しく行い、短い助走から踏みきって跳ぶことができるようにする。【技】
- (2) 運動に進んで取り組み、きまりを守り仲よく運動をしたり、勝敗を受け入れたり、場や用具の安全に気を付けたりすることができるようにする。【関・意・態】
- (3) 自己の能力に適した課題をもち、動きを身に付けるための活動や競争の仕方を工夫できるようにする。【思・判】

5 研究主題との関わり

○ 研究主題

「運動に親しみ、たくましい体と心をつくる児童の育成」

～一人一人がめあてを持ち、主体的に取り組む体育学習をとおして～

○ 研究仮説

- (1) 一人一人にめあてを持たせ、効果的な授業展開（場の工夫、児童相互の関わり）を図ることで、児童が主体的に取り組む体育学習ができるであろう。
- (2) 体育学習を中心に運動の楽しさや喜びを味わわせることで、自ら運動する意欲を培い、運動に親しみたくましい体と心の備わった児童を育成することができるであろう。
- (3) 普段の自己の食生活を見つめ直しながら、体によい食べ物と必要な量を知ることによって、望ましい食習慣が身につき、食行動を実践することができ、たくましい体と心の備わった児童を育成することができるであろう。

○ 本単元からの主題へのせまり方

中学年の走・跳の運動の種目は相手や記録への挑戦欲求を満たす特性がある。しかし、その能力の基礎はきわめて基本的な体力の能力の影響を受けている。走・跳の運動の学習指導では、相手への挑戦や挑戦基準のもつ意味を児童がはっきりと意識しないと、その特性に触れたり深めたりすることが難しくなる。中学年の児童は相手への意識が芽生える時期にあるので、記録という客観的なものへの挑戦よりも、仲間への挑戦という競争型を好む傾向がみられる。

したがって、本単元の学習では競争型を中心に学習を進めていくほうがよいと考える。

具体的に、次のような学習活動の工夫を行っていく。

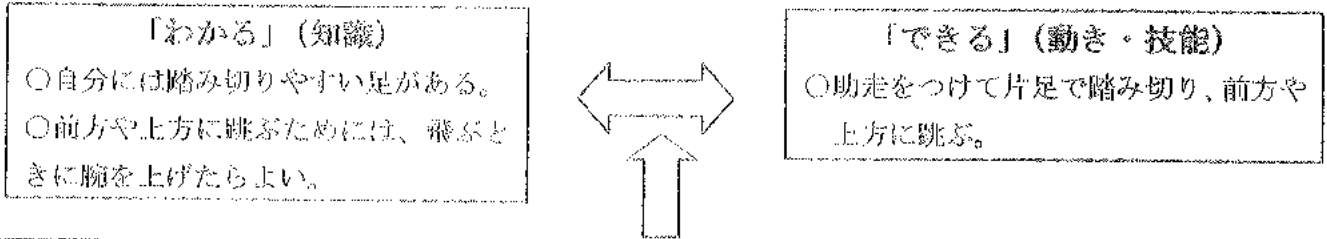
ア 研究仮説にせまるための手立て

- (1) 一人一人にめあてを持たせ、効果的な授業展開（場の工夫、児童相互の関わり）を図るための手立て。
 - ① 児童の興味・関心、技能、体力、理解力に合った運動の場を設定し、自分の課題に適した練習方法を選択させる。
 - ② 楽しみながら競争を行う活動を通して、友だち同士で見あったり、教え合ったりして互いに高めようとする態度を育てる。
 - ③ 単に動きを繰り返すだけで技能の習得を図るのではなく、目標を達成するために意識して自分の課題に適した練習方法を選択させる場面において、言語活動を取り入れていく。
- (2) 体育学習を中心に運動の楽しさや喜びを味わわせることで、自ら運動する意欲を培うための手立て。
 - ① 踏みきりや助走に変化をつけたり、自分たちで動きを考えだしながら、様々な動きを行わせたりすることで、自主的に運動に取り組ませる。
 - ② 個々に合った目標記録を設定し点数化してゲームを競わせることで、運動に親しませる。

めざす児童像にせまるための手立て

「わかる」と「できる」を結びつける授業をめざして

子どもにとっては、「わかる」（知識）と「できる」（動き・技能）の距離が離れている場合が多い。確かな基礎・基本の定着を図るために、いかにこの2つ距離を縮めるかが授業づくりのポイントと考える。



授業づくりのポイント		
<p>〈動きづくり〉</p> <p>コーディネーション運動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 定位能力 ・ 変換能力 ・ 連結能力 ・ 反応能力 ・ 識別能力 ・ リズム能力 ・ バランス能力 	<p>〈場の工夫〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 易しく楽しい〈場〉 習得・活用 ↓ ○ 条件が付加された〈場〉 習得・活用 	<p>〈言語活動の工夫〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 友達の動きのよさを言葉で伝えたり、カードに書いたりする。 ○ 自分の跳ぶためのコツを言葉で表す。

新指導要領解説では、技能の内容について「①前方や上方に跳ぶ」「②連続して跳ぶ」の2つの動きが示されている。本単元では活動の場を工夫し、子どもの意欲を高めながら習得・活用する力を高めたい。

6 学習のねらいと道すじ

(1) 学習のねらい

遠くへとんとどび比べをしたり、記録へ挑戦したりして楽しむ。

(2) 道すじ：毎時間、「めあて1」を十分に行ってから、「めあて2」に進む。

めあて1：どこまでとべるか、とび比べをする。

めあて2：自分の「目標記録」に挑戦する。

7 時間配分

	1	2	3	4	5 (本時)	6	7	
開始前	準備運動 (駆け足縄跳び：運動場2周・ストレッチ)							
5 10	オリエン テーション ・ 学習の進め方 ・ グループ ・ グルーピング ・ 役割分担 ・ はじめの記録	あいさつ・学習のめあて・コーディネーション運動						学年、走り幅跳び大会をしよう。
25		めあて1 どこまでとべるか、とび比べをする。 ○よい助走、踏みきり、着地を学ぼう	めあて1 どこまでとべるか、とび比べをする。 ○前時の記録をもとにいろんな場で自分の記録を伸ばす練習をしよう。					
40		めあて2 自分の「目標記録」に挑戦する。 ○グループ内で記録会をしよう。 (目標記録との差で勝負しよう。)	めあて2 自分の「目標記録」に挑戦する。 ○グループ対抗走り幅跳び記録会をしよう。 (目標記録との差で勝負しよう。)					
45	学習のまとめ (学習の振り返りと記録の記入、発表、次時の学習について等・・・)							

※毎時間「めあて1」と「めあて2」を繰り返して行うスパイラル型の学習形態で行う。

8 単元の評価規準

	技 能	関心・意欲・態度	思考・判断
陸上運動の評価規準	○短距離走・リレー・ハードル走・走り幅とび・走り高とびについて、競争したり、記録を高めたりするための技能を身につけている。	○陸上運動の楽しさや喜びを求めて進んで取り組もうとする。また、勝敗に対して正しい態度をとろうとするとともに、安全に留意して運動をしようとする。	○自分の力にあった課題の解決をめざして、練習の仕方を工夫している。
単元の評価規準	○リズムカルな助走から、力強く踏み切り、踏み切り足を胸にひきつけて、うまくジャンプすることができる。	○走り幅とびの楽しさや喜びを味わおうとする。 ○仲間と教え合い、励まし合って運動しようとする。(協力) ○運動する場や用具の安全を確かめようとする。(安全)	○自己の目標記録や自分の動きの具体的な姿から課題を設定している。 ○課題にあった練習の仕方を工夫している。 ○めざす姿になったか、自分や仲間の姿を振り返っている。
学習活動の具体的な評価規準	○リズムカルな助走から力強く踏み切り、とぶことができる。 ○力強く踏み切り、踏み切り足を胸にひきつけて、とぶことができる。 ○リズムカルな助走から、力強く踏み切り、踏み切り足を胸にひきつけて、とぶことができる。	○より高い記録に挑戦したり、自分の目標記録を達成したりする楽しさや喜びを味わおうとする。 ○仲間の努力やよさを認め、励ましやアドバイスをしようとする。(協力) ○運動する場や用具の安全を確かめ、学習しようとする。(安全)	○走り幅とびの一連の動きや助走のリズムについて、自分に合った課題を設定している。 ○自分の課題にあった練習の場や方法を選択している。 ○課題を達成できたか、具体的な姿で振り返っている。 ○勝敗を素直に認め、友だちのよいところに気づいたり、跳び方や規則を工夫したりする話し合いや発表ができる。(言語活動)

9 学習活動における具体的評価基準

		A 基準：十分満足できる	B 基準：おおむね満足できる	支援を要する児童への手立て
技 能	一、 伸びの楽しさ	①自己の記録の伸びや目標とする記録の達成を目指して、リズムカルな助走から、力強く踏み切って安定した動作でとび、安全に着地することができる。	①自己の記録の伸びや目標とする記録の達成を目指して、リズムカルな助走から、力強く踏み切り、足から着地することができる。	①リズムカルな助走から、力強く踏み切る動作を絵や動画、友だちの跳ぶ姿を観察させ、真似させる。
	二、 動く楽しさ	①走り幅とびの楽しさを味わうために、自分の力にあった課題をもって仲間と関わりながら進んで運動に取り組もうとする。 ②積極的に運動する場の安全を確かめようとしたり、安全に運動するための約束を守ろうとしたりする。	①走り幅とびの楽しさを味わうために、自分の力にあった課題をもって進んで運動に取り組もうとする。 ②運動する場の安全を確かめようとしたり、安全に運動するための約束を守ろうとしたりする。	①走り幅とびの楽しさを味わうために、助言を与え、児童の実態に合った課題を設定例を提示する。 ②安全に運動できるよう、常に声かけを行う。
関心・意欲・態度	三、 競う楽しさ	③ルールを守り、勝敗に対して公正な態度をとり、グループ対抗の競争を楽しもうしたり、仲間に呼びかけたりしようとする。 ④友だちに声をかけ役割を分担し、互いに協力して教え合いながら走り幅とびを楽しもうとする。	③ルールを守り、勝敗に対して公正な態度をとり、グループ対抗の競争を楽しもうとする。 ④役割を分担し、互いに協力して教え合いながら走り幅とびを楽しもうとする。	③ルールをしっかりと確認できるように掲示資料を常に行い、グループ対抗の競争ではしっかりとめあてを持たせる。 ④グループでの一人一人の役割分担を明確に提示し、走り幅とびの楽しさを知らせる。
	四、 わかる楽しさ	①自分のめあてをもち、めあてを達成するための練習方法を選んだり、改善したりして、明確に課題解決のしかたがわかる。 ②みんなが楽しめるようなルールや競争の仕方を理解したり、改善しようとする。 ③教師の助言や学習カード（資料）を使ったり、友だちと跳び方を見合い、教え合ったりして、課題解決に役立て練習しようとする。 ④勝敗を素直に認め、友達のよい動きや態度を発表し、自分やグループの活動に取り入れようとする。また、みんながさらに楽しめるように跳び方やルールを工夫し、みんなで取り組もうとする。	①自分のめあてをもち、めあてを達成するための練習方法を選ぶなど、課題解決のしかたがわかる。 ②みんなが楽しめるようなルールや競争のしかたをしようとする。 ③教師の助言や学習カード（資料）を使ったり、友だちのとび方を見たりして課題解決に役立て練習しようとする。 ④勝敗を素直に認め、友達のよい動きや態度を発表することができる。	①自分のめあてを達成するための練習方法を具体的に提示し、助言を与えながら、課題を解決させる。 ②仲間が作ったルールをしっかりと守らせるため掲示をし、友だちの良さを見つけさせる。 ③学習カード（資料）の使い方や課題解決の方法を共に考えさせる。 ④友達の跳ぶ場面を観察し、よいところを見つけたら、拍手や声かけができるように助言する。
思考・判断				

10 単元の学習活動計画と教師の指導と支援（評価の観点）

	学習のねらい・活動	・指導と支援 【】評価																																															
オリエンテーション(四五分)	<p>1 学習の進め方と道筋を理解し、学習の進め方について見通しをもつ。</p> <p>2 グループと、役割を分担する。</p> <p>3 自分の記録を把握する。</p> <p>4 自分の目標記録を計算する。</p> <p>「目標記録」の計算のしかた</p>	<p>・資料をもとに学習のねらいと進め方を理解させ、見通しをもたせる。</p> <p>・学習への意欲やめあてを記録し、一人一人が発表できる場を設定する。</p> <p>・「とび比べ」のしかたや「目標記録」の計算の仕方について、資料や説明を聞きながら理解する。</p> <p>・4～5人の男女異質グループをつくる。</p> <p>・リーダー、記録係、用具係などを決める。</p> <p>◎係は交代し合うよう指導する。</p> <p>【関・意・態①】</p> <p>【思・判①】</p>																																															
はじめる(10分×6回×2回)	<p>1 あいさつ</p> <p>2 学習の確認</p> <p>3 基礎感覚づくり※準備運動（コーディネーション運動）</p> <p>①ケンステップ</p> <p>②ミニハードルジャンプ</p> <p>③人間ラダー</p> <p>④川とび</p>	<p>・助走、踏みきり、空中フォーム、着地などにつながる感覚や基礎技能を高める運動をさせる。</p> <p>①ケンステップ</p> <p>・「1, 2, 3, パッ」のリズムで助走から踏みきりのタイミングを合わせる感覚を身につけさせる</p> <p>②ミニハードルジャンプ</p> <p>・助走から踏みきって、上方へ跳ぶ感覚を身につけさせる。</p> <p>③人間ラダー（足の間をステップ→馬跳びまで連続して行う。）</p> <p>・走りながら足裏を使ってリズムカルにジャンプする感覚を身につけさせる。</p> <p>④川とび</p> <p>・助走から片足で踏みきり、両足で着地する感覚を身につけさせる。【関・意・態①】</p>																																															
		<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">種別</th> <th colspan="7">7つのコーディネーション能力の分類</th> </tr> <tr> <th>定位</th> <th>変換</th> <th>連結</th> <th>反応</th> <th>識別</th> <th>リズム</th> <th>パフォーマンス</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ケンステップ</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>ミニハードル</td> <td>○</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>人間ラダー</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>川とび</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	種別	7つのコーディネーション能力の分類							定位	変換	連結	反応	識別	リズム	パフォーマンス	ケンステップ	○	○				○	○	ミニハードル	○		○	○	○	○		人間ラダー	○	○				○	○	川とび	○	○	○		○	○	
種別	7つのコーディネーション能力の分類																																																
	定位	変換	連結	反応	識別	リズム	パフォーマンス																																										
ケンステップ	○	○				○	○																																										
ミニハードル	○		○	○	○	○																																											
人間ラダー	○	○				○	○																																										
川とび	○	○	○		○	○																																											

な
か
(2・3・4 時間目
三〇分×三二九〇分)

ねらい1：どこまでとべるか、とび比べをする。

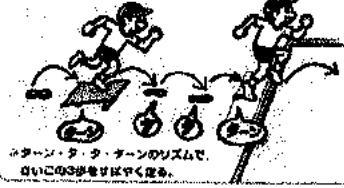
○よい助走、踏みきり、着地を学ぼう。

1 場を設定する。

①助走の場の工夫

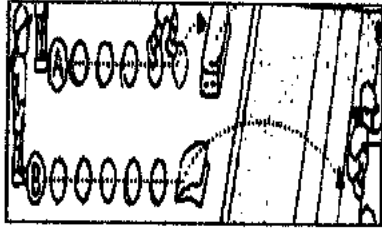
・アクセント幅とび

※アクセント幅とび

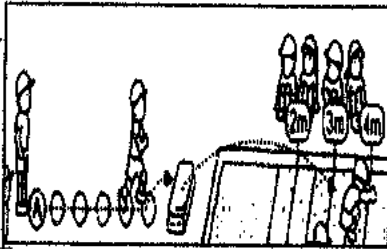


※ターン・タ・タ・ターンのリズムで、正しい3歩を踏むとびやすくする。

・ロイター板を使って

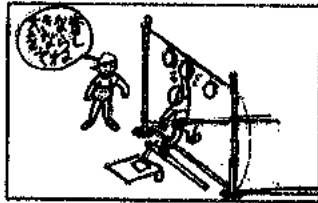


・とび箱をとび



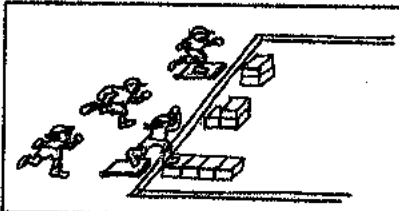
②とび越す場の工夫

・タンバリン打ち



・平面段ボールの幅とび

・立体段ボールの幅とび



・資料を参考にして、みんなで協力して場の設定を行う。

・踏みきり前の助走のリズムをつかませる。

・力強い踏みきりの感じをつかませる

・強く踏みきって空中にとび出し、空中フォームの感じをつかませる。

・踏みきりから高くとびあがるコツをつかませる。

・高くとび出すコツをつかませる。

【思・判①】

【技能①】

めあて2：自分の「目標記録」に挑戦する。

○グループ内で記録会をしよう。

2 とび比べをする。

・グループ内でとび比べをする。

・とび比べのきまり、(とぶ回数や点数の出し方、踏みきり地点に踏みきり板を置くかどうか等)を決める。

・記録をとる人、砂場をならす人など交代して行う。

・目標記録との差の点数で勝負させる。

〈きまりの例〉

①1人3回跳んで、一番よい記録で点数を出し比べる。

②記録は、足のかかどがついたところで測定する。

【関・意・態③④】

【思・判③】

<p>な か (5・6・7 時間目 三〇分×三 九〇分)</p>	<p>ねらい1：どこまでとべるか、とび比べをする。 ○前時の記録をもとにいろんな場で自分の記録を伸ばす練習をしよう。</p> <p>1 自分の「目標記録」との差を計算する。</p> <p>2 「目標記録」に挑戦する。 ・どうしたら目標記録を達成できるか、めあてをもって練習する。</p> <p>3 めやす記録が達成できたら、さらに距離を伸ばすように挑戦する。</p> <p>めあて2：自分の「目標記録」に挑戦する。 ○グループ対抗走り幅跳び記録会をしよう。(グループ対抗戦) 5・6時間目 ○学級走り幅とび大会をしよう。(個人対抗戦) 7時間目</p> <p>4 とび比べをする。 ・グループ対抗や個人対抗でとび比べをする。 ・とび比べのきまり、(とび回数や点数の出し方、踏みきり地点に踏みきり板を置くかどうか等)を決める。 ・記録をとる人、砂場をならす人など交代して行う。</p>	<p>〈めやす記録達成のためのめあての例〉</p> <p>①自分のとびやすい助走距離を見つける。 ②高く遠くへとぶために、アクセント幅とびをしたり、とび箱を使って練習したりする。 ③最初は踏みきり地点に踏みきり板を置いてとび、次に何も置かない場で挑戦する。</p> <p>〈とび比べの仕方の例〉</p> <p>①グループ内でとび比べをする。 ・1人3回跳んで、一番よい記録で点数を出し順位を決める。 ②グループ対抗でとび比べをする。 ・グループ間で決まりを決める。 ・1人3回とんで、それぞれの一番よい記録の点数を出し、その合計点で比べる。</p> <p>【関心・意欲・態度③】</p>
<p>まとめ(五分×六 三〇分)</p>	<p>1 グループで次のことを話し合い、学習の反省を行う。</p> <p>①走り幅とびのどんなところが楽しかったか。 ②力いっぱいとび比べをしたり、目標記録に挑戦したりしたか。 ③みんなと協力して学習を進めたか。 ④目標記録が達成できたか。 ⑤自分の記録はどれだけ伸びたか。</p> <p>2 話し合ったことをもとに、学習カードの反省欄や記録を記入する。</p>	<p>【思考・判断③④】</p>

11 本時の学習と教師の指導と支援

(1) 本時のねらい

- ① 助走や踏みきりのリズムに気をつけて、はばとびの練習をすることができる。
- ② 安全に気をつけて場の設定をし、意欲的に記録に挑戦することができる。

(2) 授業仮説

- ① コーディネーション運動の基礎感覚づくり運動を行うことで、走りはばとびの基本の動きがスムーズにできるであろう。
- ② 場の工夫（とび箱やロイター板、段ボール箱を置くこと等）をすることにより、踏みきりを意識して取り組むことができるであろう。
- ③ 目標記録を設定し、その差で得点をつけ競争させることで、記録の向上のため努力したり、友だちと協力したりして走り幅とびの楽しさを味わうことができるであろう。

(3) 準備するもの

- ・ケンステップ用の輪 ・ロイター板 ・とび箱 ・ミニハードル
- ・高とびセット ・タンバリン ・段ボール ・1mものさし ・ゴム
- ・メートル表示 ・ロープ ・フラフープ ・資料掲示板 ・学習カード

(4) 本時の展開 (5/7時間目)

	学習のねらいと活動	役割	教師の支援	評価と方法
開始前	準備運動 (駆け足縄跳び・ストレッチ)	T2	・足首、膝、腰を中心によく動かして、体を温めるようにし、運動への準備を整えさせる。	
五分	1. あいさつ	T1	・健康観察、服装点検を行う。	・走り幅とびの楽しさを味わうために、自分の力にあった課題をもって仲間と関わりながら進んで運動に取り組もうとする。 (関・意・態)
	2. 本時の学習の確認	T1	・本時の学習の流れを確認する。	
五分	3. コーディネーション運動 ※グループごとに1つの場を1分間行う	T1	・コーディネーション運動の指示をする。	観察
	①ケンステップ ②川跳び ③ミニハードル ④人間ラダー	T2	・支援が必要な児童とともにコーディネーション運動を行う。 ・片足で踏みきって両足で着地することを確認する。 ・3歩助走で片足踏みきり、両足着地の幅跳びになるようフラフープを多数用意しておく。 ・リズムよく走ったり、跳んだりする感覚をつかませる。	

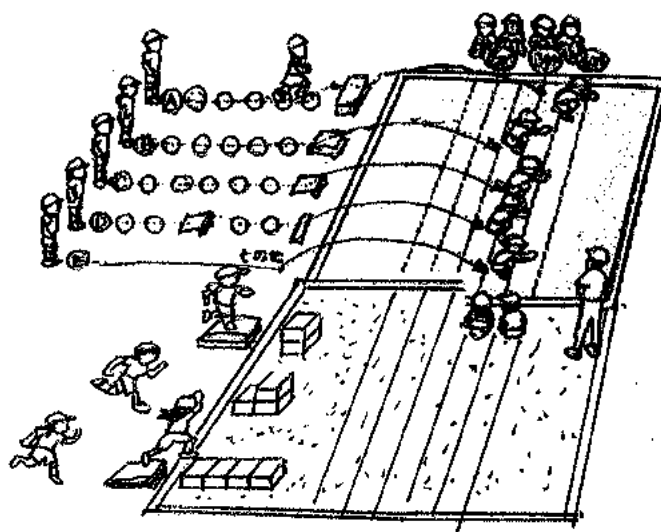
五分	4. めあて1の確認 ふみきりに気をつけてとぼう。 ・前時の振り返りをし、前時の自己記録をもとに本時の自分のめあてを学習カードに記入する。 5. 用具を準備する。	T1	・いくつか例をあげ、児童が課題をもちやすくさせる。 ・学習ノートに自分が本時で気をつけることを書かせることで、自分の課題をしっかりと意識させる。	・運動する場の安全確認ができる(関・意・態) 学習カード 観察 ・めあてを達成するための練習方法を選ぶことができる。(思・判) 学習カード 観察
	T2	・課題が設定できない児童への声かけをおこなう。		
一〇分	6. 各自のめあてに合わせて場の選択と用具の調整をし、幅とびの練習をする。 (砂場内) ・アクセント幅とび ・ロイター板を使った幅とび ・とび箱を乗り越える幅とび ・段ボールとび越し (フィールド内) ・ミニハードル ・川とび ・タンバリン打ち	T1	・1つの場に多数の児童が集まらないように声かけする。 ・友だちととび方を見あったり、教え合ったりできるように、待機児童の配属と声かけをおこなう。	・リズムカルな助走から力強く踏みきることができ(技能) ・ルールを守り競争を楽しむことができる(思・判)
		T2	・強く踏みきって空中にとび出し、空中フォームの感じをつかませる。	
		T1	・助走から踏み切りのリズム(タン・タ・ターン)を手拍子で打ってあげる	
		T1	・ロイター板の上で2歩ステップさせ、踏みきりのリズムをつかませる。	
		T1	・段ボールの並べ方、積み方を変えて、高く遠く跳べるように挑戦させる。 ・段ボールとび越しの着地がうまくいかないときは、段ボールを踏みつぶしてもいいことを伝える。	
		T2	・踏みきりのリズムがつかめない児童には、教師が手拍子をすることでイメージをつかみやすくさせる。	
		T2	・川とびを練習させ、踏みきりと伸び上がるような跳び方を身に付けさせるとともに、両足で着地することを意識させる。 ・助走から踏みきった時に高くとびあがる時の姿勢に気をつけさせる。	
一五分	7. めあて2の確認 目標記録をめざして、グループ対抗記録会をしよう。 8. グループ対抗で、記録会(競争)をする。	T1	・めあて2の確認をし、場の設定と役割分担の確認をする。	・友達のよい動きや態度を発表することができる。(思・判)
T2	・グループ内での役割の確認や友だちのとんでいる姿を観察し、良い点を見つけるよう声かけをする			
まとめ五分	9. 学習のまとめをする。 ・各グループで今日の学習の反省と記録をまとめる。 ・各グループから代表が反省の発表を行う ・今日のMVP賞を発表する。 10. あいさつ、片づけ	T1	・自己評価、相互評価(今日のMVP)を取り入れ、良かった点がんばった点を認め合い、発表できるようにさせる。	・友達のよい動きや態度を発表することができる。(思・判)
		T2	・遠くまでとんだことだけでなく、踏みきりの良くなった子や目標記録との差が縮まった子どもにも焦点をあてて称賛する。	

(5) 評価

- ① リズミカルに助走し、力強く踏みきることができたか。(技能)
- ② 友だちと協力し、場を設定したり、目標記録を達成できるよう意欲的に記録に挑戦することができたか。(関・意・態)
- ③ 助走や踏みきりに気をつけて、自分の課題にあった練習の場や方法を選択することができたか。(思・判)

(6) 場の設定

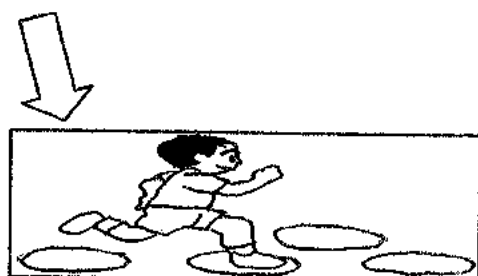
砂場内



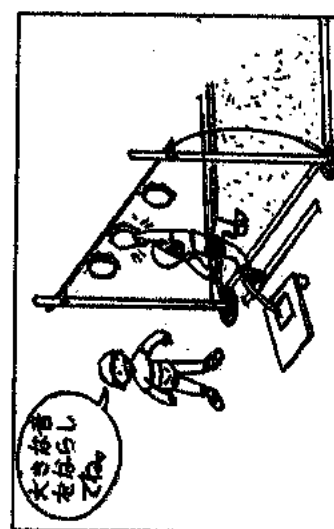
フィールド内



〈コーディネーション運動の場〉



〈練習の場〉



走りはばとび 学習カード No.1

1. 学習の進めかた

	1	2	3	4	5 (本時)	6	7
5-10	オリエンテーション ・学習の進め方 ・グループング、役割分担 ・はじめの記録	あいさつ・学習のめあて・コーディネーション運動					学級、走り幅跳び大会をしよう。
2.5		めあて1「どこまでとべるか、とびくらべをする」 ○よい助走、踏みきり、着地を学ぼう			めあて1 ○前時の記録をもとにいろんな場で自分の記録を伸ばす練習をしよう。		
4.0		めあて2「とびくらべをする」 ○グループ内で記録会をしよう。 (めやす記録との差で勝負しよう。)			めあて2 ○グループ対抗走り幅跳び記録会をしよう。 (めやす記録との差で勝負しよう。)		
4.5	学習のまとめ (学習の振り返りと記録の記入、発表、次時の学習について等・・・)						

2. 自分の目標記録

Ⓐ 立ちばとびの記録 cm

Ⓑ 50m走の記録 秒

目標記録

(Ⓐ)) + 80 =

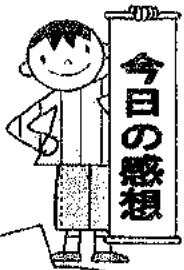
(13-Ⓑ)) × 15 =

+ =

cm

3. 点数について

点数	目標記録との差
1	-80 より下
2	-79 ~ -50
3	-49 ~ -10
4	-9 ~ 10
5	11 ~ 30
6	31 ~ 50
7	51 ~ 70
8	71 ~ 90
9	91 ~ 110
10	111 より上



自分の記録と点数

点数	記録
1	cm ~ cm
2	
3	cm ~ cm
4	cm (最初の記録)
5	cm ~ cm
6	
7	
8	
9	
10	

走りばとび 学習カード No.2

年 名前 ()

最初の記録	cm	目標記録 ①	cm	目標記録 ②	cm
-------	----	--------	----	--------	----

めあて1 「どこまでとべるか、とびくらべをする」

月日	自分のめあて	練習の場
11 / ()		
/ ()		
/ ()		
/ ()		
/ ()		
/ ()		

めあて2 「自分の目標記録にちょうせんする」

月日	自分の記録	得点	結果	月日	相手	自分の記録	得点	結果
11 /	cm	点	位	/		cm	点	位
/	cm	点	位	/		cm	点	位
/	cm	点	位	/		cm	点	位

ふりかえってみよう



よくできた◎ できた○ 次はがんばる△

	11/	11/	11/	11/	11/	11/
① 安全に気をつけて、やくそくをまもって運動ができましたか。						
② 友だちと協力し、はげましやアドバイスをすることができましたか。						
③ 自分の力に合っためあてを考えたことができたか						
④ めあてに近づくように、練習のしかたを考えたことができたか。						
⑤ 力いっぱいとび比べをしたり、目標記録にちょうせんすることができましたか。						

かんそうと今日の MVP

- ・走りはばとびで楽しかったこと
- ・めあてにむけて、練習の場ががんばったこと
- ・練習の中で、くふうしたことや気づいたこと
- ・友だちからもらったよいアドバイス
- ・自分の記録が、目標記録と比べてどのくらいのびたか

記入のしかた 例)

走ってきてリズムよくとぶめあてをたてました。タン・タ・ターンととぶこためにミニハードルでたくさん練習しました。うまくとべなかったけど、〇〇さんといっしょに口でリズムを言いながら練習したので、できるようになりました。前より5cmのびたので、次は目標記録をこしたいです。

11/ ()	MVP
11/ ()	MVP
11/ ()	MVP
11/ ()	MVP
11/ ()	MVP
11/ ()	MVP

走りはばとび チーム対こう戦

月 日 ()



()チーム 対 ()チーム					
	名前	目標記録	1回目記録	2回目記録	点数
1					
2					
3					
4					
合計 とくてん					点
相 手 占	チ ャ ム の と く て ん				

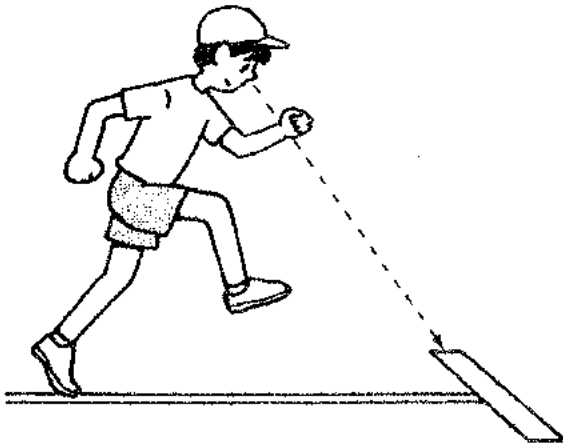
月 日 ()



()チーム 対 ()チーム					
	名前	目標記録	1回目記録	2回目記録	点数
1					
2					
3					
4					
合計 とくてん					点
相 手 占	チ ャ ム の と く て ん				

ウ 視線が下がってしまう。

<原因> 踏み切り線に注意が向きすぎている



踏み切る瞬間は、視線を下ではなく前の上のほうにしてみましょう。



練習方法

- 1 踏み切り線の横にカラーコーンを置く。
- 2 踏み切る瞬間はカラーコーンを意識して高い視線で跳ぶ。

3 思考

逆脚や腕によって体を引き上げるという意味が分からない。

<原因1> 逆脚の動きが体を引き上げるという感覚を体験していない。



どうして逆脚の動きを考えるのですか？



ジャンプをしなくても、逆の脚の動きだけで体が浮きます。その感覚を感じてみましょう。

体験方法

- 1 腕を組み、片脚立ちで下図の姿勢をとる。



- 2 逆脚の膝を素早く前に振り上げる。



本当だ！体が浮かぶ！

逆脚の動きで体を上げるってどういう意味ですか？



<原因2> 腕の動きが体を引き上げるという感覚を体験していない。



どうして腕の動きを考えるのですか？



腕の動きだけでも体が浮きます。その感覚を感じてみましょう。

体験方法

- 1 座って両脚を浮かせた下図の姿勢をとる。



- 2 素早く両肘を振り上げる。

本当だ！お尻が軽くなる！



腕の動きで体を上げるってどういう意味ですか？



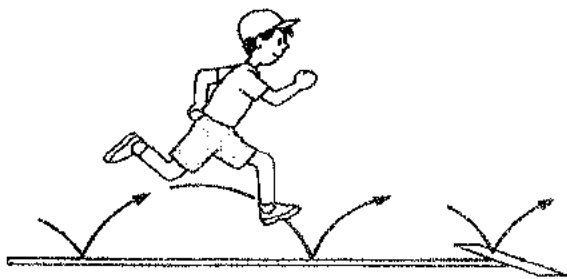
②予想されるつまずきと指導

予想されるつまずきと指導 (その1)

1. 踏み切り脚の動き

ア 助走でジャンプをしてしまう。

<原因> 歩数(3歩)に注意が向きすぎている



助走のときはジャンプをしません。
タツ・タ・ターンのリズムを意識して、
最後の一步を素早く踏み切ってみましょ
う

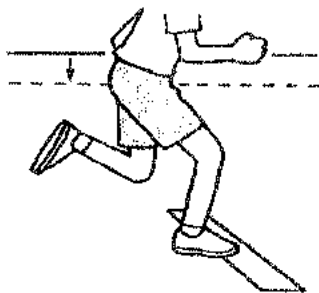


練習方法

「タツ・タ・ターン」と口ずさんで跳ぶ。

イ 踏み切りのとき、腰が落ちてしまう(腰が下がりすぎてしまう)。

<原因> 最後の一步を短くすることに注意が向きすぎている



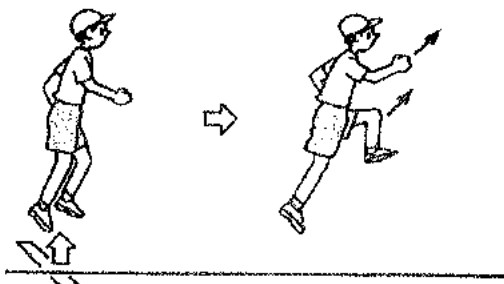
目線を上げ、伸び上がるように踏み切り
ましょう



2. 体を上に引き上げる動き

ア 踏み切った後に逆膝を上げたり、腕を上げたりしてしまう。

<原因> 踏み切りながら逆膝や腕を上げる動きが分からない。



踏み切ってからではなく、踏み切りながら
逆膝や腕を引き上げましょう。



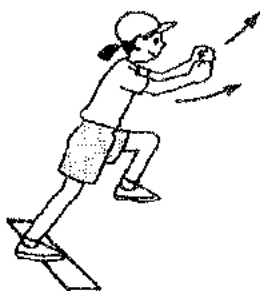
練習方法

2歩の助走で踏み切りながら、下図の姿勢をつくる
練習をする。



イ 両腕をはじめから前を出して(バンザイの状態にして)しまう。

<原因> 腕を上げることに注意が向きすぎている



踏み切り脚と同じ腕の肘を上げること
だけを意識してみましょう。

反対の腕は一度引いてから回すように
上に上げます

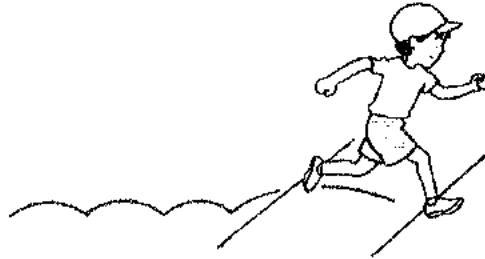


※ このアの練習をしてもよい。

予想されるつまずきと指導 (その2)

1 幅のあるものを跳び越す動き

- ① 遠くへ跳ぶときに、踏み切りが体の中心よりも後ろになってしまい、上方へ向かって踏み切れず、走り抜け(片足着地)になってしまう。



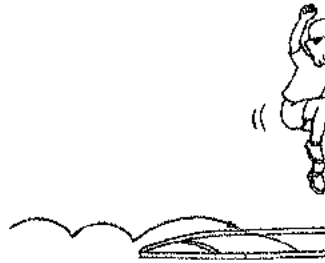
<原因1> 走る動きと踏み切りの動きの切り替えができない

【指導】 「1、2」の助走から上へ跳び上がらせることで、地面や床を蹴って膝を突っ張るという踏み切りの感覚をつかませ、徐々に前に着地するようにさせていく。踏み切りができるようになったら、「1、2」の助走を「1、2、3」「1、2、3、4、5」と伸ばしていくようにする。



<原因2> 片足だけでも遠くへ着こうという気持ちから、体が突っ込んでしまう。

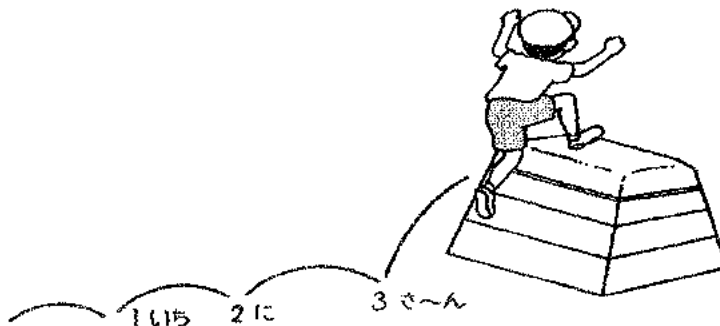
【指導】 短い距離を跳ばせて、体を浮かせることを体感させながら、空中で脚を揃えるようにさせる。これができるようになってきたら、踏み切り板のような自然に後傾になりやすい傾斜のあるところで踏み切らせて、斜め上に向かう感覚をつかませる。



2 高さのあるものを跳び越す動き

- ① 高く跳ぶときに止まってしまう。

【指導】 3歩助走で、歩かせて、「いち、にい、さん」で踏み切る練習をさせる。



3 思考

川跳びと踏み乗りの跳び方の違いについての発問に対して考え進まない様子である。

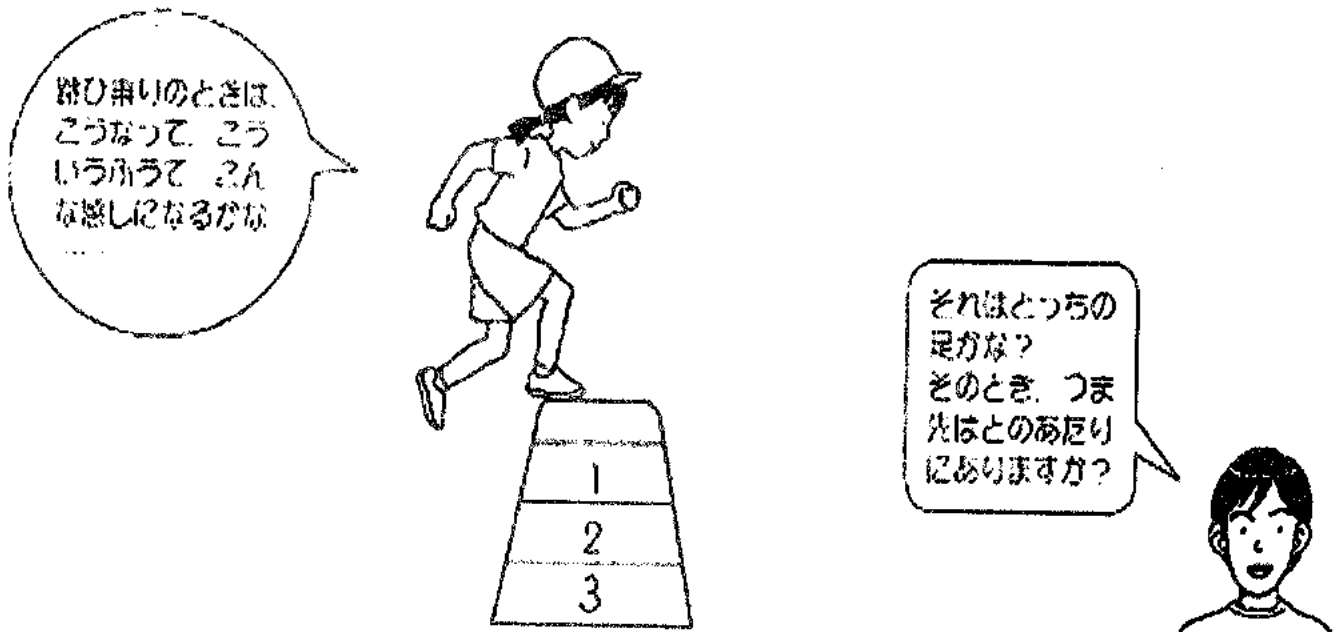
<原因1> 「踏み回り方」「跳び出す方向」「踏み回るときの体の向き」「着地のしかた」など、視点から考えすぎて違いを考えることができない。

【指導】 2つの動きを比べることができるよう、視点を固定するような発問を加える。



<原因2> 動きとしてはできるのだが、違いがどこにあるのかが明確になっていない。

【指導】 違いとなる体の部位、動きを捉えて、どうなっているかという発問を加える。



③評価記録簿

		A				B				C				D			
	グループ名																
月日() 校時	個人名																
	技能																
	態度																
	思考・判断																
	その他																
月日() 校時	技能																
	態度																
	思考・判断																
	その他																
月日() 校時	技能																
	態度																
	思考・判断																
	その他																
月日() 校時	技能																
	態度																
	思考・判断																
	その他																

5・6年の授業の様子

ゴールは
僕が
守り抜く！



今日の目標は
点数を決めること。
まずはシュート練習！



今日のお戦相手どこ
だった？どんなお戦
でいく？

今日のお相手はTチーム。
多分、後半攻めてくるはず。



今日のお授業での各チーム
のお戦を確認して試合を
始めます。

こっちも
あいてるよ！

ディフェンス！
気をつけろ！



今日のおMVPは！
〇〇さんです。
理由は・・・



〇〇さん動いて！
パス！



体育科学習指導案

日時 平成21年10月16日(金) 5校時
 場所 与那国小学校運動場
 対象 5年1組 男子 5名 女子 7名
 6年1組 男子 6名 女子 4名
 計22名
 指導者 水見 拓磨 (T1)
 兼城 賢多 (T2)
 共同研究者 金城 由利佳

1 単元名 サッカー(ボール運動)

2 運動の特性

(1) 一般的特性

2つのチームが入り交じってボールを奪い合い、足を使ったパスやドリブルなどで相手の守りをかわしたりしてボールをゴール近くに運び、シュートして得点を競い合うことが楽しい。さらに、ルールの工夫、ボール操作の技術や、攻め方・守り方等の戦術の工夫、およびチームワークやマナー等の人間関係への配慮などによって、ゲームの楽しさがより深まる。

(2) 子どもの立場から見た特性

ほとんどの児童が休み時間やこれまでの体育の授業などでサッカーを経験している。シュートをしたりゴールを決めチームが勝った時や、パスがうまくつながったりドリブルがうまくいった時に楽しいと感じている。一方でパスがもらえなかったり、ワンマンプレイがある時や失敗して文句を言われたときに楽しくないと感じている。また、5・6年男女混合のチーム編成であることから、ルールに関する知識やボール操作などの技能などの面で個人差が大きく見られる。

3 児童の実態

サッカーについてのアンケート結果(5年 男子4名 女子6名 計10名)
 (6年 男子6名 女子4名 計10名)

○ボール運動は好きですか

とても好き	まあまあ好き	あまり好きではない	きらい
男7女2(45%)	男3女8(55%)	0%	0%

○サッカーをしたことがありますか?(いくつ○をつけてもよい)

授業でやったことがある	遊びでやったことがある	その他
男10女10(100%)	男10女5(75%)	男4(20%) 福祉まつり

○あなたはサッカーが好きですか？

とても好き	まあまあ好き	あまり好きではない	きらい
男8 (40%)	男2女2 (20%)	女5 (25%)	女3 (15%)

○体育の授業で自分達でめあてや練習方法、作戦を立てたことがある。

ある	ない
男10女9 (95%)	女1 (5%)

○「ア、ある」と答えたひとはいつどんなことをしましたか？

- ・タグラグビーでトライの方法やタグをとる作戦、タグをとられない作戦、攻める作戦を考えた。
- ・ソフトバレーでボールを高く上げることや声をかけながらプレーすること。
- ・ハードルの学習でめあてをたてたことがある。
- ・サッカーで作戦をたてた。
- ・バスケットボールで作戦をたてたことがある。

○自分たちでめあてや練習方法、作戦を考えてできそうですか？

ばっちりできそう	なんとかできそう	あまりできそうにない	できない
男7 (35%)	男3女5 (40%)	女5 (25%)	0%

○サッカーが楽しいときは、どんなときですか？

- ・ゴールを決めたとき (7)
- ・ボールをくれたとき (2)
- ・シュートをするとき (2)
- ・ボールをとれたとき (2)
- ・ドリブルでぬいたとき (1)
- ・シュート練習をしているとき (1)
- ・キーパーをしたり、ドリブルでボールを運ぶとき (3)
- ・チームワークがとれているとき (2)
- ・パスをつないだりもらったりしたとき (3)
- ・勝っているとき (1)
- ・点が入ったとき (1)
- ・自分が活躍したとき (1)

○サッカーが楽しくないときは、どんなときですか？

- ・けんかをしたり仲間われをしてチームワークが悪いとき (5)
- ・ボールがまわってこないとき (2)
- ・レベルがちがうとき (2)
- ・うまくできなくて責められたとき (1)
- ・ボールがとれないとき (1)
- ・点を入れられたとき (1)
- ・負けているとき (2)
- ・チームの人が泣いたとき (1)
- ・ボールの取り合いになったとき (1)
- ・うまくボールをけれなかったとき (1)

5年生は男女ともに仲がよく、休み時間には戸外で鬼ごっこをしたり、サッカーをしたりするなど全員が活動的である。その反面、勝敗にこだわりすぎてチームメイトを責めてしまう場面が見られることがある。

アンケートの結果では、全員がボール運動を好きと答えているが、サッカーの嫌いな子が5名もいる。その理由として考えられることは、レベルの差(能力差)が大きいことや、

足を使ってうまくボールを操作することができないこと、うまくできなかったときに責められるなどがあげられる。また、ルールや用語についてもほとんど知らない現状にあるので、ゲーム（試合）の楽しさを味わえていないとも考えられる。

昨年から、めあて学習を意識した授業を継続して取り組んできたが、チームで作戦を立てたり、練習方法を考えたりすることへの不安が少なからずあるので、能力に応じた練習方法や作戦を紹介しながら授業に取り入れていく必要がある。

6年生は男子6名女子4名計10名のクラスで男女共に陸上競技を中心にバスケット、野球、柔道、剣道などの部活に取り組んでいる。男女の仲はよくこれまでの体育の学習を振り返っても協力して作戦を立てたり練習をしたりする場面が見られた。普段の学校生活では男子児童は休み時間になると運動場に出てサッカーをしている子が多いが女子児童は教室で本を読んでいることが多い。

今回のアンケートの結果を見ても男子児童の全員がサッカーが「大好き」と答えているのに対し、女子児童は「まあまあ好き」が1人、「あまり好きではない」が3人と男女間で関心の開きがあることがわかる。このことは技能面での差にも現れてくることが考えられる。

体力テストの結果より

〈5年生〉

	全国平均	本校男子	比較	全国平均	本校女子	比較
50m走	9.28	9.32	△0.04	9.61	9.69	△0.08
シャトルラン	50.95	51.6	◎0.65	40.18	46	◎5.82
反復横跳び	42.1	40.6	△1.5	39.23	40.29	◎1.06

5年生は、50m走において男女共に全国平均をやや下回っている。逆に、シャトルランにおいては全国を上回っており、休み時間の戸外での遊びが持久力の向上につながったと考えられる。瞬発的な動きのある遊びやコーディネーション運動を取り入れていく必要がある。

〈6年生〉

	全国平均	本校男子	比較	全国平均	本校女子	比較
50m走	8.91	8.78	◎0.13	9.19	8.7	◎0.49
シャトルラン	60.42	72.33	◎11.91	47.74	52	◎4.26
反復横跳び	45.15	48.17	◎3.02	42.05	43	◎0.95

6年生は、どの種目においても全国平均を上回っている。特に、シャトルランにおいては男子が約12ポイント、女子が約4ポイントも上回っており、持久力が優れている。

4 単元目標

- (1) 次の運動の楽しさや喜びに触れ、その技能を身に付けることができるようにする。
ゴール型では、簡易化されたゲームで、ボール操作やボールを受けるための動きによって、攻防する。(技能)
- (2) 運動に進んで取り組み、ルールを守り助け合って運動をしたり、場や用具の安全に気を配ったりすることができるようにする。(態度)
- (3) ルールを工夫したり、自分のチームの特徴に応じた作戦を立てたりすることができるようにする。(思考・判断)

5 研究主題との関わり

研究主題

「運動に親しみ、たくましい体と心をつくる児童の育成」
～一人一人がめあてを持ち、主体的に取り組む体育学習をとおして～

研究仮説

- (1) 一人一人にめあてを持たせ、効果的な授業展開（場の工夫、児童相互の関わり）を図ることで、児童が主体的に取り組む体育学習ができるであろう。
- (2) 体育学習を中心に運動の楽しさや喜びを味わわせることで、自ら運動する意欲を培い、運動に親しみたくましい体と心の備わった児童を育成することができるであろう。
- (3) 普段の自己の食生活を見つめ直しながら、体によい食べ物と必要な量を知ることによって、望ましい食習慣が身につく、食行動を実践することができ、たくましい体と心の備わった児童を育成することができるであろう。

今日の「楽しい体育」では、課題（めあておよびやってみること）の作りかえや見直し、いわば「行ったり来たり」しながら学習を展開するプロセスを複数（幅広く）許容した「新しい課題解決学習」のあり方が問われている。この新しい課題解決学習の姿として、①自発性の論理、②めあての自己決定性の論理、③学び方の学習、の三要素が特徴としてあげられており、この3つの要素がうまくかみ合うとき、これを課題解決のプロセスと位置づけることができる。ひとつの課題をとらえ解決の見通しを立てたとき、このひとつの見通しを追求していくのではなく、作った課題が合わなくて作り変えたり、見直すなどの「行ったり来たりする」プロセスを許容した授業展開をしていくことが重要である。

学習を自発的なものにしていくためには「課題」の設定のしかたが鍵をにぎっている。今回のサッカーの学習では研究仮説(1)「一人一人にめあてを持たせ、効果的な授業展開（場の工夫、児童相互の関わり）を図ることで、児童が主体的に取り組む体育学習ができるであろう。」にせまるために、中心課題を単元目標の(3)「ルールを工夫したり、自分のチームの特徴に応じた作戦を立てたりすることができるようにする。」に設定する。この課題が子ども達にとって、わかりやすく身近なものに感じられれば、関心・意欲も高まってくるものと考えられる。そこで今回の学習では、トライアングルコートとラッキーゾーンの混合型コートを取り入れ、技能面での差の大きな集団でもそれぞれの児童

が個人のめあてを持ち、協力してチームの作戦を立てられるようにしていく。そして個人のめあてやチームの作戦を書くワークシートを準備し学習を振り返ったり話し合ったりするなかで言語活動の充実を図っていく。このような場の工夫の中で協力し合い、励ましあい、「行ったり来たり」しながら課題を解決していくことで、サッカーの楽しみを見つけ出していけるのではないかと考える。

また、単元目標の(1)「次の運動の楽しさや喜びに触れ、その技能を身に付けることができるようにする。」については、昨年度の研究から取り入れているコーディネーション運動を毎回の授業の始めに設定し、楽しみながら体の使い方やボールの扱い方に慣れ親しめるようにする。今回の学習ではサッカーに必要な運動の内容を「A パスをする・受ける」「B ドリブルをする(ボールを運ぶ)」「C シュートする」の3つに分けてとらえ、児童の実態に合わせて技能を習得しながら主運動につなげていけるよう計画した。

めざす児童像にせまるための手立て

- ・場の工夫 トライアングルコートとラッキーゾーンを組み合わせることで、技能面での差が大きな集団でもそれぞれ個人がめあてをもち、チームで作戦を立て自発的に授業に参加できるようにする。
- ・ワークシート 個人のめあてを書くものとチームの作戦を書くものを準備し、学習の振り返りや話し合いの時間を確保することで、言語活動の充実を図る。
- ・コーディネーション運動
「A パスをする・受ける」「B ドリブルをする(ボールを運ぶ)」「C シュートする」の3能力に分けて取り組み、楽しみながら技能を高め、主運動に入っていけるようにする。

6 学習のねらいと道すじ

(1) 学習のねらい

チームの仲間と協力して、攻め方、守り方を工夫しながら、サッカーを楽しむ。

(2) 道すじ

ねらい1：リーグ戦をしていく中で、ルールやコートに慣れていくとともに、自分のチームの力を知る。

ねらい2：自分のチームの特性を生かしたり、相手チームに勝つために作戦を工夫したりしながら、リーグ戦を楽しむ。

ねらい3：高まったチーム力をいかしてリーグ戦を楽しむ。



7 時間配分

1	2 3	4 5	⑥ 7 8
コーディネーション運動			
オリエン テーション	ねらい1 リーグ戦をしていく中で、ルールやコートに慣れていくとともに、自分のチームの力を知る。	ねらい2 自分のチームの特性を生かしたり、相手チームに勝つために作戦を工夫したりしながら、リーグ戦を楽しむ。	ねらい3 高まったチーム力をいかしてリーグ戦を楽しむ。 <div style="text-align: right;">まとめ</div>




8 単元の評価規準

	技能	態度	思考・判断
ボール運動の評価規準	○サッカーについて簡単な作戦を生かしてゲームをするための技能を身に付けている。	○友達と共に、ボール運動の楽しさや喜びを求めて進んで取り組もうとする。また勝敗に対して正しい態度を取ろうとすると共に、安全にゲームや練習をしようとする。	○チームの特徴を知り、作戦を立てたり、ルールを工夫したりすることができる。
単元の評価規準	○サッカーの特性に応じた動きを身に付ける。チームのめあてや作戦に応じた動きでチームに参加することができる。 ○サッカーのルールを正しく理解しながらセルフジャッジをすることができる。	○サッカーの楽しさを求め、進んで友達と関わり、運動に取り組もうとする。 ○勝敗に対して正しい態度をとり、ルールやマナーを守ってセルフジャッジを行い、安全に配慮しながら運動に取り組もうとする。	○チームの特徴に応じてめあてや作戦を考えたり、活動を工夫したりすることができる。 ○ルールやマナーを守ってセルフジャッジを行い、安全に配慮しながら運動に取り組もうとする。チームのめあてや作戦に応じて練習したり、ゲームをしたりすることができる。
学習活動における評価規準	【1時間】 ①今できるサッカーの動きができる 【2～7時間】 ②特性に応じた様々な動きを身に付け、めあてや作戦に応じた動きでゲームをすることができる。 ③ルールを正しく理解しながらセルフジャッジができる。 【8時間】 ④様々な動きを身に付け、サッカーを楽しむことができる。	【1時間】 ①サッカーに進んでとりくもうとする。 【2～7時間】 ②進んで友達と関わり、良さを生かしあい、互いに励ましあいながら活動しようとする。 【8時間】 ③サッカーの運動をチームで振り返っている。	【1時間】 ①学習の進め方について見通しを持つことができる。 【2～7時間】 ②チームの特徴にあつためあてや作戦を考えたり、活動を工夫したりすることができる。 【8時間】 ③学びを見つめたり工夫したりすることができる。

9 学習活動における具体的評価規準

	A：十分満足できる	B：おおむね満足できる	C：努力を要する子どもへの手立て
技能	<p>○めあてや作戦を意識しながら相手や味方の動きに応じた動きができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・連携しながらパスをつなぐことができる。 ・相手の動きやパス、シュートを防ぐことができる。 ・互いに声をかけ合うことができる。 <p>○ルールを正しく理解しながら、セルフジャッジをすることができる。</p>	<p>○めあてや作戦に合った動きができる。</p> <p>○ルールがわかり、セルフジャッジをすることができる。</p>	<p>○ゲームに必要なパス、ドリブル、シュート等の基礎技能について知らせ、計画的に練習してゲームに生かすように支援する。</p>
態度	<p>○チームにあった課題をもちサッカーの楽しさを求めて自発的に運動しようとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習資料を参考にしながら学習を進めることができる。 <p>○自発的に役割を分担したり友達と協力して運動したりしようとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公正な態度でゲームに参加することができる。 ・友達の良いプレーに対して共に喜びながら励ましあうことができる。 <p>○場や用具の安全を自発的に確かめ、気を配っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安全面のルールを提案したり、友達に呼びかけたりしている。 	<p>○課題をもち、進んで運動しようとする。</p> <p>○自分の役割をこなし、友達と協力して運動している。</p> <p>○場や用具の安全性を確かめようとする。</p>	<p>○学習資料をもとに一緒に練習方法を考える。</p> <p>○友達と「見合い」をするための視点を提示する。</p> <p>○サッカーが苦手な子を生かすために、特別ルールを設定するように話し合わせる。</p> <p>○マナーや安全確認の方法を提示する。</p>
思考・判断	<p>○チームの特徴に応じてめあてや作戦を考えたり、友達の動きを見て適切に助言したりして活動を工夫している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習資料を活用している。 ・めあてや作戦を意識し、相手や味方の動きに応じて動いている。 <p>○ルールやマナーを守ってセルフジャッジを行い、安全に配慮しながら運動に取り組んでいる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ルールや学習の仕方を提案している。 	<p>○めあてや作戦を考え、仲間と助言しあって活動している。</p> <p>○ルールやマナーがわかり、安全に運動に取り組んでいる。</p>	<p>○学習課題が見いだせないチームがある場合は、適切な方向性や関連資料を教師から提案する。</p> <p>○発表を通してチームの学びを反省したり、他のチームの学びの工夫にふれさせる。</p>

10 単元の学習活動と教師の指導と支援（評価の観点）

	学習のねらい・活動	◎指導と支援 【】評価 ★C児へのてだて
はじめ 45分	<p>○オリエンテーション</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習のねらいや道すじを理解し、学習の進め方に見通しをもつ。 ・基本的なマナー、ルールを理解する。 ・グルーピングをし、役割を分担する。 ・学習カードや学習資料の利用の仕方について理解する。 	<p>【技能①】</p> <p>★サッカーが苦手な子を生かすために、特別ルールを設定するように話し合わせる。</p> <p>【思・判①】</p> <p>★学習課題が見いだせないチームには、適切な方向性や関連資料を提案する。</p> <p>【技能①】</p> <p>★ゲームに必要なパス・ドリブル・シュート等の基礎技能について計画的に練習していくことを知らせゲームにいかせるように支援する。</p>
なか 45分 ×2	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>ねらい1 リーグ戦をしていく中で、ルールやコートに慣れていくとともに、自分のチームの力を知る。</p> </div> <p>1 サッカー学習の準備をする。</p> <p>2 コーディネーション運動に取り組む。</p>  <p>3 めあてとルール、マナーを確認する。</p>  <p>4 できる技や作戦で総当たり戦をして楽しむ。</p>  <p>5 今日の学習をふりかえる。</p>	<p>◎準備等は休み時間にさせ、機敏に動くように助言する。</p> <p>【態度②】</p> <p>◎ねらい1ではチームの作戦と個人のめあての関わりはあまり強調しない。</p> <p>【思・判②】</p> <p>★学習課題が見いだせないチームがある場合は、適切な方向性や関連資料を教師から提案する。</p> <p>★マナーや安全確認の方法を提示する</p> <p>◎ルールは子どもたちの関心、技能の高まりに応じて、子ども達と話し合い適宜、決めたり変更したりしていく。（毎時の反省を生かす）</p> <p>【思・判②】</p> <p>★学習課題が見いだせないチームがある場合は、適切な方向性や関連資料を教師から提案する。</p> <p>【態度②】</p> <p>★サッカーが苦手な子を生かすために、特別ルールを設定するように話し合わせる。</p> <p>◎みんなが協力して練習やゲームをしているか、ルールやマナーが守られているかどうかを観察して適宜、指導する。</p> <p>◎ハーフタイムで自分たちの良さや問題点に気づかせる。</p> <p>【技能②】</p> <p>★ゲームに必要なパス・ドリブル・シュート等の基礎技能について計画的に練習していくことを知らせゲームにいかせるように支援する。</p> <p>【思・判②】</p> <p>★発表を通してチームの学びを反省したり、他のチームの学びの工夫に触れたりする。</p>

ねらい2 自分のチームの特性を生かしたり、相手チームに勝つために作戦を工夫したりしながら、リーグ戦を楽しむ。

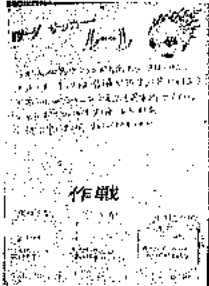
1 サッカー学習の準備をする。

◎対抗戦形式で行うので、キャプテン会議で力の似たチーム同士でゲームをするように助言する。

2 コーディネーション運動に取り組む。

★ゲームに必要なパス・ドリブル・シュート等の基礎技能について計画的に練習していくことを知らせゲームにいかせるように支援する。【技能②】

3 めあてとルール、マナーを確認する。



◎ルールは子どもたちの関心、技能の高まりに応じて、子ども達と話し合い適宜、決めたり変更したりしていく。(毎時の反省を生かす)

★マナーや安全確認の方法を提示する。【態度②】

★学習課題が見いだせないチームがある場合は、適切な方向性や関連資料を教師から提案する。【思・判②】

★サッカーが苦手な子を生かすために、特別ルールを設定するように話し合わせる。【態度②】

なか
45分
×2

4 対戦する2チームで協力しながら学習を進める。

◎ねらい1の反省を生かして攻め方、守り方、ボールの扱い方を工夫するように助言する。【態度②】

★友達と「見合い」をするための視点を提示する。

◎めあてや作戦にあった練習方法になるように助言する。

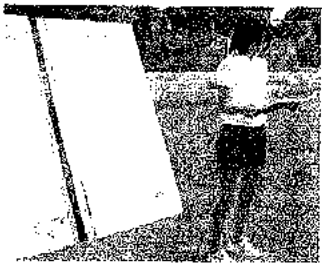
◎攻め方、守り方のフォーメーションの練習は形だけでなく相手チームの作戦を想定し、練習するように助言する。

◎話し合いの仕方や作戦の立て方などに問題がないかどうかを見て適宜指導する。

◎工夫した攻め方、守り方やボールの扱いがゲームに生かされているか、またチームや個人の特徴を生かしたゲームになっているかを観察し、助言する。



5 今日の学習を振り返る



◎各チームの良かった点、反省点から次時に生かせるように助言する。【思・判②】

★発表を通してチームの学びを反省したり、他のチームの学びの工夫にふれさせる。

なか 45分 ×2 +30分	ねらい3 高まったチーム力をいかしてリーグ戦を楽しむ。	
	<p>1 サッカー学習の準備をする。</p> <p>2 コーディネーション運動に取り組む。</p> <p>3 これまでに学んだことや練習したことを生かして総当たり戦を楽しむ。</p> <p>4 今日の学習を振り返る。</p>	<p>◎今までしてきた練習を生かし自分たちで工夫して練習ができるように助言する。</p> <p>◎チームや個人の高まった力を発揮してゲームに参加するように助言する。 【態度③】 ★友達とゲームを分析する視点を提示する。</p> <p>◎ハーフタイムで自分たちの良さや問題点に気づかせる。 【技能③】 ★ゲームに必要なパス・ドリブル・シュート等の基礎技能について計画的に練習していくことを知らせゲームにいかせるように支援する。</p> <p>【思・判③】 ★発表を通してチームの学びを反省したり、他のチームの学びの工夫に触れたりする。</p>
まとめ 15分	<p>○サッカーの学習の楽しさに広がりが見えたか。</p> <p>○安全やマナーを守って、友達と認め合い、高めあって学習できたか。</p> <p>○場、ルール、作戦を選び、めあてをもって、ゲームや練習ができたか。</p> <p>○個人技能、集団技能を理解して、ゲームの中で生かすことができたか。</p> <p>○次单元への学習課題をもつ。</p>	

11 本時の学習と教師の指導と支援

(1) 本時のねらい

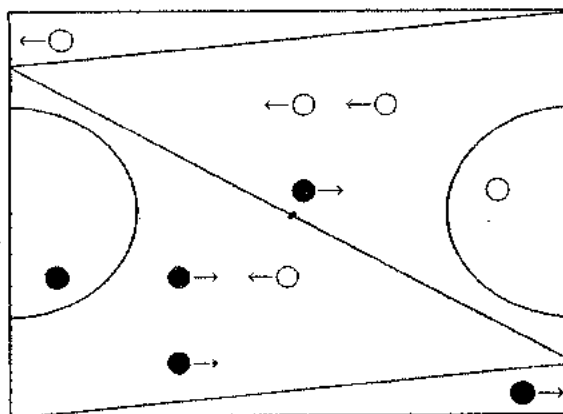
高まったチーム力をいかしてリーグ戦を楽しむ。

(2) 授業仮説

コーディネーション運動に取り組んだり場の工夫をしたりすることにより、興味・関心や技能面の差が大きな児童たちが混在する集団でも、個々の技能を高め作戦を考えながらサッカーのゲームの特性を理解することができるであろう。


(3) 準備するもの

- ・ボール (22 個)
- ・CD (BGM)
- ・作戦板 (マグネット)
- ・三角コーン
- ・ワークシート (個人用・作戦用)
- ・得点板
- ・デジタイマー
- ・ピブス
- ・対戦表
- ・掲示用資料



コートでの使い方 (例)

(4) 本時の展開 (6/8)

	学習のねらいと活動	◎教師の支援 【】 評価 <u>評価方法</u> ★C児への手だて
はじめ 10分	<p>ねらい3 高まったチーム力をいかしてリーグ戦を楽しむ。</p> <p>1. サッカーの学習の準備をする (T1・T2)</p> <p>2. コーディネーション運動に取り組む (T2)</p> <p>3. めあてとルール、マナーを確認する (T1)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>ルールの例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サイドの選手のアシストは2点 ・体にはできるだけさわらない ・ファウル (押す・ける・文句を言う) </div>	<p>【関心・意欲・態度】 (安全に関する態度)</p> <p>場や用具の安全性を確かめようとしている <u>観察</u></p> <p>◎個人の技能やチームの特性に合ったコーディネーション運動ができるよう助言する</p> <p>★運動が苦手な子を生かすためのルールの設定していくことを呼びかける</p> <p>◎ルールは子どもの関心、技能の高まりに応じて、子どもたちと話合って決めたり変更していく</p>
なか 28分	<p>4. ワークシートをもとに試合の作戦を確認する (2分) (T1・T2ともに、作戦・技能面の助言をする)</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: 80%;"> <p>第一試合</p> </div> <p>5. 前半戦を行う (5分)</p> <p>6. 作戦の確認 (2分)</p> <div style="text-align: center; margin: 10px 0;">  </div> <p>7. 後半戦を行う (5分)</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>第二試合 4～7をくり返し第二試合に取り組む</p> </div>	<p>◎めあてや相手のチームの特徴にあった作戦を立てられるように助言する</p> <p>★学習課題が見出せないチームには、適切な方向性や関連資料を提案する</p> <p>【技能】 めあてや作戦にあった動きができる <u>観察</u></p> <p>◎めあてや作戦が生かされるように助言する</p> <p>★ボールや他の児童の動きに集中できるよう励ます</p> <p>【思考・判断】 めあてや作戦を考え、仲間と助言しあって活動している <u>発言・ワークシート</u></p> <p>◎めあてや相手のチームの特徴にあった作戦を立てられるように助言する</p> <p>◎攻めかた、守り方だけではなく相手のチームの特徴をふまえて、作戦を立て練習をするように助言する</p> <p>◎話し合いの仕方や作戦のたて方に問題がないかどうかを見て適宜指導する</p>
まとめ 7分	<p>8. 各チームで今日の試合の反省をする (T1)</p> <p>9. 代表のチームが発表する</p> <p>10. 学習を振り返る</p>	<p>◎めあてや作戦に応じた反省ができているかを見て適宜指導する</p> <p>【思考・判断】 めあてや作戦を考え、仲間と助言しあって活動している <u>発言・ワークシート</u></p> <p>★発表を通して他のチームの工夫にふれる</p>

(5) 評価

- 特性に応じた様々な動きを身に付け、めあてや作戦に応じた動きでゲームをすることができる。【技能】
- 進んで友達と関わり、良さを生かしあい、互いに励ましあいながら活動しようとする。【態度】
- チームの特徴にあっためあてや作戦を考えたり、活動を工夫したりすることができる。【思考・判断】

12 言語活動の充実を意図した児童の活動の様子

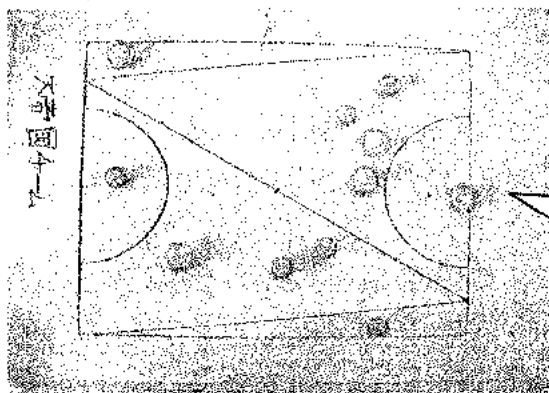


【休み時間を利用して、リーダーを中心にグループで作戦を話し合う様子】



【前半終了後、すぐに後半での作戦について話し合いをする児童の様子】

13 作戦ボード及び学習カード



ホワイトボードの上にマグネットを置いて、自分たちチームのポジションや作戦を確認するのに十分に活用することができた。

ゲームを楽しむために、各チームで何度も話し合いを行い、作戦を立てていったことにより、自分たちのチームの特徴に応じた作戦を立てられるようになってきた。また、波及効果として、主体的に各チームのリーダーが中心となって休み時間等にも作戦会議を開く様子が見られるようになった。そして、本単元では児童が楽しく伸び伸びと活動する様子が見られた。以上のことから、サッカーの特性にも十分に触れ親しむことができたと考えられる。

サッカー学習カード⑤

～第6時～

10月16日(金)曜日

名前

ならい3

高まったチーム力をいかしてリーグ戦を楽しむ。

今日のめあて

みんなをせがいに楽しくサッカーをやる

今日のコーディネーション運動 香取道子先生の指導でお願いします。

さあ、今日からコーディネーション運動をチームごとに行ってもらいます。しかも、各チームで考えてそのチームに必要な動きは何かを考えて運動を選択してください。
 今までのやってきたコーディネーション運動を振り返りながら、チームで行ってみましょう。
 その時になぜその運動を入れることになったのかという理由もきちんと書いてください。
 今日、初めてなので、一つは先生から共通したコーディネーション運動を提案しますが、次回からは、各チームで「パス、ドリブル、シュート」の動きに合わせて必要なコーディネーション運動を選んでもらいます。
 各チームのリーダーが中心となって、チームに必要なコーディネーション運動を立てて行ってください。

A.パス

運動名	選んだ理由
ナンバリングパス	ゲームをした時に、パスを出す相手の名前を呼んでパスを出しているか。パスをもらう人もだまってボールがくるのを待っている人もいたから。 又声は「へーだろ」と言わなければならない。

B.ドリブル

運動名	選んだ理由
ストローク	ボールを止められる人が少ないから

C.シュート

運動名	選んだ理由
PK	争奪をためらうため(キーパーあり)

コンパスを思いっきり使いたいと思えるようにしたいから
 相手をよく見てパスを出してくださいね!

サッカー学習カード⑥

～第7時～

10月17日(土)曜日

名前

ならい3

高まったチーム力をいかしてリーグ戦を楽しむ。

今日のめあて

せめも守りも、かためてゲームをやる

今日のコーディネーション運動

さあ、前の時間における各チームでのコーディネーション運動いかがだったでしょうか。うまくできたチームなかなか思うようになかったチーム様々だったと思います。でも、それでもいいです。今できることをどんどん反復して頑張ってください。
 今日からはいよいよ3つの動き(パス、ドリブル、シュート)のコーディネーション運動を各チームで相談して決めて実行してもらいます。
 今までのやってきた運動を思い出しながら、話し合ってみてください。
 そして、もうここまでできたみなさんならいっしょとすると、自分たちで新たに運動を創り出すことができるかもしれません。そんなアイデアがあるチームはどんどん出して欲しいと思います。

A.パス

運動名	選んだ理由
バレー	ゲーム中に、パスをする相手目の前をパスできるようにする

B.ドリブル

運動名	選んだ理由
ボール運び	守りとせめの練習ができるから

C.シュート

運動名	選んだ理由
キーパー	キーパーとの練習ができるから

一石二鳥のアイデア(アイディア)
 2'49/

サッカー学習カード チーム名(パワフル)

10月21日 2校時 F 5

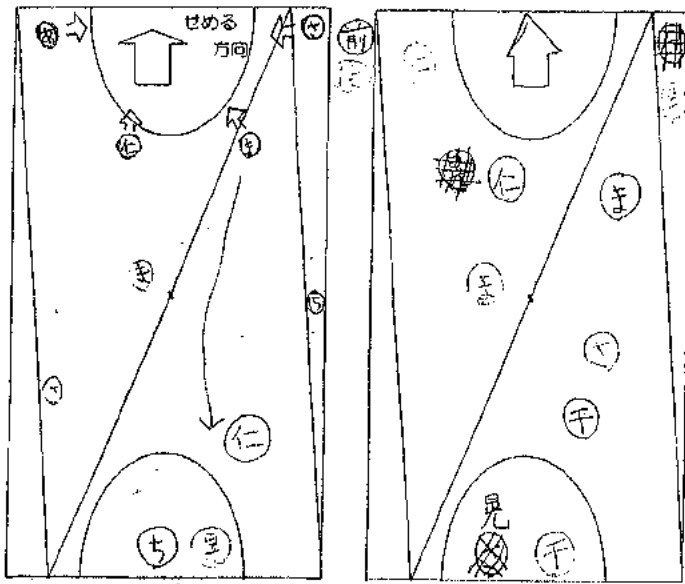
対戦相手 ①(大帝国) ②(サッカーズ)

めあて パス回しが上手にできるように

- 課題 ボールを止めた後、また動かすことができるようにする
- 方法 パスを多くする

第①試合

第②試合



対:大帝国

対:サッカーズ

今日のふりかえり～

ボールがあんなに	①まわりで	②まあまあまわった	③まわらなかつた
攻め方や守り方が	①よくできた	②まあまあできた	③できなかった
パスやドリブルで	①よくつなげた	②まあまあつなげた	③つなげなかつた
シュートが	①多かった	②まあまあ多かった	③少なかつた
今日のゲームは、	①とても楽しかつた	②まあまあ楽しかつた	③楽しくなかつた
めあてが達成	①できた	②まあまあできなかった	③できなかった

試合結果 ①(勝・敗) | 対①) ②(勝・敗) | 対②)

試合の感想

サ、カーズのときは、ちきわけた。だけ。大帝国のときは、きけたので、よくわかった。でも、めあては、まだ、いい。また、たのび、た。

今日のMVP 昇天、さく

受賞理由 昇天、シュートをばつととめて、かんぱし、て、いたから。さく、男子、2人、にも、い、て、せ、め、て、き、に、せ、め、て、い、た、から、た。

次時の計画

せめ、キーパーの、れ、し、ゅう、を、ち、か、い、は、り、た、り、また、パス、守、り、を、ス、ム、ス、に、し、た、い、て、また、ディフェンス、を、た、お、せ、自、分、あ、て、も、ク、と、キ、ー、パ、を、よ、く、

サッカーのコーディネーション運動の実際

1. 各チームで行ったコーディネーション運動

チーム名 A. パワフルFive		
動き	運動名	選んだ理由
パス	ナンバーリングパス(※)	声を出してパスしたり、パスをもらったりしないから。
ドリブル	DFをたおせ!	ディフェンスが弱いから。
シュート	的あてキック	みんながシュートを決められるようにしたいから。

チーム名 B. 大帝国		
動き	運動名	選んだ理由
パス①	ナンバーリングパス(※)	声を出してパスしたり、パスをもらったりしないから。
ドリブル	ストップング	ボールをとめられない人が多いから。
シュート	P K	命中力を高めるため(キーパーあり)
パス②	ロングパス	おもいきり蹴ると、狙った所にボールがいかないから。

チーム名 C. サッカーズ		
動き	運動名	選んだ理由
パス	ナンバーリングパス(※)	声を出してパスしたり、パスをもらったりしないから。
ドリブル	ドリブル鬼ごっこ	ドリブルでつまずくから相手をかかわすようにしたい。
シュート	シュート練習	自分たちは今まで1回もシュートを入れたことがないから。

チーム名 D. STAR		
動き	運動名	選んだ理由
パス	ナンバーリングパス(※)	声を出してパスしたり、パスをもらったりしないから。
ドリブル	ドリブル鬼ごっこ2	守りと攻めの両方の練習ができるから。
シュート	シュート練習	キーパーとシュートの練習ができるから。

※ 「ナンバーリングパス」は教師が提示しているため、全チーム実施することになっている。

2. 児童の活動の様子



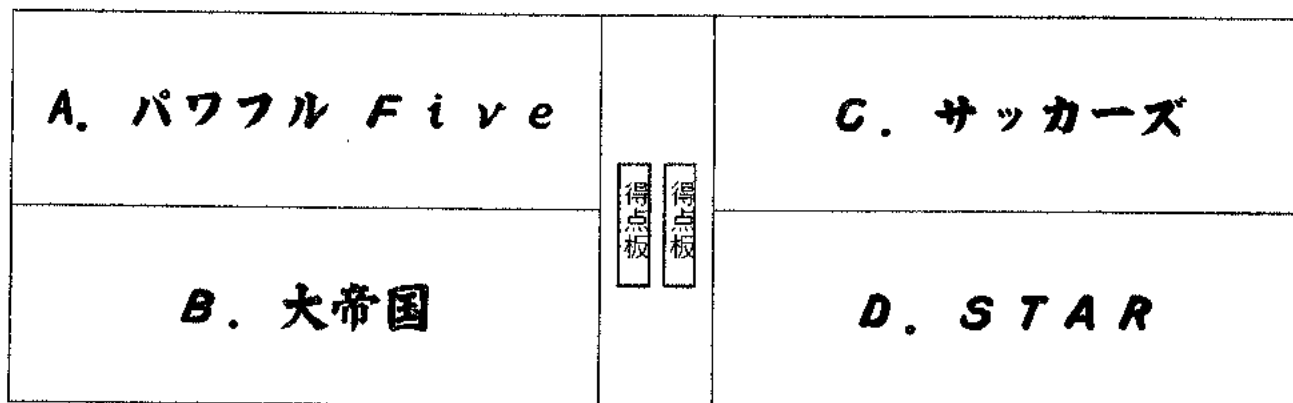
【第4時:ドンジャンケンドリブル】



【第5時:手つなぎパス】

各チームで行うコーディネーション運動の紹介

1. 会場図(運動場)



指揮台

2. 各チームで行ったコーディネーション運動

チーム名 A. パワフルFive			
動き	運動名	選んだ理由	参照ページ
パス	ナンバーリングパス(※)	声を出してパスしたり、パスをもらったりしないから。	指導案p27
ドリブル	DFをたおせ!	ディフェンスが弱いから。	NEW!
シュート	的あてキック	みんながシュートを決められるようにしたいから。	指導案p30

チーム名 B. 大帝国			
動き	運動名	選んだ理由	参照ページ
パス①	ナンバーリングパス(※)	声を出してパスしたり、パスをもらったりしないから。	指導案p27
ドリブル	ストップング	ボールをとめられない人が多いから。	指導案p26
シュート	P K	命中力を高めるため(キーパーあり)	NEW!
パス②	ロングパス	おもちゃきり蹴ると、狙った所にボールがいかないから。	NEW!

チーム名 C. サッカーズ			
動き	運動名	選んだ理由	参照ページ
パス	ナンバーリングパス(※)	声を出してパスしたり、パスをもらったりしないから。	指導案p27
ドリブル	ドリブル鬼ごっこ	ドリブルでつまずくから相手をかわすようにしたい。	指導案p29
シュート	シュート練習	自分たちは今まで1回もシュートを入れたことがないから。	NEW!

チーム名 D. STAR			
動き	運動名	選んだ理由	参照ページ
パス	ナンバーリングパス(※)	声を出してパスしたり、パスをもらったりしないから。	指導案p27
ドリブル	ドリブル鬼ごっこ2	守りと攻めの両方の練習ができるから。	NEW!
シュート	シュート練習	キーパーとシュートの練習ができるから。	NEW!

※ 「ナンバーリングパス」は教師が提示しているため、全チーム実施することになっている。

ボール運動に必要な能力

コーディネーション能力	具体的場面の一例	必要な能力
バランス能力	<ul style="list-style-type: none"> ○身体のバランスを維持しながら相手とボールを取り合う。 ○いつでも動けるようバランスをとって構える。 ○体勢を崩しながらもパスやシュートをする。など 	<ul style="list-style-type: none"> ・すぐに動けるバランスのよい姿勢をキープし、崩れた体勢を立て直す能力。
リズム能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ドリブルやシュートをリズムよく行う。 ○味方同士でパスや動きのタイミングを合わせる。 ○相手のパスコースを読んでカットする。 ○相手のタイミングを外してドリブルで抜く。など 	<ul style="list-style-type: none"> ・よいリズムで連続した運動を行う能力。 ・動きのタイミングを合わせる能力。
定位能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ちょうどよい場所に適切なスピードでパスを出す。 ○ゴールとの距離を測りシュートをする。 ○相手との距離を測りドリブルで抜く。 など 	<ul style="list-style-type: none"> ・ボールや味方、相手との距離感、スペースを把握し、調節する能力。
識別能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ボールを思ったように投げる、捕る、蹴る、打つ、つく。 ○バットやラケットを上手に操る。 など 	<ul style="list-style-type: none"> ・細部の筋肉を調節する、ボールやラケットなどの用具を器用に操る能力。
反応能力	<ul style="list-style-type: none"> ○味方の合図や相手の動きに素早く反応する。 ○シュートをするか、パスをするか、またはドリブルをするかを素早く判断する。 ○パスやシュートのコースを瞬時に決める。 など 	<ul style="list-style-type: none"> ・合図や相手の動きに素早く正確に反応する、瞬時に正しい選択をする能力。
連結能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ドリブルからシュートをなめらかに行う。 ○走りながらパスを受けスムーズにドリブルに移行する。 ○空中でボールをキャッチし、着地する前にパスを出す。 ○シュートするときなど、スムーズにボールに力を伝える。 など 	<ul style="list-style-type: none"> ・全身をなめらかに同調させて、スムーズに動く能力。 ・スムーズに力を伝える能力 (特に膝)
変換能力	<ul style="list-style-type: none"> ○味方がボールを奪った瞬間に攻守を素早く切り換えるフェイントをかける、またはフェイントに素早く対応する。 など 	<ul style="list-style-type: none"> ・状況の変化に対応して、素早く動きを切り換える能力。

A パスをする・受ける

必要なコーディネーション能力：【定位】・【反応】・【識別】・【バランス】



子どもに見られるつまづきのタイプ

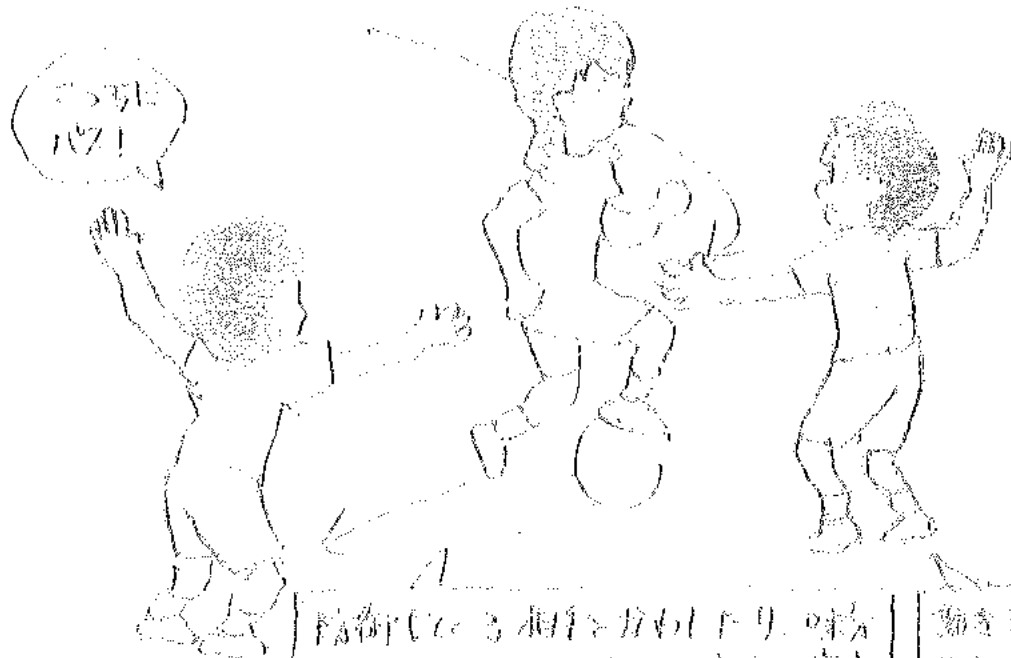


B ドリブルをする(ボールを運ぶ)

必要なコーディネーション能力：【定位】・【変換】・【識別】・【リズム】・【バランス】

自分とボール、防衛してくる相手との位置関係を把握する (定位能力)

走るスピードに合わせて、ボールを操作する (識別能力)



防衛している相手とかわけたり、味方へパスしたりするために、方向へ変えるなど、動きの切りがわる (変換能力)

動きの切り替えをしたときに、姿勢を直す (バランス能力)

子どもに見られるつまづきのタイプ

1 ボールをコントロールできず、蹴りかけ、ボールをとられるようになる (リズム、識別能力に課題)
 2 相手をうまくかわせず、ボールをとられるようになる (変換、バランス能力に課題)



C シュートする

必要なコーディネーション能力：【定位】・【識別】・【バランス】

自分とボール、防衛する相手との位置関係を把握する（定位能力）

歩いているところをねらって正確にボールをキックする（識別能力）



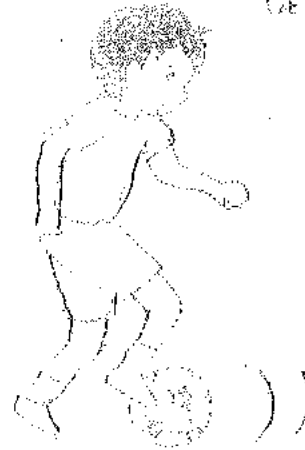
強いキックを踢るときに体勢を保つ（バランス能力）

子どもに見られるつまづきのタイプ

1 下半で強いキックが嫌いな（識別・バランス能力課題）



2 シュートのタイミングを逃してしまふ（定位能力課題）



本単元におけるコーディネーション運動の実際

本単元の第5・6学年のサッカーにおいて、コーディネーション運動の原理・原則に基づいて主運動(サッカー)につながるコーディネーション運動の計画を各時間作成した。(毎時間約8分程度実施する。)






(1)運動の内容と7つのコーディネーション能力の分類

			7つのコーディネーション能力の分類						
時	動き	運動の内容	定位	変換	連結	反応	識別	リズム	バランス
2		①片足バランス				●			●
2		②片足バランスくずしすもう	●		●	●	●		●
2		③ストップング	●		●	●	●		●
3	パ	④投げ上げストップング	●		●	●	●		●
3		⑤ストップ・ザ・ボール	●	●		●	●		●
5	ス	⑥手つなぎパス	●	●	●	●	●		●
4		⑦パス&パス	●	●	●	●	●		●
5・6		⑧ナンバーリングパス	●	●	●	●	●	●	●
2		①ケンパー・ジャンプ				●	●	●	●
2	ド	②しっぽ取り	●	●		●	●		
3	リ	③ボールステッピング	●	●		●		●	●
2	ブ	④ボールでなぞろう	●	●		●	●		
4	ル	⑤ドンジャンケン・ドリブル	●	●	●	●	●		
5		⑥ドリブル鬼ごっこ	●	●		●			●
5		⑦しっぽ取りドリブル	●	●		●	●		
全	シ	①リフティング	●	●	●	●	●	●	●
2・3	ユ	②ボール蹴りキャッチ	●		●	●	●		
4	丨	③的あてキック	●	●	●		●		
5	ト	④障害物シュート	●	●	●	●	●	●	●

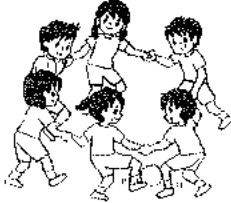

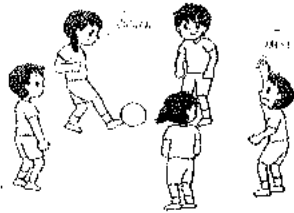
※ 第6・7・8時は、各チームで考えたコーディネーション運動(変化のある反復をさせる)を行う。

そうすることで、新たに運動を創り出す楽しさを体験させ、運動意欲をもたせていきたい。


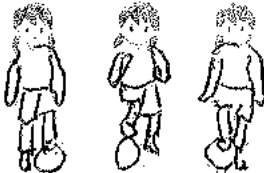

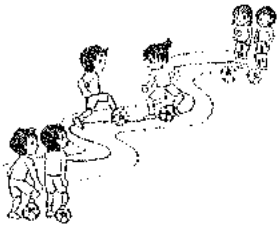
(2)コーディネーション運動の行い方と実践例(バス編その1)

運動名	使用する時間	コーディネーション運動の行い方と実践例
①片足バランス	第2時	<p>①左右どちらかの足で立ち、反対の足がつかないようにバランスを保つ。</p> <p>バリエーション</p> <ul style="list-style-type: none"> ・反対の足で行う。 ・目を閉じて行う。 ・ケンケンで動いてから静止して行う。 
②片足バランスくずしすもう	第2時	<p>①2人1組で向かい合って手をつなぎ、引き合ったり、押し合ったりする。</p> <p>②バランスをくずして両足がついたり、倒れたりしたら負け。安全に注意する。</p> <p>バリエーション</p> <ul style="list-style-type: none"> ・反対の足で行う。 ・合図で相手を替えていく。 
③ストップング	第2時	<p>①1で行う。</p> <p>②ボールを2m程度転がし、そのボールを追いかけ、足の裏でボールを止める。</p> <p>バリエーション</p> <ul style="list-style-type: none"> ★反対の足で行う。 ★インサイドやおしりなど、他の部分でボールを止める。 
④投げ上げストップング	第3時	<p>①1で行う。</p> <p>②ボールを軽く投げ上げて、落ちてきたボールを体のいろいろな所を使って止める。</p> <p>バリエーション</p> <ul style="list-style-type: none"> ★反対の足で止める。 ★膝・おしり・胸などを使って止める。 
⑤ストップ・ザ・ボール	第3時	<p>①2人1組になって、背面から股下を通してボールを転がしてもらう。</p> <p>②ボールが見えたら、すばやく追いかけて、足の裏で止める。</p> <p>バリエーション</p> <ul style="list-style-type: none"> ★反対の足で、足の裏だけでなく、足の内側や外側で止める。 ★頭越しにボールを投げてもらって止める。 



(3)コーディネーション運動の行い方と実践例(パス編その2)

運動名	使用する時間	コーディネーション運動の行い方と実践例
⑥手つなぎパス	第5時	<p>①チーム(4~6人)で手をつないで輪になる。</p> <p>②その輪の中にボールを入れて、パスをしながらボールを運ぶ。</p> <p>バリエーション</p> <p>★ボールを2個にする。</p> 
⑦パス&パス	第4時	<p>①3人1組になって、ボールを2個使う。</p> <p>②両側の人交互に、中央の人にパスをする。</p> <p>③中央の人は、投げられたボールは手で、ゴロのボールは、インサイドキックでパスを返す。</p> <p>バリエーション</p> <p>★ターンをするときは、左右に行う。</p> <p>★3人とも足踏みをしながら行う。</p> <p>★投げられたボールはヘディングで返す。</p> 
⑧ナンバーリングパス	第5時	<p>①チーム(4~6人)で行う。</p> <p>②パスをする順番を決めておき、その順番通りにパスをする。</p> <p>③レシーバーは声やハンドサインをしっかりと出す。パスする人は、パスを出す人の名前を言いながら出す。</p> <p>バリエーション</p> <p>★動きながら行う。</p> <p>★ボールを2個にして行う。</p> 

(4)コーディネーション運動の行い方と実践例(ドリブル編その1)

運動名	使用する時間	コーディネーション運動の行い方と実践例
①しっぽ取り	第2時	<p>①クラス全員で行う。</p> <p>②ゼッケンを体育着のズボンの後ろにつけてしっぽにする</p> <p>③教師の合図で全員がしっぽを取り合う。</p> <p>バリエーション</p> <p>★ゼッケンの色別にチーム対抗で行う。</p> 
②ボールステッピング	第3時	<p>①1人1個ボールを持って行う。</p> <p>②ボールを足下の前に置き、左右交互に足の裏でボールをリズムカルにタッチする。</p> <p>バリエーション</p> <p>★ボールを体の真下に置き、タッチする。</p> 
③ボールでなぞろう	第2時	<p>①1人1個ボールを持って行う。</p> <p>②いろいろな形の線を描いておき、その線をなぞるようにドリブルする。</p> <p>バリエーション</p> <p>★横向き、後ろ向きで行う。</p> <p>★2人組で行う。</p> 
④ドンジャンケンドリブル	第4時	<p>①1人1個ボールを持ち、1チーム(4~6人)として、チーム対抗で行う。</p> <p>②ドンジャンケンをドリブルしながら行う。</p> <p>バリエーション</p> <p>★ドリブルを右足だけ、左足だけ、インサイドだけ、など制限して行う。</p> 

(5)コーディネーション運動の行い方と実践例(ドリブル編その2)

運動名	使用する時間	コーディネーション運動の行い方と実践例
⑤ドリブル鬼ごっこ	第5時	<p>①チーム(4~6人)で行う。</p> <p>②鬼以外の方は、1人1個ずつボールを持ってコート内でドリブルしながら逃げる。</p> <p>③鬼にボールを取られたら鬼になる。</p> <p>バリエーション</p> <p>★鬼の数を2人にする。</p> <p>★コートのを大きさを変えて行う。</p> 
⑥しっぽ取りドリブル	第6時	<p>①1人1個ボールを持ち、クラス全員で行う。</p> <p>②ゼッケンをズボンの後ろにつけてしっぽにする。</p> <p>③ドリブルをしながら、しっぽ取りを行う。</p> <p>バリエーション</p> <p>★チーム対抗で行う。</p> 

コラム1 ポジティブな言葉がけ

「グットジョブ」「それだよ」「もう少し」などポジティブな言葉がけは、子どもたちを緊張や不安から解放する効果があり、モチベーションの向上につながります。





ちょっと気恥ずかしいかもしれませんが、やってみるとこちらの気持ちが弾んできます。初めて取り組む運動や難易度を高めたときなどは特に大切です。

うまくできたとき、できそうなとき、そのときどきに子どもに感情移入し、共感的行動をとるよう心がけるようにします。

人間は、肯定的で開放的な環境が与えられると、自ら能動的に行動する特性を持っている(D. マクレガー,1999)とされています。

(子どものつまづきがみるみる解決するコーディネーション運動 ボール編 より抜粋)

(6)コーディネーション運動の行い方と実践例(シュート編)

運動名	使用する時間	コーディネーション運動の行い方と実践例
①リフティング	全時	<p>①1人1個ボールを持って行う。 ②体の様々な部位を使ってボールを地面に落とさずに何回できるかやってみる。</p> <p>バリエーション</p> <p>★左右交互にリズムよく足で行う。</p> 
②ボール蹴りキャッチ	第2・3時	<p>・足の甲(インステップ)でボールを上蹴り、キャッチ。少しずつ高く蹴り上げていく。</p> <p>バリエーション</p> <p>★反対の足で行う。 ★わざと前後左右にずらして蹴り上げてキャッチする。</p> 
③的あてキック	第4時	<p>①1人1個ボールを持ち、ラインからの的をねらってキックする。 ②最初は、近くの的をねらい、徐々に遠くの的をねらうようにしていく。</p> <p>バリエーション</p> <p>★的までの距離によって得点をつけ、チーム対抗戦を行う。</p> 
④障害物シュート	第5時	<p>①サッカーゴールに段ボール箱などの障害物を置く。 ②その障害物に当てないようにシュートをする。</p> <p>バリエーション</p> <p>★反対の足で行う。 ★障害物を増やす。</p> 

コラム2 アイディアを促す雰囲気

子どもたちからのアイディアを歓迎する雰囲気づくりは、「変化のある反復」で動きをコーディネートしていくコーディネーション運動では、極めて大事なコンセプト。言われたことや教えられたことを単に行うのではなく、新たに運動を創り出す楽しさを体験させます。私たちは与えられたものより、自ら創り出したものを大切にする傾向があります。具体的には、アメリカの経営学者A. オズボーンが考案した「ブレインストーミング」を用いると効果的です。ブレインストーミングには、①批判厳禁、②自由奔放、③質より量、④他者との結合という4つのルールがあります(川喜田, 1991)。子どもたちの動きや発言に集中しましょう。

(子どものつまづきがみるみる解決するコーディネーション運動 ボール編 より抜粋)

サッカーにおけるコーディネーション運動の授業の実際

1 なぜコーディネーション運動か？

日本では今、少子化が進み、さらに昭和60年(1985)頃から体格は良くなっているものの、①体力・運動能力の低下、②身体を操作する能力の低下、③生活習慣病の危険性の高まりといった、懸念すべき状況が報告されている。

これらの直接的な原因として、①学校外の学習活動や室内遊びの時間の増加による、外遊びやスポーツ活動時間の減少、②空き地や生活道路といった子どもたちの手軽な遊び場の減少、③少子化や学校外の学習活動などによる仲間の減少を挙げている(中央教育審議会、2002)。

運動をする「時間」、「空間」、「仲間」が減少している現在、運動経験や運動の日常化の果たす役割は、これまで以上に重要になってくると考える。特に、学校体育では、身体の健全な成長を育むとともに、精神についても同様のテーマを解決できる教科ではないだろうか。

体力・運動能力の低下は、一般的に知られているが、気力・意欲の低下を指摘する人も少なくない。例えば、「話さない、笑わない、すぐ切れる」に象徴されるような、情意面の課題である。

そこで、これらの課題を解決する具体的な方法の一つとして、「コーディネーション運動」が有効であると考えられる。コーディネーション運動は、スポーツ種目や運動種目に対してどんどん細分化していく一方の、分析的な運動ではなく、全身を一つにとらえ、統合的・科学的な視点に立った新しい運動法である。しかし、指導案のp26～30に掲載している運動をご覧になった先生方はすでに体育の授業で行っているものもあるのではないだろうか。素早く動いたり、リズムカルな動きを養うためにコーディネーション運動とは知らずに行っていたと思う。コーディネーション能力は、日本人が得意とする分野である。心身ともに柔軟で、吸収力のある小学校期に適切な刺激を与えていきたい。

2 教師がコーディネーション運動を指導する際に必要な3つの視点

(1) 子どもの運動機会の確保

子どもの中には、必ずつまずきが出てくる。そんな時、コーディネーションの視点からどんな能力を改善したらそのつまずきが解決できるのか、そのための運動例を示す(指導案p23～p30)ことで運動の機会を少しでも増やしてあげようとする。

(2) 子どもの発想を育む

「できるようになる」ことはもちろん重要である。コーディネーション運動の魅力的な要素の一つに「自分たちの運動を創る」がある。与えられた運動を行うだけにとどまらず、創る楽しさを体験して欲しいと願っている。「変化のある反復」で動きをコーディネートしていくコーディネーション運動では、極めて重要なコンセプトである。具体的には、アメリカの経営者A. オズポー

ンが考案した「ブレインストーミング」を用いると効果的である。ブレインストーミングには、①批判厳禁、②自由奔放、③質より量、④他者との結合という4つのルールがある(川喜田、1991)。子どもたちの動きや発言に集中していきたい。そうすることで、私たち大人では考えつかないアイデアがきっと生まれてくると思う。

(3) 教師の指導内容の改善と開発

コーディネーション運動に取り組んでいくと、教師自身にこれまで埋もれていた発想が芽生え、新たな視点で授業づくりができるようになる。子どものできないことに目をつけるより、できそうな課題を模索するのである。可能性を見つけようとした方が、前向きになり気持ちも弾んでくる。そんな教師の心理状態は確実に子どもに伝わっている。

3 コーディネーション運動を取り入れた授業づくりのポイント

① コーディネーション運動導入の目的

サッカーでは、「A. パス」「B.ドリブル」「C. シュート」の3つの運動が主である。それらの観点でコーディネーション能力(指導案のp21参照)を分析していくと、「A. 味方同士パスをする・受ける」【定位能力・反応能力・識別能力・バランス能力】(指導案p23参照)、「B.ドリブルをする(ボールを運ぶ)」【定位能力・変換能力・識別能力・リズム能力・バランス能力】(指導案p24参照)、「C. シュートする」【定位能力・識別能力・バランス能力】(指導案p25参照)が必要である。

そこで、これらの能力を高めるために、19種類のコーディネーション運動(指導案p22参照)を授業の開始から約10分間、準備運動として毎時間確保して行っていった。

② コーディネーション運動の解説及び運動の実際→(指導案p22～30を参照)

③ 意欲づけの工夫

本単元のオリエンテーション時に、実施予定のコーディネーション運動(全19種類)の資料と学習カードを配布し、児童に知らせておくことで、本単元の授業への興味・意欲をもたせる。

また、第6時(本時)～第8時にかけて各チームのリーダーを中心として、前時までに行ってきたコーディネーション運動の中で、チームに必要な運動を話し合わせて授業の中で行わせていく。

④ 場や用具の工夫

毎時間、サッカーボールを一人1個用意することで、短い時間内で運動量を確保するとともに、ボールに触れる機会を増やすようにする。

また、第2時～第5時は、教師が計画しているコーディネーション運動を児童一斉に行い、サッカーにおけるコーディネーション運動に触れさせていく。その際、お互いが運動に熱中するあまり接触することがないように、間隔を十分にとらせていくようにする。

さらに、第6時(本時)～第8時にかけては、各チームで考えたコーディネーション運動を行う

際には2コートを半分からそれぞれ分けて半コートずつを練習の場(p7参照)として使うことで、チームワークを高め、お互いにコミュニケーションをしながら言語活動の充実を行っていくようにする。

4 準備運動におけるコーディネーション運動のポイント

私は、体育の授業において、準備運動にコーディネーション運動を取り入れることを積極的に提案したい。その理由は、

(1) 心身の解放 (2) 運動量の確保 (3) 学習過程の視点

という、3つの要因からである。

(1) 心身の解放

「自由度」がキーワードになる。子どもたちは、本来体を動かすことが好きで、自然な姿でもある。教室の中で、集中して勉強をしていたり、これから教室での勉強が始まる、そんな状況の中で、最大限の自由度を確保した、準備運動が大切になってくる。張り詰めていた心身の緊張を、コーディネーション運動によって和らげていく。そこには、単に走り回るのではなく、「コーディネーション能力の開発」という重要なねらいが、準備運動の段階から設けられている点に着目していただきたいと思う。一見、ワイワイガヤガヤしているのだけれど、児童期に大切な神経系の開発つまり、「コーディネーション能力の開発」というしっかりした軸をもっている点が、大きく異なる点である。

(2) 運動量の確保

「みんなで」がキーワードとなる。片方が行って、一方は待っているのではなく、全員参加型によって、運動量を確保する。待ち時間なしで、準備運動のコーディネーション運動をテンポよく実施していく。毎回少しずつ変わるコーディネーション運動は、子どもたちの知的好奇心を刺激し、動機づけを高めることにつながる。例え授業の前に、何か嫌なことや気になることがあったとしても、みんなで体を動かしているうちに忘れてしまう。あるいは、運動が苦手な子どもは、「入り口」でどうしても立ち止まってしまうがちな傾向にある。そうすると、次に続く主運動では、さらに受け身の状態が形成されてしまうのである。

(3) 学習過程の視点

学習過程の視点から、コーディネーション運動を準備運動に積極的に組み込む理由は、2つの理論を背景にしているからである。第1は、発見学習などを提唱したアメリカの教育心理学者ブルーナーの認知発達論にもとづいた学習過程の視点である(ブルーナー、1970)。

ブルーナーは、学習過程には次の3段階があると報告している。

ア. 行動的把握(低学年)

行動的把握とは、直接に手で握っているとか、動いてみるとか視野に入ったものなど直接的な行動によって事物を把握することをいう。例えば、自転車乗りを学ぼうとしている子どもに対して、「ほら、ハンドルを柔らかく握るんだ。それ、ペダルを踏むんだ」とかたわらから言語指示をしても、それは無駄である。なぜならば、指示した言語は、子どもの耳に届きはするが、子どもの手足の筋肉運動と結びつかないからである。つまり、行動的把握の子ども(低学年)には、心的な内面過程が未完成であり、言語指示を受け入れる心的素地がほとんどないため、といわれている。

イ. 映像的把握(中学年)

事物を視覚的ないし聴覚的なイメージとして、把握したり表現したりする段階になる。例えば、人と物との距離を測るとき、動いて実測するのが行動的把握(低学年)であり、視覚による目測が映像的把握(中学年)である。鬼ごっこをさせた時、幼児期ではよく子ども同士でぶつかるケースがある。これは、目測つまり距離感が未発達なために起きているのであり、行動的把握(低学年)の段階であることが分かる。行動的把握(低学年)における直接的な身体動作から、頭の中での動作に転化したものが、映像的把握(中学年)ともいえるのである。

ウ. 記号的把握(高学年)

「記号的把握」とは、事物を言語記号によって把握したり、表現したりすることである。言語は、内容(意味されるもの)とこれをいい表す簡潔な記号(意味するもの)とから成り立っている。言語は、映像を簡潔に記号化し、脳へ貯蔵し自由に引き出すことを可能にする。さらに重要なこととして、記号的把握(高学年)は、他者との交流が自在である、という点である。例えば、ボールを投げ上げて落ちてきたボールを足でとめる、あるいは体のいろいろな所を使ってボールをとめる「投げ上げストップング」というコーディネーション運動を行う時、「逆足でボールをとめてみましょう」「胸でトラップしてみよう」「お尻でもとめてごらん」と言った説明が可能となるのである。

第2は、体験的な学習の提唱者でもある、アメリカの心理学者コルブの「学びの4タイプ」モデルである。コルブは、人は、体験的に学ぶという前提のもとに、情報の認識の仕方と情報の加工方法によって、大きく4つのタイプのモデルをつかった。それは、以下の通りである。

- ① 見たり、聞いたり、読んだりして学ぶタイプ
- ② じっくり考えることによって学ぶタイプ
- ③ 動いたり、実際に試してみるによって学ぶタイプ
- ④ フィーリングや感情、直感などを大切にして学ぶタイプ

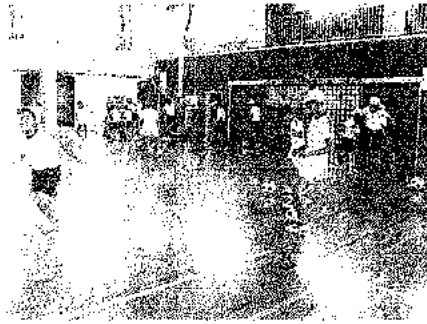
このタイプ分けは、一人の人が一つのタイプに完全に当てはまるのではなく、4つを順番にカバーするように学んだ方が、よりよく学べるという。教室の授業では、①のタイプの学び方が主流ではないだろうか。実際には、その他の学び方を得意とする子どもたちがいる。そして、

体育の授業こそが、この4タイプを実践できる最適な場であると考え。特に、準備運動からコーディネーション運動を行うことで、子どもたちに合った学びの機会が提供できると考える。

5 児童の活動の様子(第2時～第5時)



【第2時:ストップング】



【第3時:ボールステッピング】



【第4時:ドンジャンケンドリブル】



【第5時:手つなぎパス】

6 今後の授業におけるコーディネーション運動の流れ

サッカーの単元は全8時間である。その中の第6・7・8時には、各チームのリーダーが中心となって、自分たちチームには、今コーディネーション能力のどの部分が必要なのかを話し合わせ自分たちで「パス」「ドリブル」「シュート」のコーディネーション運動を考えさせていく。

そして、自分たちでコーディネーション運動を創り出し運動の楽しさ・喜びを味わわせていきたいと考えている。

(7) 授業研究会(5・6年 サッカー 10月16日(金)実施)

【1】 授業者の反省

- ・アンケート結果を見ると「体育がすき」と答えている児童は多いが、サッカーに関しては女子の中に「きらい」と答えている児童が数名見られた。異学年の男女混合チームで作戦をたてて試合を楽しんでいくために本授業の場の設定を取り入れた。
- ・雨天が続き、ルールやコートに十分慣れることができなかった。
- ・最初はうまく作戦をたてることができなかったチームも、少しずつ協力して自分のチームに合った作戦をたてられるようになってきた。
- ・ラッキーゾーンにパスを出し、前線にボールをつないでいけるようになってきた。
- ・得点場面が少なかったため、ゴールを大きくしたりゴールエリアを小さくするなどの工夫が必要であった。
- ・個人のめあてを持ち、コーディネーション運動に取り組むことでボールの扱いが上達しゲームを楽しめるようになってきた。
- ・「時間」「空間」「仲間」の三つの間を意識した授業の展開が重要であるが、45分の授業の中でいかに運動量を確保し意識した。

【2】 研究協議(各視点から)

① 児童の活動について

- 場の工夫や道具の準備がしっかりされていたので、児童がよく動いていた。
- 児童の試合や話し合いに参加する態度がすばらしかった。

② 教師の支援について

- 授業の始めにT1が各チームの特徴をまとめていたので、各チームが前時からの授業の流れをつかむことができている。
- 作戦を変更する際も理由を考えさせていたのがよかった。
- デジタイマーを使ったことで時間のけじめがつき、テンポのよい授業となっていた。

③ 評価方法について

- 「はじめ」「なか」「終わり」で評価が明確にされており、作戦タイムやまとめの時間にT1・T2がしっかり観察を行っていた。
- チームの作戦タイムなどを通して、児童がお互いの評価をすることができていた。
- 児童が毎時の授業をふり返る学習カードがあるとよいのではないか。

④ 指導方法の工夫改善について

- 異学年の男女混合チームで活動ができる場の工夫、道具の準備がなされていた。
- コーディネーション運動の資料が準備されており、児童が見通しを持って授業に参加していた。
- 「作戦タイム」「学習のまとめ」など言語活動の場面においては、各チームのリーダーが中心となり、積極的にまとめていこうとする態度が見られた。
- 児童たちは本音を出し合いながら話し合いに参加しており、その結果チームワークが生まれていた。

⑤ その他

- 指導案の本時の流れの中に予想される児童の反応が書かれていると、指導案がわかりやすくなるだけでなく指導に余裕が生まれてくると考えられる。
- 授業の始めそのままコーディネーション運動に入っていたが、運動に入る前に授業の流れの確認をしたほうがよい。

【3】 質疑応答

Q. 児童にめあてを持たせるときにはどういう点に注意しているか。

A. 授業を進めていく中では子ども達により具体的な言葉を使うよう指示している。

- ・体力テストなどの結果をファイルし、ふり返ることで自分の体力の特徴に合っためあてを立てられるようにしている。

【4-1】 指導助言① 八重山教育事務所 指導主事 大浜 譲

I 本時の授業について

1 指導案からうかがえる点

- 運動の特性を、児童の実態とも絡めてよく理解している。
- アンケート調査や体力テストの結果、休み時間の過ごし方やこれまでの体育学習の様子等から児童の実態をよく把握している。
- 男女混合のチーム編成で授業を実施している。すばらしい。
- 本単元と研究主題との関わりがきちんと表されている。
- 全回の研究授業に引き続き、「言語活動の充実」が図られている。
- ボールを人数分用意するなど児童の活動を十分に支援できる準備・体制ができています。
- 時間配分の2～7時間目の下段に、学習の振り返りを入れたほうがよい。
- 児童が学習を振り返って自己評価する記載を入れるとよい。

2 授業から

- 授業前、T1 が各チームに声をかけて本時のめあてを確認していたこと、そして雨の後の滑りやすくなっている場所を教え安全面について声をかけていたことがよかった。
- 子ども達の意欲が高く、積極的に授業に参加していた。
- セルフジャッジができていた。
- 授業を休んでいる児童がコートの外から声をかけたり作戦タイムに参加できるようにする。
- 点数が入りやすくなる場の工夫が必要であった。

3 その他

- 授業の時期・総時数・指導案の文言など、年間指導計画との整合性をはかる。
- 年間指導計画の製本の工夫が必要である。

【4-2】指導助言② 与那国町教育委員会指導課長 東小浜 功尚

- 動きが少ないと思ったが、コートの工夫だと分かった。その中で、よく動いており、特に女子がたくましかった。

【4-3】指導助言③ 校長先生から

- ・ 今後の体育学習は、「考える体育」が主流になってくると思う。今回の授業ではそれを先駆けるような授業展開で良かった。今後も児童と共に頑張ってもらいたい。

【5】激励の言葉 与那国町教育委員会教育長 崎原 用能

- 今回初めて、体育の授業を見学させてもらったが、児童が生き生きしていた。特に、女子が元気があり良かった。今後も研究校として頑張ってもらいたい。

【6】成果と今後の課題

〔成果〕

- 場の工夫に取り組むことで、異学年の男女混合チームでも協力して作戦を立てサッカーを楽しんでいた。
- 各チームに作戦ボードやワークシートを準備することで、児童相互の関わりが生まれ言語活動の充実を図ることができた。
- コーディネーション運動の資料や学習カードを事前に配布したことで、児童たちは見通しを持って授業に参加することができた。
- 具体的な評価基準を作成し、指導と評価を計画的に進めることができた。

〔課題〕

- 体育の授業における言語活動をさらに深めていくための指導工夫が必要である。
- コーディネーション運動を個人のめあてから主運動のダイナミックさをもつものへと発展させていきたい。
- 児童からの意見を生かしたり、教師から提案したりする形で特別ルールや場の工夫を加えていき、さらに子ども達の実態に合った授業にしていく。

食教育 3年生の学習の様子



給食で心がけている事を発表しよう

みんなの給食をビデオでふり返ろう

にがてなものを先に食べています。

おしゃべりが多いなあ

苦手な物食べるコツ みんなでまとめよう

みんなのコツはどんなものだろう？

これとぼくが書いたのは同じ考えだ！



食教育 5年生の学習の様子

何色の食品かな？

ダイコンは白いけど…緑？

のり？大豆は？

あってるかな？

イカや貝は…

学級活動指導案

平成21年6月30日(火) 5校時
 3学年男子8名 女子4名 計12名
 授業者 上地 真由美
 共同研究者 仲本 史佐

1. 題材名 「ペロリ賞の極意を考えよう」

2. 題材設定の理由

(1) 題材について

児童はこれまで「食品は働きによって赤・黄・緑にわけられること」を学習してきた。自己の普段の給食の摂り方を見つめる学習によって、何が苦手な食べ物か意識している。

多くの児童は、栄養のバランスを考えて食べるというよりも、「好き」か「嫌い」かで食品を判断し、給食のメニューによっては食べ残しが見られる。

そこで本題材を通して、自分の給食の食べ方を振り返りながら課題点を把握し、めあてを持って、バランスよく食べようとする態度を身に付けさせたいと考え、本題材を設定した。

(2) 児童について

児童は給食の時間を楽しみにしている。また、完食シールや完食の記念写真を取ることで残さずに食べようとする意欲が高まってきている。

しかし、苦手としている食材が出てきたら、手をつけずに残す偏食の児童や少食の児童が見られる。また、よくかまずに食べ終える児童がいる反面、時間内では食べ終われない児童も見られるのが現状である。

(児童のアンケートから)

「食のアンケート」			
(6月実施 調査人数3年生:12名)			
○給食は好きですか。			
大好き	好き	どちらとも言えない	きらい
58.3%	33.4%	8.3%	0%
大好き、好きの理由			どちらとも言えない理由 [ふつうだから]
おいしいから ・ きらいな物が食べられるようになるから いつも食べる物だから ・ 苦手でも食べるとおいしいから いろいろな種類が出てくるから ・ きらいな物が出るから好き			
○給食できらいな食べ物はありますか			
ある	少しある	ない	
33.4%	41.6%	25%	
きらいな食べ物 (複数回答)			
[クンティ (5名) しいたけ (3名) トマト (2名) 長命草・ブロッコリー・ゴーヤ・いか・しいたけ・果物・豆 (1名)]			
○きらいな食べ物が給食にでたら、どうしますか。			
がんばって全部食べる	少し食べる	食べない	
60%	40%	0%	
○朝ご飯を食べますか。			
毎日よく食べる	毎日少しだけ食べる	ときどき食べない日もある	ほとんど食べない
83.4%	8.3%	8.3%	0%
食べる理由			
[・お母さんがあげるから ・ 食べないとおこられるから ・ おいしいから ・おなかへるし、パワーが出ないから ・ 毎日食べないと4校時までたないから ・元気でいたいから]			
ときどき食べない日がある理由 [わほうするときがあるから]			
○お家の食事できらいな物が出たら、どうしますか			
がんばって全部食べる	少し食べる	食べない	
66.6%	33.4%	0%	
○運動は好きですか。			
大好き	好き	あまり好きではない	きらい
58.3%	25%	16.7%	0%

〈アンケート結果から〉

- ・給食がきらいな児童はいないが、特定の2・3名の児童は、給食を残しがちである。
- ・きらいな食べ物が多い児童は、緑の食品群（体の調子を整える食べ物）を多く挙げている。
- ・運動が「あまり好きではない」と回答している児童の中には、偏食する児童が1人、完食する児童が1人であるが、ともに肥満傾向にある児童である。

(3) 指導について

今後、総合的な学習の時間や他教科と関連して指導していく。

本題材では3学年児童の実態に合わせて、学級担任が指導していく。展開の中で、ケーススタディを通して児童の実態を見直し、課題や問題点を把握させたい。まとめでは、給食を完食するためのめあてを一人一人に考えさせ、今後の食生活に生かせるようにしていきたい。

3. 研究主題とのかかわり

研究主題

「運動に親しみ、たくましい体と心をつくる児童の育成」
～一人一人がめあてを持ち、主体的に取り組む体育学習を通して～

(1) 研究仮説と本校における健康教育の目標

研究仮説3

普段の自己の食生活を見つめなおしながら、体により食べ物と必要な量を知ることによって、望ましい食習慣が身につく、食行動を実践することができ、たくましい体と心の備わった児童を育成することができるであろう。

健康教育の目標

- ・食べ物の働きや栄養についての理解を深める。
- ・友達と協力する心や、食に関わる人々への感謝の気持ちを育てる。
- ・食事を楽しんだり、食事マナーの指導を通してよりよい人間関係を築く。
- ・児童が自らの健康の大切さを知り、望ましい食事の習慣を身につける。



(2) 中学年における食育の重点的な取り組み事項

本校の研究主題に掲げている「運動に親しみ、たくましい体と心をつくる」ためには、多くの事に興味関心が高く、心身の成長が顕著なこの時期に、運動の楽しさと共に、自己の食習慣について考えることが大変重要であると考えます。

児童は、教育活動全体を通して、自己の健康状態や体づくりの基礎となる食生活について学習していく。中学年の取り組みとして、体の健康・心の健康・社会性・自己管理能力の4観点から進めていく。また、望ましい食習慣の形成には、家庭の協力が不可欠であるので、連携を取りながら進めていく。

4. 指導計画

指導過程	指導内容
事前	<ul style="list-style-type: none"> ○食品には3つの働きがあることを知る。(赤・黄・緑) ○給食はバランスよく食品が組み合わせられていることを知る。 ○給食の完食状況を献立予定表に毎日チェックし、記入する。
本時 (学級活動)	<ul style="list-style-type: none"> ○給食の摂り方をふり返り、問題点を把握する。 ○給食の良い食べ方のアイデアについて話し合う。 ○完食の極意を考え、実践していこうとする態度を育てる。
事後 (給食時, 他)	<ul style="list-style-type: none"> ○苦手な食べ物チャレンジカードの活用を図り、定期的にチェックしてめあてをふり返る。

5. 本時の展開

(1) 本時のねらい

- ①自分の給食の摂り方をふり返り、課題や問題点に気づくことができる。
- ②これからの給食をよりおいしくいただくためにはどうしたらいいのか考え、実践していこうとする態度を育てる。


(2) 授業仮説




ケーススタディでの話し合いや普段の給食の摂り方をふり返り、一人一人に合った給食ペロリ賞（完食）の極意を作ることによって、これからの給食をよりおいしくいただくとうとする態度を養うことができるであろう。

(3) 準備

- ・ワークシート、付箋紙、給食献立表（児童用）
- ・栄養表、掲示用資料（食材の絵、ケーススタディの絵）、給食時間のビデオ、移動黒板〔教師用〕

(4) 展開

	学習活動	◎発問・予想される児童の反応	・指導上の留意点 ◎評価
10分	<p>導 入</p> <p>1. 事前に行った学習をふり返る。</p> <p>2. 食べるための意義を確認する。</p> <p>3. 給食の完食状況を把握する。</p> <p>4. 本時のめあてを知る。</p>	<p>○今日の給食を3つの仲間に分けてみましょう。</p> <p>・キムチ丼は、赤・黄・緑の3つの食材が入っている。</p> <p>○なぜ、みなさんは給食を食べるのでしょうか。</p> <p>・おなかがすくから。</p> <p>・動くためにパワーが必要だから。</p> <p>○チェックした献立表を見てみましょう。</p> <p>・やっぱり緑の仲間を多く残してしまっているなあ。</p> <p>○苦手な物もおいしく食べるコツを学習して行きましょう。</p>	<p>・食品分類表をもとに3色の働きを確認する。</p> <p>・給食は栄養のバランスがよいメニューになっていることを押さえる。</p> <p>・継続してチェックした献立表から食べ残した食材をふり返り、苦手な色の仲間を知る。</p>
展 開	<p style="text-align: center;">ペロリ賞の極意を考えよう</p> <p>5. 給食で心がけていることを発表する。</p> <p>6. ケーススタディで食べ方を考える。</p>	<p>○ペロリ賞をするためにがんばっていることを教えてください。</p> <p>・三角食べをしているよ。</p> <p>・最初の5分はもぐもぐタイムで食べているよ。</p> <p>・苦手な物を先に食べているよ。</p> <p>○いつもの自分と近い方の絵はどれですか。</p> <p>○好き嫌いをして好きなものだけ食べると、午後からの体はどうなると思いますか。</p> <p>・おなかがすく。</p> <p>・元気が出ない。</p> <p>○苦手な物を食べるコツを教えてくださいあげましょう。</p>	<div style="text-align: center;">  </div> <p>・ワークシートを配布する。</p> <p>・2種類の絵を提示し、自分に近い方を選ばせる。</p> <p>・心身の不調が起こると共に、お菓子などの間食が増えることを押さえる。</p> <p>・ワークシートに記入させ、数名に発表させる。</p>

	学習活動	○発問・予想される児童の反応	・指導上の留意点 ◎評価								
展 開 28分	<p>7. 普段の様子を ふり返る。</p> <p>(1) コツをワークシートに 記入後、付箋紙 に書く。</p>  <p>(2) 一人一人発表する。</p> <p>(3) みんなの考えを 確認する。</p> <p>8. 自分のペロリ 賞のための極意 を考える。</p>	<p>○発問・予想される児童の反応</p> <ul style="list-style-type: none"> ・好きな物といっしょに食べる。 ・おいしい物と思って食べる。 <p>○ビデオを見て、給食の食べ方で 気づいたことを教えてください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・しゃべっているグループとしっ かり食べているグループがある。 ・まめだけ残している。 <p>○給食が終わった時の写真です。 どう思いますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・もったいない。 ・もっと食べればよかった。 <p>○給食を残さないように、苦手 な物を食べるコツをおすすめ しよう。</p>  <p>○一人一人のペロリ賞のための 極意を作ろう。</p> <table border="1" data-bbox="534 1131 965 1265"> <tr> <td colspan="2">ペロリ賞の極意</td> </tr> <tr> <td>その一、</td> <td>べし</td> </tr> <tr> <td>その二、</td> <td>べし</td> </tr> <tr> <td>その三、</td> <td>べし</td> </tr> </table>	ペロリ賞の極意		その一、	べし	その二、	べし	その三、	べし	<ul style="list-style-type: none"> ・普段の様子をビデオ映 像や写真で知らせ、時 間内に食べるための工 夫や改善点について気 づかせる。 <p>◎自分の給食のとり方を ふり返り、課題や問題 点に気づくことがで きたか。【思考・判断】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コツを書いた付箋紙を模 造紙に張り出し、同じ考 えをまとめて、全体で確 認する。 <ul style="list-style-type: none"> ・栄養面等から考えて2 つ以上考えるように促 す。進まない児童には、 友達のコツをもらって も良いことを促す。 <p>◎これからの給食をよりお いしくいただくためには どうしたらいいのか考え、 実践していこうとしてい るか。【関・意・態】</p>
ペロリ賞の極意											
その一、	べし										
その二、	べし										
その三、	べし										
ま と め 7分	<p>9. 本時のまとめ をする。</p>	<p>○ペロリ賞の極意を発表しましょう。</p> <p>○今日のふり返りをしましょう。</p> <p>○感想やわかったことを発表し ましょう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・児童数名に発表させる。 								

6. 評価

①自分の給食のとり方をふり返り、課題や問題点に気づくことができたか。

②これからの給食をよりおいしくいただくためにはどうしたらいいのか考え、実践していこうとしているか。

7. 板書計画

めあて

ペロリ賞の極意
を考えよう

食べることの大切さ

ケーススタ
ディの絵

ケーススタ
ディの絵

苦手な物を
食べるコツ

みんなの給食は？

給食の
写真

給食の
写真

給食の
写真

おしゃべり

かむ

にがてな物

準備時間

ペロリ賞の極意

その一、べし
その二、べし
その三、べし

給食をのこさないように、
苦手な物を食べるコツ

8. 座席表

黒板

崎元
りゆうたろ

小嶺
しゆん

山川
ともりのり

慶田高
あや

相田
りお

高山
りゆうすけ

池田
りゆうせい

前盛
のあ

糸数
ごうた

岩下
なつき

松尾
あつき

仲本
やすひろ

9. 資料

・事前授業での児童のワークシート

3年10組

①あなたの好きな食べ物やにがてな物は、赤・黄・緑のどのなかまに入りますか。

好きな食べ物	赤	黄	緑
バナナ	○	○	
豆腐		○	○
牛乳	○		
パン	○	○	

わたしのにがてな物は()のなかまが多いです。

3年10組

①あなたの好きな食べ物やにがてな物は、赤・黄・緑のどのなかまに入りますか。

好きな食べ物	赤	黄	緑
ケウマノリ	○	○	
クシデ		○	○
ゴーヤ	○		○
くだもの	○	○	

わたしのにがてな物は()のなかまが多いです。

②金曜日の給食に味わっていた食べ物を、赤のなかま・黄色のなかま・緑のなかまにわけてみましょう。

金曜日(6/12)の給食	赤	黄	緑
ごはん			○
お粥			○
シューレー			○
ぶたにく			○
たまねぎ			○
お豆腐			○
かまぼこ			○
ほししいたけ			○
ヘチマ			○
とうふ			○
こまつな			○
ひるにく			○
おから			○
うめいり子			○
さくらげ			○
もやし			○
ツテ			○
さんま			○
しょうが			○
牛にゅう			○

今日の給食を味わったこと、これからの給食生活で気をつけたいことを書きましょう。

私は次からきらいな食べ物をすこしでも食べれるようにがんばりたいです。おなごころ元気なになれるように。

③金曜日の給食に味わっていた食べ物を、赤のなかま・黄色のなかま・緑のなかまにわけてみましょう。

金曜日(6/12)の給食	赤	黄	緑
ごはん			○
お粥			○
シューレー			○
ぶたにく			○
たまねぎ			○
豆腐			○
かまぼこ			○
ほししいたけ			○
ヘチマ			○
とうふ			○
こまつな			○
ひるにく			○
おから			○
うめいり子			○
さくらげ			○
もやし			○
ツテ			○
さんま			○
しょうが			○
牛にゅう			○

今日の給食を味わったこと、これからの給食生活で気をつけたいことを書きましょう。

私は次からきらいな食べ物をすこしでも食べれるようにがんばりたいです。おなごころ元気なになれるように。

3年 授業研究会

【1. 授業者の反省】

- ・4月当初から給食の残量が見られ、全体での完食が少なかったことより本題材を設定した。
- ・好き嫌いをする児童の中には、野菜が圧倒的に多かった。そのことより、事前では、栄養素について取り上げ、赤・黄・緑の食品の働きについて学んでいった。
- ・本時は完食をするための極意（コツ）を考え、ビデオや写真を使って児童の実態を振り返り、全体でまとめていった。
- ・展開に時間がかかり過ぎて、まとめが十分にできなかった。
- ・極意を3つ挙げる中で、1つや2つしか挙げられなかった児童に関しては、友達の見聞をもらうこともよしとして、互いに学び合うようにした。
- ・嘔む回数や朝食などについては、今後の指導に計画している。
- ・前日の交流学习で比川小学校の児童が毎日完食していることを聞き、共に完食できたことが良いきっかけとなった。完食しようという意識の変化が伺える。

【2. 児童の活動について】

- 給食という身近な題材で児童の活動があり、良かった。
- ビデオで実際に給食の様子を振り返ることができていた。

【3. 教師の活動について】

- 発言にメリハリがあった。
- 机間巡視で児童のつぶやきを拾って、認めていた。
- 視覚に訴える教材が効果的であった。
- 考えを付箋紙に書き、全体でまとめる活動を取り入れる事で、言語活動の充実が見られた。
- 苦手な物を食べるコツについて、児童の考えを発表させて板書し、その後ワークシートに記入させるという同じ活動を二度していたので、すぐにワークシートに移っても良かったのではないか。

【4. 評価方法】

- 児童の発言を認めたり、児童が努力している事を取り上げて認めるなど、言葉での評価が見られた。
- 評価をワークシートで行ったので、指導案に、評価の項目を明記すると良かった。

【5. 指導方法の工夫・改善】

- フラッシュカードや食材の絵、ビデオなど教材が充実していたで、児童が興味を持っていた。
- 児童の考えを付箋紙に表し、同じ考えをまとめること（k j法）によって、めあてに迫る意見の練り合いが行えた。
- コの字型の座席によって、話し合う雰囲気が高まった。
- 時間内に終える事が大切である。（導入：10分 展開：40分 まとめ：5分）
- 意見を述べた児童が分かるように、板書の工夫が必要である。

【6. その他】

- ・「極意」と言った時に、児童が意味を捉えられるように指導が必要である。
- ・授業展開が極意を見いだすための流れであったため、本時のねらいの中でも文言で明記できるとよかった。
- ・導入で「きよたかさんへ教えよう」で始まったが、完食をするための自分自身への極意作りで終わった。その中から、全体で1つは押さえてほしかった。
- ・完食の極意を一人一人立てたことから、今後も児童に意識させながら、学級経営に繋げてほしい。
- ・食教育は、他教科や総合とも繋げて指導していく必要がある。
- ・きらいな物でも食べようという考えで授業が進んで行ったが、正論だけではなく反対意見はなかったか。議論できないだろうか。

- ・学習用語の活用、話し合い活動のきまりの確認など、授業の進め方を検討していく必要がある。
- ・食教育について、年間を見通した計画を校内で立てていく必要がある。

【7. 質疑応答】

- Q. 給食を完食するという事は、教師側と児童側からのかどちらから出たのか？
- A. 児童の実態を見て、教師から働きかけをした。(個人の完食では完食シールの配布、学級全体での完食では記念写真を撮っている。)
- Q. 今日の授業で難しかった点は？
- A. 児童の実態を振り返ることで、食べない児童が責められることのないように留意して、各個人への意欲付けができるように指導計画を立てたこと。
- Q. 完食(ペロリ賞)をするために『おしゃべりをしない』と極意を挙げた児童がいたが、どのように食べるとよいのだろうか？
- A. 楽しみながら食べるという視点からも全くしないというわけではないが、食べるスピードなども考慮して、最初の5分や最後の5分は食べることに集中するなど、発達段階を踏まえて指導している。

【8. 指導助言①(栄養士：糸数 やえ子氏)】

- ・良い授業であった。献立表の活用がよかった。
- ・学校全体で食教育の柱を立てて、低・中・高で年間を通して指導してほしい。
- ・食べることの大切さとして、大きくなるために食べるという、児童の発言が見られなかった。こうしたという成果的な目標を立てて、どのような食べ方がいいのか見通して指導していくことが必要だと考える。
- ・食べることの姿勢(よくかむ・三角食べなど)についても、なぜいいのか考えられたら良かった。

指導助言②(与那覇 仁一教育課長)

- ・教室は芝居に例えると舞台、教師は監督、児童は役者である。45分で収めることを念頭に置き、毎時間を大切に行っていくこと。
- ・授業を作る前の準備がよくされていた。
- ・喜びを感じるような授業を行い、子どもに意欲付けを行ってほしい。

指導助言③(校長)

- ・3年生の発達段階や学級の実態をよく把握し、その課題の改善につなげようとする良い授業、取り組みであった。普段の学級経営の良さが表れた授業であった。
- ・継続指導を行い、成長につながる「毎日完食」をめざして頑張してほしい。

【9. 成果と今後の課題】

〔成果〕

- 児童の実態に即した題材を選ぶことで、学級全体で給食を完食しようとする意識が高まった。
- 栄養素を意識して、給食のメニューを見る児童が増えた。
- 苦手な食べ物へも挑戦しようとする児童が見られた。

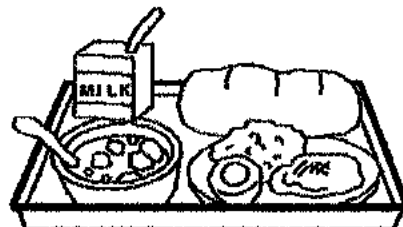
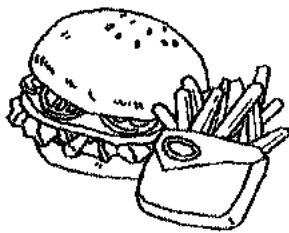
〔課題〕

- ・朝食や食事内容など、家庭と連携を取った今後の指導の充実。
- ・食教育と運動との関連性を深めるための年間指導計画の作成。
- ・食教育と研究テーマ「たくましい体と心をつくる児童の育成」との関連性を考慮した指導の工夫。

学級活動指導案

研究主題

「運動に親しみ、たくましい体と心をつくる児童の育成」
～一人一人がめあてを持ち、主体的に取り組む体育学習を通して～



与那国町立 与那国小学校
平成21年11月24日(火) 5校時
5年 男子5名 女子7名 計12名
指 導 者 5年担任 金城 由利佳 (T 1)
栄養士 糸数 やえ子 (T 2)
共同研究者 6年担任 水見 拓磨

学級活動学習指導案

平成21年11月24日(火) 5校時

5年 男子5名 女子7名 計12名

指導者 5年担任 金城 由利佳(T1)

栄養士 系数 やえ子(T2)

共同研究者 6年担任 水見 拓磨

1 題材名 「たくましい体を育もう」 一食の見なおしを通してー

2 題材設定の理由

(1) 題材について

たくましい体と心を育むことをめざして、本校の研究が推進されている。特に体育学習指導においては自己の体力の実態を把握し、様々な運動機能や体力の向上をめざし、自らめあてを持って学習に取り組ませている。

一方において、「たくましい体」の基礎づくりである食教育にも目を向けることは重要である。本校の研究仮説(3)にもその内容が挙げられているように、バランスのとれた食事と適度な運動が体の発育に深い関わりがあることを理解させる必要がある。

そこで、成長期はもとより生涯にわたって、健康で生き生きとした生活を送ることの基盤は、栄養的にバランスのとれた食事を摂ることが大切であることを理解させたい。また、自己の「たくましい体」づくりや、健康を考えて主体的に食に関わっていくこうとする態度を育成するとともに、進んで実践できる力を培うことが大切であると考え本題材を設定した。

(2) 児童について

5年生はこれまでに、栄養士との T・T 授業で赤・黄・緑の食品分類とその働き、主食・主菜・副菜の量とバランスを学習し、それをふまえて自己の1週間の食事の見なおしを行ってきた。また、PTA の家庭教育学級で「親子でお弁当作りをしよう」を実施したことで、作る楽しさやその喜びを体験することができ、食事に対する興味・関心を促すことができた。

学習を始めた当初は「今日のメニューの中で嫌いなものある？」の問いに対して、「これ」「この赤いの」「にゅるにゅるしたもの」「白いブロッコリー」などメニューや食材の名称を知らないため、給食時にはこのような会話を耳にすることがあった。このことから、それほど食べものに関心をもって食事を摂っていないことが伺えた。

〈アンケートの結果と考察〉

平成21年10月23日実施 12名

①食べ物の好き・きらいがありますか。

1	ある	4名	33%
2	少しある	6名	50%
3	ない	2名	17%

②好きな食べ物を3つ書いてください。

1位	揚げパン(5)	2位	すし(4)	3位	カレー、肉(3)	4位	果物(2)
----	---------	----	-------	----	----------	----	-------

③きらいな食べ物を3つ書いてください。

1位	長命草(4)	2位	ゴーヤー、クシティー、トマト、アボカド(2)
----	--------	----	------------------------

④きれいな理由を書いてください。

〈味〉	〈食感〉
苦い, すっぱい, まずい	ネバネバ, 気もちわるい, くさい, ぶよぶよ

⑤きれいな食べ物が出たらどうしますか。(きれいな食べ物がない子は含んでいない)

1	食べる	7名	70%
2	少し食べる	3名	30%
3	食べない	0名	0%

〈その理由〉
～食べると答えた子 7名～
・好きになるため。(2)
・もったいないから。(1)
・自分のきれいな食べ物には栄養があると思うから。(1)
・残飯にしたらためだから。(1)
・食べないと肉がつかないと家族に言われたから。(1)
・怒られるから(1)
～少し食べると答えた子 3名～
・少しでも食べないといけないと思うから。(2)
・全部食べたからお腹が痛くなるから。(1)

⑥朝食を食べていますか。

1	毎朝食べている	12名	100%
2	ときどき食べる	0名	0%
3	食べない	0名	0%

⑦朝食の内容について、自分に一番近いものを選んでください。

1	主食のみ(ご飯・パン・めんだけ)	6名	50%
2	主食とみそ汁またはスープ	3名	25%
3	主食とおかずのそろったもの	3名	25%
4	みそ汁スープだけ	0名	0%
5	おかずだけ	0名	0%

⑧体の大きさと食事は関係があると思いますか。

1	ある	10名	84%
2	ない	1名	8%
3	わからない	1名	8%

⑨体力と食事は関係があると思いますか。

1	ある	11名	92%
2	ない	0名	0%
3	わからない	1名	8%

〈考察〉

どの児童も、「きれいな物でも食べるようにしたい。」という願望はあるが、なぜ、きれいな物でも食べないといけないのかの理由についてわかっている児童は少ない。また、栄養バランスが体位や体力と関係があることもなんとなく分かってはいるが、具体的にどう影響しているのかは理解していない。さらには、児童の活動源となる重要な朝食の内容が単一食の児童も多いことなどから、栄養バランスに備わることが伺える。

(3) 指導について

児童の実態や調査結果をもとに、食品カードを使って3つの食品群に含まれる栄養素について再確認させるとともに、栄養素の働きや栄養障害についてていねいに指導し、健康の保持・増進のために、バランスよく食べることが大切であることを理解させたい。

さらに、自己の食生活を見なおし、栄養の面でバランスのよい食事が健康でたくましい体をつくることを理解させ、自己の発育や体位や体力の向上に向けて主体的な活動を促していくことにより、食に関する自己管理能力を高めていきたい。

3 研究主題とのかかわり

(1) 研究主題

「運動に親しみ、たくましい体と心をつくる児童の育成」

～一人一人がめあてを持ち、主体的に取り組む体育学習を通して～



(2) 研究仮説3

普段の自己の食生活を見なおしながら、体によい食べ物と量を知ることによって、望ましい食習慣が身に付き、食行動を実践することができ、たくましい体と心の備わった児童を育成することができるであろう。



(3) 指導の重点

「たくましい体と心の備わった児童を育成すること」を考えたとき、体をよく発育させるために大事なこととして、バランスのとれた食事をする、体を動かして遊ぶなどの運動をすること、深い睡眠をとり疲れをとること等が挙げられる。その中でも、バランスのとれた食事と適度な運動が体の発育に深い関わりがある事を理解させる。さらに、自己の食生活をふり返ることで、自己の課題に気づき、今後どのように取り組んでいくのかを考えさせ、実践につなげていけるよう支援する。

4 指導計画

時	題材名	児童の活動内容	教科との関連	評価の観点	形態
	一週間の食事調べをしよう	○一週間の食事を調べる。	宿題	・一週間の食事をきちんと調べ、まとめることができる。	各家庭
1	どんなものを食べているのだろう	○毎日、どんな食事をしているか食事調べカードで確認する。 ○食品を栄養素ごとのグループ（赤・黄・緑）に分ける。	家庭科	・栄養素ごとに食品を分類することができる。	担任
2	バランスのよい食事をしよう	○なぜ食事をするのかを考え、栄養バランスの大切さを理解する。 ○給食メニューの食品を栄養素ごとに分類する。	家庭科	・栄養素の働きを理解することができる。	担任 栄養士 (T・T)
3	お弁当メニューを考えよう	○弁当に入れるメニューを考え、材料や作り方、盛りつけなどを考える。	特活	・積極的に献立を考えることができる。	担任
	親子でお弁当づくり	○計画の手順に沿ってお弁当づくりを楽しむ。	家庭教育 学級		親子 担任

		○積極的に弁当作りに参加する。			栄養士
4	お弁当づくりを振り返ってみよう	○工夫した部分や苦労した部分など、体験して感じたことをグループ内でまとめる。	特活	・お弁当づくりを体験して、感じたことをまとめることができる。	担任
5	毎日の食事を見なおそう	○毎日の食事を栄養面から見なおす。 ○主食・主菜・副菜のバランスを理解する。 ○食事と体位や体力との関係について話し合う。	家庭科	・自己の食生活を、栄養面から見なおすことができる。	担任 栄養士 (T・T)
⑥ (本時)	お弁当メニューを見なおそう	○お弁当を栄養面から見なおす。 ○自分たちで作ったお弁当の栄養バランスと体位や体力との関係について話し合う。	特活	・栄養バランスを考えて、お弁当メニューを見なおすことができる。	担任 栄養士 (T・T)

5 評価規準

学習状況	評価規準
十分満足できる状況 (評価A)	バランスのよい食事が健康の保持・増進に欠かせないことを理解し、意欲的に自己の食生活を見なおすことができる。
概ね満足できる状況 (評価B)	バランスのよい食事が健康の保持・増進に欠かせないことを理解し、自己の食生活を見なおすことができる。
努力を要する状況 (評価C) 手だて	バランスのよい食事が健康の保持・増進に欠かせないことを理解しているが、自己の食生活を見なおすことができない。 栄養素の働きを説明し、健康を保持・増進するためにはバランスよく食べることが大切であることを再確認させる。
評価方法	・食事調べカード ・アンケートの結果 ・お弁当チェックカード ・ワークシート ・観察 ・発表

6 本時の展開

(1) 目標

バランスのよい食事が、健康の保持・増進に欠かせないことを理解し、自己の食生活を見なおすことができる。

(2) 準備

食品群カード、栄養素欠乏の表、食事カード(理想的なもの・偏ったもの)、お弁当の写真、展示ボード(4台)、主食・主菜・副菜バランスカード、お弁当作りメニュー表、お弁当見なおしカード、マジック(4グループ分)、ワークシート

(3) 授業仮説

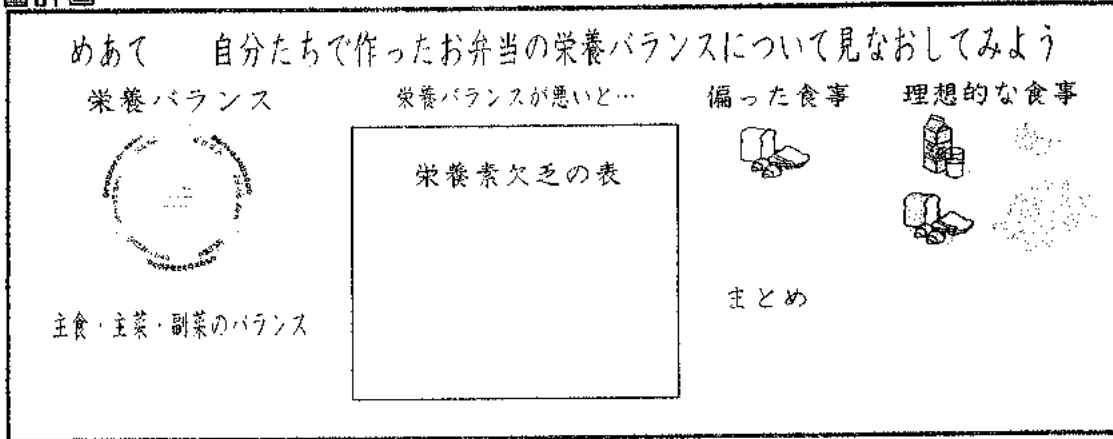
「食事調べ」や「お弁当づくり」の体験を振り返る場面で、自己の栄養バランスと体位・体力との関係や体の健康などについて気づかせることにより、自己の食生活を見なおし、今後の生活に生かそうとする態度が育つであろう。

め (8分)	10. 今後の実践への意欲づけをする。 (T 1)	・ 今後がんばってみたいことをワークシートに記入させ、自分の食生活を見なおすことができるようにする。	に欠かせないことを理解し、自己の食生活を見なおすことができたか。 (ワークシート)
-----------	------------------------------	--	--

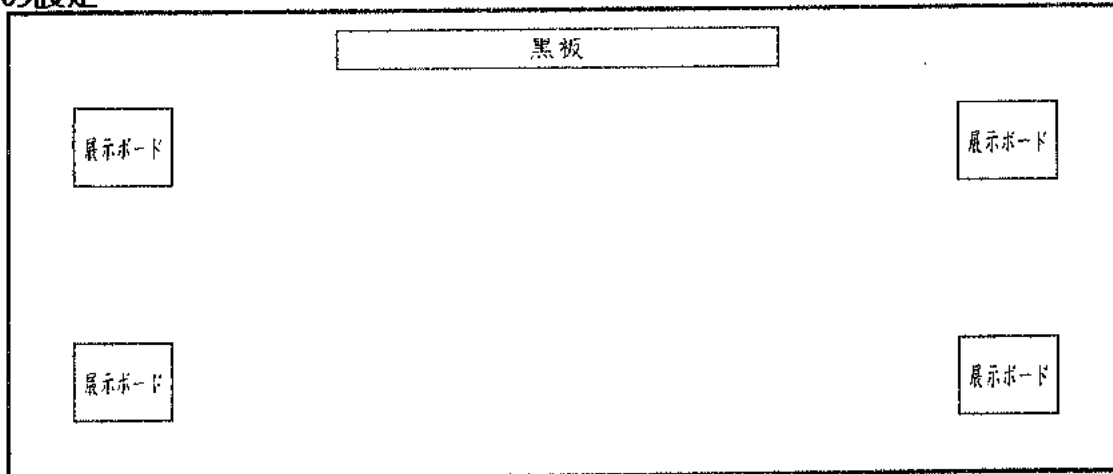
7 評価

○バランスのよい食事が、健康の保持・増進に欠かせないことを理解し、自己の食生活を見なおすことができたか。(ワークシート・観察)

8 板書計画



9 場の設定





体育朝会の様子



ナイスレシーブ！



二重跳びに挑戦中！



心を合わせて長なわ跳び



パスをすばやく回して・・・



III. 研究の実際

1. 教科外における実践

(1) 体育朝会の実践

平成21年度 与那国小学校「体育朝会」年間活動計画

1. ねらい

○異学年間で交流することによって、お互いに認め励まし合いながら、楽しく活動する。

○担当者を各委員会で分担させることにより、児童の主体的な活動を促進させる。

2. 実施日

平成21年4月17日(金)～平成22年3月12日(金)

3. 活動時間

8:20～8:40

4. 活動場所

体育館・運動場

5. 活動内容

○短縄(前跳びやチャレンジ跳び等)、大縄跳び、鬼ごっこ、手つなぎ鬼、体ほぐし

※「チャレンジ跳び」の種類は、「縄跳び検定表」に記載されているものとする。

	日付	学校行事	活動内容	備考	担当者	
一 学 期	1	4/17(金)		前跳び・チャレンジ跳び		体育委員
	2	4/24(金)	家庭訪問③	ソフトバレーボール		教師
	3	5/8(金)	教職5年研①②	前跳び・チャレンジ跳び		体育委員
	4	5/15(金)	避難訓練(不審者)	大縄跳び	1校時まで	教師
	5	5/22(金)	学級懇談会	大縄跳び		体育委員
	6	5/29(金)	水泳指導者実技研	体ほぐし①(講師:西川 賢)		教師
	7	6/12(金)	5年宿泊学習(1日目)	大縄跳び		体育委員
	8	6/26(金)		スーパードッジボール		体育委員
	9	7/3(金)		大縄跳び		体育委員
	10	7/10(金)		前跳び・チャレンジ跳び	1校時まで	教師
二 学 期	11	9/4(金)	身体計測(2年)	体ほぐし②(講師:田島 政之)		教師
	12	11/11(水)		前跳び・チャレンジ跳び		体育委員
	13	11/27(金)		氷鬼		児童会
	14	12/4(金)		前跳び・チャレンジ跳び		体育委員
	15	12/11(金)		前跳び・チャレンジ跳び		体育委員
	16	12/18(金)	年末大清掃	手つなぎ鬼		体育委員
三 学 期	17	1/8(金)		前跳び・チャレンジ跳び		体育委員
	18	1/15(金)	身体計測(4年)	前跳び・チャレンジ跳び		体育委員
	19	1/22(金)		大縄跳び大会	1校時まで	児童会
	20	2/12(金)		前跳び・チャレンジ跳び		体育委員
	21	2/26(金)	委員会引き継ぎ式	鬼ごっこ		体育委員
	22	3/5(金)	教育計画検討会議②	前跳び・チャレンジ跳び		体育委員
	23	3/12(金)		手つなぎ鬼		体育委員

1学期:10回 2学期:6回 3学期:7回 年間23回実施する。

※体育朝会のある日は、体育着での登下校を認める。

※ソフトバレーボール・スーパードッジボールにおいては、ウォーミングアップ時に前跳び、チャレンジ跳び(各1分ずつ)行う。

町主催行事 ①軽スポーツ大会:5/16(土) ②スーパードッジボール大会:7/11(土) ③短縄・大縄跳び大会:11/11(日)

6. 体育朝会での児童の活動の様子



【それ、いくぞ！】



【さあ！もう一本決めるわよ！】



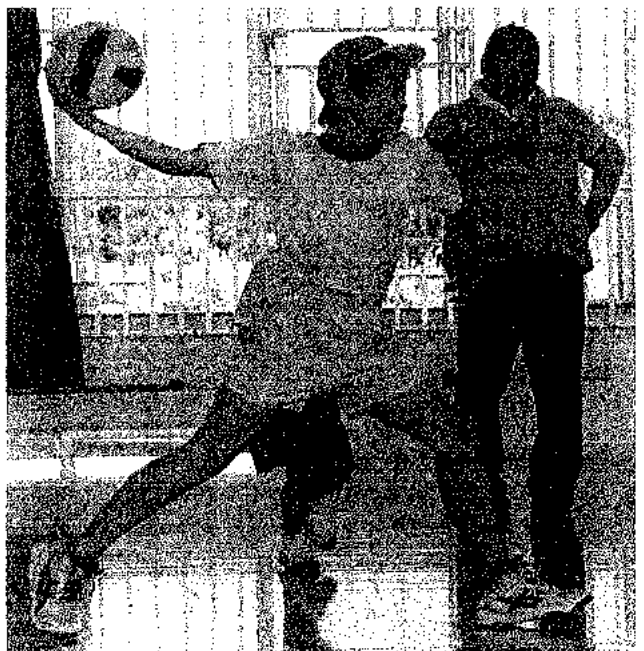
【がんばれ3年生！】



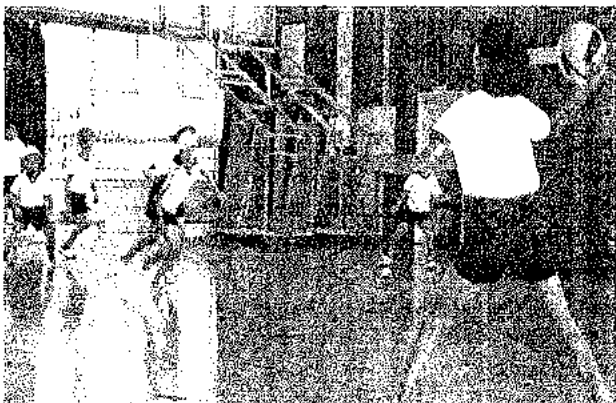
【もうすぐで10回だぁ！】



【このまま新記録をねらうぞ！】



【当たれ～！】



【うぁ！ボールが飛んでくる～！】

III. 研究の実際

3. 教科外における実践

(2) 人材活用による実践

体ほぐし運動①

1. わらい

- ①講師を招聘し行うことで、児童の体づくり運動への意欲と意識づけを図る。
- ②体づくり運動を通して、心身の健康の保持増進を目指すとともに、体の柔軟性を高める。
- ③様々な種類の体づくり運動を紹介し、体験させることによって、日常生活において積極的に自分で取り組む態度を育てる。

2. 日時 平成21年5月29日(金) 8:20～8:55

3. 場所 与那国小学校 体育館

4. 講師 西川 賢(与那国中学校教諭 保健体育科)

5. 実施内容

- ①運動前の自分の柔軟性をチェックするために、前屈を行う。
- ②軽いストレッチ運動をする【写真①】
- ③歩いて合った人と握手する【写真②】
- ④歩いて合った人と高い位置でハイタッチをする【写真③】
- ⑤その場でジャンプする。「90° 半回転(左右)」「360° 一回転(左右)」「405° 一回転1/4ひねり(右)」を順に行う。【写真④】
- ⑥足ジャンケン【写真⑤】
- ⑦足ジャンケンこっち向いてはい【写真⑥】
- ⑧A4のコピー用紙を体にあて、落とさないように走る【写真⑦】
- ⑨A4のコピー用紙を細かくちぎっていく【写真⑧】
- ⑩自分の頭上高くちぎった紙を上げ、紙吹雪にする【写真⑨】
- ⑪全員で大きな一つの円になり、床に落ちている紙をきれいに片付ける【写真⑩】
- ⑫軽いストレッチ運動をする【写真⑪】
- ⑬体ほぐし運動の後の柔軟性を見るためにもう一度前屈を試みる【写真⑫】

柔軟性に変化がみられた！

6. 実施の様子



【写真①】



【写真②】



【写真③】



【写真④】



【写真⑤】



【写真⑥】



【写真⑦】



【写真⑧】



【写真⑨】



【写真⑩】



【写真⑪】



【写真⑫】

7. 体ほぐし運動を終えての感想

にしかわけんせんせいへのおれいのがみ。うんどうかいやたいそうをおしえてくれてどうもありがとう。ぼくはからだがやわらなくなったかもしれません。またきてください。【1年男子児童】

きょうストレッチをして、ちょっと体がやわらなくなったのでほんとにけん先生がまほうをかけたみたでうれしかったです。じかんのあるときには、けん先生がおしえてくれた3つのおやくそくをまもって体をやわらかくしたいです。【2年女子児童】

今日は、西川先生とみんなでストレッチをやりました。
さいしょやった時は、とつてもかたかったけど、ずーっとやっていたら、さいごにやわらかくなっていました。そして、楽しかった事が「ジャンプハイタッチ」でした。こんなに楽しくできたのは、西川先生のおかげだと思います。だから次も与那国小学校にいらしてください。【3年男子児童】

今日はわざわざおとなりの与那国小学校からきてくれてほんとうにありがとうございます。
私は最初手のゆびの所までしかつきませんでした。でも、とびながらジャンケンをしたり、かみを使ってストレッチなどをして全体がゆかにつきました。それから私は体がかたい方なので、今日だけでとつても体がやわらなくなったので、大好きなりじょうもがんばりたいです。【4年女子児童】

今日は、私達の体をほぐすためのストレッチを教えてくださいましてありがとうございます。体の色々な筋が伸ばされて痛かったが後になると気持ち良かったです。
賢先生から習ったストレッチをやり体をほぐしていきたいです。【5年女子児童】

今日、西川先生に体そうの仕方ややわらなくする方法を教えてくださいまして最初、前屈をしてもゆかに足がぜんぜんつきませんでした。でも、いろいろな遊びをして、最後はあと少しで、つきそうになるぐらいやわらかくなったので良かったです。

今日は、与那国小学校のみんなのために色々な事を教えてくださいまして。

【6年男子児童】

8. 指導助言(講師:西川 賢先生より)

ストレッチ運動を行う際には、以下の3点に気をつけさせて欲しい。

- ①息を止めない。呼吸はずっと続けること。
- ②反動をつけてはいけない。反動をつけて行うのは、ラジオ体操である。
- ③痛い所で止める。無理にやると筋を痛め逆効果となる。

9. 成果 ※()内は成果の見えた手立て

- ・ 今回の体育朝会を通して、自己の体の現在の柔軟性に気付き、体ほぐし運動を行うことによって柔軟性が向上する喜びを実感し、意欲を高めることができた。(観察)
- ・ 体ほぐし運動を通して、運動の心地よさを味わわせることができた。(ワークシート)
- ・ 体ほぐし運動を通して、ペアでのコミュニケーションを図ることにより、体をほぐし合うと同時に心を通い合わせて、仲間と交流することができた。(観察)

Ⅲ. 研究の実際

3. 教科外における実践

(2) 人材活用による実践

体ほぐし運動②(ストレッチ)

1. ねらい

- 外部講師(田島 政之さん)を招いて、本校の児童の課題である柔軟性を高める体ほぐし運動を行っていただくことにより、児童の柔軟性の向上を図る。
- 外部講師に柔軟性を高める体ほぐし運動を紹介していただくことにより、教師の資質の向上を図り、今後の授業や学校教育活動全体への活性化に寄与する。

2. 日時 平成21年9月4日(金) 体育朝会(8:20～8:45)

3. 場所 与那国小学校 体育館

4. 講師 田島 政之さん(与那国町職員)

5. 実施内容

- ① 深呼吸の行い方。【写真①】
→最初は口から吐く。そして、鼻から空気を吸い込む。
- ② タオルを使って背中の後ろまで肩回し。【写真②】
→肩胛骨を柔らかくするのに効果的。
- ③ 又割り。【写真③】
→骨盤を柔らかくするのに効果的。



【写真①】

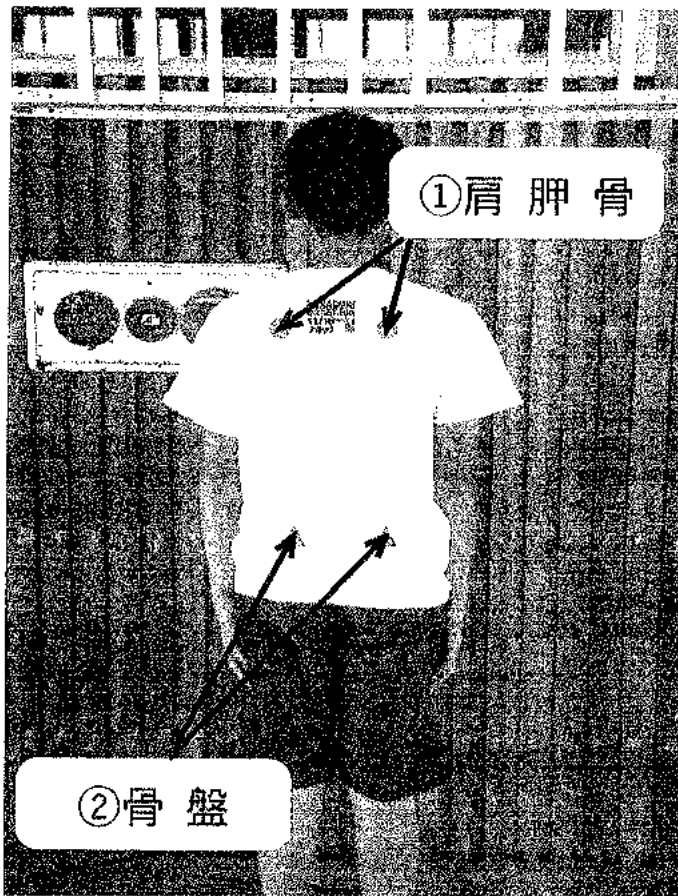


【写真②】



【写真③】

6. 田島 政之さんの講話より



①肩胛骨

背中の突起した部分。この部分が堅いと走る時の手のふりが大きく振れない。また、肩コリや頭痛を発症してしまう恐れもある。

そのため…



タオルを使って柔軟性を高める【写真②】

すると…



走る時の手の振りが大きくなり、足のストライド(歩幅)も大きくなる。

②骨盤

上半身と下半身を支える重要な部分。この部分が堅いと腰痛を引き起こし、将来は寝たきりの生活になる恐れがある。また、走る時のストライド(歩幅)が小さくなってしまふ。

そのために…



又割り【写真③】を毎日続けることが大切である。

そうすることで…



骨盤の柔軟性がよくなり、足を回して走る可動域が広がり走力がアップする。また、腰痛を防ぎ健康な体をつくり楽しい生活を日々過ごすことができる。

～田島 政之さんから児童へ伝えたこと～

体が堅いと得することはないが、体が柔らかいと得することがある。それは、

①身長が伸びる。 ②肩コリや腰痛、頭痛など体の不調がなくなる。 ③足が速くなる。

ぜひ毎日、家族と一緒に続けてやって欲しい。

7. 活動の様子



【上手に又割りできるかな？】



【又割りを上手に行う児童】



【タオルを使ってストレッチの様子】



【上手に行う6年生さすが！】



【深呼吸は吐くことから始まるんだよ！】



【肩胛骨について話をする田島 政之さん】

8. 児童の感想

きょうは、ストレッチをおしえてくれてありがとうございました。ちょっときんにくがたまつたとおもいます。かたこりがなおつたとおもいます。またきてください。

【1年女子児童】

きょうは、けんこうこつと、こつばんをきたえるストレッチをおしえてくれてありがとうございました。毎日おふろあがりにやって体をやわらかくします。つぎの体いくちょうかいにもきてもっといろいろなストレッチをおしえてください。

【2年男子児童】

政之さん、今日は与那国小学校に来てくれてありがとうございます。さっそくおふろあがりにこつばんとけんこうこつのストレッチをやります。お父さんやお母さんにも教えて家族でやります。

【3年男子児童】

今日は、体そうを教えてくださいありがとうございます。

私は、陸上の練習に毎日行っています。でも、体がかたいので今日教えてもらったことを毎日がんばりたいです。そして、けんこうな体を作りたいです。

お母さんもかたがこっていると思うので、私がお母さんに教えてあげたいです。

【4年女子児童】

政之さん、今日はありがとうございました。私は、今日の運動(ストレッチ)であらためて、自分の体のかたさに気づきました。

なので、毎日できる限りがんばりたいです。

【5年女子児童】

今日は、僕達に、肩甲骨や骨盤を柔らかくするストレッチを教えてくださいありがとうございました。タオルを使ってやるストレッチは初めてでした。本当にこれだけで柔らかくなるの?と思いました。今日、教えていただいた事は、毎日欠かさずお風呂あがりにやりたいと思います。

また、深呼吸のやり方で、最初は体にたまっている空気をはいて、そのあと吸うと知りビックリしました。また、機会があったら教えてください。本当にありがとうございました。

【6年男子児童】

9. 成果

(児童側から)

- 外部講師を招いて体ほぐし運動を行ったことで、児童が楽しく運動を行うことができた。
- 柔軟性を高めるために、必要な身体の部分(肩甲骨と骨盤)に焦点をあてて指導してくれたおかげで、低学年でもわかりやすく楽しく運動をすることができた。

(教師側から)

- 柔軟性を高めるために必要な身体の知識を得ることができ、そこを鍛えるための方法を知ることができた。

平成21年11月10日

与那国町立小学校
5 学年 保護者 各位

与那国町立与那国小学校
PTA 会長 大嵩 長史
PTA 文化委員長 崎元俊男
校長 田本由美子
〈公印省略〉

5学年親子お弁当づくりについて（御協力願い）

時下、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。先週はインフルエンザ感染児童が急増したため、学級閉鎖となりましたが今週から元気に全員が登校して、胸をなで下ろしているところです。

さて、5学年は2年次研究報告会で食教育の研究授業を行います。その一環として15日（日）に下記の通り親子で弁当づくりの調理実習を行います。

保護者の皆様にはご多用な中とは存じますがこの実践を通して、食教育を行う計画です。趣旨をご理解のうえご協力いただきますようお願いいたします。

本校教育に、ご理解・ご協力いただき感謝申し上げます。

記

1 日 時 平成21年11月15日（日） 9：00～12：00

2 場 所 家庭科室

3 参 加 5年児童・保護者、学級担任

4 その他 ○食材について（児童に連絡済み）
・米については持参して下さい（一人一合）
・その他の材料については学校側で準備します。

問い合わせ 5年担任：金城 由利佳
与那国小学校：87-2872

親子お弁当づくり計画（案）

PTA 家庭教育学級主催

1. ねらい

- お弁当のメニューを考えることで、食事の栄養バランスを考えたくましい体づくりに生かそうとする意欲を育む
- 日頃は親任せの食事メニューに児童も関わることで、親子での対話の機会を増やす。
- お弁当づくりを体験する中で作る人の気持ちや大変さ、喜びを味わう。

2. 当日の計画（平成21年11月15日）

時間	児童の活動	保護者の支援	留意点
9:00 始 め に	<p>これまでの学習内容を振り返り今日の内容を確認する。</p> <p>バランスの良い食事をしよう（2時） 担任：金城由利佳と栄養士（糸数やえ子） T.T 指導</p> <p>お弁当のメニューを考えよう ↓ 家庭科 (3時)</p> <p>本時のねらい 親子で協力してお弁当を作ろう</p>	児童と一緒に学習内容を確認する	グループ毎に主に使用する調理器具を配布しておく (お米は数グループまとめて炊く)
9:30 実 習	<p>保護者の皆様にも調理実習の趣旨を理解していただく</p> <p>グループづくり</p> <p>↓</p> <p>各グループで本日の弁当のメニューについて話し合わせる（事前に児童は考えているので、グループで確認する）</p> <p>↓</p> <p>調理実習開始 ○安全な調理器具（包丁など）の使用について注意する。 ○食材について説明する（用意された食材） ○調理時間のめどについて説明する</p>	3名ずつ4グループ（3×4グループ）	4～5グループで各グループに保護者が必ず付くように分ける 栄養バランスについてアドバイスしない（自分たちの考えで作る）
11:30 完成	○各グループの弁当をみんなで評価する。（見た目、栄養バランス、味）	○調理器具の安全な使用方法を教えながら調理する ○親も同じように評価する	早くできたグループは片付けをする 前もって、評価の視点等を栄養士と打ち合わせておく
12:00	○最後に移動して弁当会を行う。		評価ワークシートを準備する
	栄養士の目から見た評価を聞く		

3. 教科外における実践

(2) 人材活用による実践

③ 陸上指導～放課後スポーツ活動の充実～

◎教育課程外部活動での陸上競技指導の取り組み

これまで放課後の陸上競技の取り組みは、夏休みから10月までの陸上競技大会までであった。しかし、今年度から年間を通して計画的に行っていく。

1、ねらい

- ・体育・スポーツ推進校として、放課後活動の充実を図る。
- ・陸上競技の楽しさを味わわせるとともに、基礎体力の向上を図る。

2、練習期間

※4月から練習を定期的に組む。

○基本的形・・・・・・・・・・ 毎週 火・木曜日の 午後4:30 ～ 6:00

○大会前・・・・・・・・・・ 毎週 月・火・木・金曜日の午後4:30 ～ 6:00と
土曜日の午前8:30 ～ 10:30

3、練習内容

	短距離 (100・200 m・リレー)	長距離 (1000 m)	跳躍 (幅跳び・高跳び)	ボール投
基本練習	<ul style="list-style-type: none"> ・あいさつ ・アップ (ジョギング・・・運動場3周 ストレッチ) ・基礎練習 (ラダートレーニング or ミニハードルトレーニング) ・流し走 (シューズで 80m×3本 スパイクで 80m×2本) 			
種目別練習	<ul style="list-style-type: none"> ・スタートダッシュ 30m×3本 50m×3本 100m×2本 ・追い込み走 200m×2本 ・インターバル 100m×5本 200m×2本 ・補助練習 鬼ごっこ エンドレスリレー (100m) ハードル走 ・リレーバトンパス練習 総力リレー 400リレー 	<ul style="list-style-type: none"> ・時間走 20分ジョギング 30分ジョギング ※個人の能力に合わせて1周走る時間を設定してジョギングを行わせる。 ・インターバルバージョン① 1000m×2～3本 100m×5本 バージョン② 200×5本 100×3本 バージョン③ 100m×10本 ※個人によってタイム設定を行う。 ※時々、与中やかけっこクラブの記録会に参加する。 	<ul style="list-style-type: none"> ※短距離の種目別練習を行ってから 【幅跳び】 ・動きづくり 立ち幅 ・助走から踏みきり 3歩走 5歩走 自分に合った長さ ・高く跳ぶ意識づくり ハードル走 【高跳び】 ・動きづくり ハードルを使っての補助運動 その場ジャンプ ・助走から踏みきり 3歩走 5歩走 自分に合った長さ 	<ul style="list-style-type: none"> ・肩のストレッチ ・キャッチボール ・壁あて ・ステップの練習
※種目別練習は上記に記載された練習メニューからその時にあった練習を日替わりで行う。				
運動	<ul style="list-style-type: none"> ・ダウン→ウォーキング 運動場2周、ストレッチ ・あいさつ 			

4、主な参加大会

○第26回全国小学生陸上競技交流【沖縄】大会八重山予選会

- 1、参加対象児童 5・6年児童
- 2、大会日程と場所 日 時：平成21年5月23日（土）
場 所：石垣市営陸上競技場

3、参加児童と出場種目

- ・譜久嶺 和真 6年男子 100M (1位)・共通男子 80MH (1位)
- ・田原 明宗 共通男子 80MH (2位)・代表 ボール投げ (1位)
- ・田島 立 代表男子 1000M (3位)
- ・南風原 世奈 共通女子 80MH (1位)・6年女子 走り高跳び (2位)
- ・福濱 早希子 5年女子 100M (1位)・5年女子 走り幅跳び (1位)

○第26回全国小学生陸上競技交流【沖縄】大会

- 1、参加対象児童 5・6年児童
- 2、大会日程と場所 日 時：平成21年6月13日（土）
場 所：国頭陸上競技場

3、参加児童と出場種目

- ・譜久嶺 和真 6年男子 100M ・ 共通男子 80MH
- ・田原 明宗 共通男子 80MH ・ 代表 ボール投げ
- ・田島 立 代表男子 1000M
- ・南風原 世奈 共通女子 80MH ・ 6年女子 走り高跳び
- ・福濱 早希子 5年女子 100M (5位入賞) ・ 5年女子 走り幅跳び

○第29回 新報児童オリンピック大会

1、参加対象児童

男子 (1～3年) 100M

- | | | | | | |
|-----------|-------|-------|-----|-----|------------|
| (4年) 100M | 200M | 400MR | 走幅跳 | 走高跳 | ボール投げ (2号) |
| (5年) 100M | 1000M | 400MR | 走幅跳 | 走高跳 | ボール投げ (2号) |
| (6年) 100M | 1500M | 400MR | 走幅跳 | 走高跳 | ボール投げ (2号) |

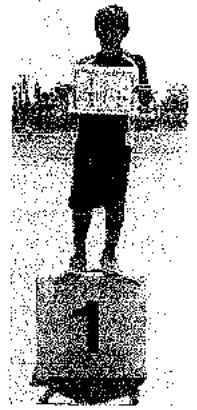
女子 (1～3年) 100M

- | | | | | | |
|-----------|-------|-------|-----|-----|------------|
| (5年) 100M | 1000M | 400MR | 走幅跳 | 走高跳 | ボール投げ (1号) |
| (6年) 100M | 1500M | 400MR | 走幅跳 | 走高跳 | ボール投げ (1号) |

- 2、大会日程と場所 日 時：平成21年7月25日（土）・26日（日）
場 所：コザ運動公園 沖縄市陸上競技場（沖縄市諸見里）

3、参加児童と出場種目

- ・相田 真央 1年 女子 100M (5位入賞)
- ・譜久嶺 和沙 田島 旭人 1年 男子 100M
- ・池田 竜聖 3年 男子 100M
- ・譜久嶺 マリサ 4年 女子 200M 走り高跳び
- ・福濱 早希子 5年 女子 100M (4位入賞) 走り幅跳び (優勝 4m16 : 与那国記録)
- ・山川 結衣 5年 女子 1000M
- ・譜久嶺 和真 6年 男子 100M 走り幅跳び
- ・田原 明宗 6年 男子 1500M (5位入賞) 走り高跳び (4位入賞)
- ・田島 立 6年 男子 1500M



○第60回 与那国町少年陸上競技選手権大会

- 1、参加対象児童 全児童
- 2、大会日程と場所 日 時 平成21年9月6日(日)
場 所 与那国中学校運動場



3、優勝種目及び大会・与那国記録

- ・1年100M 男：譜久嶺和沙 女：相田真央
- ・3年100M 男：糸敷豪太
- ・5年走り幅跳び男：新高晃崇 女：福瀨早希子(大会新記録 3m98)
走り高跳び男：高山峻輔 女：山川結衣
100M 女：福瀨早希子
(追い風参考記録 14秒6)
- 200M 女：福瀨早希子
- ・6年100M 男：譜久嶺和真
200M 男：田原明宗
1000M 男：田原明宗
走り幅跳び 男：譜久嶺和真 女：東盛あいか
走り高跳び 男：崎元俊孝 女：南風原世奈
ソフトボール投げ男：田原明宗
(大会・与那国新記録66m0)
女：稲川さくら
- 代表400MR 男・女



○第9回八重山地区小学生陸上競技大会(参加予定)

- 1、参加対象児童 1～6年生の各種目代表 21名参加予定
- 2、大会日程と場所 日 時 平成21年11月23日(月)
場 所 石垣市営陸上競技場

5、成果と課題

(成果)

- ①4月当初より、計画的に指導を行う事で児童の体力の増進と競技力の技術向上及び陸上を楽しむ態度が身についてきている。
- ②各大会へ積極的に参加することで、児童の陸上競技に対する意欲の向上が見られるとともに、多くの児童が陸上練習に参加するなど放課後活動のさらなる充実が図れた。
- ③与那国中学校においての練習や記録会及び校内陸上大会への参加を通して、小・中学校間の連携が図れたと共に、児童の意欲の向上にもつながった。
- ④練習計画を保護者伝えることで、保護者の協力や地域人材の協力も得ることができた。
- ⑤運動場トラックの200mへの改修や100m走のスタート、バトンゾーン(リレー)の設置を保護者(PTA体育委員長 徳吉克文さん)の協力のもとにでき、さらに活動しやすい環境づくりが図れた。

(課題)

- ・運動場の整備(走路が車やトラックの進入で凹凸が多い)
- ・備品の不足(練習で使いたい場合は、与那国体育協会の備品を借用している)
- ・指導の協力体制(職員・地域人材・陸上経験者や保護者の協力体制を明確にしていきたい。)

III. 研究の実際

4. 各専門部の実践

(1) 資料調査部の実践

◎ 新体力テストの結果と考察

① わらい

- 全児童の体力・運動能力を年に2回(5月と10月)測定し、自己の体力・運動能力を把握させ、よりバランスのとれた運動能力の育成に向け、運動や遊びの促進につなげていく。
- 年2回の測定結果から、体育の学習を中心にバランスのよいたくましい体を育成する指導に生かす。

② 調査実施時期

平成21年5月13日(水) 2・3校時【1回目】

10月28日(水) 2・3校時【2回目】

※ 「20mシャトルラン」に関しては、隣学年(低・中・高)で調整し、別の日に実施した。

③ 調査対象

小学1年生～小学6年生の 計70名の児童【1回目】

計67名の児童【2回目】

④ 実施内容

- ① 握力(kg) ② 上体起こし(回) ③ 長座体前屈(cm) ④ 反復横とび(回)
- ⑤ 50m走(秒) ⑥ 立ち幅とび(cm) ⑦ ソフトボール投げ(m) ⑧ 20mシャトルラン(回)

⑤ 記録の記入において

「ぼくの、わたしのゴールド記録」に2回測定した記録を自分で記入させ、比較して考察(気づいたこと)を書かせる。

⑥ 分析方法

ア. 新体力テストの各項目ごとに、国・県平均と5月と10月の児童の実態とを比較検討する。

イ. 各項目ごとに全国平均と5月との差及び優越関係を比較し、考察する。

(10月は全国平均との差や優越関係は示さずに、考察で述べていくようにする。)

◎ 体位・体格の実態

① わらい

- 各学年ごとの男女の別に体位・体格の平均を出すことによって、全国や県平均(平成20年度)と比較することにより、食生活と関連づけた指導や運動を行う。
- 新体力テストの結果と関連づけることで、体位・体格と体力との相関関係を分析・考察し、今後の指導の工夫・改善生かす資料を得る。

② 調査内容

ア. 身長(cm) イ. 体重(kg) ウ. 座高(cm) エ. 肥満傾向児・痩身傾向児の出現率(%)

III. 研究の実際

4. 各専門部の実践

(1) 資料調査部の実践

新体カテスト結果と考察

平成21年度 新体カテストデータ分析結果(県・全国との比較)

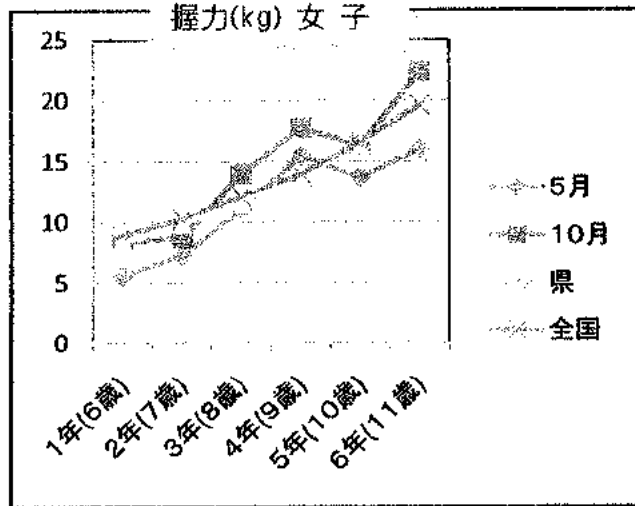
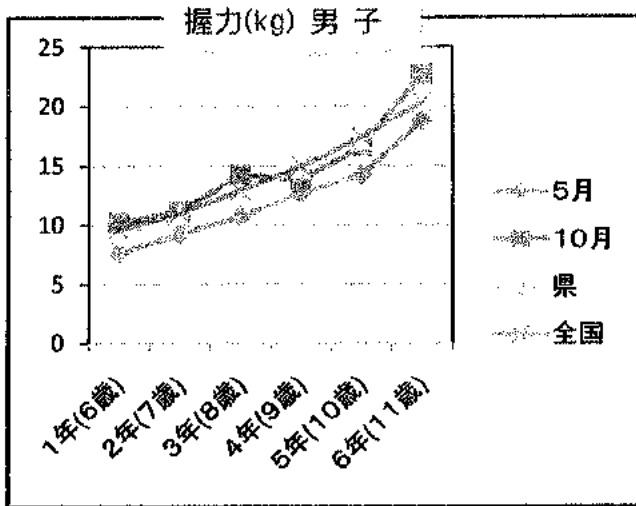
※国・県の平均は、平成19年度のデータ

1 握力(kg)

		1年(6歳)	2年(7歳)	3年(8歳)	4年(9歳)	5年(10歳)	6年(11歳)
男子	5月	7.67	9.25	10.75	12.71	14.2	18.83
	10月	10.23	11.25	14.29	13.86	16.6	22.7
	県	9.1	10.92	12.72	14.78	17.15	20.35
	全国	9.68	11.04	12.96	14.97	17.4	20.33
	全国平均との差	-2.01	-1.79	-2.21	-2.26	-3.2	-1.5
	全国との優越関係	▼	▼	▼	▼	▼	▼

		1年(6歳)	2年(7歳)	3年(8歳)	4年(9歳)	5年(10歳)	6年(11歳)
女子	5月	5.57	7.29	11	15.5	13.71	16
	10月	8.39	8.71	14	17.75	16.29	22.38
	県	8.34	9.94	11.57	13.7	16.37	19.57
	全国	8.94	10.3	12.13	13.97	16.55	19.59
	全国平均との差	-3.37	-3.01	-1.13	1.53	-2.84	-3.59
	全国との優越関係	▼	▼	▼	◎	▼	▼

※全国平均よりも ◎上回っている ▼下回っているもの



考察①: 握力(筋力について)

「4年生の女子」は、全国平均を上回っている。



新体カテストの様子(反復横跳び)



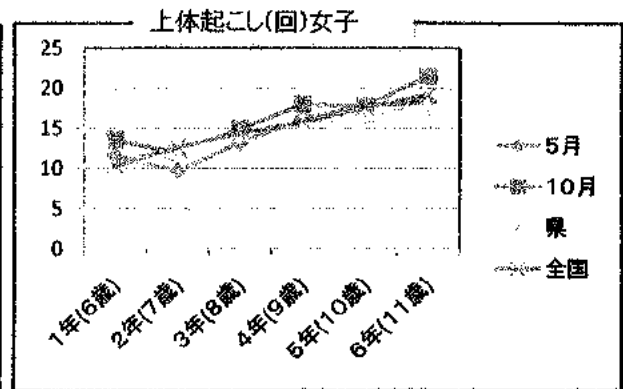
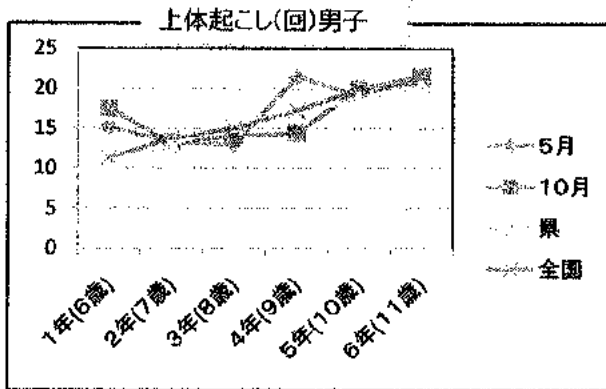
新体カテストの様子(握力)

2 上体起こし(回)

		1年(6歳)	2年(7歳)	3年(8歳)	4年(9歳)	5年(10歳)	6年(11歳)
男子	5月	15.17	13.25	13	21.43	19.2	20.67
	10月	17.5	13.25	14	14.43	20	21.6
	県	10.94	13.04	15.46	16.94	18.7	20.34
	全国	11.31	13.7	15.01	17.26	19.9	21.21
	全国平均との差	3.86	-0.45	-2.01	4.17	-0.7	-0.54
	全国との優越関係	◎	▼	▼	◎	▼	▼

		1年(6歳)	2年(7歳)	3年(8歳)	4年(9歳)	5年(10歳)	6年(11歳)
女子	5月	11.71	9.75	13.25	16.25	17.86	18.33
	10月	13.57	12	15	18	17.86	21.5
	県	10.03	12.1	14.37	15.81	16.7	17.75
	全国	10.38	12.71	14.4	15.83	17.61	19.17
	全国平均との差	1.33	-2.96	-1.15	0.42	0.25	-0.84
	全国との優越関係	◎	▼	▼	◎	◎	▼

※全国平均よりも ◎上回っている ▼下回っているもの



考察②: 上体起こし(筋力・筋持久力について)

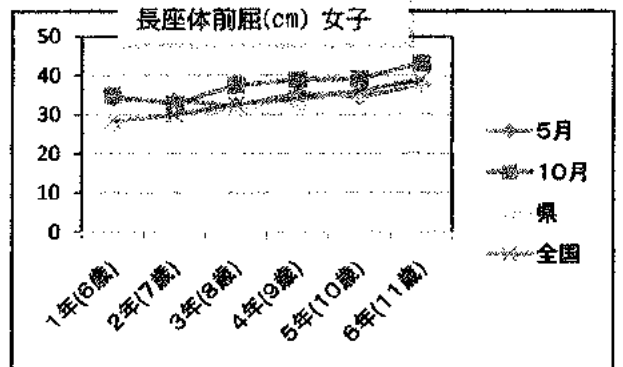
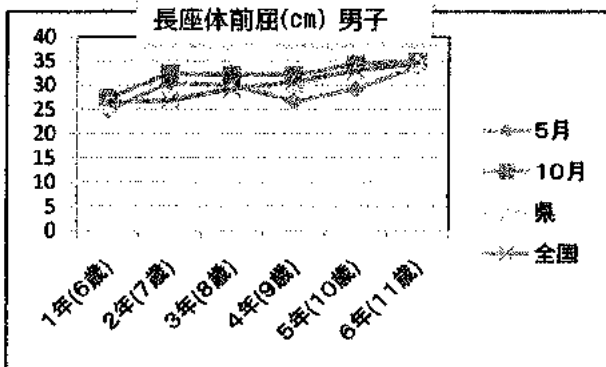
「1・4年の男女」と「5年女子」は、全国平均を上回っている。

3 長座体前屈(cm)

		1年(6歳)	2年(7歳)	3年(8歳)	4年(9歳)	5年(10歳)	6年(11歳)
男子	5月	24.83	30.5	30	28.71	29.2	33.83
	10月	27.25	32.5	32.14	32.14	34.4	35
	県	26.06	27.49	29.16	30.24	32.74	34.71
	全国	26.41	26.88	29.24	30.8	33.02	34.62
	全国平均との差	-1.58	3.62	0.76	-4.09	-3.82	-0.79
	全国との優越関係	▼	◎	◎	▼	▼	▼

		1年(6歳)	2年(7歳)	3年(8歳)	4年(9歳)	5年(10歳)	6年(11歳)
女子	5月	34	33.43	32.5	35.5	34.43	37.67
	10月	34.86	32.71	37.5	39	39.14	43.25
	県	27.95	29.83	31.32	33.11	35.7	38.25
	全国	28.39	29.95	32.58	34.17	36.02	38.9
	全国平均との差	5.61	3.48	-0.08	1.33	-1.59	-1.23
	全国との優越関係	◎	◎	▼	◎	▼	▼

※全国平均よりも ◎上回っている ▼下回っているもの



考察③: 長座体前屈(柔軟性について)

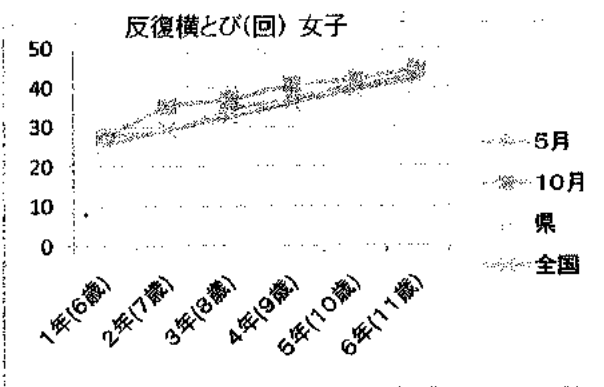
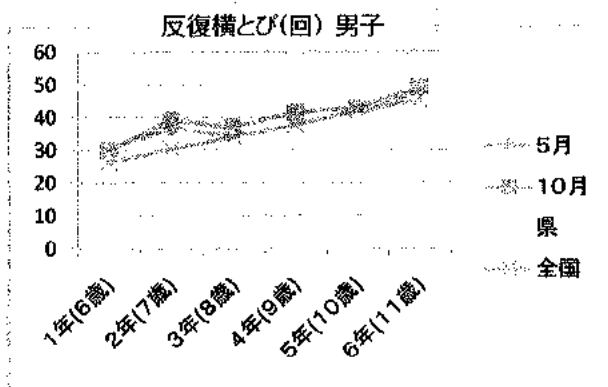
「2年の男女」と「3年男子」と「1・4年女子」は、全国平均を上回っている。

4 反復横とび(回)

		1年(6歳)	2年(7歳)	3年(8歳)	4年(9歳)	5年(10歳)	6年(11歳)
男子	5月	30.67	36.75	34.5	37.43	40.6	48.17
	10月	30	39.25	37.14	41.57	43.2	49.2
	県	26.82	29.71	33.42	36.85	40.16	43.05
	全国	26.2	30.49	34.08	37.63	42.1	45.15
	全国平均との差	4.47	6.26	0.42	-0.2	-1.5	3.02
	全国との優越関係	◎	◎	◎	▼	▼	◎

		1年(6歳)	2年(7歳)	3年(8歳)	4年(9歳)	5年(10歳)	6年(11歳)
女子	5月	27.71	28.63	34.75	37.25	40.29	43
	10月	27.71	35.43	37	40.75	42	44.75
	県	25.75	28.3	32.53	35.52	38.26	40.33
	全国	25.49	29.3	32.54	35.97	38.23	42.05
	全国平均との差	2.22	-0.67	2.21	1.28	1.06	0.95
	全国との優越関係	◎	▼	◎	◎	◎	◎

※全国平均よりも ◎上回っている ▼下回っているもの



考察③:反復横とび(敏捷性について)

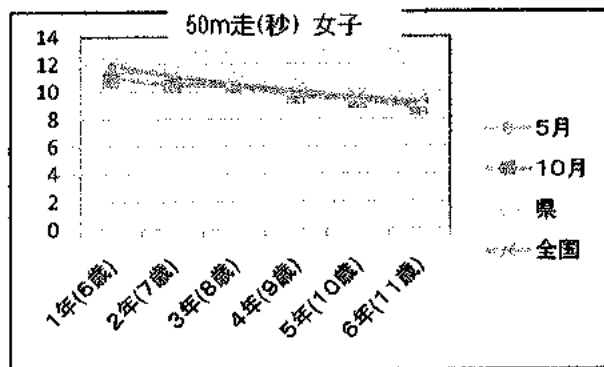
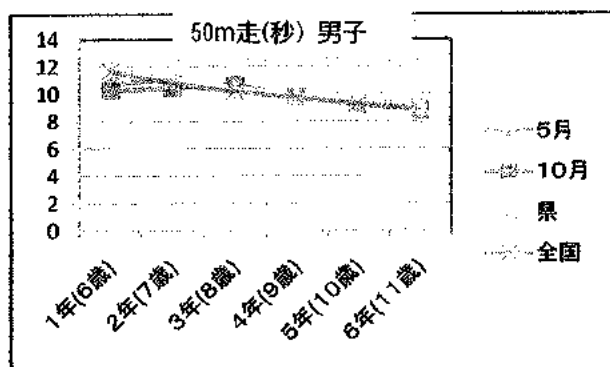
「1・3・6年の男女」と「2年の男子」と「4・5年の女子」は、全国平均を上回っている。

5 50m走(秒)

		1年(6歳)	2年(7歳)	3年(8歳)	4年(9歳)	5年(10歳)	6年(11歳)
男子	5月	10.78	11.08	10.36	9.88	9.32	8.78
	10月	10.28	10.45	10.71	9.81	9.2	8.76
	県	11.96	11.15	10.43	9.95	9.53	9.07
	全国	11.67	10.8	10.19	9.74	9.28	8.91
	全国平均との差	0.89	-0.28	-0.17	-0.14	-0.04	0.13
	全国との優越関係	◎	▼	▼	▼	▼	◎

		1年(6歳)	2年(7歳)	3年(8歳)	4年(9歳)	5年(10歳)	6年(11歳)
女子	5月	11.41	11.6	10.58	9.9	9.69	8.7
	10月	10.96	10.53	10.45	9.7	9.39	8.88
	県	12.41	11.56	10.86	10.3	9.89	9.47
	全国	11.98	11.12	10.52	10.05	9.61	9.19
	全国平均との差	0.57	-0.48	-0.06	0.15	-0.08	0.49
	全国との優越関係	◎	▼	▼	◎	▼	◎

※全国平均よりも ◎上回っている ▼下回っているもの



考察⑤:50m走(スピード及び走能力について)

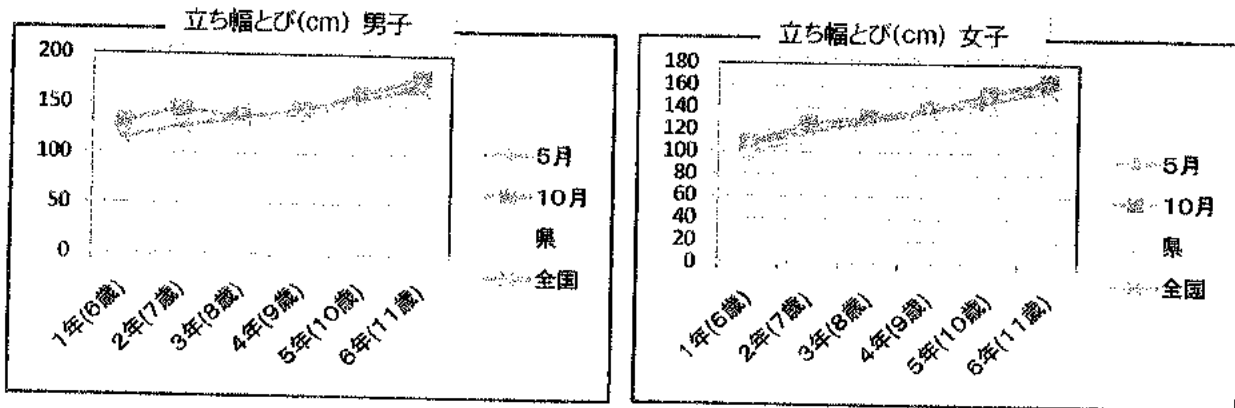
「1・6年の男女」と「4年女子」は、全国平均を上回っている。

6. 立ち幅とび(cm)

		1年(6歳)	2年(7歳)	3年(8歳)	4年(9歳)	5年(10歳)	6年(11歳)
男子	5月	131	144.75	136.5	140.88	150.8	172.83
	10月	132	144.5	137.14	144.57	161	178.2
	県	112.94	124.05	134.53	142.57	153.52	163.09
	全国	115.6	127.23	136.36	145.48	156.29	165.82
	全国平均との差	15.4	17.52	0.14	-4.6	-5.49	7.01
	全国との優越関係	◎	◎	◎	▼	▼	◎

		1年(6歳)	2年(7歳)	3年(8歳)	4年(9歳)	5年(10歳)	6年(11歳)
女子	5月	97.57	114.75	122.75	136.75	140.57	165.67
	10月	107.86	126.43	130.75	139.25	153.29	165
	県	103.19	113.22	123.8	133.71	142.74	151.04
	全国	106.18	118.34	127.88	137.12	146.2	156.19
	全国平均との差	-8.61	-3.59	-4.91	-0.37	-5.63	9.48
	全国との優越関係	▼	▼	▼	▼	▼	◎

※全国平均よりも ◎上回っている ▼下回っているもの



考察⑥:立ち幅とび(瞬発力及び跳能力について)

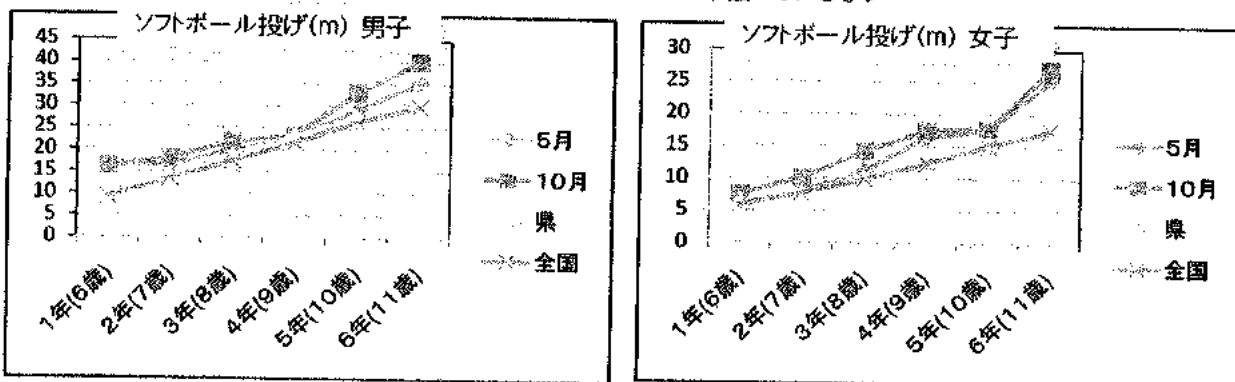
「16年男女」と「1・2・3年の男子」は、全国平均を上回っている。

7. ソフトボール投げ(m)

		1年(6歳)	2年(7歳)	3年(8歳)	4年(9歳)	5年(10歳)	6年(11歳)
男子	5月	16.33	16.5	19.88	22.88	29.4	35.33
	10月	16.25	18	21.86	23.43	33	40.2
	県	10.24	14	16.75	23.2	27.15	31.79
	全国	9.27	13.34	17.43	21.74	26.46	29.95
	全国平均との差	7.06	3.16	2.45	1.14	2.94	5.38
	全国との優越関係	◎	◎	◎	◎	◎	◎

		1年(6歳)	2年(7歳)	3年(8歳)	4年(9歳)	5年(10歳)	6年(11歳)
女子	5月	6.43	8	11.25	16.5	17.57	25.33
	10月	7.57	10.14	14.25	17.5	17.86	27
	県	6.43	7.76	10.33	12.86	15.2	17.66
	全国	5.86	7.81	9.94	12.41	15.12	17.49
	全国平均との差	0.57	0.19	1.31	4.09	2.45	7.84
	全国との優越関係	◎	◎	◎	◎	◎	◎

※全国平均よりも ◎上回っている ▼下回っているもの



考察⑦:ソフトボール投げ(瞬発力・投能力及び巧緻性について)

「全ての学年の男女とも」に、全国平均を上回っている。

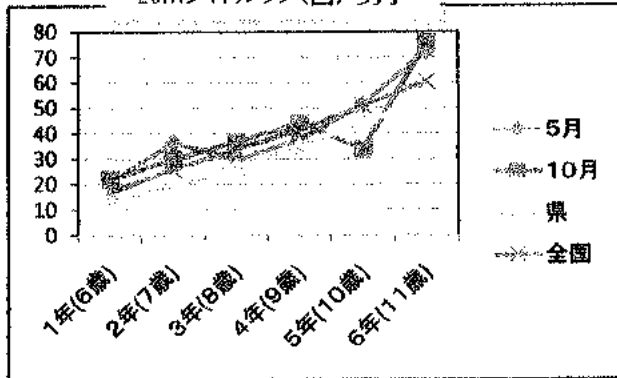
8 20mシャトルラン(回)

		1年(6歳)	2年(7歳)	3年(8歳)	4年(9歳)	5年(10歳)	6年(11歳)
男子	5月	21.17	36.25	29.63	37.38	51.6	72.33
	10月	22	29.75	36.67	44	33.6	76
	県	14.15	19.22	27.15	35.23	44.11	52.86
	全国	16.87	25.7	33.79	41.27	50.95	60.42
	全国平均との差	4.3	10.55	-4.16	-3.89	0.65	11.91
	全国との優越関係	◎	◎	▼	▼	◎	◎

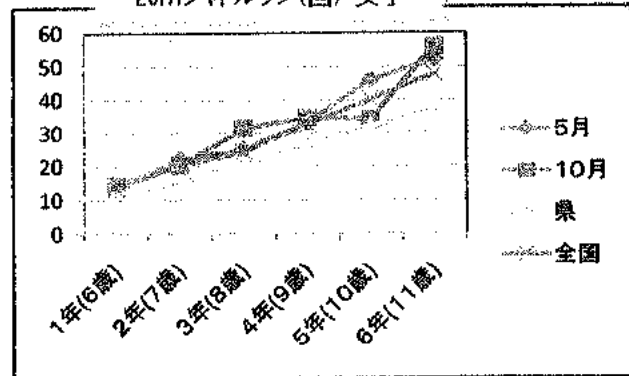
		1年(6歳)	2年(7歳)	3年(8歳)	4年(9歳)	5年(10歳)	6年(11歳)
女子	5月	13	22.25	25.25	33.25	46	52
	10月	14.43	20.5	31.5	34.75	34.29	56
	県	12.02	15.65	20.87	26.66	31.95	37.47
	全国	13.89	20.56	24.6	32.68	40.18	47.74
	全国平均との差	-0.89	1.69	0.65	0.57	5.82	4.26
	全国との優越関係	▼	◎	◎	◎	◎	◎

※全国平均よりも ◎上回っている ▼下回っているもの

20mシャトルラン(回) 男子



20mシャトルラン(回) 女子



考察①:20mシャトルラン(全身持久力について)

「2・5・6年の男女」と「1年男子」と「3・4年の女子」は、全国平均を上回っている。

全国平均と比較して(5月の考察)

- ・ソフトボール投げが全学年男女とも全国平均よりも上回っている。また、「20mシャトルラン」も全国平均よりも上回って学年が多いため、力をつけてきていることが伺える。
- ・「握力」、「上体起こし」、「長座体前屈」、「立ち幅とび」は著しい効果が表れていない。体育朝会の見直しや遊びの促進のための校内環境整備について検討する必要があるのではないかと。

以上のことから…

- めあてを持ち、主体的に取り組む体育の学習の工夫と実践。
- 教育活動全体で取り組む遊びの促進とその手だて。
- 体育朝会での活動の工夫と外部講師による実技指導
- 遊びの促進に向けた道具作成について
- 「体育」「運動・遊び」「食育」に関する標語の作成

を提案し、2学期以降の更なる児童のたくましい体と心の向上を図っていく。

10月に実施した結果を受けて…

全国平均と比較して(10月の考察)

- 握力において、「3・6年の男女」と「1・2年男子」「4年女子」が全国平均を上回った。
- 上体起こしにおいて、「1・5・6年の男女」と「3・4年女子」が全国平均を上回った。
- 長座体前屈においては、「全学年男女」ともに全国平均を上回った。
- 反復横とびにおいては、「全学年男女」ともに全国平均を上回った。
- 50m走において、「1・2・5・6年の男女」と「3・4年女子」が全国平均を上回った。
- 立ち幅とびにおいて、「1・2・3・5・6年の男女」と「4年女子」が全国平均を上回った。
- ソフトボール投げにおいては、「全学年の男女」ともに全国平均を上回った。
- 20mシャトルランにおいて、「1・3・4年の男女」と「2年男子」が全国平均を上回った。

総合して…(本校の児童の実態)

- 「長座体前屈」が「全学年」全国平均を上回ったことから、柔軟性が高まってきた。
- 「握力」「上体起こし」は、他の内容に比べて全国平均を上回っている学年が低い。よって、今後、それらが高めるための手だてや方法を検討する必要がある。
- ★11月上旬に20mシャトルランを実施したが、その際5年生が1週間教育活動を停止(新型インフルエンザ)したため、5月よりも記録が下回ってしまった。以上のことから、普段での教育活動全体での取り組みは児童の体力を向上させることに影響を与えていると裏付けることができる。また、同時に1週間教育活動を停止すると、児童の体力の低下に影響することがわかった。

新体力テストの結果より

次の表は、昨年度と今年度の新体力テストの結果(それぞれの年度で2回実施している)を比較したものである。
尚、全国・県とも平成19年度の新体力テストの平均値である。

◎:全国平均を上回った(5月) ☆:全国平均を上回った(H20の2回目実施) ☆:全国平均を上回った(H20の2回目実施) ○:県平均を上回った ▼:県平均を下回った

	① 握力		② 上体起こし		③ 長座体前屈		④ 反復横とび		⑤ 50m走		⑥ 立ち幅とび		⑦ ソフトボール投げ		⑧ 30mシャトルラン													
	H20.5.09 H19.5.09	H20.5.16 H19.5.16	H20.5.16 H19.5.16	H20.5.16 H19.5.16	H20.5.16 H19.5.16	H20.5.16 H19.5.16	H20.5.16 H19.5.16	H20.5.16 H19.5.16	H20.5.16 H19.5.16	H20.5.16 H19.5.16	H20.5.16 H19.5.16	H20.5.16 H19.5.16	H20.5.16 H19.5.16	H20.5.16 H19.5.16	H20.5.16 H19.5.16	H20.5.16 H19.5.16												
男子	▼	▼	☆	◎	▼	☆	◎	☆	◎	☆	◎	☆	◎	☆	◎	☆												
1年(5歳)	▼	▼	☆	◎	▼	☆	◎	☆	◎	☆	◎	☆	◎	☆	◎	☆												
2年(7歳)	▼	▼	☆	◎	▼	☆	◎	☆	◎	☆	◎	☆	◎	☆	◎	☆												
3年(8歳)	▼	▼	☆	◎	▼	☆	◎	☆	◎	☆	◎	☆	◎	☆	◎	☆												
4年(9歳)	▼	▼	☆	◎	▼	☆	◎	☆	◎	☆	◎	☆	◎	☆	◎	☆												
5年(10歳)	▼	▼	☆	◎	▼	☆	◎	☆	◎	☆	◎	☆	◎	☆	◎	☆												
6年(11歳)	▼	▼	☆	◎	▼	☆	◎	☆	◎	☆	◎	☆	◎	☆	◎	☆												
女子	▼	▼	☆	◎	▼	☆	◎	☆	◎	☆	◎	☆	◎	☆	◎	☆												
1年(6歳)	▼	▼	☆	◎	▼	☆	◎	☆	◎	☆	◎	☆	◎	☆	◎	☆												
2年(7歳)	▼	▼	☆	◎	▼	☆	◎	☆	◎	☆	◎	☆	◎	☆	◎	☆												
3年(8歳)	◎	◎	☆	◎	▼	☆	◎	☆	◎	☆	◎	☆	◎	☆	◎	☆												
4年(9歳)	◎	◎	☆	◎	▼	☆	◎	☆	◎	☆	◎	☆	◎	☆	◎	☆												
5年(10歳)	◎	◎	☆	◎	▼	☆	◎	☆	◎	☆	◎	☆	◎	☆	◎	☆												
6年(11歳)	▼	▼	☆	◎	▼	☆	◎	☆	◎	☆	◎	☆	◎	☆	◎	☆												
全国を上回った数	3	8	1	7	6	12	5	8	3	8	5	12	11	12	9	10	5	11	12	12	12	4	4	9	9			
県平均を上回った数	0	0	0	1	0	1	1	1	1	0	2	0	1	0	6	1	2	0	1	1	0	9	0	0	2	4	3	1
県平均を下回った数	9	4	11	4	6	0	6	3	8	4	5	0	1	1	1	4	0	6	0	1	4	0	6	4	0	2	0	2

【考察】
 ○ ③長座体前屈、④反復横とび、⑦ソフトボール投げは、「全学年」全国平均を上回ることができた。
 ○ ③長座体前屈、⑥立ち幅とびは、5月に比べて全国平均を上回る学年が増えた。
 ● ①握力、②上体起こしは著しい変化があまりみられなく、伸びも低い。今後の高めるための手だてを考えなければならない。

Ⅲ. 研究の実際

4. 各専門部の実践

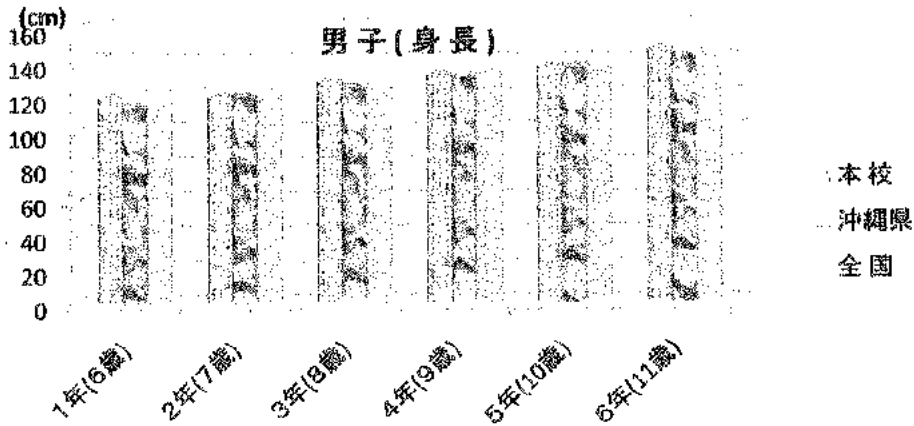
(1) 資料調査部の実践

体位・体格の実態

① 本校の児童の体格と全国、沖縄県(H20年度)との比較(平均値)

身長 (cm)	男 子					
	1年(6歳)	2年(7歳)	3年(8歳)	4年(9歳)	5年(10歳)	6年(11歳)
本校	119.2	120	128.9	132.8	137.2	147.3
沖縄県	115.9	121.2	126.8	132.1	137.9	144.1
全国	116.7	122.5	128.2	133.7	138.9	145.3
全国との差	2.5	-2.5	0.8	-0.9	-1.7	2
全国との優劣関係	◎	▼	◎	▼	▼	◎

※ 全国平均よりも ◎:上回っている ▼:下回っている

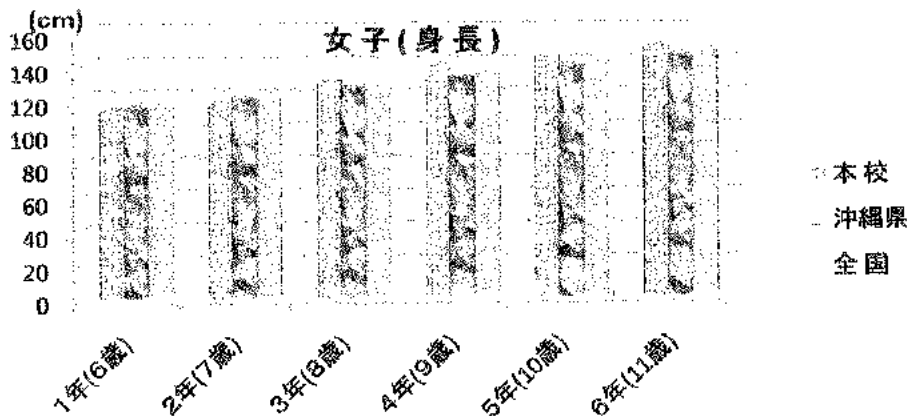


(考察)

- 1・3・6年の男子の平均値が全国よりも上回っている。
- 4年男子は、県平均を上回っている。

身長 (cm)	女 子					
	1年(6歳)	2年(7歳)	3年(8歳)	4年(9歳)	5年(10歳)	6年(11歳)
本校	113.7	117	129.7	138.9	144.4	150.3
沖縄県	115.2	120.8	126.8	132.7	139.7	145.9
全国	115.8	121.7	127.5	133.6	140.3	146.8
全国との差	-2.1	-4.7	2.2	5.3	4.1	3.5
全国との優劣関係	▼	▼	◎	◎	◎	◎

※ 全国平均よりも ◎:上回っている ▼:下回っている



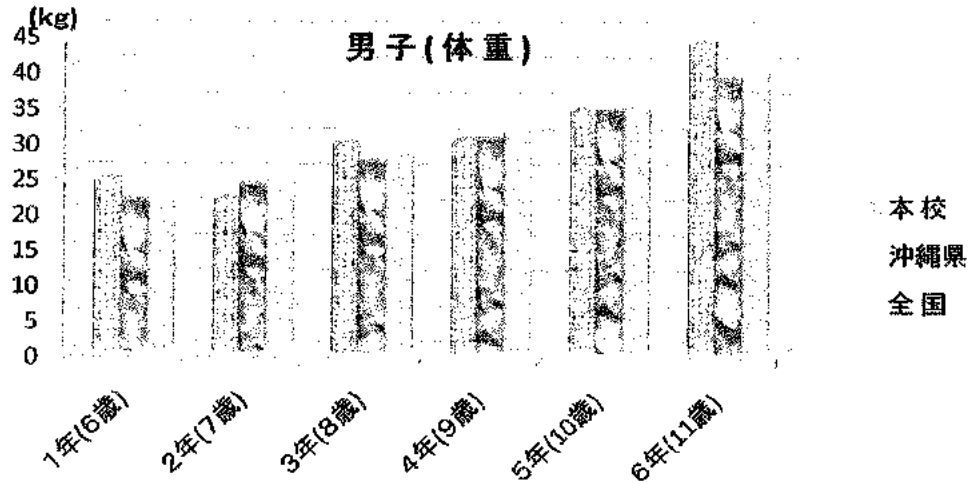
(考察)

- 3～6年の女子が、全国平均を上回っている。
- 4年女子が全国平均よりも大きく上回っている。

② 本校の児童の体格と全国、沖縄県(H20年度)との比較(平均値)

体重 (kg)	男 子					
	1年(6歳)	2年(7歳)	3年(8歳)	4年(9歳)	5年(10歳)	6年(11歳)
本校	24	21.3	29.2	29.7	34	43.4
沖縄県	21.2	23.5	26.8	30.1	33.9	38.4
全国	21.5	24.2	27.3	30.8	34.3	38.8
全国との差	2.5	-2.9	1.9	-1.1	-0.3	4.6
全国との優越関係	◎	▼	◎	▼	▼	◎

※ 全国平均よりも ◎:上回っている ▼:下回っている

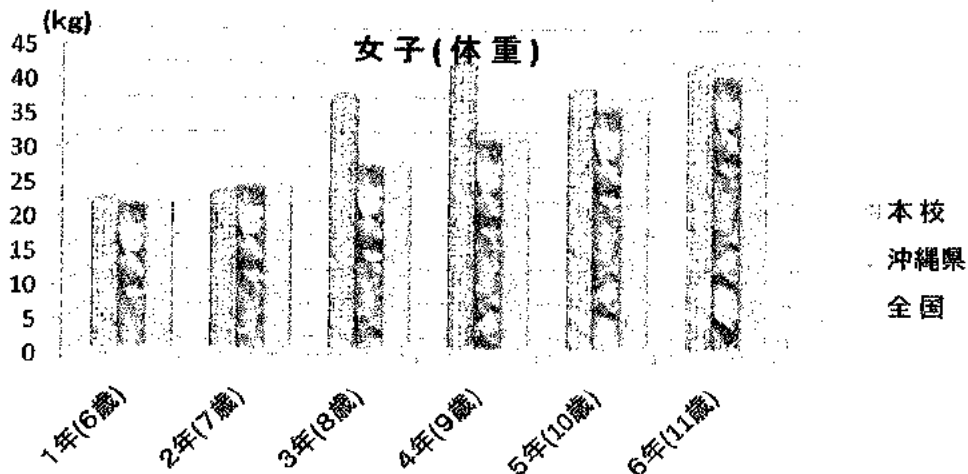


(考察)

- ・ 1・3・6年の男子の平均値が全国よりも上回っている。
- ・ 5年男子は、県平均を上回っている。

体重 (kg)	女 子					
	1年(6歳)	2年(7歳)	3年(8歳)	4年(9歳)	5年(10歳)	6年(11歳)
本校	21.5	22.8	36.4	41.1	37.2	40.7
沖縄県	20.9	23.5	26.5	30	34.7	39.3
全国	21	23.6	26.6	30.1	34.4	39.3
全国との差	0.5	-1	9.8	11	2.8	1.4
全国との優越関係	◎	▼	◎	◎	◎	◎

※ 全国平均よりも ◎:上回っている ▼:下回っている



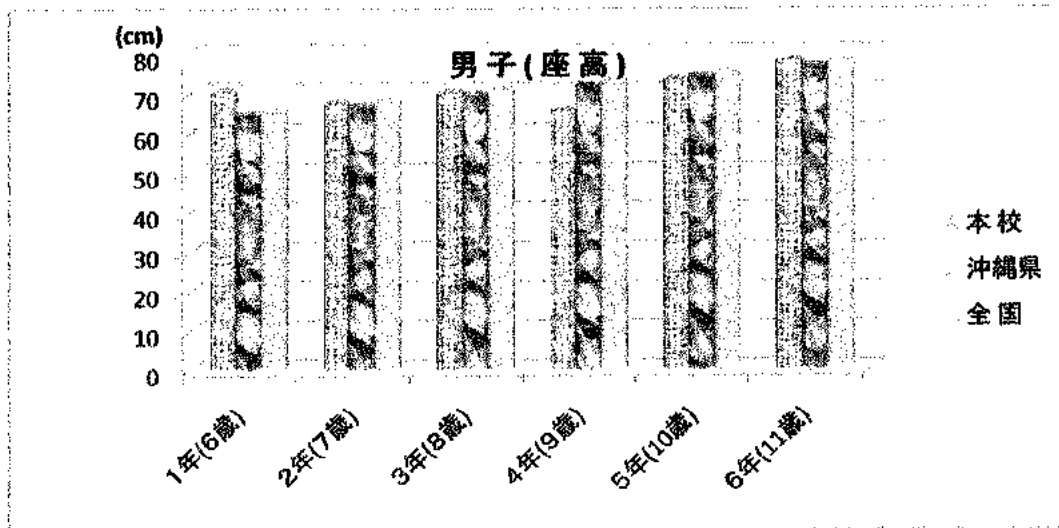
(考察)

- ・ 1年・3~5年の女子が、全国平均を上回っている。
- ・ 3・4年の女子が全国平均よりも大きく上回っている。

③ 本校の児童の体格と全国、沖縄県(H20年度)との比較(平均値)

座高 (cm)	男 子					
	1年(6歳)	2年(7歳)	3年(8歳)	4年(9歳)	5年(10歳)	6年(11歳)
本校	70.1	67.1	69.8	65.4	73.4	78
沖縄県	64.7	67	69.8	71.9	74.4	77.1
全国	65	67.7	70.3	72.8	75	77.8
全国との差	5.1	-0.6	-0.5	-7.4	-1.6	0.2
全国との優劣関係	◎	▼	▼	▼	▼	◎

※ 全国平均よりも ◎:上回っている ▼:下回っている

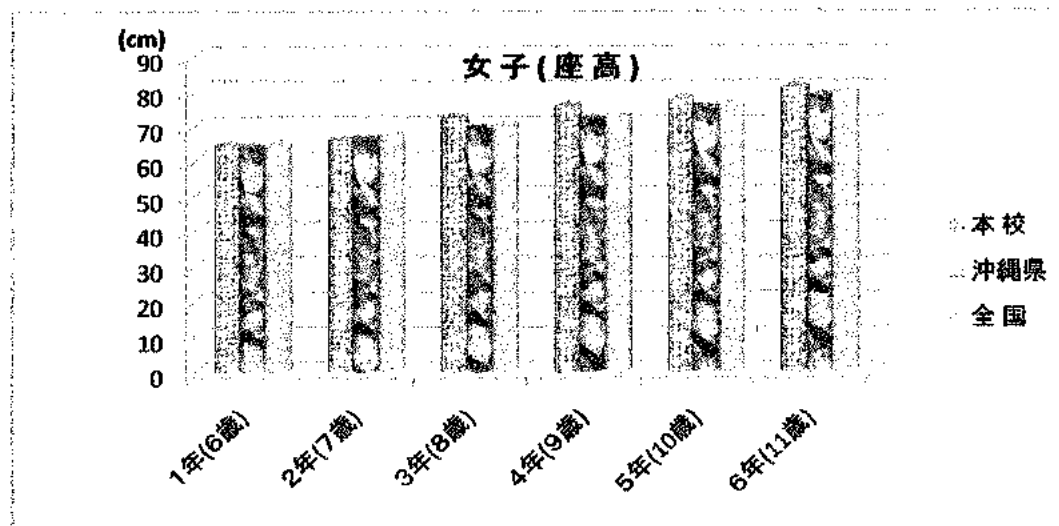


(考察)

- ・ 1~6年の男子の平均値が全国よりも上回っている。
- ・ 1年男子は、全国平均を大きく上回っている。

座高 (cm)	女 子					
	1年(6歳)	2年(7歳)	3年(8歳)	4年(9歳)	5年(10歳)	6年(11歳)
本校	64.4	66.1	72.4	75.8	77.6	81
沖縄県	64.3	66.8	69.7	72.3	75.8	78.9
全国	64.6	67.3	70	72.8	76	79.3
全国との差	-0.2	-1.2	2.4	3	1.6	1.7
全国との優劣関係	▼	▼	◎	◎	◎	◎

※ 全国平均よりも ◎:上回っている ▼:下回っている



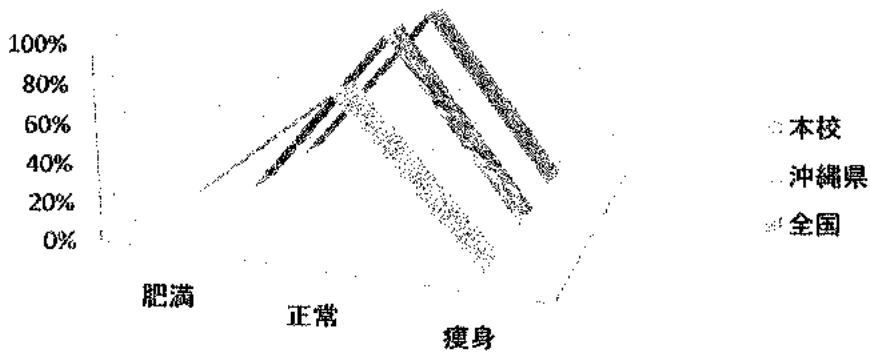
(考察)

- ・ 3~6年の女子が、全国平均を上回っている。
- ・ 4年の女子が全国平均よりも大きく上回っている。

④ 本校の児童の体格と全国、沖縄県(H20年度)との比較(平均値)

1年男子	肥満傾向児・痩身傾向児の出現率		
	肥満	正常	痩身
本校	1(20%)	4(80%)	0(0%)
沖縄県	3.7%	96%	0.3%
全国	4.5%	95%	0.5%

1年男子

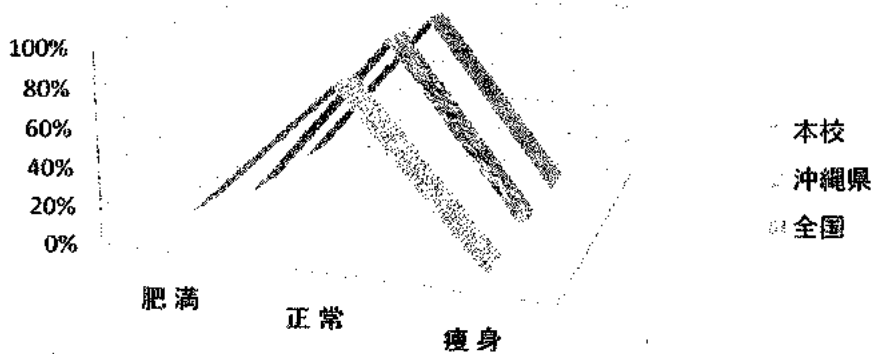


〈考察〉

・本校では、1名肥満(軽度肥満)がみられた。

1年女子	肥満傾向児・痩身傾向児の出現率		
	肥満	正常	痩身
本校	1(14%)	6(86%)	0(0%)
沖縄県	4.3%	95%	0.2%
全国	4.6%	94.9%	0.5%

1年女子

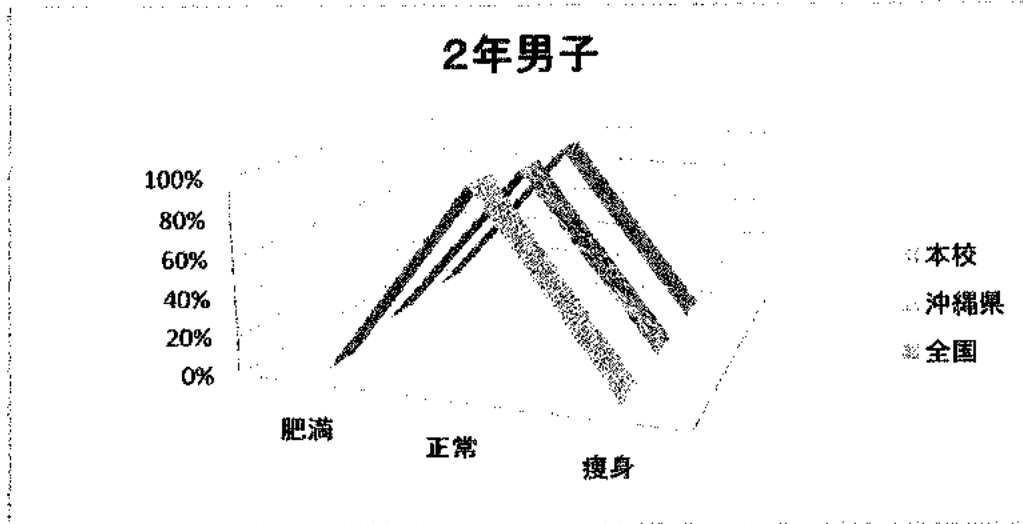


〈考察〉

・本校では、1名肥満(軽度肥満)がみられた。

⑤ 本校の児童の体格と全国、沖縄県(H20年度)との比較(平均値)

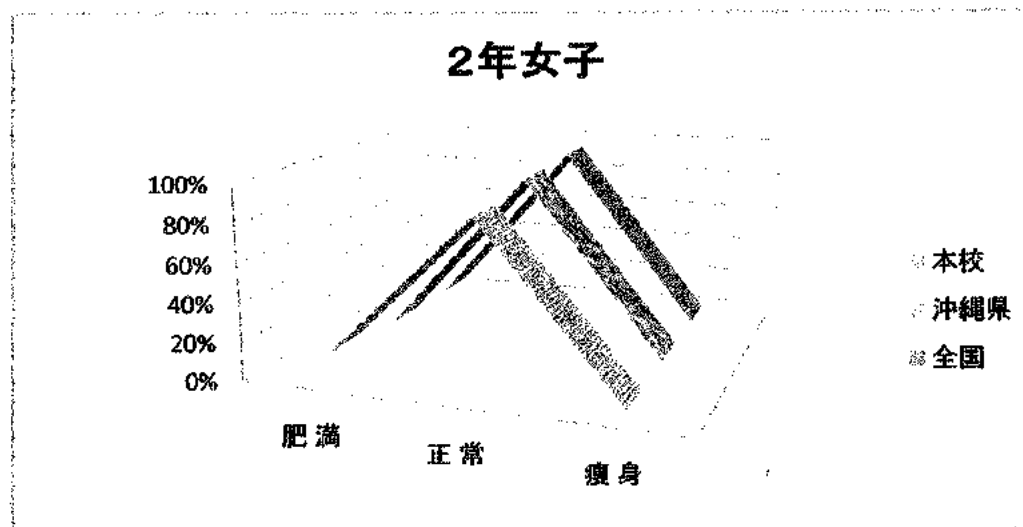
2年男子	肥満傾向児・痩身傾向児の出現率		
	肥満	正常	痩身
本校	0(0%)	4(100%)	0(0%)
沖縄県	5.6%	93.9%	0.5%
全国	6.2%	93.4%	0.4%



(考察)

・本校では、全員が正常値であった。

2年女子	肥満傾向児・痩身傾向児の出現率		
	肥満	正常	痩身
本校	1(13%)	7(87%)	0(0%)
沖縄県	7.4%	92.1%	0.5%
全国	5.9%	93.5%	0.6%



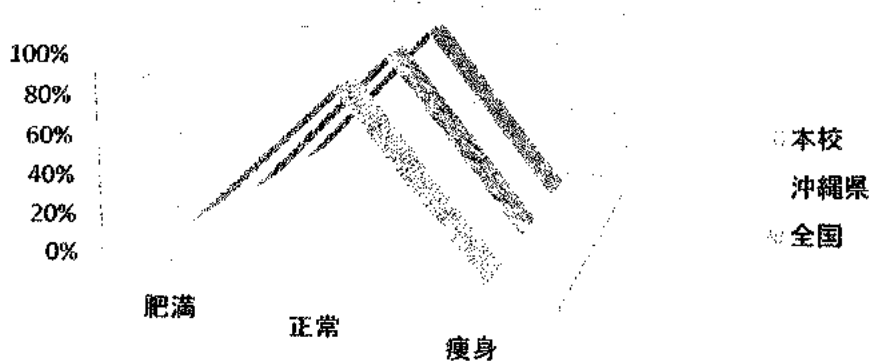
(考察)

・本校では、1名肥満(軽度肥満)がみられた。

⑥ 本校の児童の体格と全国、沖縄県(H20年度)との比較(平均値)

3年男子	肥満傾向児・痩身傾向児の出現率		
	肥満	正常	痩身
本校	1(13%)	7(87%)	0(0%)
沖縄県	9.6%	89.9%	0.5%
全国	8.0%	91.2%	0.8%

3年男子

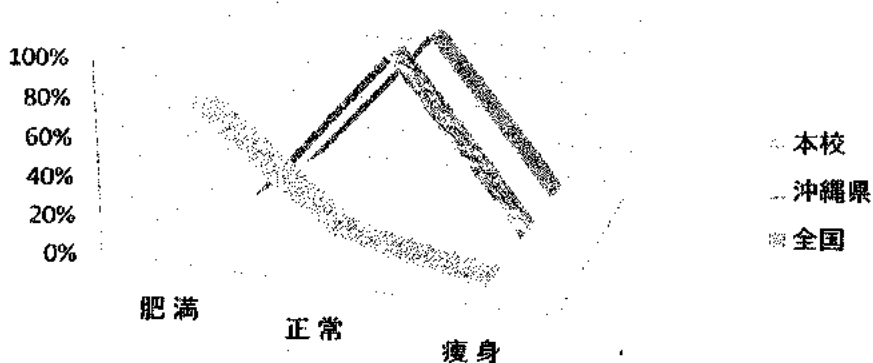


(考察)

・本校では、1名肥満(中等度肥満)がみられた。

3年女子	肥満傾向児・痩身傾向児の出現率		
	肥満	正常	痩身
本校	3(75%)	1(15%)	0(0%)
沖縄県	6.7%	92.9%	0.4%
全国	7.2%	91.8%	1.0%

3年女子

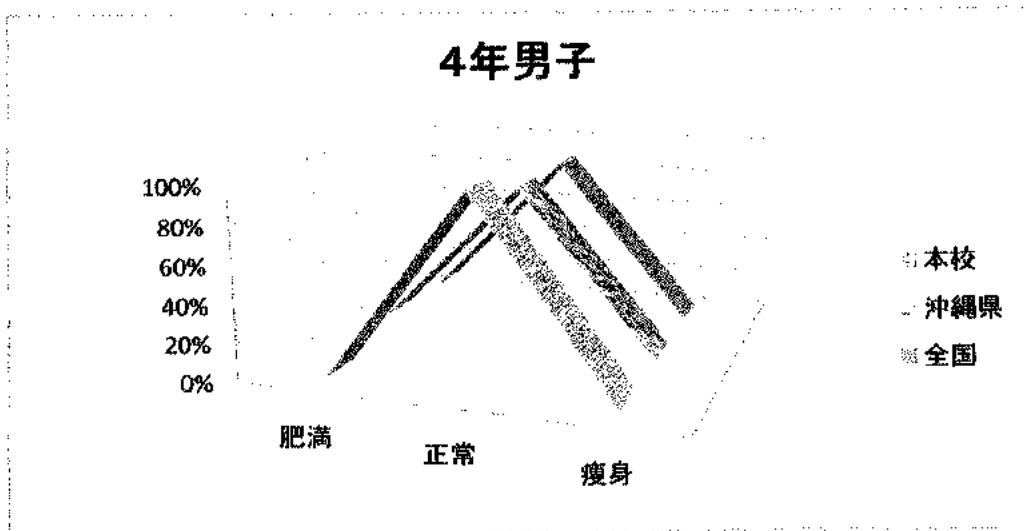


(考察)

・本校では、3名肥満(軽度肥満1名・中等度肥満1名・高度肥満1名)がみられた。

⑦ 本校の児童の体格と全国、沖縄県(H20年度)との比較(平均値)

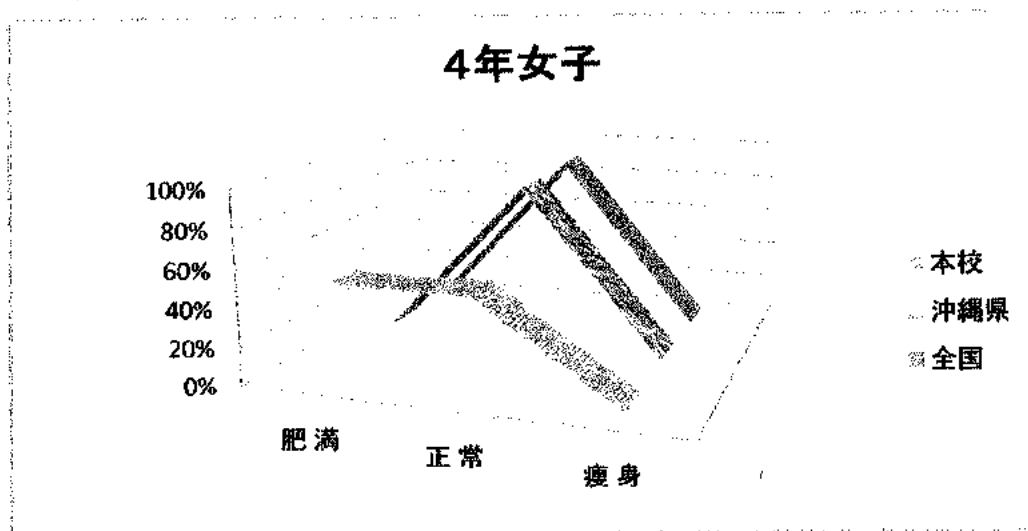
4年男子	肥満傾向児・痩身傾向児の出現率		
	肥満	正常	痩身
本校	0(0%)	6(100%)	0(0%)
沖縄県	11.6%	87.7%	0.7%
全国	10.4%	88.3%	1.3%



(考察)

・本校では、全員が正常値であった。

4年女子	肥満傾向児・痩身傾向児の出現率		
	肥満	正常	痩身
本校	2(50%)	2(50%)	0(0%)
沖縄県	8.3%	89.3%	2.4%
全国	7.9%	90.6%	1.5%

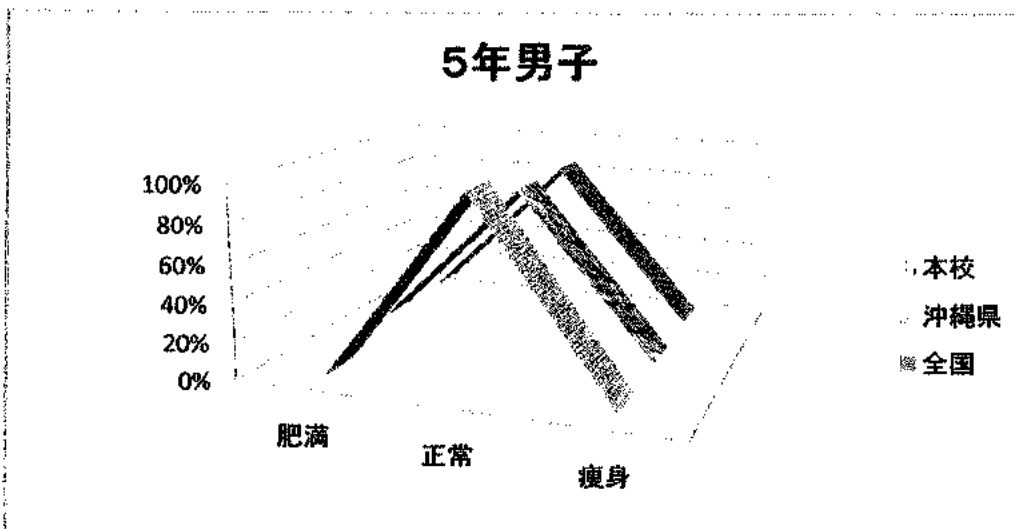


(考察)

・本校では、2名肥満(中等度肥満2名)がみられた。

⑧ 本校の児童の体格と全国、沖縄県(H20年度)との比較(平均値)

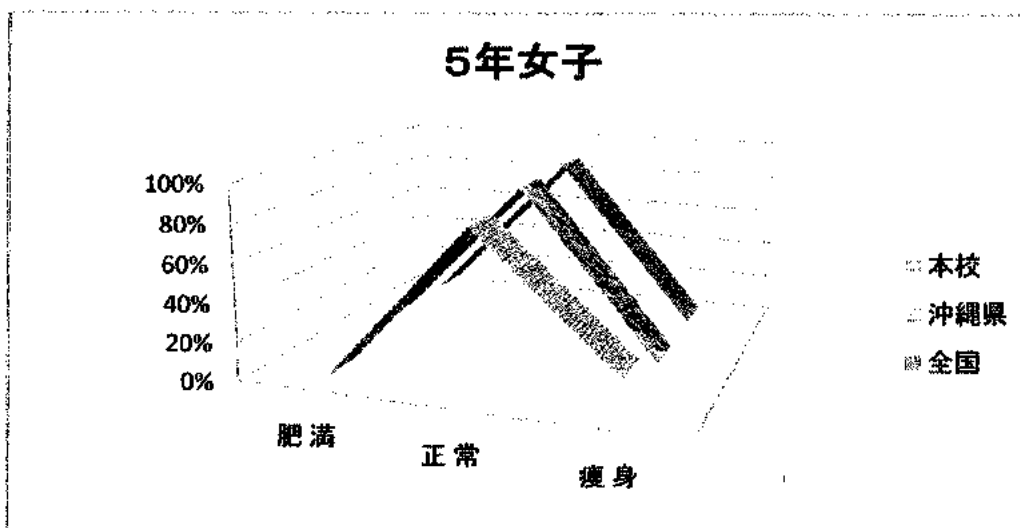
5年男子	肥満傾向児・痩身傾向児の出現率		
	肥満	正常	痩身
本校	0(0%)	5(100%)	0(0%)
沖縄県	12.0%	87.1%	0.9%
全国	11.3%	86.3%	2.4%



〈考察〉

・本校では、全員が正常値であった。

5年女子	肥満傾向児・痩身傾向児の出現率		
	肥満	正常	痩身
本校	0(0%)	5(83%)	1(17%)
沖縄県	10.7%	88.4%	0.9%
全国	9.4%	88.2%	2.4%

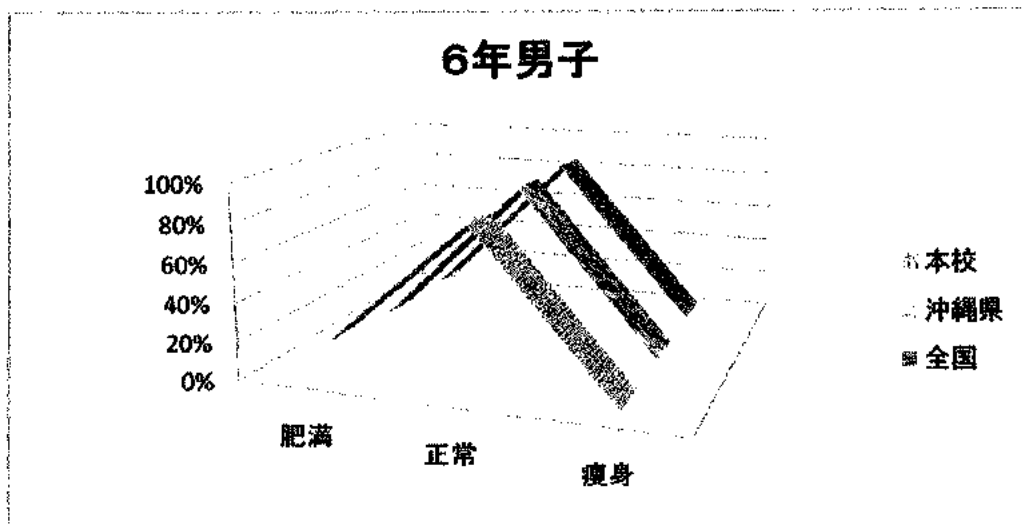


〈考察〉

・本校では、1名痩身(軽度痩身)がみられた。

⑨ 本校の児童の体格と全国、沖縄県(H20年度)との比較(平均値)

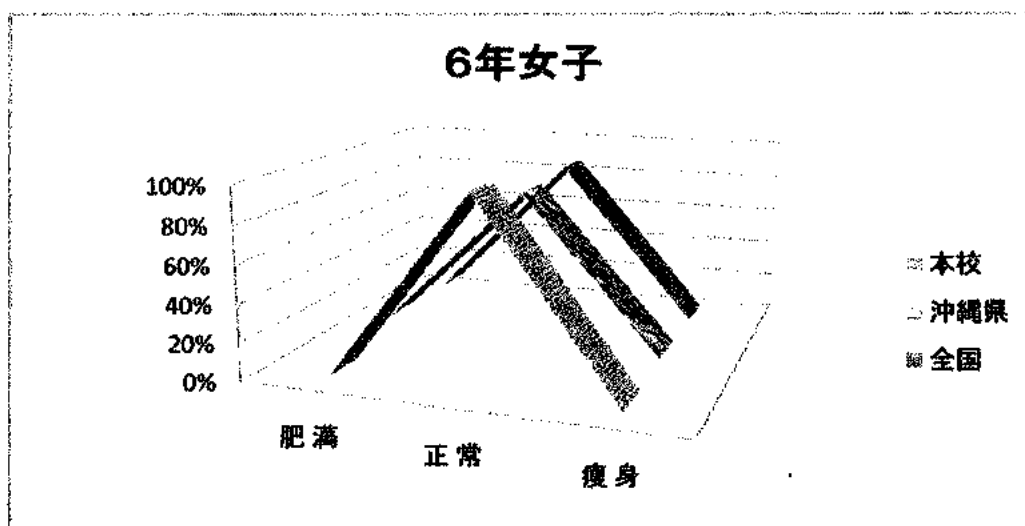
6年男子	肥満傾向児・痩身傾向児の出現率		
	肥満	正常	痩身
本校	1(17%)	5(83%)	0(0%)
沖縄県	12.2%	86.3%	1.5%
全国	11.2%	86.0%	2.8%



(考察)

・本校では、1名肥満(中等度肥満)がみられた。

6年女子	肥満傾向児・痩身傾向児の出現率		
	肥満	正常	痩身
本校	0(0%)	3(100%)	0(0%)
沖縄県	11.8%	85.6%	2.6%
全国	9.7%	87.6%	2.7%



(考察)

・本校では、全員が正常値であった。

⑩ 今年度の全国における体格の発育状況

(1) 身長

平成20年度の男子の身長(全国平均値。以下同じ。)は、6歳(小1)、9歳(小4)、11歳(小6)で、前年度より増加している。しかし、その他の年齢では、8歳(小3)、10歳(5年)で前年度より減少している。

一方、女子の身長は、7歳(小2)～9歳(小4)で前年度の同年齢より増加している。

(2) 体重

平成20年度の男子の体重(全国平均値。以下同じ。)は、9歳(小4)、11歳(小6)で前年度より増加している。しかし、その他の年齢では、8歳(小3)、10歳(5年)で前年度より減少している。

一方、女子の体重は、7歳(小2)と9歳(小4)の年齢で前年度の同年齢より増加している。

(3) 座高

平成20年度の男子の座高(全国平均値。以下同じ。)は、6歳(小1)、9歳(小4)、11歳(小6)で前年度より増加している。しかし、その他の年齢では、8歳(小3)、10歳(小5)で前年度より減少している。

一方、女子の座高は、6歳(小1)で前年度より増加している。

(4) 肥満傾向児及び痩身傾向児の出現率

肥満傾向児の出現率は、男子では、9歳(小4)から11歳(小6)で10%を超えており、10歳(小5)が11.3%と最も高くなっている。一方、女子では、11歳(小6)が9.7%で最も高くなっている。

また、痩身傾向児の出現率は、男子では9歳(小4)から11歳(小6)で1%を超えており、11歳(小6)が2.8%と最も高くなっている。一方、女子では8歳(小3)から11歳(小6)で1%を超えており、11歳(小6)が2.7%と最も高くなっている。

(5) 肥満傾向児及び痩身傾向児の出現率の算出・判定方法

肥満・痩身傾向児については、平成17年度まで、性別・年齢別に身長別平均体重を求め、その平均体重の120%以上の体重の者を肥満傾向児、80%以下の者を痩身傾向児としていたが、18年度から、性別、年齢、身長別標準体重から肥満度を算出し、肥満度が20%以上の者を肥満傾向児、-20%以下の者を痩身傾向児としている。

肥満度の求め方は、以下の通りである。

肥満度(過体重度)%

$$= [\text{実測体重(kg)} - \text{身長別標準体重(kg)}] \div \text{身長別標準体重(kg)} \times 100(\%)$$

$$\ast \text{身長別標準体重(kg)} = a \times \text{実測身長(cm)} - b$$

標準体重を求める係数

年齢(学年)	男		女	
	a	b	a	b
6(小1)	0.461	32.382	0.458	32.079
7(小2)	0.513	38.878	0.508	38.367
8(小3)	0.592	48.804	0.561	45.006
9(小4)	0.687	61.390	0.652	56.992
10(小5)	0.752	70.461	0.730	68.091
11(小6)	0.782	75.106	0.803	78.846

判定基準

肥満度	判定
50%以上	高度肥満
30～49.9%	中等度肥満
20～29.9%	軽度肥満
-19.9～-19.9%	正常
-20～-29.9%	軽度痩身
-30%以下	高度痩身

「児童・生徒の健康診断マニュアル(改訂版)」より
平成18年3月31日発行 財団法人 日本学校保健会

⑪ 新体力テストとの相関関係について

以下の内容は、H21年4月の「本校の体位・体格」とH21年度の5/13に実施した「新体力テスト」からの相関である。男女別に考察する。

(男子)

- 「身長」「体重」「座高」全て全国平均よりも上回っている学年は、「1・6年」であった。
 - 1年は「上体起こし」「反復横とび」「50m走」「立ち幅とび」「ソフトボール投げ」「20mシャトルラン」の6項目で全国平均を上回った。
 - 6年は「反復横とび」「50m走」「立ち幅とび」「ソフトボール投げ」「20mシャトルラン」の5項目で全国平均を上回った。

- 「身長」「体重」で全国平均よりも上回っている学年は、「3年」であった。
 - 3年は「長座体前屈」「反復横とび」「立ち幅とび」「ソフトボール投げ」の4項目で全国平均を上回った。

(女子)

- 「身長」「体重」「座高」全て全国平均よりも上回っている学年は、「3～6年」であった。

また、3・4年は「肥満傾向」が高い集団であるが、測定の結果運動能力に差異は見られなかった。

 - 特に、4年は「握力」「上体起こし」「長座体前屈」「反復横とび」「50m走」「ソフトボール投げ」「20mシャトルラン」の7項目で全国平均を上回った。
 - 5年は「上体起こし」「反復横とび」「立ち幅とび」「ソフトボール投げ」「20mシャトルラン」の5項目で全国平均を上回った。
 - 6年は「反復横とび」「50m走」「立ち幅とび」「ソフトボール投げ」「20mシャトルラン」の5項目で全国平均を上回った。
 - 3年は「反復横とび」「ソフトボール投げ」「20mシャトルラン」の3項目で全国平均を上回った。

- 「体重」が全国平均よりも上回っている学年は、「1年」であった。
 - 1年は「上体起こし」「長座体前屈」「反復横とび」「50m走」「ソフトボール投げ」の5項目で全国平均を上回った。



以上のことを踏まえると…

★ 「身長」「体重」「座高」において、全国平均よりも上回る項目が多ければ多いほど、新体力テストで実施した8項目で全国平均を上回る可能性が高いことがわかった。

III. 研究の実際

4. 各専門部の実践

(1) 資料調査部の実践

◎ 水泳指導の実践

① ねらい

- 各学年でめあてを立て、めあてが全員達成できるように、水に慣れ親しませながら取り組む。
- 水に対する安全の注意を守る。
- 学年の発達段階(低学年:水遊び 中学年:浮く・泳ぐ 高学年:水泳)に応じて泳ぎ方の基本を身につけ、泳力を伸ばす。
- 水泳学習を通して心身の健全な発達を促進する。

② 期間

平成21年6月8日(月)～7月8日(水)

③ 場所

交流センタープール

④ プール使用時数割り当て

幼稚園(8時間)・低学年(14時間)・中学年(14時間)・高学年(14時間)

⑤ 指導方針

- ア. 入水許可書、健康観察カードの提出を義務づける。
 - イ. 水泳着はナイロン、またはポリエステル製のもとし、水泳帽は必ずかぶる。
 - ウ. 幼・低学年は(基本的に)補助プールを使用する。
 - エ. 水泳学習期間中は、他の領域や種目を行わない(水泳に集中させるため)。
 - オ. 十分な学習時間を確保する。
 - カ. 3年生以上の学年においては、水泳学習の第1時と第14時には泳力調査を実施し、泳力の伸びを記録していき、結果を本校の研究紀要に載せる。
- ★ 安全面を考慮し、保護者に、陸上監視をお願いする。

⑥ 今年度の各学年のめあて

以下のように自分たちでめあてを立てて水泳学習に取り組んできた。

1年『みずをこわがらないで たのしくみずあそびをする』

2年『みんなが10mおよげるようにならば』

3年『めざせ 20mいじょう!』

4年『クロール・ひら泳ぎで 25m泳ぐ』

5年『安全に気をつけ いろんな泳ぎに挑戦し 35m以上泳ぐ!』

6年『安全に気をつけ 全員50m以上泳ぐ』

⑦ 指導上の留意点

- 無理せず、ゆっくりと目標が達成できるように指導していく。
- バディを組ませるなどして、安全面に気をつける。

III. 研究の実際

4. 各専門部の実践

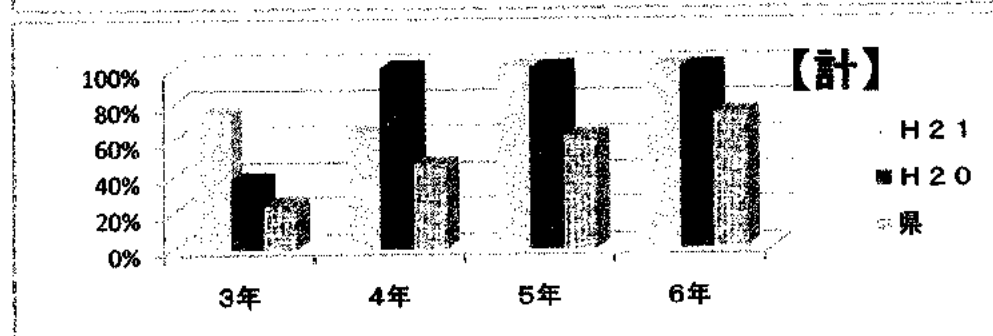
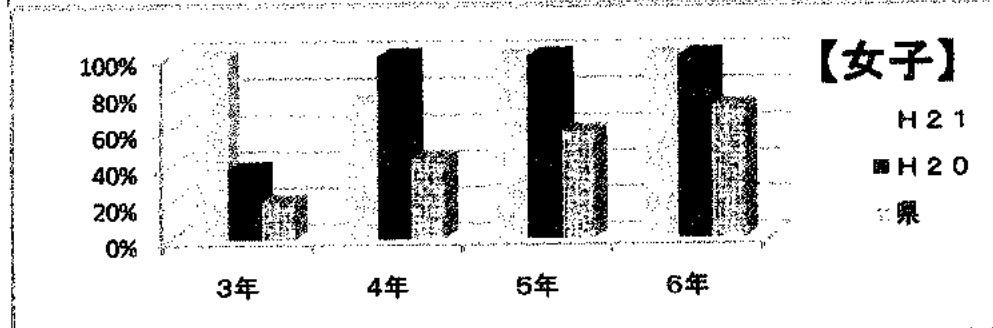
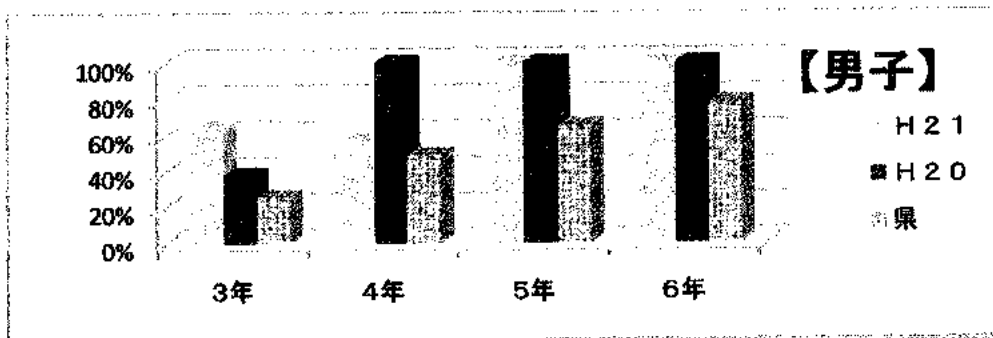
(1) 資料調査部の実践

児童の泳力(県との比較)

～25m以上泳げる児童の割合～

		3年	4年	5年	6年
男子	H21	5(63%)	4(57%)	5(100%)	6(100%)
	H20	3(38%)	5(100%)	6(100%)	3(100%)
	県	25.8%	48.8%	64.9%	77.6%
女子	H21	4(100%)	3(75%)	7(100%)	3(100%)
	H20	3(38%)	8(100%)	3(100%)	10(100%)
	県	20.2%	43.8%	58.4%	72%
計	H21	12(75%)	7(64%)	12(100%)	9(100%)
	H20	6(38%)	13(100%)	9(100%)	13(100%)
	県	23%	46.3%	61.7%	74.8%

調査時期:平成21年7月中旬



※3・4年生は、バタ平・ドル平・クロールから選択。

※5・6年生はクロール・平泳ぎから選択して実施した。

(考察)

全体的にどの学年の男女も県平均を超えている。本校では、3年生以上が皆泳25m目指して目標を立てて取り組んだ。その結果、高学年は、男女とも全員が25m以上泳ぐことができた。

中学年では、男女ともに皆泳には達していないが、学習を重ねることに自分に合った泳法で泳げる児童が増えていった。その結果、4年生は、3年生の時よりも25m泳げる児童が増えてきている。また、記録を伸ばした児童の多くは、バタ平で泳いでいた。

一方、脱力と息つきが困難であるため泳げない児童が数名いる。さらに、指導方法を改善していく必要がある。

以上のことから、低学年の「水遊び」から中学年の「浮く・泳ぐ」、高学年の「水泳」までの系統的・段階的な指導・個に応じた指導の工夫が必要だといえる。

4. 各専門部の実践

(1) 資料調査部の実践

食教育の充実を目指して

本校では、研究仮説(3)「普段の自己の食生活を見つめ直しながら、体によい食べ物と必要な量を知ることによって、望ましい食習慣が身につく、食行動を実践することができ、たくましい体と心の備わった児童を育成することができるであろう。」を受け、年間の給食目標を掲げ、普段の給食指導・食教育の実践に力を入れている。

1. 研究仮説にせまる手だて

①給食指導の充実 …各担任による指導

年間給食目標

月	目 標	低学年・指導内容	中学年・指導内容	高学年・指導内容
4	楽しい給食にしよう	<ul style="list-style-type: none"> 身の回りの準備 給食当番の仕方を知る 	<ul style="list-style-type: none"> 準備、後片づけを協力し手際よくする 気持ちよい食事の場をつくる 	<ul style="list-style-type: none"> 準備、後片づけを協力し手際よくする 楽しい給食の場作り
5	正しい食事の仕方を身につけよう	<ul style="list-style-type: none"> よい姿勢でこぼれないように食べる パン、牛乳、おかずを交互に食べる 	<ul style="list-style-type: none"> よい姿勢で食事をする 時間内で食べ終わるようにする 	<ul style="list-style-type: none"> よい姿勢で食事をする 正しい食事作法を身につける
6	骨や歯を丈夫にする食品について知ろう	<ul style="list-style-type: none"> 牛乳の栄養素とその働きについて知る 	<ul style="list-style-type: none"> 丈夫な歯、骨を作る食品を心がけて摂るようにする 	<ul style="list-style-type: none"> カルシウムを多く含む食品とその働きを知る
7	衛生に気をつけよう	<ul style="list-style-type: none"> 正しい手洗いのしかた 清潔なエプロン、三角巾を身につける 	<ul style="list-style-type: none"> 手洗いの必要な理由を理解し正しく洗う 衛生、安全に気をつけ運搬する 	<ul style="list-style-type: none"> 正しい手洗いを習慣化する 衛生、安全に気をつけ運搬する
9	よくかんで食べよう	<ul style="list-style-type: none"> よくかむと、だ液が出て消化のために良いことを知る 	<ul style="list-style-type: none"> よくかむことによって歯や歯ぐきを強くし、消化吸収にもよいことを理解する 	<ul style="list-style-type: none"> そしゃくと吸収の関係について理解する
10	朝ご飯をバランスよく食べよう	<ul style="list-style-type: none"> 朝ご飯をきちんと食べる 	<ul style="list-style-type: none"> からだによい朝食の摂り方を知る 	<ul style="list-style-type: none"> 朝食の献立を作る
11	感謝して食べよう	<ul style="list-style-type: none"> 給食を世話してくれた人々に感謝する 	<ul style="list-style-type: none"> 給食のできるまでの過程を知り、関係する人々に感謝する 	<ul style="list-style-type: none"> 給食のできるまでの過程を知り、関係する人々に感謝する
12	かぜに負けない体をつくろう	<ul style="list-style-type: none"> 寒さに負けない体をつくる食品を知る 	<ul style="list-style-type: none"> 冬の食べ物を知り、その働きを知る 	<ul style="list-style-type: none"> 冬の食べ物と、その栄養素の働きがわかる
1	好き嫌いをなくそう	<ul style="list-style-type: none"> 好き嫌いがあると、丈夫な体になれないことを知る 	<ul style="list-style-type: none"> 好きなものばかり食べていると、栄養が偏ることを知る 	<ul style="list-style-type: none"> 肥満の原因につなげ、病気と食事の関係を具体的に知る
2	栄養について考えよう	<ul style="list-style-type: none"> おやつを食べ過ぎに注意する 	<ul style="list-style-type: none"> 赤黄緑の食べ物の働きを知りバランスよく食べる 	<ul style="list-style-type: none"> 体の成長に役立つ栄養の働きを知る
3	1年間の反省をしよう	<ul style="list-style-type: none"> 楽しく食事をするのができたか、話し合う 	<ul style="list-style-type: none"> 正しい食事の仕方ができるようになったか、話し合う 	<ul style="list-style-type: none"> 食生活に関心が持てるようになったか、話し合う

②完食を目指した授業実践

3年「ペロリ賞の極意を考えよう」

「食品は働きによって赤・黄・緑にわけられること」の学習を通して、自己の普段の給食の摂り方を見つめ、何が苦手な食べ物か意識している。多くの児童は、栄養バランスを考えて食べるというよりも、「好き」か「嫌い」かで食品を判断し、給食のメニューによっては食べ残しが見られる。

そこで、完食をする極意を考え、自分の給食の食べ方を振り返りながら課題点を把握し、めあてを持って、バランスよく食べようとする態度を身に付けさせる。

③食の見直しによる食指導の充実

5・6年「たくましい体を育もう」-食の見直しを通して-

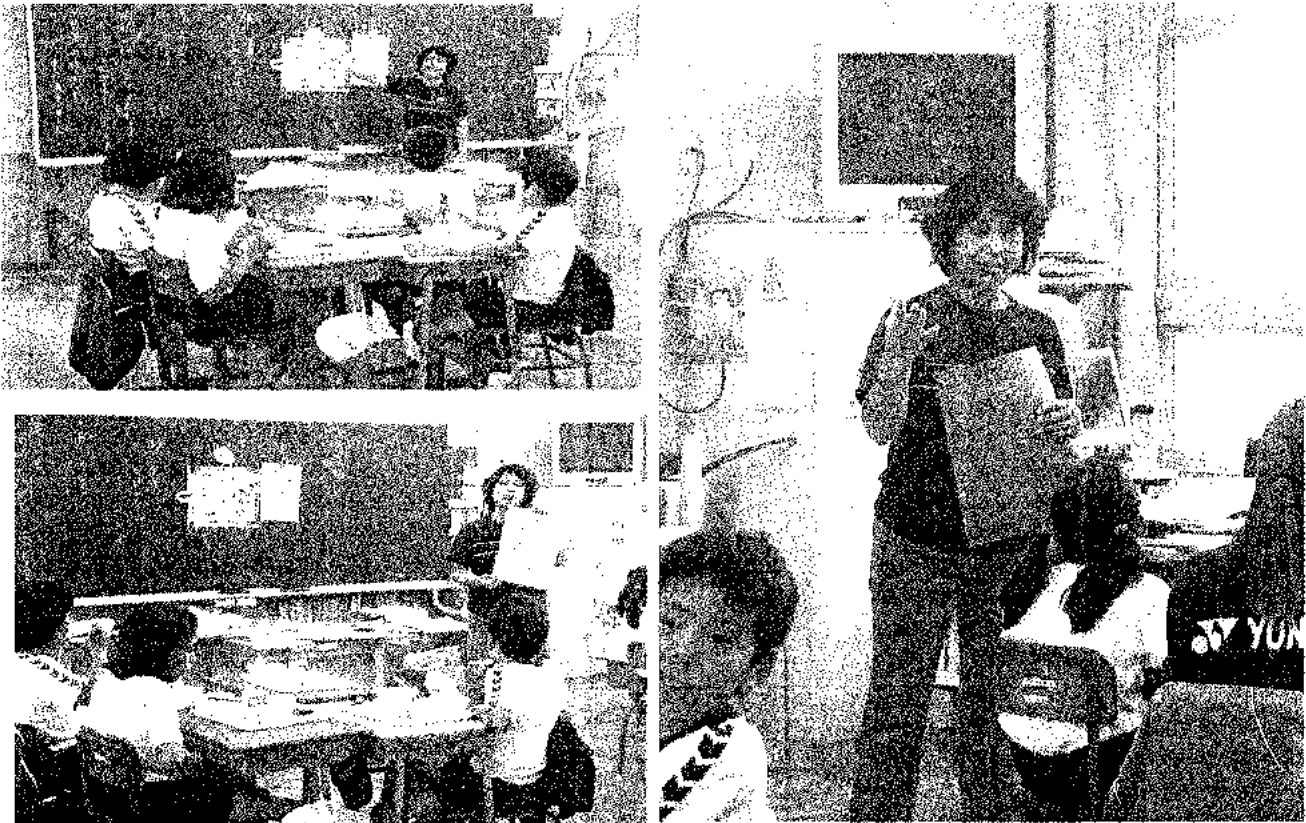
「きれいな物でも食べるようにしたい。」では、なぜ食べないといけないのか。その理由についてわかっている児童は少ない。また、栄養バランスと体位や体力との関係についても同じことが言える。

そこで、栄養士とのT・T授業を実施し、自己の食生活を振り返ったり、親子でお弁当作りを体験することを通して、栄養バランスと体位や体力、健康な体などについて気づかせる。

④校長講話による意識付け

- ・たくましい体と心 5月
- ・よく遊び よく学べ 7月
- ・健康でたくましい子に（インフルエンザ対策） 9月
- ・食足りて礼節を知る 11月

⑤栄養士による指導



* 月一程度、栄養士の糸糸先生やえ子先生が給食巡回指導を行っている。「健康な体づくりは、まず食べることから」として子どもたちに献立における「食品の役割、栄養バランスのとれた食事とはどのようなものか。」など、食の重要性を教えています。

⑥給食時間における取組

ア. ふれあい給食

担任外の職員が各学級に入り、多くの児童とふれあいながら楽しい給食の時間を過ごす。また、児童との交流を深め、学級の様子を知る機会とする。

平成21年度 ふれあい給食計画表

学年 日付		1年	2年	3年	4年	5年	6年
		1	10/29 (木)	校長	長間	入与那国	—
2	11/2 (月)	—	—	—	大城	兼城	教頭
3	11/9 (月)	長間	大城	兼城	—	—	—
4	11/13 (金)	—	—	—	教頭	校長	入与那国
5	11/16 (月)	兼城	教頭	校長	—	—	—
6	11/25 (水)	—	—	—	長間	入与那国	大城

*ふれあい給食のほかにも、「なかよし給食」や「思い出給食」などの給食行事を行い、“食”を通して子どもたちと一緒に過ごす時間をつくり、児童一人一人の成長を見守っています。

イ. なかよし給食

他学年と準備や会食を共にすることで、助け合いや思いやりの気持ちを育てることを目的とする。(年に1～2回開催)

ウ. 思い出給食

卒業前に6年生を2～3人ずつ校長室へ招待し、会食しながらこれからの進路や目標などを語り合う。(毎年度3月のはじめに開催)

エ. 親子給食

昨年度12月に、1年学級で各家庭から1品ずつおかずを持ち寄り、親子で昼食をとった。

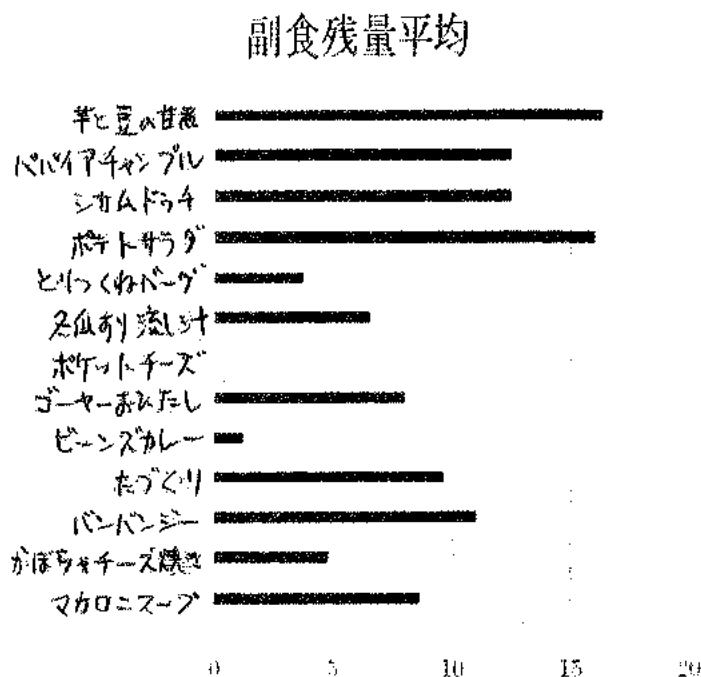
2. 残量調査から見る本校の実態

①児童の学校給食の様子（学校共同調理場資料より）

*平成21年 6月15日～19日 5日間の残量調査の結果

献立別（副食）残量結果

副食残量平均	割合(%)
マカロニスープ	8.6
かぼちゃチーズ焼き	4.8
バンバンジー	11.0
たづくり	9.6
ビーンズカレー	1.2
ゴーヤーおひたし	8.0
ポケットチーズ	0
冬瓜すり流し汁	6.5
とりつくねバーグ	3.7
ポテトサラダ	16.0
シカムドゥチ	12.5
パパイアチャンプル	12.2
芋と豆の甘煮	16.3



残量平均	H19年6月	H20年6月	H21年6月
牛乳	0.9	0.4	1.0
主食	13.4	9.2	5.0
副食	20.7	13.5	9.3
デザート	5.2	12.3	8.2

昨年度の残量調査後、学校共同調理場の栄養士は、「鉄、食物繊維はバランスよく食品を摂取しないと基準値をみだすことができない。特に豆類、小魚、海藻類、イモ類、野菜類は残さないようにすることが大切。残量傾向は毎年同様で、食べ慣れていない豆類や野菜類などの残量の割合が高い」と述べていた。今年度の献立別（副食）残量結果を見ても、芋と豆の甘煮 16.3%、パパイアチャンプル 12.2 など豆や野菜を含むものの残量の割合は高いが、副食全体の残量平均は減少傾向にある。低学年・中学年においては、バランス良く食べることにあまり意識していないと思われるが、学校全体として健康の保持増進のため意図的に豆類や野菜類が入ることを受け入れ、進んで完食しようとする行動変容がうかがえる。

また今年度の残量調査で栄養士は、『カルシウム量を増やすために小魚を多く使用しましたが、「ひじきごはん」や「たづくり」が多く残されていました。牛乳だけではカルシウム量は満たされません。小魚や海藻を家庭でも使用し慣れさせるようにしてほしいと思います。』と献立の工夫や家庭との連携の必要性を述べた。

3. 成果と課題

- ・たくましい体と心をつくる児童の育成について、仮説（3）に食教育についても挿入されたことは良かった。
- ・給食指導や食生活について見直す実践が行われたことも給食残量の減少につながっている。
- ・食事と発育の関係性をとらえた指導の充実。
- ・6年間を通じた食教育指導計画の作成が必要。
- ・残量を減少させることと併せてバランスの良い食事やたくましい体づくりに関係すること等の指導の充実。
- ・保護者・家庭と連携した食教育の推進。

Ⅲ. 研究の実際

4. 各専門部の実践

(2) 環境整備部の実践

◎ 児童の実態把握「運動や体育に関するアンケートの実施」

① ねらい

- 日頃の運動や体育の学習において、年に2回(6月と11月)アンケートを全児童対象に行うことで、児童の実態を把握し、充実した運動・体育学習のデータを作成し、活用していく。
- 各学年毎にデータを収集することで、今後の運動や体育の学習を進めていく上で、児童の変容を把握し、分析考察していくとともに、指導の成果と課題に結びつけて研究を進めていく。

② 調査実施時期

平成21年 6月19日(金)～26日(金)【1回目】

11月9日(月)～13日(金)【2回目】

③ 調査対象

小学1年生～小学6年生の 計70名の児童【1回目】

計67名の児童【2回目】

④ 記入方法

各学年に応じた、「運動や体育の学習に関するアンケート用紙」に記入する。

⑤ その他

年2回(6月と11月)のアンケート結果を比較して児童の変容をまとめる予定であったが、紀要作成の日程上、11月24日(火)の研究発表の際に報告する。

◎ 遊びの促進「ゴールドジャンプの実践 ～ぼくの、わたしのゴールド記録の活用～」

① ねらい

- 自己のゴールドジャンプの記録や運動の記録をとり、自分で振り返らせることで、めあてを持って主体的に取り組む態度を育て、技能を習得していこうとする意欲を育てる。
- 1年間の自己の記録をとり、振り返らせることにより、次年度以降もさらに継続して自己の技能の向上を図ろうとする態度を育てる。

② 方法

- 日常生活でできるようになった項目があれば、担任でチェックし、シールやサインをして児童の意欲を高めていくようにする。

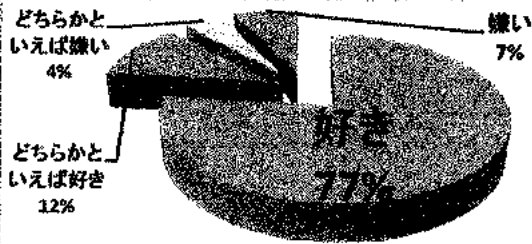
運動や体育の学習に関するアンケート (平成21年度)

～児童の意識調査～

問1 あなたは運動が好きで、運動をするのが好きですか。

- ①好き ②どちらかといえば好き ③どちらかといえば嫌い ④嫌い

	①	②	③	④
1年	10(84%)	1(8%)	1(8%)	0(0%)
2年	10(84%)	1(8%)	0(0%)	1(8%)
3年	9(75%)	1(8%)	0(0%)	2(17%)
4年	9(82%)	1(9%)	1(9%)	0(0%)
5年	7(59%)	3(25%)	1(8%)	1(8%)
6年	7(78%)	1(11%)	0(0%)	1(11%)
合計	52(77%)	8(12%)	3(4%)	5(7%)

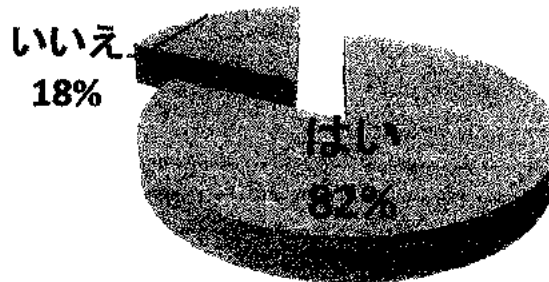


「①好き」または「②どちらかといえば好き」と回答した児童は89%であり、運動をする児童が多いことがわかる。

問2 体育の学習以外に、普段運動をしていますか。(部活動も含む)

- 1.はい 2.いいえ

	①	②
1年	7(58%)	5(42%)
2年	9(75%)	3(25%)
3年	12(100%)	0(0%)
4年	9(82%)	2(18%)
5年	11(92%)	1(8%)
6年	8(89%)	1(11%)
合計	56(82%)	12(18%)

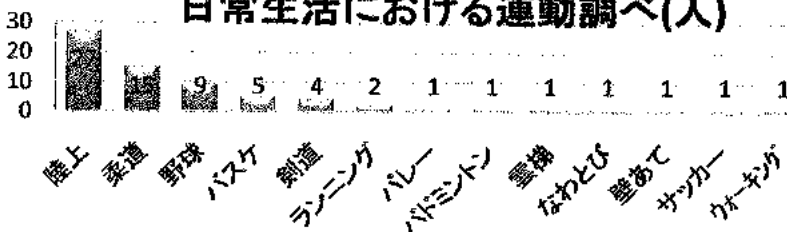


82%の児童が「①はい」と回答している。しかし、18%の「②いいえ」の児童の運動量の確保を検討していく必要がある。

問3 問2で「①はい」と答えた人は、何をしていますか。(複数回答)

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計
陸上	3	9	4	2	6	3	27(40%)
柔道	4	1	5	2	1	2	15(23%)
野球	0	0	2	1	3	3	9(14%)
バスケ	0	0	0	2	0	3	5(7%)
剣道	0	0	1	1	1	1	4(6%)
ランニング	0	0	0	1	1	0	2(3%)
バレー	0	0	1	0	0	0	1(1%)
バドミントン	0	0	1	0	0	0	1(1%)
雲梯	0	0	0	1	0	0	1(1%)
なわとび	0	0	0	1	0	0	1(1%)
壁あて	0	0	0	0	1	0	1(1%)
サッカー	0	0	0	0	0	1	1(1%)
ウォーキング	0	0	0	1	0	0	1(1%)
合計	7	10	14	12	13	13	69(100%)

日常生活における運動調べ(人)

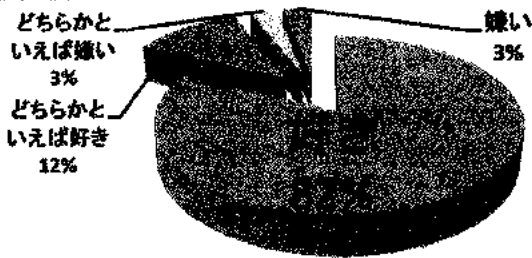


全学年を通じて「陸上」や「柔道」に興味を持ち、運動している児童がいる。

問4 あなたは、体育の学習が好きですか。

- ①好き ②どちらかといえば好き ③どちらかといえば嫌い ④嫌い

	①	②	③	④
1年	11(92%)	1(8%)	0(0%)	0(0%)
2年	10(84%)	1(8%)	0(0%)	1(8%)
3年	10(84%)	1(8%)	0(0%)	1(8%)
4年	9(82%)	1(8%)	1(9%)	0(0%)
5年	10(84%)	2(16%)	0(0%)	0(0%)
6年	6(67%)	2(22%)	1(11%)	0(0%)
合計	56(82%)	8(12%)	2(3%)	2(3%)



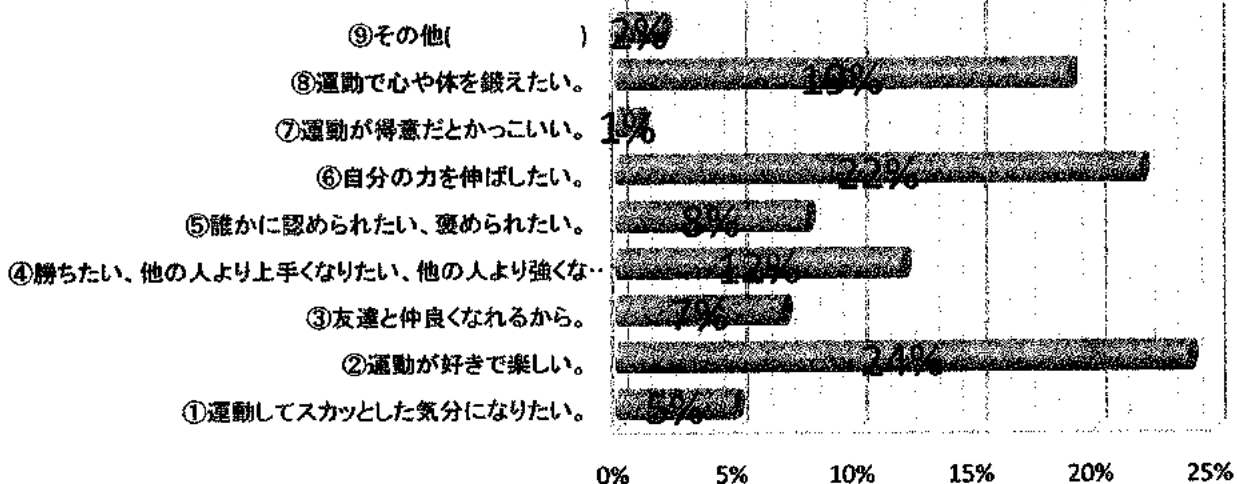
「①好き」または「②どちらかといえば好き」と回答した児童はほぼ8割であり、体育の学習が好きな児童が多いことがわかる。

問5 問4で【①好き】か【②どちらかといえば好き】を選んだ人は、その理由を選んで下さい。(3つ)

- | | |
|---------------------------------|--------------------|
| ①運動してスカッとした気分になりたい。 | ⑤誰かに認められたい、褒められたい。 |
| ②運動が好きで楽しい。 | ⑥自分の力を伸ばしたい。 |
| ③友達と仲良くなれるから。 | ⑦運動が得意だとカッコいい。 |
| ④勝ちたい、他の人より上手になりたい、他の人より強くなりたい。 | ⑧運動で心や体を鍛えたい。 |
| | ⑨その他() |

	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
1年	1	8	8	4	4	7	0	4	0
2年	2	8	2	3	1	6	0	7	0
3年	1	8	1	4	2	10	0	6	1
4年	2	5	1	4	1	4	0	6	0
5年	0	7	0	3	6	6	1	6	1
6年	3	6	1	3	0	5	0	4	0
合計	9(5%)	42(24%)	13(7%)	21(12%)	14(8%)	38(22%)	1(1%)	33(19%)	2(2%)

体育の学習が好きな理由(%)

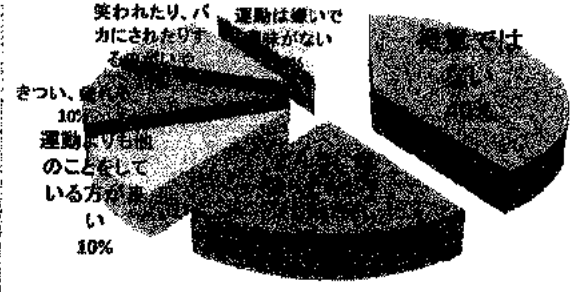


体育の学習が好きな理由として最も多かったものとして「②運動が好きで楽しい」であった。次いで、「⑥自分の力を伸ばしたい」「⑧運動で心や体を鍛えたい」という理由が多かった。単に体を動かすのが好きだから体育が好きではなく、心身ともに鍛えたい。もっと自分の力を伸ばしたいという意欲が感じとれる。一方、「⑨その他」として、【目標をもちたい3年】【体育のことでからかわれたくない5年】といった少数意見もあった。

問6 問4で【3.どちらかといえば嫌い】か【4.嫌い】を選んだ人はその理由を選んでください。(3つ)

- ①きつい、疲れる。
- ②運動より他のことをしている方が良い。
- ③ケガなどをしたくない。
- ④負けるのがいや。
- ⑤得意ではない。
- ⑥笑われたり、バカにされたりするのがいや。
- ⑦どんなに頑張っても上手くなれない。
- ⑧運動をやっても何の役にも立たない。
- ⑨運動は嫌いで興味がない。
- ⑩その他()

	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩
1年	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2年	1	0	0	0	1	0	1	0	0	0
3年	0	0	0	0	1	0	1	0	1	0
4年	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0
5年	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6年	0	1	0	0	1	1	0	0	0	0
合計	1(10%)	1(10%)	0(0%)	0(0%)	4(40%)	1(10%)	2(20%)	0(0%)	1(10%)	0(0%)

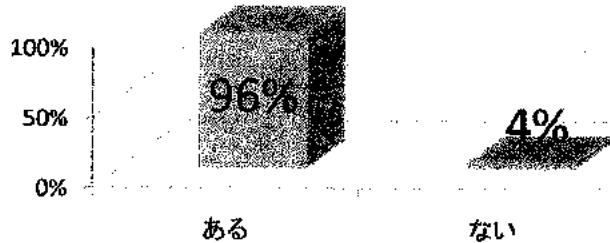


体育が【3.どちらかといえば嫌い】【4.嫌い】を選んだ児童は、全体の6%であったが、「⑤得意ではない」「⑦どんなに頑張っても上手くなれない」といった運動を苦手と決めつけてしまう児童がいる。そのような少数の児童の意識をどのように変えていくかが今後の課題となるであろう。

問7 体育の学習で好きな運動はありますか。

- ①ある
- ②ない

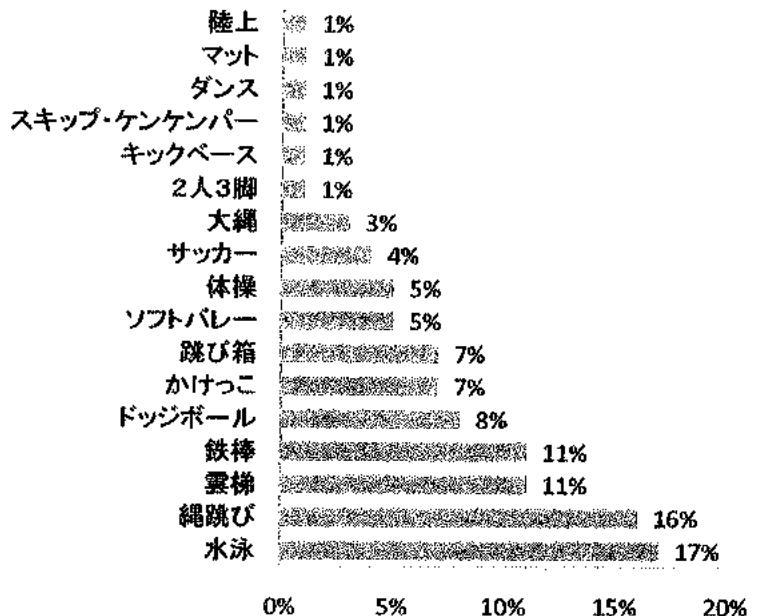
	①	②
1年	12(100%)	0(0%)
2年	12(100%)	0(0%)
3年	12(100%)	0(0%)
4年	9(82%)	2(18%)
5年	12(100%)	0(0%)
6年	8(89%)	1(11%)
合計	65(96%)	3(4%)



体育の学習で好きな運動がある児童が全体の96%いる。しかし、4%の好きな運動がないと回答した児童の運動を好きにさせる環境づくりや体育の学習の授業改善の工夫をする必要がある。

☆好きな運動は何ですか。(1・2年生複数回答可)

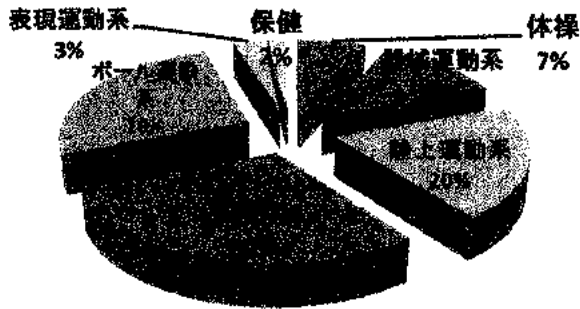
	1年	2年	合計
水泳	4	9	13(17%)
鉄棒	4	4	8(11%)
かけっこ	3	2	5(7%)
ソフトバレー	4	0	4(5%)
サッカー	1	2	3(4%)
キックベース	1	0	1(1%)
縄跳び	6	6	12(16%)
体操	4	0	4(5%)
陸上	1	0	1(1%)
雲梯	1	7	8(11%)
大縄	2	0	2(3%)
跳び箱	0	5	5(7%)
2人3脚	0	1	1(1%)
スリッポンパー	0	1	1(1%)
ドッジボール	0	6	6(8%)
マット	0	1	1(1%)
ダンス	0	1	1(1%)
合計			76(100%)



問8 問7で[1.ある]と選んだ人は、好きな運動はどれですか(3つまで)。※3年生以上が回答

- ①体操(体の柔らかさ、巧みな動き、力強い動き、用具を操作する動き(なわとび)など)
- ②器械運動系(マット運動、鉄棒運動、跳び箱運動)
- ③陸上運動系(かけっこ、リレー、走り高跳び、走り幅跳び、マラソン、ハードル走など)
- ④水泳系(浮く・泳ぐ運動、クロール・平泳ぎなど)
- ⑤ボール運動系(サッカー、バスケットボール、ソフトバレーボールなど)
- ⑥表現運動系(身近なものを動きで表現する活動、フォークダンス、リズムダンスなど)
- ⑦保健(「毎日の生活と健康」「育ちゆく体とわたし」「心の健康」「けがの予防」「病気の予防」)

	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	計
3年	4	5	7	10	9	1	0	36
4年	2	2	5	5	5	0	1	20
5年	1	3	4	11	6	2	1	28
6年	0	3	5	4	7	0	0	19
合計	7(7%)	13(13%)	21(20%)	30(29%)	27(26%)	3(3%)	2(2%)	103(100%)



「④水泳系」「⑤ボール運動系」「③陸上運動系」の3種で全体の75%を占めた。一方、体操が7%と少数の意見しかないので、体操に関心や興味を持たせ工夫が必要であると考え

☆上記で選んだ好きな運動の理由を書いて下さい。

①「体操」が好きな理由	
体が柔らかくなるから	2
体が柔らかくなって、何でもできるようになりたいから	1

②「器械運動系」が好きな理由	
跳ぶのが好きだから	1
できなかった事ができるようになるから	3
やっているうちに楽しくなるから	1
マット運動が好きだから	1

③「陸上運動系」が好きな理由	
走るのが好きだから	14
リレーはチームでやるから好き	1
高跳びが好きだから	1

④「水泳系」が好きな理由	
水に入るのが気持ちいいから	5
泳ぐのが好きだから	9
できないけど水と触れ合うのが楽しいから	1

⑤「ボール運動系」が好きな理由	
チームでやるから好き	1
蹴ったりするのが楽しい	3
やる種目(サッカー・ソフトバレーボール)が好き	4
いろいろな遊びができるから	1
取ったり、投げたりするのが楽しいから	2
ボール運動が得意だから	2
勝つのが嬉しい	2

⑥「表現運動系」が好きな理由	
ダンスや踊るのが好きだから	1
フォークダンスが好きだから	1

⑦「保健」が好きな理由	
体のいろんな事がわかるから	2

「走るのが好き」「泳ぐのが好き」「ボール使うのが好き」など、友達と競ったり、勝敗が分かるような種目があるものを好む傾向がある。
留意しなければならないのは、試合(ゲーム)や勝敗にこだわらないように授業を展開していく必要がある。

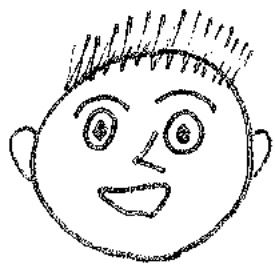
◎ 以上の児童の実態調査から…

- 低学年期に体育の学習以外で運動をすることがないと回答していることから、低学年期における運動や遊びなどの促進と工夫が必要である。
- 全学年を通じて、握力が全国平均よりも下回っている(新体力テストの結果)ことから、雲梯などの遊具を積極的に活用させる教師の声かけやと取り組みの工夫が必要である。
- 体育の学習において、自分の力や技能を高めたいという児童が多いことから、そのような意欲がある児童の継続的な指導方法と工夫・改善が必要である。

僕の、私のゴールド記録

5年 名前

ゴールドジャンプ記録	前跳(1階級)	一級(0.5m以上)	登梯	さか上がり	ホッピング	袴篤
	243(小結)		●	●	●	●



今年の目標
2kmを9分台で
きたいと思っ
ます。

鉄棒の記録	マット運動の記録	とび箱運動の記録	なわとびの記録
足かけ上がり	開脚前(後)転	開脚跳び(6段以上)	後ろ跳び
足かけ上がり	押しつ後転	台上前転	あや跳び(前)
前方支持回転	側方回転	抱え込みとび	あや跳び(後)
後方支持回転	とび込み前転	側方回転	交差跳び(前)
足かけ前回り	倒立前転	ヘッドスプリング	交差跳び(後)
足かけ後ろ回り	ハンドスプリング	ハンドスプリング	かけ足跳び
泳力測定 1400 m	ふみこしおり	ロンダード	二重跳び

持久走の記録	参考記録(去年の記録から換算)	6分0秒	1回目の記録	分	秒
	2回目の申告タイム	分	2回目の記録	分	秒
	3回目の申告タイム	分	3回目の記録	分	秒
	4回目の申告タイム	分	4回目の記録	分	秒
	5回目の申告タイム	分	5回目の記録	分	秒
	持久走大会での申告タイム	分	持久走大会の記録	分	秒

感想

	5月	10月	考察(気づいたこと)
握力	17 kg	18 kg	握力王の音のなかでオケカカいたのがよかった。
上体起こし	24 回	22 回	上体起こしは2回もやしたいです。
長座体前屈	25 cm	29 cm	足が伸びた感じがよかった。
反復横とび	45 回	48 回	反復横とびはもう思ってたのでよかった。
20mシャトルラン	65 回	56 回	ほとんどの人が20mシャトルランで9回もできているのがすごいと思った。
50m走	9.2 秒	8.8 秒	50m走は早く走ったのがよかった。
立ち幅とび	153 cm	169 cm	立ち幅とびも思ったよりよかった。
ソフトボール投げ	33 m	38 m	5mものびたのがよかった。

Ⅲ. 研究の実際

4. 各専門部の実践

(2) 環境整備部の実践

体育・スポーツ活動促進の環境整備及び教材開発

(ア) 体育・食育標語の取り組みと立て看板の設置

1. ねらい

- ①児童の体育の学習や運動に関する興味や関心を高めるために、体育標語の募集を行い、今後更なる学習活動へ意欲と体力の向上を図る。
- ②食育の観点からの標語も募集することにより、食習慣に対する関心を高め、自己の日頃の食生活を見直すことでたくましい体と心の向上を図る。
- ③児童が作成した標語の中で、いくつかの優秀作品を校内に掲示することで、日常生活における運動や遊びの促進を図る。
- ④体育推進校として本校への所属感を高めるため、与那国島もしくは与那国小学校特有のニュアンスを標語に入れることにより、与那国小学校独特の標語を作成する。

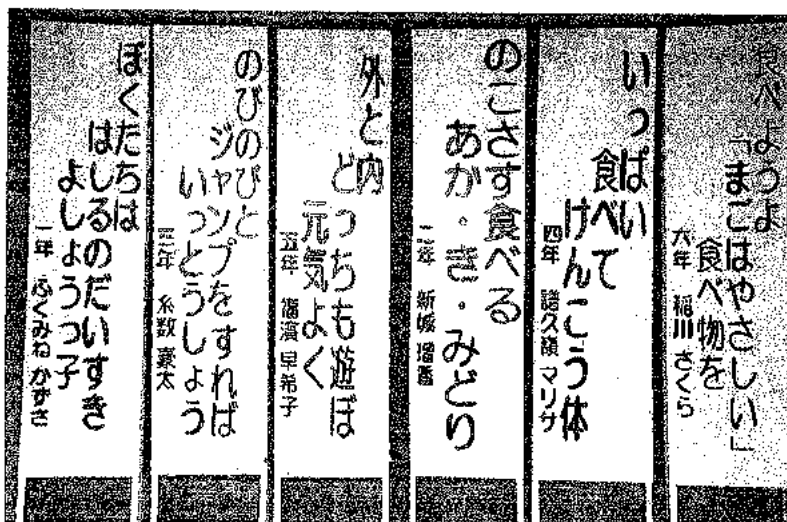
○立て看板作成の様子



力をあわせて作成中！



はみ出さないように…



仕上がった立て看板です。アイディアが光っているでしょ。

Ⅲ. 研究の実際

4. 各専門部の実践

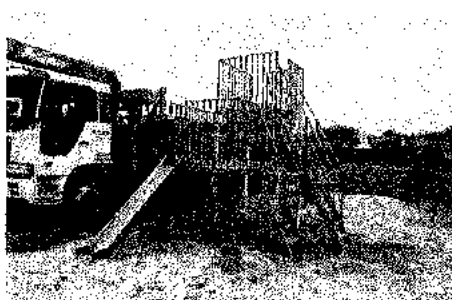
(2) 環境整備部の実践

イ. 滑り台設置と遊びの促進

ねらい

○ 児童が、日常的な遊びを楽しむことにより、体力の向上を図る。

○ すべり台設置の様子



保護者（崎元学さん・崎元恒夫さん）の協力により、設置されました！

○ すべり台使用開始式・校内安全祈願の様子



ソヌン・カニン・フィ（太鼓・鐘・笛）による座ならしの後、テープカット！！

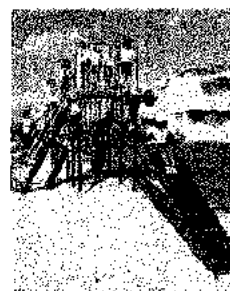
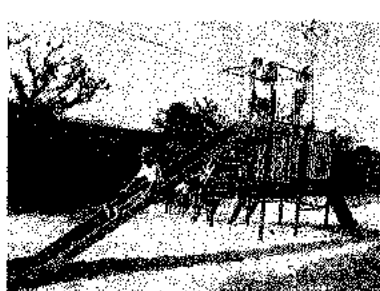
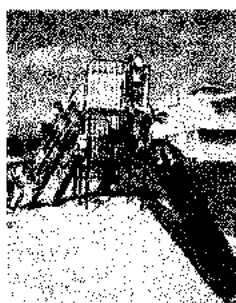


けがのないよう安全祈願



地域の方へ感謝して ルールを守ります

○ 活用の様子



「わーい！すべり台楽しいな！」

Ⅲ. 研究の実際

4. 各専門部の実践

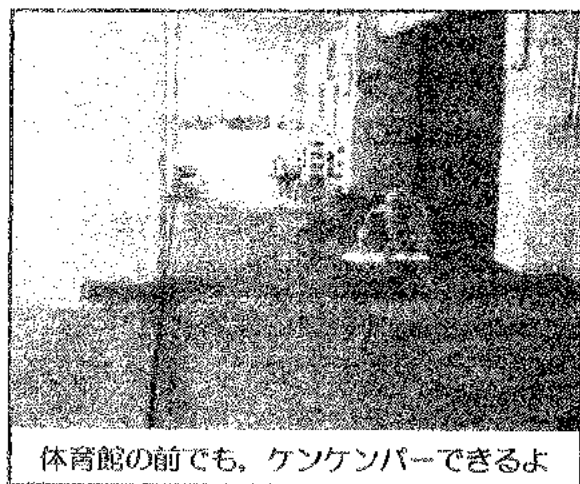
(2) 環境整備部の実践

ウ. ケンステップ・的当て板の作成と活用

1. ねらい

- ①夏休みに全職員で運動遊びの環境を整備することにより、2学期以降遊びの促進から児童の更なる体力向上を図る。
- ②遊びの環境を整えることで、遊びの活動の場に幅をもたせ、児童が自ら選択して様々な遊びを行うことにより、自主的な態度を養う。
- ③様々な遊びの場を増やすことにより、そこから児童が自ら新しい遊びを考え実践していく態度を期待する。

○ケンステップの作成



○ケンステップで遊んでいる様子



○的当て板の作成



的当て板を作成している様子



的あてを楽しんでいる児童の様子

エ. 200mトラックの改修

1. ねらい

- ①これまでのトラックは一周 150 mと中途半端な長さであったので、陸上の練習に使いやすいように 200 mに改修する。
- ②運動場の西側に空きスペースがあったのでトラックの幅を広げ、有効活用する。
- ③直線 50 m、80 mがすぐに表示できるように、ポイントを設置する。

2. 手順

- ①はじめに測量機器を使って運動場全体を測量し、その結果を図面に起こす。
- ②測量結果を基にトラックの図面（直線コースの場所等）を作成する。
- ③作成した図面（校長に確認）をもとに基本ポイントを付ける。
- ④基本ポイントをもとに、トラック・フィールドの境にポイントを付ける。
- ⑤ポイントをもとにラインを引く。

3. 作業の様子



ポイントを使って実測している様子




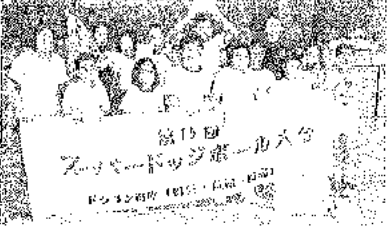


使用するポイントを作成する様子

4. 整備について

○整備作業についてはPTA体育委員会を中心に職員も協力して行われた。2 学期開始から話し合わせ、平日の 17 時以降や土曜、日曜日を使っての作業となった。運動会当日までには見事に改修が完了し、200 年のトラックを使っての運動会が開催された。

5. 関連した取組

(1) 町スポーツ大会への参加

月	町スポーツ大会	学校の取組	その他
5月	<p>【16日（土）軽スポーツ大会】</p> <p>○各子ども会対抗で実施（久部良中）</p>  <p>子どもの少ないチームは低学年も選手として参加した。（規定では3年以上）</p>	<p>11日（月）子ども会発足式</p> <p>○軽スポーツ大会の開催と子ども会対抗になることを周知（高成者にも周知）</p> <p>○練習計画の作成（体育館使用を許可）</p> <p>◎クラブの時間や体育朝会、体育の時間を利用したのソフトボールの指導</p>	<p>放課後部活指導者も軽スポーツの指導を行う。</p>
7月	<p>【11日（土）スポーツドッグボール大会】</p> <p>○各子ども会対抗で実施（比川小）</p> 	<p>◎クラブの時間や体育朝会、体育の時間を利用したのソフトボールの指導</p> <p>○子ども会単位での体育館使用</p>	<p>子ども会育成者が中心になって放課後指導を行った。</p>
9月	<p>【6日（日）町少年陸上競技大会】</p> <p>※陸上指導に詳細を掲載】</p>	<p>※陸上指導に詳細を掲載】</p>	
11月	<p>1日（日）健康福祉まつり</p> <p>○なわとび大会（与中体育館）</p> <p>各自参加、子ども会対抗（ながなわ）</p>  <p>ていんだ子ども会</p>	<p>◎年度初めから体育朝会等になわとび、ながなわを取り入れ指導してきた。</p>  <p>田原子ども会</p>	<p>前年までサッカーであったが今年からなわとびとなった。（事前に内容周知が必要）</p>

(2) 成果と課題

【成果として】

- 子ども会対抗で行っているので、子ども会（地域）の結束が高まった。
- 体育では取り上げない運動もあるので、いろいろな運動に触れることができた。

【課題として】

- 勝利主義に陥りやすいので、勝敗以外のめあてを重視させたい。
- 休日開催なので町主催で運営しているが、スムーズにいかない面が見られる。

5. 関連した取組

(2) 幼稚園部の活動

【今年度の取組】

前年度から、園児の新体力測定（測定項目を限定）に取り組んできた。

今年度は、体力測定に加え幼・小連携の取組として1年生と合同体育（運動遊び）の実施を行った。また運動場に遊具（うんてい）が設置され、運動遊びの場として活用した。小学校の休み時間などは児童に混じって園児も一緒に運動遊びをする光景が見られた。

さらに、連携した取組を充実させるため、定期的な合同体育の中で運動遊びの指導・なわとびの指導を計画したい。

ア. ねらい

①小学校入学前園児の体力の実態や遊びなどを把握し、小学校へのスムーズな移行を図る。

②なわとびや運動遊びなど同時に行える実践を合同で行い、体育・スポーツの推進を図る。

イ. 方針

①小学校で実施する新体力テストを園児（年長）でも実施し、小学校の研究に繋げる。

②幼稚園でも、積極的に遊びを推進し遊具などを共通できるような環境（時間・場所）を設定する。

ウ. 連携した取組実践

○研修会・会議の実施

小学校と協同して、保育実践での運動遊びを促進し体育・スポーツ推進に繋げるため園内研修や園内会議（園長・副園長を含む）を計画的に実施した。また、校内研修や研究授業や終了後の研究会に参加し、子ども達の活動の様子や教師の関わり方などに視点をおいて、体育の授業改善について話し合った。

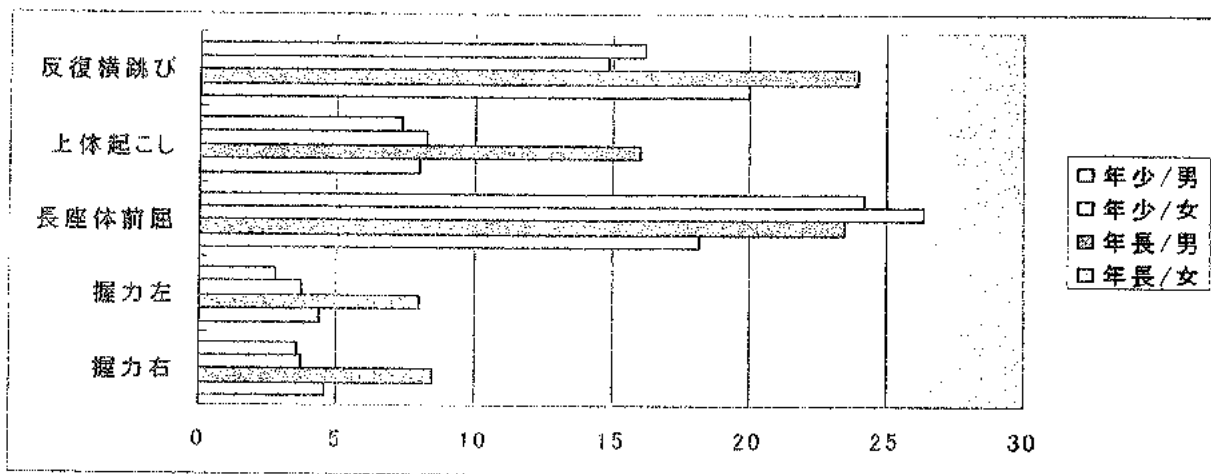
1. 新体力テストの実施と結果

測定可能な新体力テストの種目を年長児を中心に体育主任・副園長のサポートを受けながら実施した。年少年長共通の実施種目は、握力、長座体前屈、上体起こし、反復横跳びで、どの種目のにおいても個人差や男女差の大きいことが分かった。また、日頃の遊びの中でも、運動遊びを好んで親しむことそうでない子の二極化がテストの結果にも現れている。柔軟性、瞬発力を高めるための運動遊びを保育実践に反映できた。

（欠席児は測定なし）

	単位	年少/男	年少/女	年長/男	年長/女
反復横跳び	回	16.2	14.88	24	20
上体起こし	回	7.4	8.25	16	8
長座体前屈	cm	24.2	26.38	23.5	18.2
握力左	kg	2.8	3.75	8	4.4
握力右	kg	3.6	3.75	8.5	4.6

よなぐに幼稚園平成21年度体力テスト実施結果



○合同体育・運動遊びの実施の光景



(ホッピング)「よ〜くみてね」



(バドミントン)「いくよ〜」



(ケンパじゃんけんあそび)「あっ、まけちゃった」



(鉄棒)「あんなふうにやるんだ！」

2. 成果と課題

【成果として】

- 保育計画に運動遊びの時間を位置づけ、園児に運動遊びの時間を確保することができた。
- 合同学習を取り入れることで、幼稚園児の活動範囲が広がった。

【課題として】

- 小学校と合同学習や遊びの時間を同じように設定する事が難しい。
- 年間を見とおした計画をする必要がある。(1年生の教科指導内容と合わせる。)

5. 関連した取り組み
(4) 中学校との連携

◎ 与中校内陸上競技大会への参加取り組み

1. ねらい

- (1) 自己の記録への挑戦やお友だちと競走することで努力心を育み、これからの陸上競技の技術向上にいかす。
- (2) 全児童・幼児で中学校校内陸上大会への一部参加と応援を通して、陸上競技への興味関心を高める。

2. 日 時 平成21年6月21日(日)

3. 場 所 与那国中学校運動場

4. 参加種目

(1) トラックの部

100m (1~6年男女).....全児童

1000m (代表男女).....希望児童

(2) フィールドの部

走り幅跳び (5・6年男女).....希望児童

走り高跳び (5・6年男女).....希望児童

5. 方 針

- (1) 学校行事の一環として全職員で対応する。
- (2) 指定研究の取り組みの一環として、幼・小・中の連携を図る。
- (3) 練習取り組み優先順位を「学級での取り組み」「陸上練習」「スポーツ少年団の活動」とする。
- (4) 練習は、毎週火・木曜日に行う。(必要に応じて、土曜日午前中も行う。)
- (5) 幼稚園は応援という形で参加する。
- (6) 当日の細かいスケジュール調整は教務・体育主任で行う。



・今年度は与那国中学校の校内陸上大会に、小学生も記録会という形で参加させてもらった。いくつかの課題はあったが、中学生とともにやる事で刺激を受けるとともに、緊張感がみられ、良い記録がでた。また、町陸上や地区陸上の選手選考にも参考とすることができた。忙しいなか、中学校の校内行事に快く受け入れてもらい、幼・小・中の連携につながった。

IV. 研究の成果と課題

IV. 研究の成果と課題

沖縄県教育委員会研究指定 体育・スポーツ推進校としての昨年度(一年次)は、

- (1) 体育科の授業展開の工夫。
- (2) なわとびタイムの見直し。
- (3) 運動遊びのさらなる促進(特に幼・低学年)

の課題が顕著に表れた。そして、今年度(二年次)は、その課題も含めて研究を進めてきた。上記のことも併せて今年度の研究の成果と課題を見出すことができたので、以下に示す。

1. 成果

【研究仮説1に対して】

- ① 水泳学習において、学年でのめあて、個人でのめあてを持たせて学習に取り組ませたことで、高学年では、皆泳25mが達成できた。また、4年生においては、3年生の時よりも25m以上泳げる児童が増えた。
- ② 単元ごとに学習カードを活用させたり、コーディネーション運動をしっかりと行わせたことで、自分に必要な動きを確認し、主運動へスムーズに入ることができた。
- ③ 授業の中で、作戦や話し合い活動を行う時間を確保したことで、児童相互のかかわりが見られるとともに、言語活動の充実を図ることで、「考える力」が高まってきた。
- ④ 隣学年で授業を実施したことで、上の学年がリーダーシップをとりながら、下の学年をしっかりとサポートすることにより、お互いに認め合い、励まし合いながら学習に臨むことができた。

【研究仮説2に対して】

- ⑤ 新体力テスト(2回実施)の結果を踏まえ、各単元を通して明確なめあてを設定させた学習を継続して行うことにより、全学年を通して体力の向上が見られた。
- ⑥ 「ゴールドジャンプ」と「新体力テスト(2回実施)測定結果」が同時にわかる「僕の、私のゴールド記録」を作成したことで、自己の体力・能力を客観的に把握することができると同時に、ゴールドジャンプの未習得技能を習得しようと主体的に取り組む児童が増えた。
- ⑦ ケンステップ、的当て、滑り台、雲梯、一輪車、ホッピング、竹馬等の遊具を作成・設置し遊びの促進を行ってきたことで、休み時間や放課後等ほとんどの児童が、主体的に運動に親しみ運動遊びを楽しむようになってきた。
- ⑧ 体育朝会の中で、様々な運動(ソフトバレーボール、スーパードッジボール、短縄、長縄等)を実施していくことで、運動に親しみ「たくましい体づくり」を目指して取り組むことができた。また、地域人材を生かした外部講師による体育朝会では、運動や遊びの側面から体ほくしや体力の向上を高めることができた。

【研究仮説3に対して】

- ⑨ 毎日の給食指導において、好き嫌いをなく食べる指導や完食指導を行うことで「たくましい体づくり」を意識して食べるようになってきた。

【その他】

- ⑩ 体育科の授業展開において、授業の流れを共通確認することで基本の授業の流れを確立でき、授業の一貫性が図れた。それにより、児童の運動量の確保が図られ、児童の主体的な学習につながった。
- ⑪ 年間指導計画において、隣学年における弾力的な内容の工夫(中学年:走り幅跳び、高学年:走り高跳び等)に努め、児童の技能の習得と体力の向上をねらいとした本校独自の年間指導計画を作成することができた。
- ⑫ 年間を通した陸上や他の教育課程外部活動(野球・ミニバスケ)に多くの児童が進んで入部し意欲を持って取り組んだことにより、波及効果により学校教育活動全体でも様々な分野で頑張る児童が増えてきた。
- ⑬ PTAと連携を図りながら、運動場の200mトラックの改修や滑り台設置などの環境整備を行うことができた。

2. 課題と今後の対応

【課題】	【今後の対応】
① 体育学習において「考える力」や「表現力」等言語活動のさらなる充実と工夫。	① チームでのめあてや作戦を立てたり見直しをする際の話し合いの型(ルール)の作成と活用。
② 年間を見通した体育朝会の内容の見直しと運営の工夫。	② 「なわとび検定日」などを設けて体育朝会でもめあてを持たせて活動の充実を図る。
③ ゴールドジャンプの目標設定の見直しと、児童に主体的に取り組ませる工夫。	③ 各学年の段階に応じた目標設定と、「僕の、私のゴールド記録カード」を積極的な活用を図りたい。
④ 各単元に応じたコーディネーション運動の資料収集や開発、実践と、体育の年間指導計画の中への位置づけ。	④ 校内研修などに理論研修を積極的に取り入れて深める。
⑤ 学習効果を高めるため、地域人材リストの作成と活用。	⑤ PTA会員等からの協力していただける方の情報を得られるような地域人材ネットワークをつくっていくことも1つの方法として検討する。
⑥ 食教育における「たくましい体づくり」を育むための指導法の工夫。 ・ 保護者と連携した食教育の推進。	⑥ 各学年に応じた食教育指導計画案を作成し、食事が体づくりと関わることをおさえ、教育活動全体で関連させて指導の充実を図る。 ・ 保護者と連携した食事の見なおしや実践活動を進める。

V. 校内研修資料

- 研修資料
- 学校だより
- その他

V. 校内研修資料

与那国町立与那国小学校校内研修
～「体育」研究授業・授業研究会によせて～

2009, 07, 03

八重山教育事務所 大浜 譲

- | | |
|-------|------------------------------|
| 1 日 時 | 平成21年7月3日(金) |
| 2 対 象 | 与那国小学校1・2年 24名(1年12名, 2年12名) |
| 3 授業者 | 大城祐子教諭(T1), 平松一志教諭(T2) |
| 4 単元名 | 「水遊び」 |

I 本時の授業について

1 指導案からうかがえる点

- (1) 児童の実態より(P1) ⇒ 「遊びを通して運動に親しませている(主に一輪車, 竹馬, ホッピング)」

<第1・2学年の目標>

(2) だれとでも仲良くし, 健康・安全に留意して意欲的に運動をする態度を育てる。

運動を楽しく行う中で ⇒ 基本的な動きを身につける。
体力を養う。

※低学年においても, 運動に進んで取り組む態度が大切。

- (2) 本単元と校内研究との関わりがきちんと表されている。(P2)

水遊びは楽しいという体験(水遊びの魅力)

一人一人のめあて ↓ 適切な助言, 練習方法, 補助具の提供, 場の工夫

水遊びができるようになりたい(各種の水遊び)

一人一人のめあて ↓ 適切な助言, 練習方法, 補助具の提供, 場の工夫

泳げるようになりたい(クロール, 平泳ぎ)

- (3) 「言語活動の充実」が図られている。(P2)

～友達との関わりが運動(遊び)の意欲を向上させ, 友達との学びあいの中からよい助言を得る機会を多くすることによって, 言語活動の充実を図り, 主体的な活動ができる～



○新学習指導要領 ⇒ 全ての教科等において言語活動の重視

言語活動の充実は, 今回の学習指導要領の改訂において各教科等を貫く重要な改善の視点である。
～中央教育審議会答申～

※フィンランドの多くの家庭では、家族との対話や雑談の時間を大切にしている。

(4) 単元指導計画、評価計画（単元の評価規準、学習活動における具体的評価基準）がきちんと立てられており、指導と評価の一体化を図っている。(P3, P4)

(5) 指導案に場の工夫の記載があるとさらによい。

(研究主題との関わりにおいて、場の工夫の大切さを述べている)

(6) 時間配分より (P3) ⇒ねらい1、ねらい2を時間配分に表記した方が分かりやすい。

(7) 本時の展開より (P6) ⇒T1が主となって進めているときのT2の役割、T2が主となって進めているときのT1の役割が分かりにくい。

2 授業を参観して

3 その他

(1) 着衣泳 ⇒着衣状態で水に浮いたり、浮きながら移動する技術のこと。

着衣泳の必要性

- ・日本は欧米諸国に比べて溺死率が高い（イギリスの約9倍）
- ・服を着たまま泳ぐ場合、水の抵抗が大きく、身体の動きも制限されるため、速く泳ごうとすると体力を消耗する。
- ・水難事故時の護身術として、競泳の泳法習得とは別に着衣泳の訓練を行う（年に1回程度）。

○着衣泳の指導（例） ※時期としては夏休み前の実施がタイムリー

①事前に、学年通信などで保護者にも知らせておく。

②児童に、着衣泳の必要性を話しておく。

③洗ってある靴、上着、ズボンを用意させ、学校に持ってきておく。

（必ず、ビニル袋に入れておくよう指示する）


④着衣泳法の手順を知らせておく。

（水着に着替える、服・ズボン・靴をはいてプールに集合する、準備運動、シャワー、入水する）

⑤着衣泳が終わったら、必ずビニル袋に入れて持ち帰る。

○新学習指導要領への移行措置について

	平成21年度	平成22年度	平成23年度
	移行措置	移行措置	完全実施
低学年	1年(102) 2年(105)	→	
中学年	3年(90) 4年(90)	→	
			3年(105) 4年(105)

高学年	5年(90) 6年(90)		(90) (90)
内容	学校の判断により、教育課程の全部、又は一部を新学習指導要領によることも可能		新学習指導要領による教育課程の実施

※小学校第1・2学年については、現行の学習指導要領に基づいて実施する場合であっても、これまでもう少し指導が必要な領域や内容と、新たに加わった「体づくり運動」に21年度からの授業時数増加分(1年:12時間、2年:15時間)を配当することが考えられる。

(2) 体育(授業)以外で取り組める児童の体力向上

「体育・スポーツ研究指定を反映させ、たくましい体と心をつくる児童の育成を全教育活動の中で実践する」
 ~平成21年度 与那国小学校「公約・公開・公表のリーフレット」より抜粋~

<体力のとらえ方> ~平成20年1月17日中教審答申~


- 体力は、人間の活動の源であり、健康の維持のほか、意欲や気力といった精神面の充実に大きくかかわっており、「生きる力」の重要な要素である。
- 子ども達の体力の低下は、将来的に国民全体の体力の低下につながり、社会全体の活力や文化を支える力が失われることにもなりかねない。



体育の授業時数が増加された。しかし、年間105時間の授業の中だけで、体力の向上を図ることは容易なことではなく、普段から運動に親しむことが重要



学校の教育活動全体を通じてあらゆる機会、場所を捉えた日常的な指導を展開していく必要がある。また、家庭との連携も運動の定着を図る意味で重要であり、より積極的に働きかける必要がある。

(与那国小学校の取り組み) 

- 体育朝会
- 放課後活動の推進(バスケットボール、野球、陸上)
- 学年ギネス大会(仮称)

教師提案で行う方法もあるが、学級会(特別活動)でギネスの期間や種目、認定の仕方などを話し合う方法もある(クラスの係が主体となって進めると素晴らしい)。

- ・期間(例)10月1日~10月31日
- ・種目(例)短縄持久跳び ⇒ミスなしで何分間連続で跳べるか。
 短縄二重跳び、短縄あや跳び、短縄交差跳び ⇒ミスなしで何回連続で跳べるか。
 長縄連続跳び ⇒ミスなしで何分間連続で跳べるか。
 バスケット・フリースロー ⇒10球投げて、何回成功するか。

サッカー・リフティング ⇒ミスなしで何回連続でリフティングできるか。
お手玉 ⇒ミスなしで何回連続でお手玉できるか。

・方針

担当係立会いのもとに、学校で行った記録のみを認定する。

認定された記録は、教室内の「学年ギネス」コーナーに掲示する。

学年通信を通じて家庭にも公表する。

II 質問事項から

◆ 隣学年におけるTT指導の際の指導案様式及び留意事項

○学習指導案の作成にあたって（岡山県総合教育センター資料より）

学習指導案とは、教師が、年間指導計画に位置づけられた単元を指導するにあたって、児童生徒や学習集団の実態に立って、教師自身の個性を生かして作成する指導計画である。具体的には、単元の目標を達成するために、何を、どのような順序や方法で指導し、児童生徒がどのように学んでいくかを十分に考慮して、学習指導の構想を一定の形式に表したものである。

学習指導案は、教師の指導の意図や構想が最も適切に表現されることが望ましく、一人一人の教師の創意工夫が期待される。したがって、その形式に特に決まった基準はないが、少なくとも次の点は、学習指導案から読み取れるようにしたい。

- ① 指導者が学習内容及び児童をどう理解して、授業を計画しているか。
(単元設定理由、運動の特性、児童観・指導観)
- ② 単元全体の流れの中で、本時はどのように位置づけられているか。他の単元や教科等との関連は何か。
(指導計画、指導構想)
- ③ 本時、児童生徒の学習活動はどのように予想され、具体的にどのような手だてがなされているか。
(授業仮説、本時の展開)
- ④ 授業の中に評価がどのように位置づけられているか。児童生徒を生かす具体的な手だては何か。

○学習指導案の形式例

1	単元名
2	運動の特性
(1)	一般的特性
(2)	子どもから見た特性
3	児童の実態
4	単元の目標
5	研究主題との関わり
6	学習のねらいと道筋
7	時間配分
8	単元の評価規準
9	学習活動における具体的評価規準
10	単元の学習活動と教師の指導と支援
11	本時の学習活動と教師の指導と支援
(1)	本時のねらい
(2)	授業仮説
(3)	準備するもの
(4)	本時の展開
(5)	評価
12	資料, 学習カード

1	単元名
2	単元設定の理由
3	運動の特性
(1)	一般的特性
(2)	児童から見た特性
(3)	自己・仲間・モノとのかかわりについて
4	児童の実態
(1)	児童の実態 (概要)
(2)	事前調査結果
(3)	学習活動の状況 (児童の実態と指導の工夫)
5	本単元における指導の留意点
(1)	チームのめあてと自己のめあての設定
(2)	作戦会議の持ち方
(3)	集団行動の徹底
6	学習のねらいと道筋
7	時間配分
8	単元の学習指導と評価の計画
9	単元の評価規準
10	本時の学習活動と教師の支援・評価
(1)	本時のねらい (2) 準備 (3) 展開

◆ コーディネーション運動の授業展開の工夫, コーディネーション開発におけるコツ

○短い時間で行う (行える) のがコーディネーション運動の特徴



準備運動から積極的にコーディネーション運動を取り入れ, 本時の主運動がスムーズに実施できるようにする (授業の流れをつくる)。

○運動領域の構成 (新学習指導要領)

	第1・2学年	第3・4学年	第5・6学年
領 域	体 っ く り 運 動		
	器械, 器具を使つての運動遊び	器 械 運 動	
	走・跳の運動遊び	走・跳の運動	陸上運動
	水 遊 び	浮く・泳ぐ運動	水 泳
	ゲ ー ム		ボール運動
	表現リズム遊び	表 現 運 動	
		保 健	

・「体づくり運動」

スキヤモンの発達曲線で示されているように、人間の神経系は出生から急激に発達し、10歳頃までに成人のほぼ90%のレベルに達する。小学校低学年期は体の動きのすばやさやバランス感覚、手足の器用さといった調整力が著しく発達する時期である。多様な動きに体をなじませ、調整力を養い、動きのレパートリーを広げていく。その結果として、体力を向上させる効果をねらった運動である。

○単元の計画

1	2・3・4	5・6・7
	体ほぐし	
	多様な動きづくり	
	基本的な動き	工夫した動き

○多様な動きをつくる運動（遊び）

- ・体のバランスをとる運動
- ・体を移動する運動
- ・用具を操作する運動
- ・力試しの運動

※特定の運動だけを重点的に扱うといった考え方ではなく、四つの運動をバランスよく扱い、基本的な動きを身に付けていくことが大切である

V. 校内研修資料

与那国町立与那国小学校校内研修
～「体育」研究授業・授業研究会によせて～

2009, 10, 16

八重山教育事務所 大浜 謙

1 日時	平成21年10月16日(金)
2 対象	与那国小学校5・6年 22名(5年12名, 6年10名)
3 授業者	水見拓磨教諭(T1), 兼城賢多教諭(T2)
4 単元名	「サッカー」

I 本時の授業について

1 指導案からうかがえる点

(1) 運動の特性を, 児童の実態とも絡めてよく理解している。

「シュートをしたりゴールを決めチームが勝った時や, パスがうまくつながったりドリブルがうまくいった時に楽しい」

- ・ゴールを決めたとき(7)
- ・パスをつないだりもらったりしたとき(3)

「パスがもらえなかったり, ワンマンプレイがある時や失敗して文句を言われたときに楽しくない」

- ・ボールがまわってこないとき(2)
- ・けんかをしたり仲間われをしてチームワークが悪いとき(5)

(2) アンケート調査や体力テストの結果, 休み時間の過ごし方やこれまでの体育学習の様子等から児童の実態をよく把握している。

- ・男子 ⇒全員サッカーが「好き」
 - ・女子 ⇒10名中8名が「あまり好きではない」又は「きらい」
- 「このことは技能面での差にも現れてくることが考えられる」

(3) 男女混合のチーム編成で授業を実施している。すばらしい。

男女の技能の差が大きい ⇒男女別々でのグループ分け
男女混合チーム ⇒力を合わせてゲームをする中で, 女子もルールを覚え技能も向上する。
※男女差があるからといって安易に分けて指導するのではなく, 男女差を生かした授業づくりをしていく中で, それぞれの特徴が生きていくようにする。



男女差を解消するような場の工夫やルールが必要

例. 女子は顔にボールがきたときには, 手を使ってもよい ⇒ボールへの恐怖心の低下
女子がシュートを決めたら2点 ⇒女子のシュートチャンスの増加

(4) 本単元と研究主題との関わりがきちんと表されている。

「今回のサッカーの学習では研究仮説(1)『一人一人にめあてを持たせ、効果的な授業展開(場の工夫、児童相互の関わり)を図ることで、児童が主体的に取り組む体育学習ができるであろう』にせまるために、中心課題を単元目標の(3)『ルールを工夫したり、自分のチームの特徴に応じた作戦を立てたりすることができるようにする』に設定する」

トライアングルコートとラッキーゾーンの混合型コートを採用



サッカーにしるバスケットボールにしる、フルゲームをそのまま用いるような授業では、限られた授業時数の中でゲームパフォーマンスを向上させることは難しい。

小学校高学年のバスケットボール授業において実施されたオールコート5対5の公式ルールのゲーム(フルゲーム)を分析したところ、技能水準が高い児童がドリブルを用いてボールを独占してしまい、ゲーム中に1度もボールに触れることがない児童も出現していた。

(5) 前回の研究授業に引き続き、「言語活動の充実」が図られている。

- ・児童相互の関わり(研究仮説1より)を大切にす観点からも、話し合い活動の時間(特にチームスポーツでは作戦面)を重視する。
- ・チーム全員で意見を出し合ってよりよい考え(作戦)を導き出すとともに、友達のよいところなどを見つけ、お互いに認め合う。
- ・実際の活動時間・運動量とのバランスもあるが、1時間の授業の中で適所に話し合いの時間を計画し、その時間が有効に使えるように工夫する(学習カード等の活用)。

(6) 単元指導計画(学習過程)、評価計画、評価規準がしっかりと立てられ、指導の見通しと具体的な支援があり、指導と評価の一体化が図られている。すばらしい。

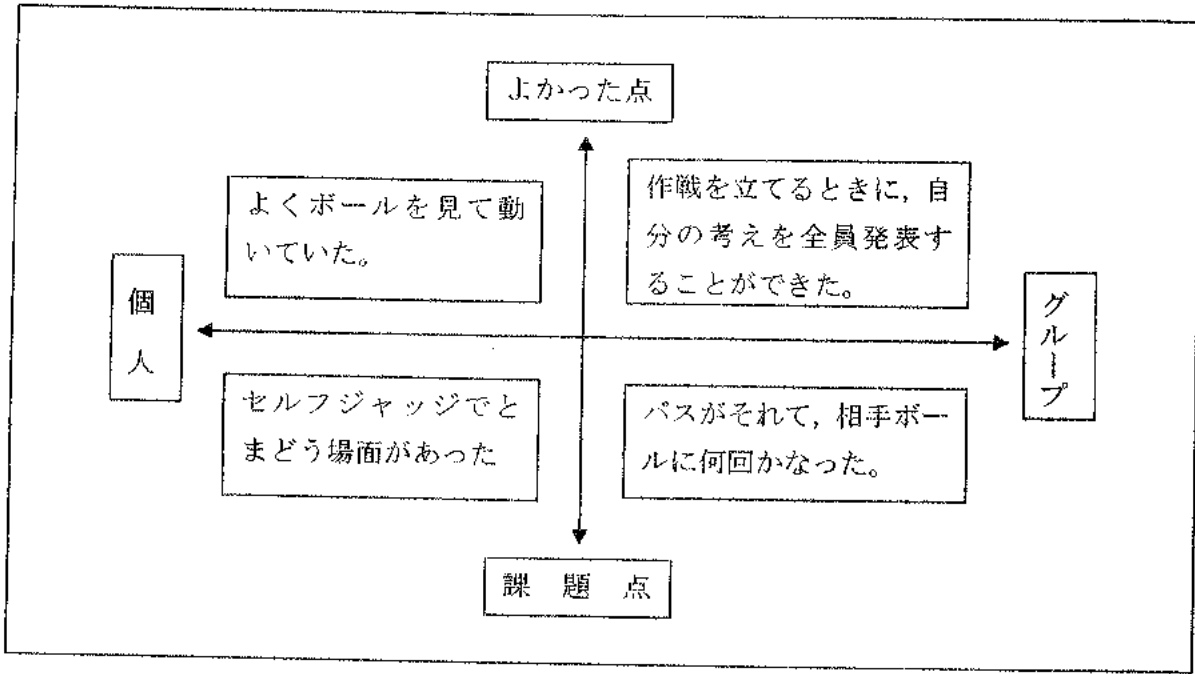
(7) ボールを22個(人数分)用意するなど(他にもCD、作戦板、三角コーン、ワークシート、得点版、デジタイマー、ピブス、対戦表、掲示用資料等)、児童の活動を十分に支援できる準備・体制ができている。

(8) 体力テストの結果より ⇒6年生女子の50m走の記録がハテナ?

(9) 研究主題との関わりより ⇒児童の実態に合わせて技能を修得。習得では?

(10) 時間配分より ⇒2~7時間目の下段に、学習の振り返り(今日のまとめ、次時の予告等)を入れたほうがよい)

(11) 評価規準はあるが(単元の評価規準、学習活動における具体的評価規準)、児童が学習を振り返って自己評価する記載がない。



2 授業を参観して

3 その他

新学習指導要領における小学校体育科の領域構成と内容

1年	2年	3年	4年	5年	6年
【体づくり運動】					
体ほぐしの運動	体ほぐしの運動	体ほぐしの運動	体ほぐしの運動	体ほぐしの運動	体ほぐしの運動
多様な動きをつくる運動遊び	多様な動きをつくる運動遊び	多様な動きをつくる運動遊び	多様な動きをつくる運動遊び	体力を高める運動	体力を高める運動
【器械・器具を使つての運動遊び】		【器械運動】			
固定施設を使った運動遊び		マット運動 鉄棒運動 跳び箱運動			
マットを使った運動遊び					
鉄棒を使った運動遊び					
跳び箱を使った運動遊び					
【走・跳の運動遊び】		【走・跳の運動】		【陸上運動】	
走の運動遊び		かけっこ・リレー		短距離走・リレー	
		小型ハードル走		ハードル走	
跳の運動遊び		幅跳び		走り幅跳び	
		高跳び		走り高跳び	
【水遊び】		【浮く・泳ぐ運動】		【水泳】	
水に慣れる遊び		浮く運動		クロール	
浮く・もぐる遊び		泳ぐ運動		平泳ぎ	
【ゲーム】			【ボール運動】		
ボールゲーム 鬼遊び		ゴール型ゲーム		ゴール型	
		ネット型ゲーム		ネット型	
		ベースボール型ゲーム		ベースボール型	
【表現リズム遊び】		【表現運動】			
表現遊び		表 現			
リズム遊び(フォークダンス)		リズムダンス		(リズムダンス)	
【保 健】		(フォークダンス)		フォークダンス	
		毎日の生活と健康	育ちゆく体とわたし	心の健康 けがの予防	病気の予防

※内容の取り扱いについての配慮事項は、『小学校学習指導要領解説 体育編』P-89参照

小学校「体育科」改訂のポイント

- ① 基礎的な身体能力を身に付け、運動を豊かに実践していくための基礎を培う観点から、発達の段階に応じた指導内容の明確化・体系化。
- ② 子どもの体力の低下、運動習慣の二極化傾向の指摘を踏まえ、「体づくり運動」を低学年から規定。
- ③ 健康な生活を送る資質や能力の基礎を培う観点から、中学校の指導内容につながる系統性のある指導ができるように、毎日の生活と健康及び病気の予防についての指導を充実。

(1) 学習内容の改善・充実

① 運動領域

- ア. 低学年・中学年においても、高学年と同様に、6領域で内容を構成。
(現行は、低学年は2領域、中学年は5領域であった。)
- イ. 低学年・中学年においても、領域の一つとして「体づくり運動」を規定。
(現行は、「基本の運動」であった。)
- ウ. 各運動領域について、具体的な指導内容を明示。
(現行は、一部の領域について、運動種目等のみ規定であった。)
- エ. 「ゲーム」(中学年)及び「ボール運動」(高学年)については、「ゴール型」、「ネット型」、「ベースボール型」として、類型ごとに規定。
(現行は、バスケットボール、サッカーなどと規定していた。)
- オ. 「器械運動」を「小学校第3学年」から規定。
(現行は、第4学年からであった。)
- カ. 「水泳」を「小学校高学年」から導入する。
(現行は、第4学年からであった。)

② 保健領域

- イ. 健康の状態は、自分の気持ちや周りの環境がかかわっていること(第3学年)
- ロ. 身の周りの生活の危険が原因となるかげの防止(第5学年)
- ハ. 地域ではなく様々な保健活動が行われていること(第6学年)

(2) 言語力の育成・活用の重視

- ◎ 各運動領域において、運動の行い方、課題解決の仕方の工夫、作戦を立てることなどを、引き続き規定。
- 保健領域において、知識を活用する学習活動を取り入れることを規定。
(「毎日の生活と健康」(3年):『健康の状態は、主体の要因や周囲の環境の要因がかかわっていること』
(「けがの防止」(5年):『身の周りの生活の危険が原因となって起こるけが』
(「病気の予防」(6年):『地域において保健にかかわる様々な活動が行われていること』)

世界へ羽ばたけ与小っ子

学校だより

世界のよい子目指して

平成21年度が始まりました。児童数70人、6学級、職員11人、幼稚園児22人、2学級、職員2人でのスタートです。

子どもの数は年々減少し、さびしい限りですが、何時の時代になっても新学期は希望と意欲に満ちた明るさがあります。本校の子ども達も明るく元気よく、新しい先生方との出会いでさらに意欲的に毎日を送ってほしいです。本年度は平成23年度の学習指導要領の全面実施に向けた移行措置の始まりの年です。

今回の改訂は、日本の教育を見直し転換していくものであります。それはヒザ・ピラニやタイムズ・TBS等の国際的な規模での学力調査に際し、国際社会の中で競争・共生出来る人間の育成や国内的には、教育基本法、学校教育法等の改正を受けた新学習指導要領の改訂から教育内容・時数の増加、言語活動や理数教育の充実、外国語活動の導入等、新たな出発となっております。その背景には、これからの知識基盤社会において、人間力に資する「生きる力」を正しく認識し、「生きる力」を教育課程全体で一層育む事がさらに求められている事があります。

本校でも「生きる力の育成」をキーワードに、
 ①学習意欲を高め、確かな学力をつける
 ②豊かな人間性・道徳性の育成を図る
 ③健康の保持増進や体力の向上を図る
 ④規範意識やマナー、基本的な生活習慣の育成を図る
 を学力向上対策の根幹として具体的に取組む事を確認しています。それは本校の学校教育目標

「よく考え自ら学ぶ子」
 「礼儀正しく思いやりのある子」
 「健康で明るくたくましい子」
 「心豊かで粘り強くやりぬく子」
 「とも合致し、「かしこい子」や「やさしい子」をたくましく「やりぬく子」という目指す子ども像に数出されています。

また、今年度も体育・スポーツ活動の研究指定校の2年次として、特に粘り強くやりぬく力の育成を重点項目として全教育課程の中で意識して、実践していく事に目をつけています。そしてグローバルな視点と足下(地域)を見据えた実践で、世界の中で競争し、共生出来る人間としての基礎を築きたい。それが「与小のよい子は世界のよい子」の目指す所です。

「与小のよい子は世界のよい子」
 保護者・地域の皆さん、素直で可能性を秘め意欲に満ちた与小のよい子を世界に送るよい子に育てるべく共にご協力ご支援をお願いします。

4月・5月の予定

4月	20日(月)	交通安全教室
	21日(火)	全国学力・学習状況調査(6年)
	22日(水)~24(金)	家庭訪問
	27日(月)	1年生を迎える会(2校時)
	30日(木)	町全園標準学力検査(2年~6年)
5月	1日(金)	こいのぼり集会・春の遠足
	12日(火)	子ども会発足集会
	13日(水)	PTA役員会
	15日(金)	不審者対応避難訓練
	16日(土)	軽スポーツ(ソフトバレー)大会
	19日(火)	校内漢字検定(~21日)
	21日(木)	町学級経営研修会(13:30~)
	22日(金)	学習参観日・学級懇談会・PTA総会

おめでとう

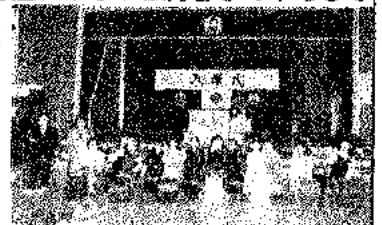
13名の新1年生

崎元 颯馬	池田 美南
松川 明聖	前外間 清己
田島 旭人	前楚 ひかり
仲本 泰之	相田 真央
緒久嶺 和沙	鈴木 菜月
湧川 雄飛	緒久嶺 早乃
	徳吉 咲来



平成21年度入学式

4月8日(水)に13名の新しい児童が入学いたしました。教育長を始め多数の来賓保護者が見守る中、厳かな中にも温かみのある入学式を行うことができました。保護者の皆様には心温まる祝い歌・踊り(パシヌトウリ、マヤ小)を贈っていたいただき感謝いたします。年々減少する児童数ではありますが、13名という例年通りの入学児童に、ほっと胸をなで下ろしています。また、学校職員も5人の入れ替わりがあり、新しい雰囲気の中、新年度のスタートとなりました。保護者の皆様には今後ともご支援・ご協力よろしくお願いいたします。



今年も学校だよりを全戸配布いたします。ご意見、ご感想・要望などどしどしお寄せ下さい。(教頭:新垣 清隆)
 与那国小学校 電話 八七二二八七二 FAX 八七二二八八

平成21年度職員・児童数一覧

職名	氏名	児童在籍数(小学校)			
		男	女	計	
校長	田本 由美子				
教頭	新垣 清隆	学年	37	33	70
教諭(1年)	大城 祐子	1学年	6	7	13
教諭(2年)	平松 一志	2学年	4	8	12
教諭(3年)	上地 真由美	3学年	8	4	12
教諭(4年)	仲本 史佳	4学年	8	4	12
教諭(5年)	金城 由利佳	5学年	5	7	12
教諭(6年)	水見 拓磨	6学年	6	3	9
理科専科	兼城 賢多	幼稚園児(幼稚園)			
養護教諭	長間 えり	男	女	計	
事務主事	大城 世子	園児	10	12	22
幼稚園	外間 世代子	年少	6	7	13
幼稚園	緒久嶺ひとみ	年長	4	5	9

自分の考えや意見を持ち、表現する

学校だより

「校長先生、お話ししたいことがあります。今よろしいでしょうか。」

子ども達は家庭学習ノートがら冊終了すると校長室にノートと終了証をもらいに来る。その時の話である。その男児は、6冊目のノートをもらった後、折り目正しく緊張しながらも自分の考えを話してくれた。内容は部活動に関するものであった。私は、心から嬉しいと思った。大変良いことだと思つた私は、心から嬉しいと思つた。大変良いことだと思つた私は、心から嬉しいと思つた。

「校長先生、お話ししたいことがあります。今よろしいでしょうか。」

子ども達は家庭学習ノートがら冊終了すると校長室にノートと終了証をもらいに来る。その時の話である。その男児は、6冊目のノートをもらった後、折り目正しく緊張しながらも自分の考えを話してくれた。内容は部活動に関するものであった。私は、心から嬉しいと思つた。大変良いことだと思つた私は、心から嬉しいと思つた。

「校長先生、お話ししたいことがあります。今よろしいでしょうか。」

子ども達は家庭学習ノートがら冊終了すると校長室にノートと終了証をもらいに来る。その時の話である。その男児は、6冊目のノートをもらった後、折り目正しく緊張しながらも自分の考えを話してくれた。内容は部活動に関するものであった。私は、心から嬉しいと思つた。大変良いことだと思つた私は、心から嬉しいと思つた。

「校長先生、お話ししたいことがあります。今よろしいでしょうか。」

子ども達は家庭学習ノートがら冊終了すると校長室にノートと終了証をもらいに来る。その時の話である。その男児は、6冊目のノートをもらった後、折り目正しく緊張しながらも自分の考えを話してくれた。内容は部活動に関するものであった。私は、心から嬉しいと思つた。大変良いことだと思つた私は、心から嬉しいと思つた。

「校長先生、お話ししたいことがあります。今よろしいでしょうか。」

子ども達は家庭学習ノートがら冊終了すると校長室にノートと終了証をもらいに来る。その時の話である。その男児は、6冊目のノートをもらった後、折り目正しく緊張しながらも自分の考えを話してくれた。内容は部活動に関するものであった。私は、心から嬉しいと思つた。大変良いことだと思つた私は、心から嬉しいと思つた。

「校長先生、お話ししたいことがあります。今よろしいでしょうか。」

子ども達は家庭学習ノートがら冊終了すると校長室にノートと終了証をもらいに来る。その時の話である。その男児は、6冊目のノートをもらった後、折り目正しく緊張しながらも自分の考えを話してくれた。内容は部活動に関するものであった。私は、心から嬉しいと思つた。大変良いことだと思つた私は、心から嬉しいと思つた。

校内漢字検定合格者

- 【10級合格】2年：前外間 大晃、白木駿祐、徳吉文也、西川大夢、新城環香、西蔵盛としみ、田島 吟、西川夢乃、石庭あかり
- 【9級合格】2年：仲黒島結子、崎元美玖、稲蔵華子、3年：仲本泰洋、松尾 皇、池田竜聖、高山龍介、山川朝慎、小嶺 舜、前盛乃愛、相田理央、4年：前黒島 蓮、崎元勇利、
- 【8級合格】3年：崎元瑛太郎、4年：入慶日本朝哉、譜久山南々果、5年：外間守達、鈴木利菜、6年：田島 立
- 【7級合格】4年：譜久嶺マリサ、崎元美佐、5年：高山峻輔、與那覇千翔、米盛玲菜、6年：崎元俊幸、福川さくら
- 【6級合格】5年：山川結衣、6年：大溝秀夏、
- 【5級合格】6年：湧川仁貴、南風原世奈、
- 【4級合格】6年：譜久嶺和真、5年：福瀬早希子
- 【3級合格】6年：崎元貴文

七夕集会

7月7日(火)七夕集会を行いました。各学年代表の夢(ながい)を発表し合いみんなで確認しました。学習や友だちのこと、家族のことなど児童のやさしく思いやりの心が伝わってくるようでした。最後に校長先生が七夕のお話をしてくださり、古くからこの与那国でも、七夕には機織物を神様にささげる習わしがあることを教えていただきました。図書委員会・児童会の皆さんよく頑張りました。



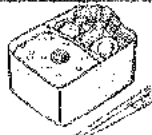
短冊に書いたながいを発表する児童

体力向上は食育から

6月30日(火)3年生の特別活動の研究授業が行われた。3年生は実態として食が細い児童が多く担任(上地真由美先生)も当初から心配と考えていた。学年当初からの取組や比川小との交流をきっかけに完食に関心をもち、嫌いな食べ物も出来るだけ残さずに食べることに努力することが出来るようになってきた。そのことも関連づけながら授業を展開し、「ペロリ賞の趣意」を見つけ発表できた。今後の完食にむけて意欲がますます湧いて来ることだと期待している。発展として、おいしくて栄養満点のお弁当メニューを考案するそうです。



栄養素色分け図



比川小との交流学習

6月29日(月)比川小学校との交流学習を行いました。比川小学校から児童が来校し、朝の会や朝の歌などを行いました。また、比川小学校の児童が来校し、朝の会や朝の歌などを行いました。また、比川小学校の児童が来校し、朝の会や朝の歌などを行いました。



がんばった1・2年

体育・スポーツ推進部の研究授業(主事招)が7月3日(金)に行われた。交流センターのプールで1・2年の水遊びを大城祐子先生、平松一志先生の指導で行われた。低学年でのプール指導には、児童の安全を重視し浅いプールを使用する指導と、発展では深いプールまで使用して泳ぐことへの意欲づけまで行った。また、動物を使ってのお話づくりや動物泳ぎなど、言語事項や表現活動さらには発展指導まで盛り込んだ授業に参観した主事の大浜 謙先生も大変満足し、賞讃しておりました。



幼稚園に出た「おばけ」??

7月3日(金)幼稚園では園庭に設置してあるプールでの水遊びに加え、ボディペイントが行われました。自分の顔や手に絵の具を塗って紙に押しつけていく様子はまるでお化けのような顔や表情でした。園長先生も参加しストレス散発できたようです。



見せたぞ与小の底力

与P連スポレク大会

優勝

スーパードッジボール大会

田原子ども会



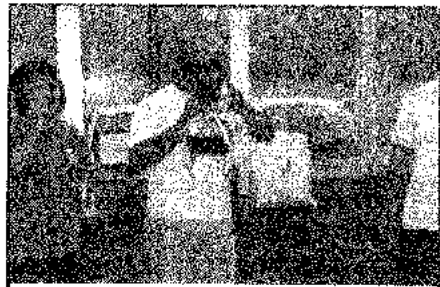
優勝を記念して集合写真

久々の優勝に気分も絶好調



見事に優勝した田原子ども会チーム

田原 立さんを中心にチームワークあふれるプレーで見事に優勝しました。立さんはMVP選手にも選ばれました。久々の優勝に校長先生を始め、職員一同歓喜に満ちた一日でした。



思わず優勝カップでビールを“ゴクリ”

さらに盛り上がり全員で



笑顔が素敵なお嬢様・・・

比川(音空)チームは息きのあったプレーや頭脳プレーで巧みな試合運びをしていました。しかし、高学年児童の少なさはチーム力の低下につながったようです。準優勝の健闘をたたえたいと思います。



ボールの競り合いも必死



惜しくも4位でいご子ども会

でいごチームは与小では一番人数が多いチームです。高学年も多く試合前は優勝候補筆頭でした。しかし、心優しい児童が多く手加減をしたり、勝利への執着心が無いようでした。

PTAの皆様へ

ご理解ご協力をお願いいたします

学校評議員委嘱する

昨年度体育・スポーツ推進校の指定を受け、児童の体力向上に向けて取り組んでまいりました。とりわけ、うんてい設置に向けご尽力いただき、深く感謝申し上げます。さて、保護者から「遊具が少なくなった」との話を聞くたびに申し訳なく感じていました。そんな中、新たに大型遊具(すべり台)の寄贈申し出がありました。学校としても前向きに設置に向けて検討しております。詳細につきましては後日御報告いたします。設置の際にはご協力お願いいたします。

7月10日(金)学校評議員会が行われた。今年度初めての評議員会で、評議員に委嘱状が手渡された。今年度の評議員には組の館長、東大島侃さん、大宜見朝葉さん、田頭瑠都さんの3人に委嘱されました。また、今年度から幼稚園の評議員も兼ねることとなりました。教育基本法が改正され教育改革真っただ中、学校運営や学校行事など多くの事項についてご意見、児童の姿容など地域の目を通して伝えていただきたいと思います。よろしくお願いいたします。



親子自転車安全点検

基礎基本強化学習会

7月18日(土)は自転車安全点検が実施されます。例年点検が出来るお父様方が少なく、点検に時間がかかっているようです。お手伝いできる保護者(お父さん)の方は、是非ご参加お願いいたします。

毎年行われている基礎基本強化学習会には、〇付けをする保護者ボランティアをお願いしております。学対委員会を中心に多くのお母様方に協力していただいております。よろしくお願いいたします。

見事に出来た運動会

学校だより

運動会
特集号



校章旗を広げて入場する児童会



5年生入場



4年生の入場



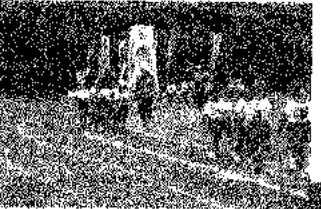
3年生入場



2年生入場



1年生入場



幼稚園入場

運動会プログラム

回	種目	種目名	実施者
1	除 旗	みんなで体操ぐし(ワッペン)	全児童
2	旗 走	めざせゴール! 鬼持ちはボルト!	3・4年
3	旗 走	かくぞ! けしんの大けさなかつ	1・2年
4	旗 走	めざせ! 旗争(BOA)	5・6年
5	旗 走	旗争競走 100m走	7・8年
6	ダンス	ウイナーキッズ現 踊らね!	1・2年
7	表現・演技	不思議な国の魔法にかかっ	3・4年
8	演技・演技	ハズル・はつさる・ドーナツア	5・6年
9	田 鹿	ゴールドジャンプ 200m	全児童
10	表 演	バラバラで楽しく	幼稚園
幼稚園開会式(校長挨拶・園長おほめの言葉) 昼食(12:00~13:00)			
11	マーキング	ひひけ! 年かつマーチ	全児童
12	旗 走	旗 走 リレー	一 般
13	表 演	いちやりばエイサー	15・16年
14	旗 走	親子リレー	親 子
15	旗 走	中 学 生 リレー	中 学 生
16	旗 走	"パワー全開" 旗白リレー	全 学 校
17	表 演	124年の伝説「松歌ダンス」	全 学 校
18	表 演	遊園地伝説(ラジオ体操)	全 学 校



赤・白組代表による選手宣誓



幼稚園児のバラバラで楽しく



1・2年によるウオーターキッズ

3・4年 五穀豊穡

5・6年 いちやりばエイサー



平成21年度運動会開催に際して、賞品提供、ご芳志をいただいた方々です。(順不同、敬称を略させていただきます。)

【会社・団体】

- 女酋長
- 生活雑貨の店ふく
- 与那国郵便局
- JAおきなわ与那国支店
- 金城酒店
- 我那覇酒店
- 大嵩酒店
- 崎元酒造
- 入波平酒造
- コーラルインターナショナル
- どうーらい
- ふくや

- 海響(いすん)
- パーウエストポイント
- 米浜石油(株)
- 焼肉コモ
- さくら工房
- (株)みさき
- 崎原商店
- ピアガーデン園境
- オネマヒナ
- アイランドリゾート与那国
- 伝統工芸館
- 崎元組
- ふくやまスーパー

- 我那覇工務店
- 鈴木運送
- JTA与那国
- 【個人】
- 久部良雄幸
- 田本秀章
- 久部良竹仁
- 入仲誠三
- 前楚美津子
- 友寄謙
- 石川めぐみ
- 水見たつみ

運動会を參觀下さった保護者・地域・来賓の方々に深く感謝申し上げます。また、開催に向けて準備をしてくださった保護者の皆様にも感謝申し上げます。

親子リレーや職域リレーの賞品を提供下さった皆様方、毎年変わらぬ御支援、感謝に堪えません。これからも、ご支援よろしく申し上げます。

この増刊号は多くの紙面を運動会の写真を掲載いたしました。ご意見ご要望がありましたら連絡下さい(与那国小学校:87-2872)

プール開きで歓声

与那国町

【与那国】児童部居すセンターで8日、プール開きが行われ、与那国小学校田本由美子校長の幼稚園児と全児童あわせて92人が水泳学習会を開いた。



水に慣れることから始め死生からルールを聞く＝児童交流センター

水しぶきあげ、大喜び

中心に行っているが、今回は園児と6年生までの全児童が参加。保護者や教育委員会の職員の協力を得て水泳指導を行った。

1年生は初めてで、「水と友達になろう」「3年生は、めざせうきメートルなど、2年生以上の学年は目標を決めた。仲本由美子校長から「プールでは走らない、ふさげない、身なりを整える」などの注意を聞いた。

高学年生が手本泳法を披露したあと、低学年と高学年に分かれて水深1メートル70センチのプールに入り指導をうけ

た。蒸し暑い日のプールとあって、児童らにとっては待ちに待った楽しい時間。水に慣れるころは園児も児童もジャンプしたり、水しぶきをあげてはしゃいでいた。

(田頭政英通信員)

待望の滑り台を設置

与那国小で使用開始式

【与那国】与那国小学校(田本由美子校長、児童数67人)の運動場に待望の滑り台が設置され、このほど使用開始式が行われた。

同校は、昨年度から県教育委員会指定の体育・スポーツ推進校で、滑り台も遊びの場づくりの一環として設置された。

すべり台は、那覇市在住の与那国関係業者が寄贈。町内在住の杉

本繁文さんと崎元学さんがもらい受け、同校に贈り、町教育委員会が設置した。

開始式は6年生のンヌン(太鼓)とカニン(鐘)、前黒島蓮さん(4年)のフィ(笛)で「座ならし(浄め)」のあと、崎原用能教育

長と田本校長、児童会長の大高秀真君がテープカットした。

田本校長が「よく遊び、よく学んで体も心もたくましい子になり

ましよう」とあいさつ。崎原教育長は「皆さんの元気を活躍が皆さん、お母さん、地域を明るく元気にする」と激励した。

譜久調和真さん(6年)が「仲良くルールを守り、使います」と誓いの言葉を述べた。

同校では、今月24日に2年次の研究報告会を開き、めあて学習や遊びの促進を図った実践報告をする予定。

八重山毎日新聞
2009年11月8日 日曜日



おわりに

新指導要領の移行期に入り、指導時数の増加や指導内容の追加等、学校現場ではその対応に追われているところである。体育学習は、「課題を踏まえ、生涯にわたって健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現する」事が改善の基本方針に示されている。これは、近年の児童の体力低下傾向や運動（スポーツ）離れを受けたものと考えられる。かつて、子ども達は、日が暮れるのを忘れるほど屋外で遊び回っていたものである。今日では、放課後のスポーツクラブに参加する子ども以外は塾や家での屋内遊び（テレビやゲーム）と二極化している。このような現状が今改訂に繋がっていると考えられる。

今年度体育・スポーツ推進校の指定二年目を迎え、指導要領の趣旨を十分に踏まえるとともに本校・本児童の実態に合った方向で研究を推進していくことは、これからの児童のたくましい体と心づくりに繋がるものであると確信している。

今年度の研究テーマ（昨年度引き続き）

運動に親しみ、たくましい体と心をつくる児童の育成

～一人一人がめあてを持ち、主体的に取り組む体育学習をとおして～

のもと研究をより深化させるため、コーディネーション運動を位置づけた体育年間計画を作成し、隣学年T、Tによる体育指導を全職員が一丸となって取り組み、研究を進めることができた。

また、本校児童の新体力テスト測定を昨年度から年間2回行い、そのデータ集積し、比較検討するとともに、児童自らその結果（データ）を理解し、めあてを持って学習できるよう、個人データファイルを作成した。

一方、遊びの促進の必要性から、運動遊びの推奨に加え、大型遊具を保護者・地域・関係機関が一体となって設置することができた。さらに、本格的な200mトラックづくりに向け運動場改修して下さった保護者・PTA役員・地域の皆様に深く感謝申し上げたい。

また、今年度は「たくましい体づくり」は日頃の食事からを重視し、食教育の研究実践を推進した。その際、学校栄養士（糸教やえ子）を始めPTAに協力いただき、調理の実践まで行った。

研究推進の結果、場を工夫した楽しく充実した体育学習や大型遊具で遊ぶ生き生きとした児童の姿が多く見受けられるようになり、成果が着実に現れている様子が伺える。

今年度の研究成果として、児童の体力の向上はもとより、教師の授業実践力向上とともに体育・スポーツ推進校としての環境づくりに繋がった、児童に身につく力となって現れることを期待したい。

さらに研究に深化させ、環境を整え、たくましい体と心をつくる児童が育成できる学校として邁進していきたい。

最後に、これまで本研究を陰ながら支えて下さいました八重山教育事務所指導主事 大浜 譲先生、与国町教育委員会 教育長 崎原用能様、教育課長 東小浜功尚様には深く感謝申し上げます。また、若いながら先生方を引っ張り、本研究の推進役として尽力してくれた研究主任の兼城賢多教諭をはじめ諸先生方のご苦勞に対して感謝いたします。

平成 21 年 11 月 24 (火)

教頭 新垣清隆

1. 研究同人

校長 田本 由美子	3年 上地 真由美(副研究主任)	養護 長間 えり
教頭 新垣 清隆	4年 仲本 吏佐(体育主任)	事務 大城 世子
教務 兼城 賢多(研究主任)	5年 金城 由利佳	幼稚園 外間 世代子
1年 大城 祐子	6年 水見 拓磨	幼稚園 譜久嶺 ひとみ
2年 平松 一志	AMPA- 入与那国 友姫	

2. 指導にあたってお世話になった先生方 ※敬称略

八重山教育事務所指導主事 大浜 謙	与那国町立与那国中学校教諭 西川 賢
与那国町教育委員会教育課長 東小浜 功尚	与那国町職員 田島 政之
与那国町教育委員会前教育課長 與那覇 仁一	

3. 参考文献

小学校学習指導要領解説 体育編

新版 体育の学習 教師用指導書 光文書院

新しい栄養指導 -基礎編- 東山書房

子どものつまづきがみるみる解決するコーディネーション運動 準備運動編 明治図書

子どものつまづきがみるみる解決するコーディネーション運動 ポール運動編 明治図書

体育の授業を変えるコーディネーション運動65選 明治図書

サッカーのコーディネーショントレーニング 大修館書店

脳に効く！コーディネーション運動 主婦と生活社

那覇地区教育課程研究集会 研究報告書 平成15年度

八重瀬町立具志頭小学校 研究紀要 平成17～19年度

石垣市立八島小学校 研究紀要 平成20年度

島尻地区教育課程研究集会 研究報告書 平成18年度

金武町立金武小学校 研究紀要 平成19年度

糸満市立潮平小学校 研究紀要 平成17年～19年度

恩納村立安富祖小学校 研究紀要 平成17・18年度

与那国町立与那国小学校 研究報告書 平成20年度



【平成21年11月2日(月) 運動場にて撮影】

